

かわさきの 男女共同参画に関する アンケート調査報告書

令和6年3月

目次

調査の目的と実施概要	2
調査内容	3
回答者の属性	5
1. 男女の地位の平等感	15
2. 女性にとっての働きやすさ	25
3. 用語や制度の認知	34
4. 家庭内での分担状況	45
5. この1年間での悩みごと、困りごと	54
6. 生活優先度の[希望]と[現実]	62
7. ジェンダー規範	70
8. DV／デートDV被害の認知と現状	91
9. 職場などでの性的な嫌がらせの被害経験／性暴力被害相談窓口の認知	133
10. 意見・要望	142

調査の目的と実施概要

【調査目的】

男女共同参画にかかる市民の意識と実態の最新状況と過去5年から10年の推移を把握することで、報告書・データブック作成の基礎資料を得るとともに、本市男女共同参画推進の進捗状況をふまえた施策、センター事業に活用する。

【母集団】

令和5(2023)年12月7日時点で満18歳～79歳の市民(外国人市民含む)

【対象者】

住民基本台帳(外国人市民を含む)より抽出された3,500名

【抽出方法】

単純無作為抽出

【調査方法】

郵送による配布、返信用封筒による回収またはWeb回答(督促状郵送1回)

【調査期間】

令和6(2024)年1月10日(水)～2月9日(金)

【回収数】

有効 1,034票(29.7%)

調査不能 17票(転居のため宛先不明)

調査内容

【調査内容】

「第5期 川崎市男女平等推進行動計画」(令和4～7年度)の進捗状況把握に必要となる項目、および「第6期 川崎市男女平等推進行動基本計画」(令和8～11年度)策定のための基礎資料となる項目、さらに前3版の調査結果から引き続き推移を把握しておく必要がある項目を中心に、次のような調査内容とした。

● 〈男女共同参画社会の現状や制度〉

男女の地位の平等感／女性の働きやすさとその理由／男女共同参画に関する用語や制度の認知

● 〈生活の状況や考え〉

パートナーとの間での家庭での子育てや家事等の分担状況／悩みや困りごと、相談先、相談しなかった理由／ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

● 〈夫婦や家庭に関する考え〉

性別役割についての意識／女性が職業をもつことについての考え／男性の育児休業取得についての考え、理由／将来介護が必要になった時に希望する介護者

● 〈男女の人権の実態と意識〉

DVについての認知／DV相談窓口の認知／DV被害経験、相談状況、相談しなかった理由／デートDVの認知、認知経路／デートDVの被害経験／DV防止に必要なと思うもの／職場などにおいて性的な嫌がらせを受けた経験／性暴力被害相談窓口の認知

● 〈属性〉

年齢／居住区／同居者／職業／年収／婚姻状況／パートナーの職業／性別／意見・要望

回答者の構成

【回答者の構成】

本調査の有効回答者の構成は以下のとおりであった。

	合計	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	無回答
合計	1,034	145	125	184	145	150	146	135	4
	100.0%	14.0%	12.1%	17.8%	14.0%	14.5%	14.1%	13.1%	0.4%
女性	486	55	58	84	73	77	74	64	1
	100.0%	11.3%	11.9%	17.3%	15.0%	15.8%	15.2%	13.2%	0.2%
男性	388	68	44	73	49	50	53	50	1
	100.0%	17.5%	11.3%	18.8%	12.6%	12.9%	13.7%	12.9%	0.3%
性別 無回答	160	22	23	27	23	23	19	21	2
	100.0%	13.8%	14.4%	16.9%	14.4%	14.4%	11.9%	13.1%	1.3%

※小数点以下を四捨五入しているため、各区の構成割合の合計が100%にならないことがあります。(以下同様)

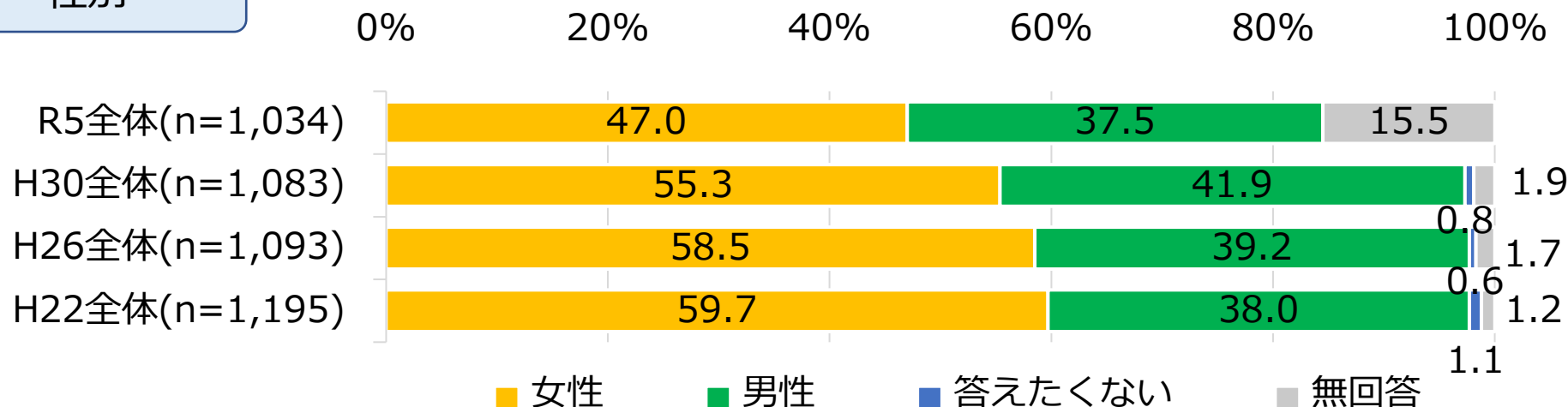
回答者の属性

報告書を読む際の留意事項

- 本文、図表などに使われる「n」は質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
なお、回答者数がn=30に満たない場合の数値は、参考値として参照されたい。
- 百分率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、内訳の合計が100%とならない場合がある。
- 本文、グラフそれぞれで小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計値は本文の数値を正とする。
- 「(統計的に)有意に高い／低い」との記述がある場合、信頼度95%での有意差検定を行っている。

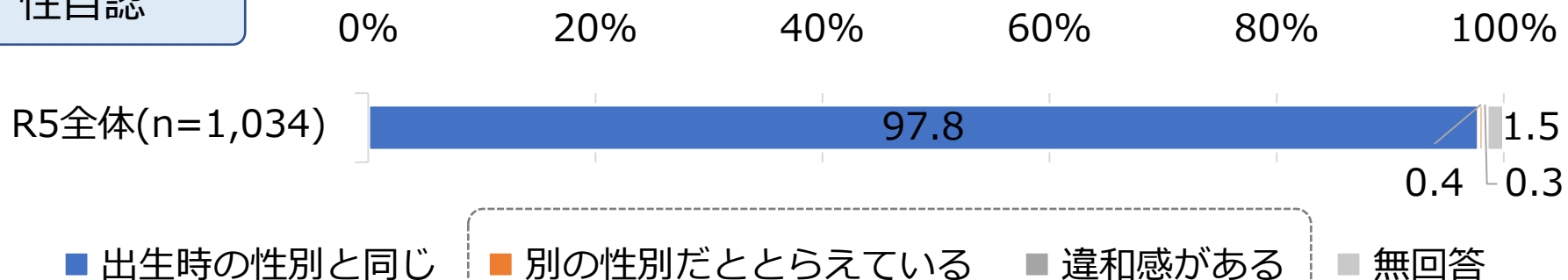
回答者の属性(1)：性別

性別



※ R5では選択肢に「答えたくない」を含んでいない。

性自認

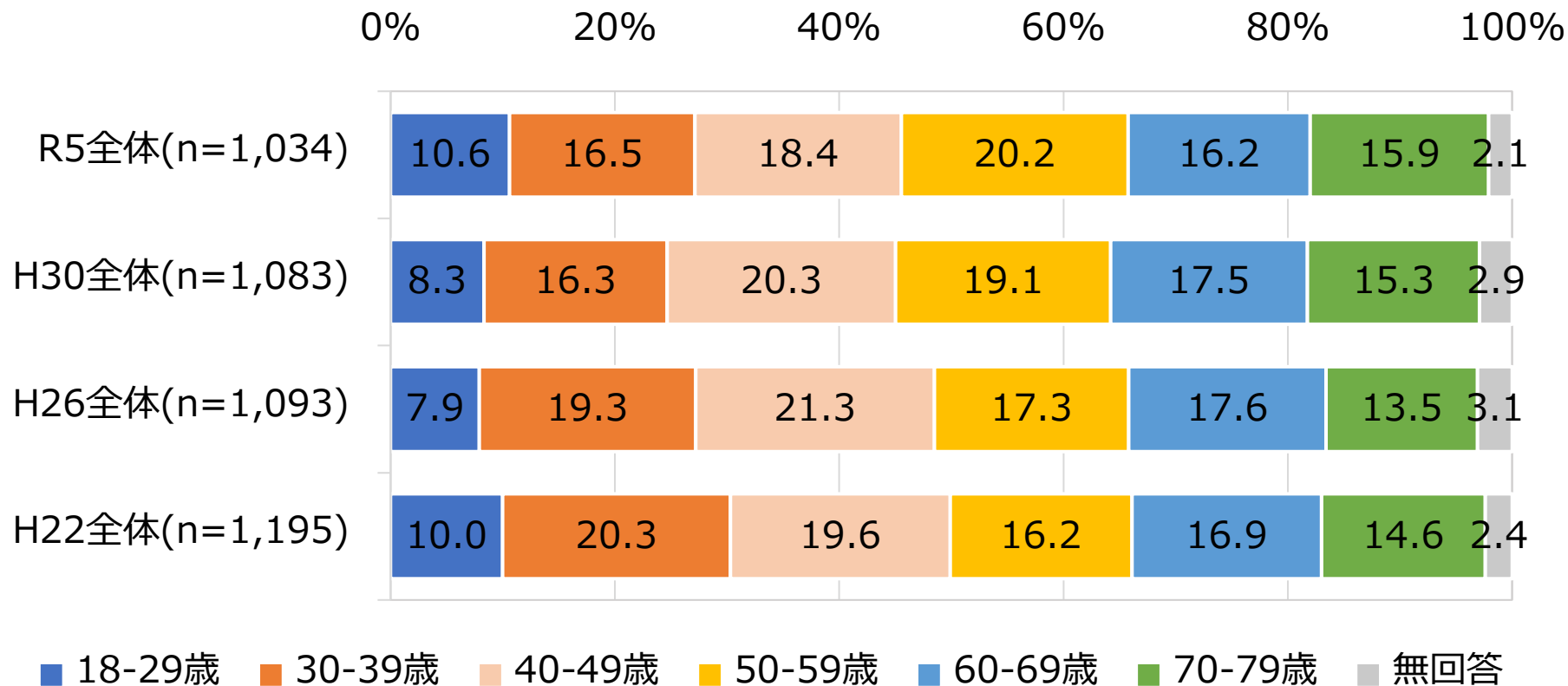


[内訳]出生時性別→今の認識に最も近い性別
 女性(4名)→その他(3名)、無回答(1名)
 男性(2名)→女性(1名)、男性(1名)
 無回答(1名)→女性(1名)

ベース：全対象者

回答者の属性(2)：年代

年代

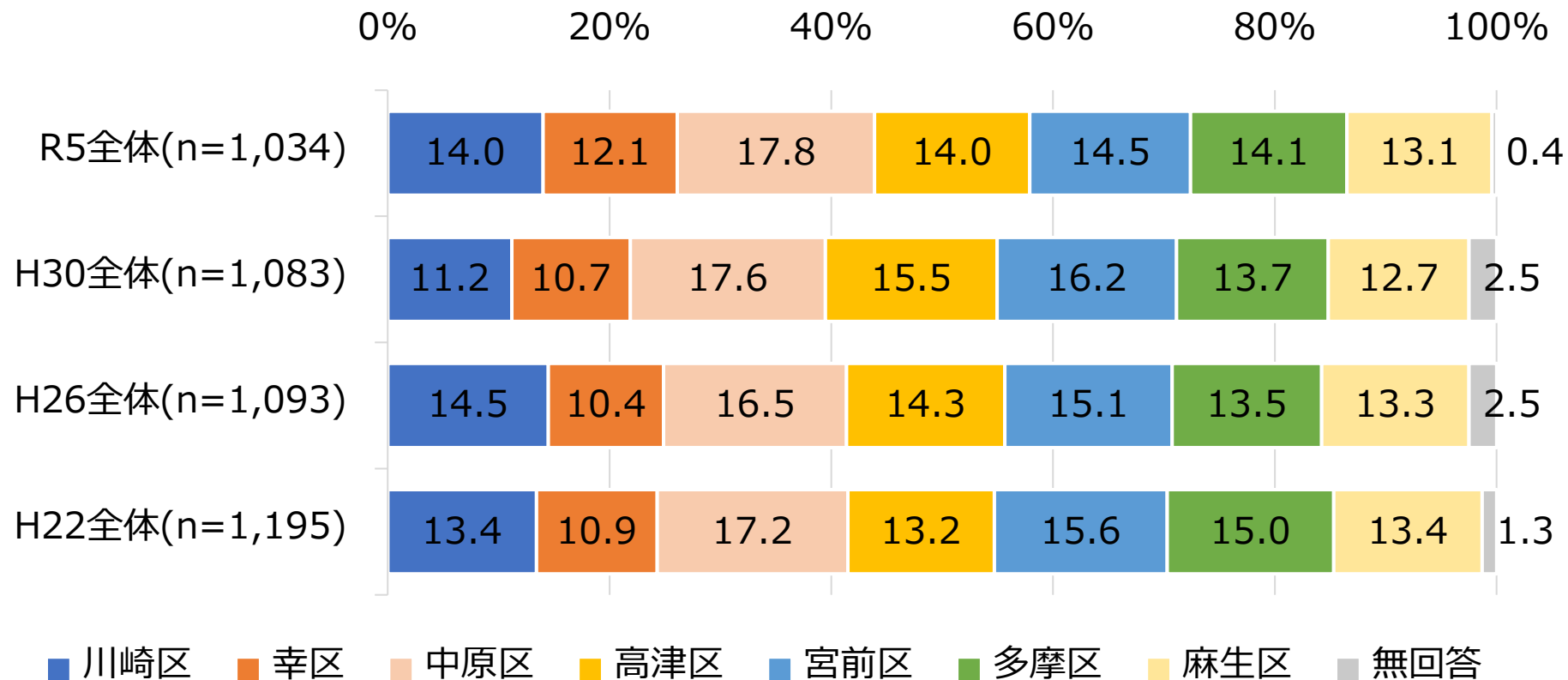


※ H30までは「20-29歳」

ベース：全対象者

回答者の属性(3)：居住区

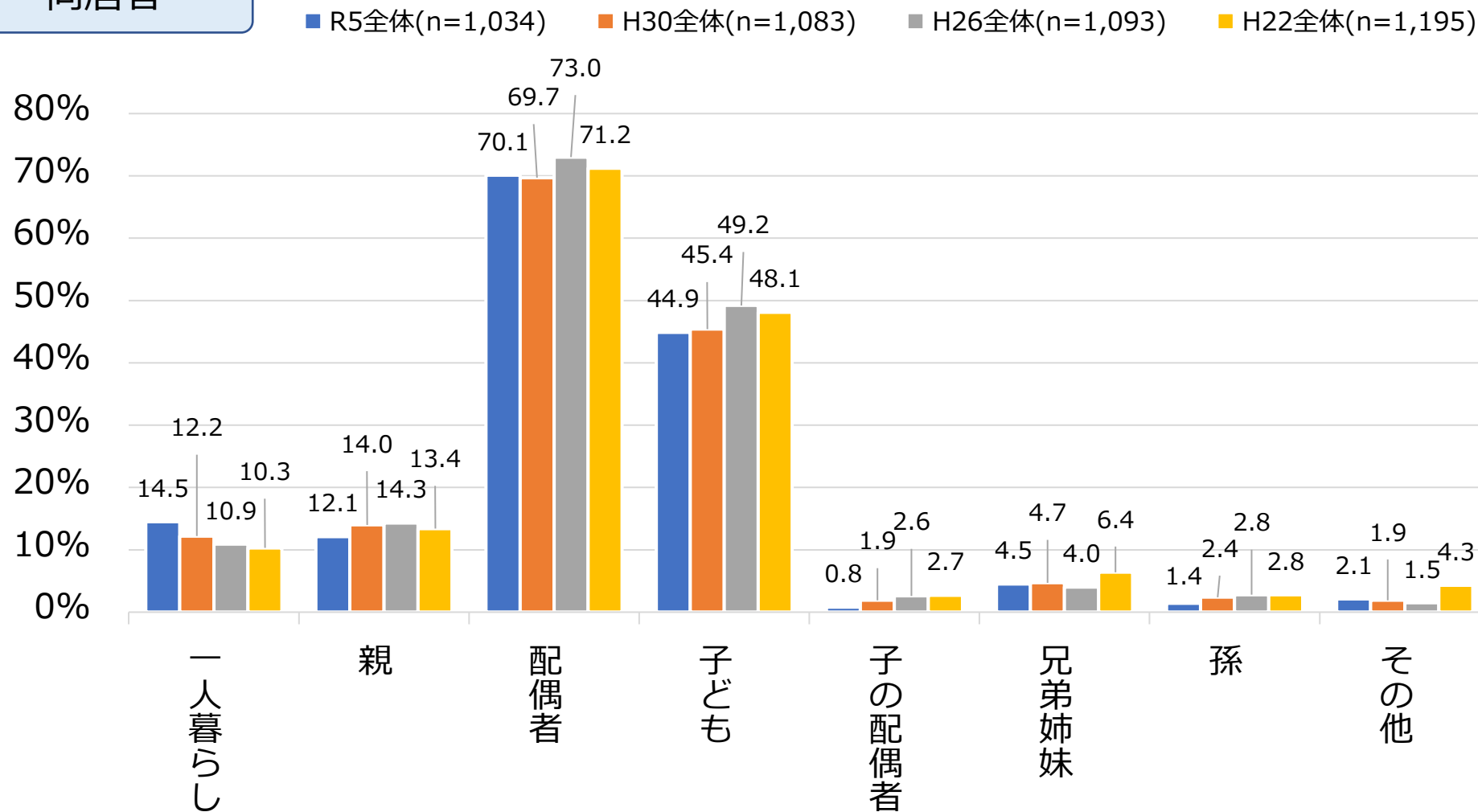
居住区



ベース：全対象者

回答者の属性(4)：同居者

同居者

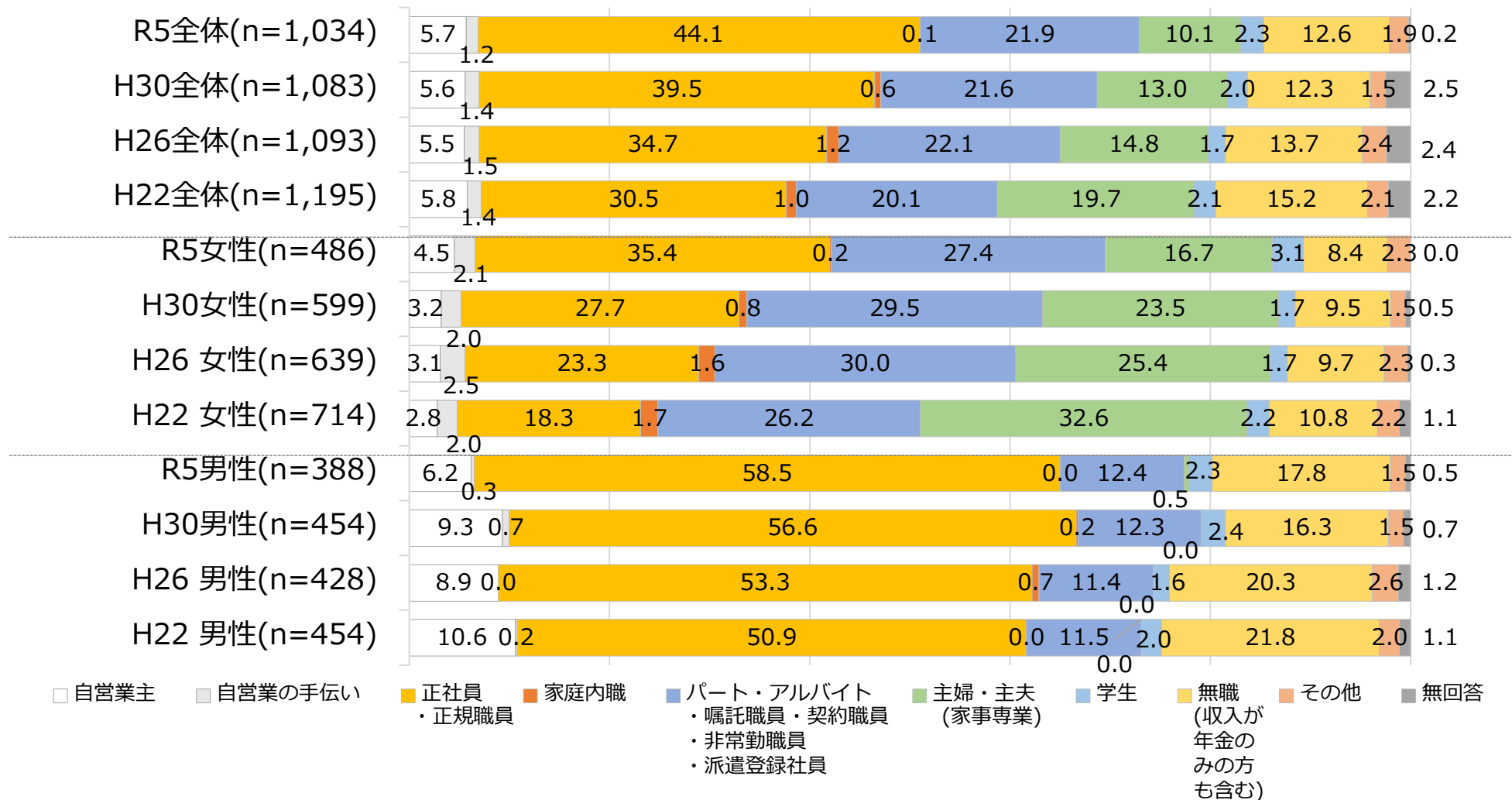


ベース：全対象者

回答者の属性(5)：本人職業

本人の職業

0% 20% 40% 60% 80% 100%

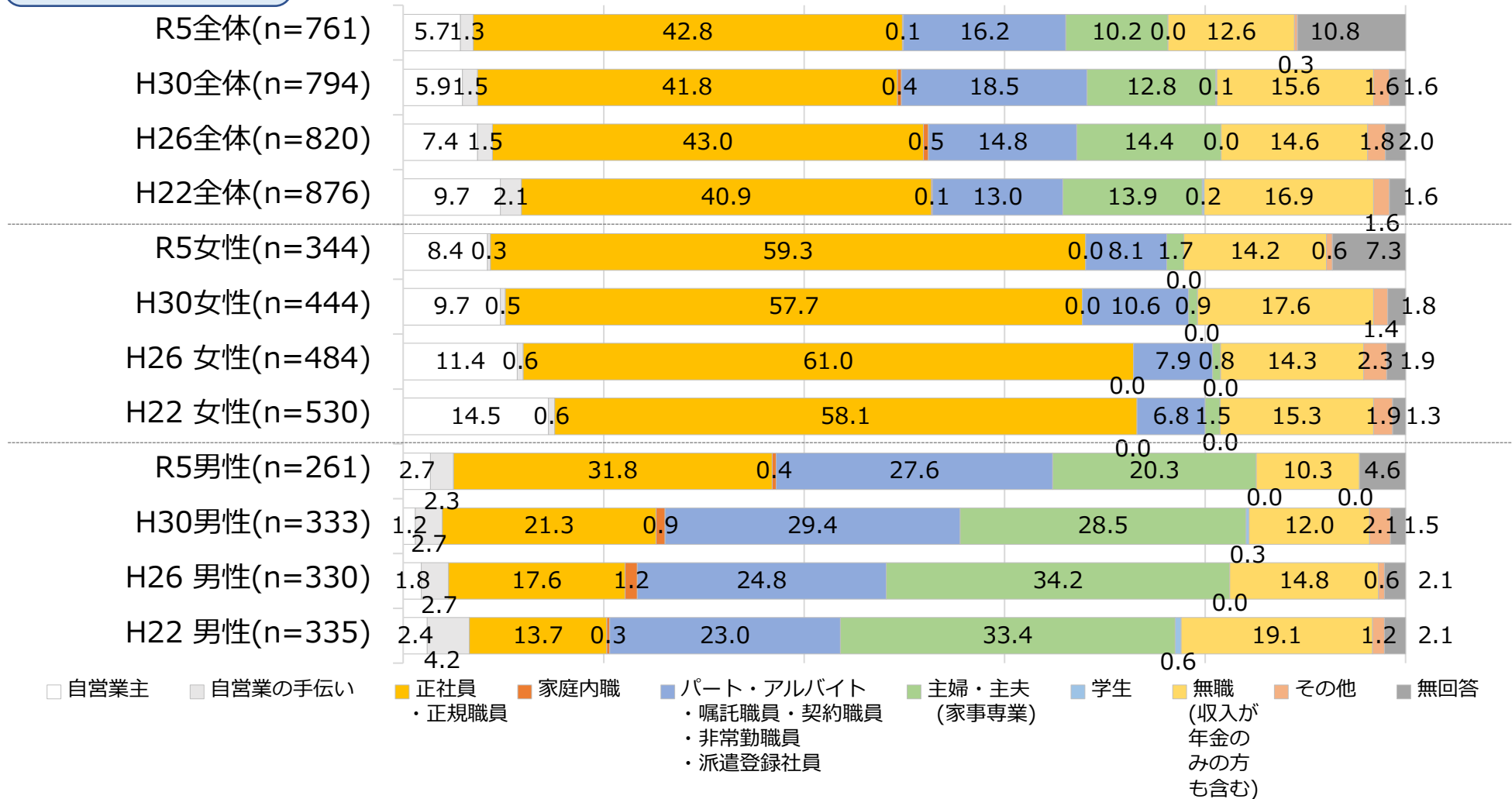


ベース：全対象者

回答者の属性(6)：配偶者・パートナーの職業

配偶者・パートナーの職業

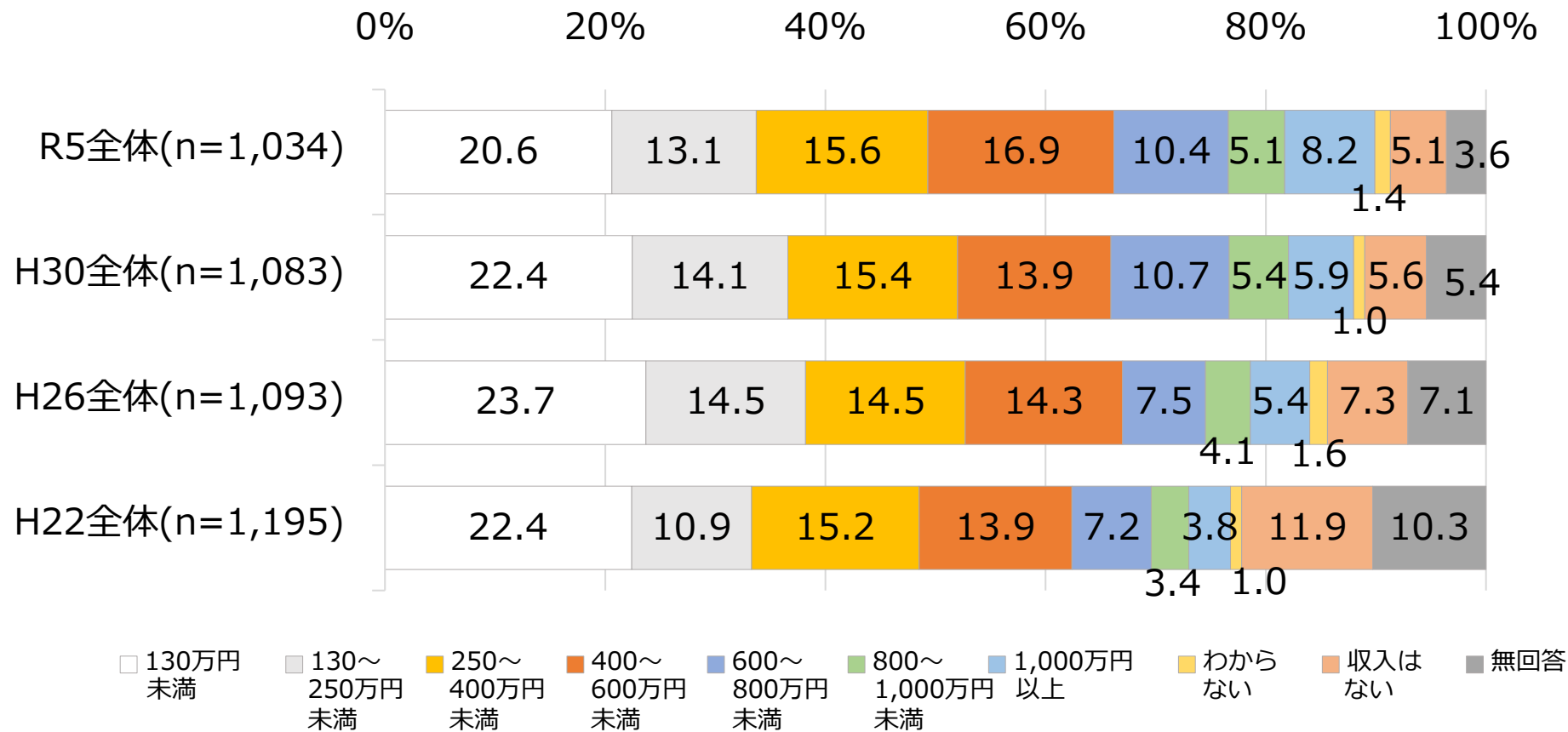
0% 20% 40% 60% 80% 100%



ベース：現在配偶者・パートナーがいる人

回答者の属性(7)：本人年収

本人年収



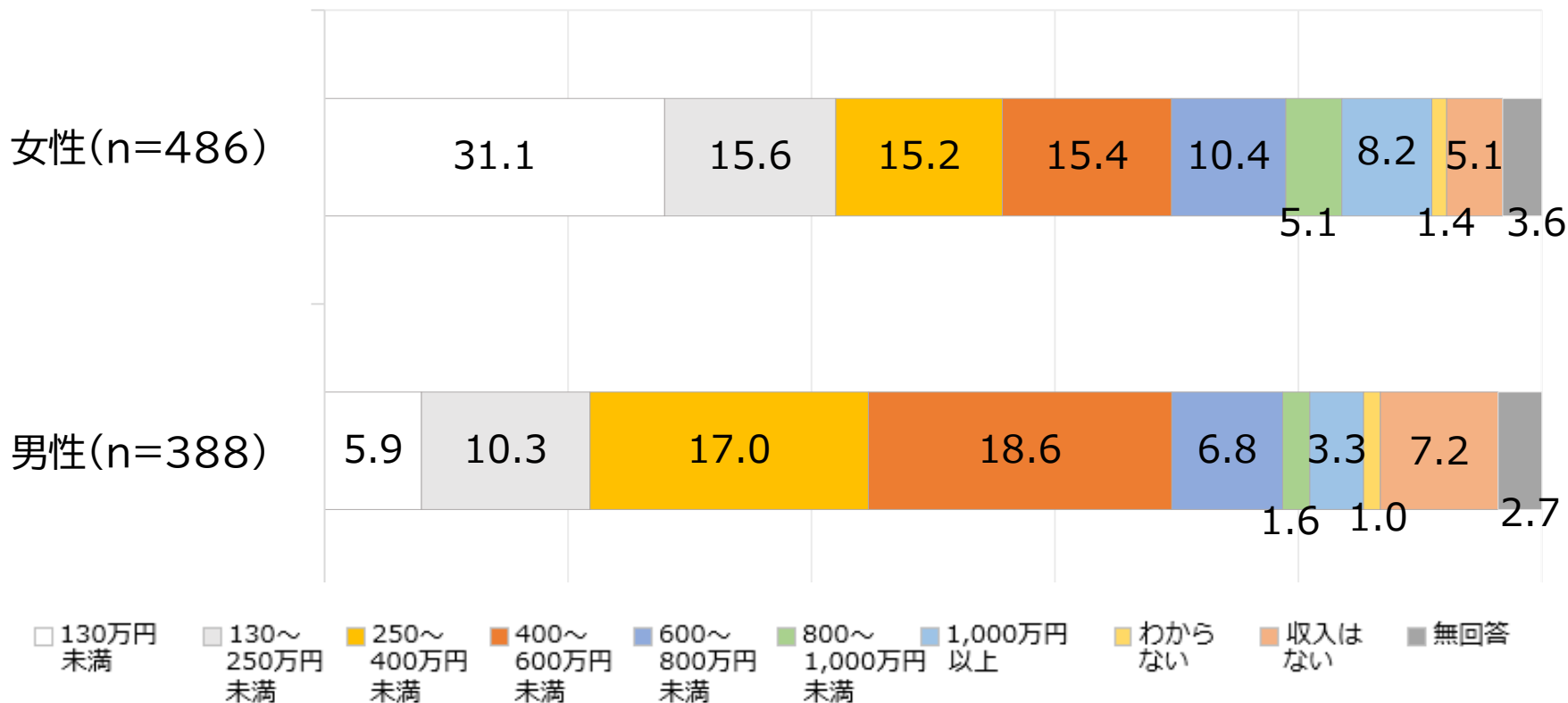
ベース：全対象者

回答者の属性(7)：本人年収（性別）

本人年収

R5

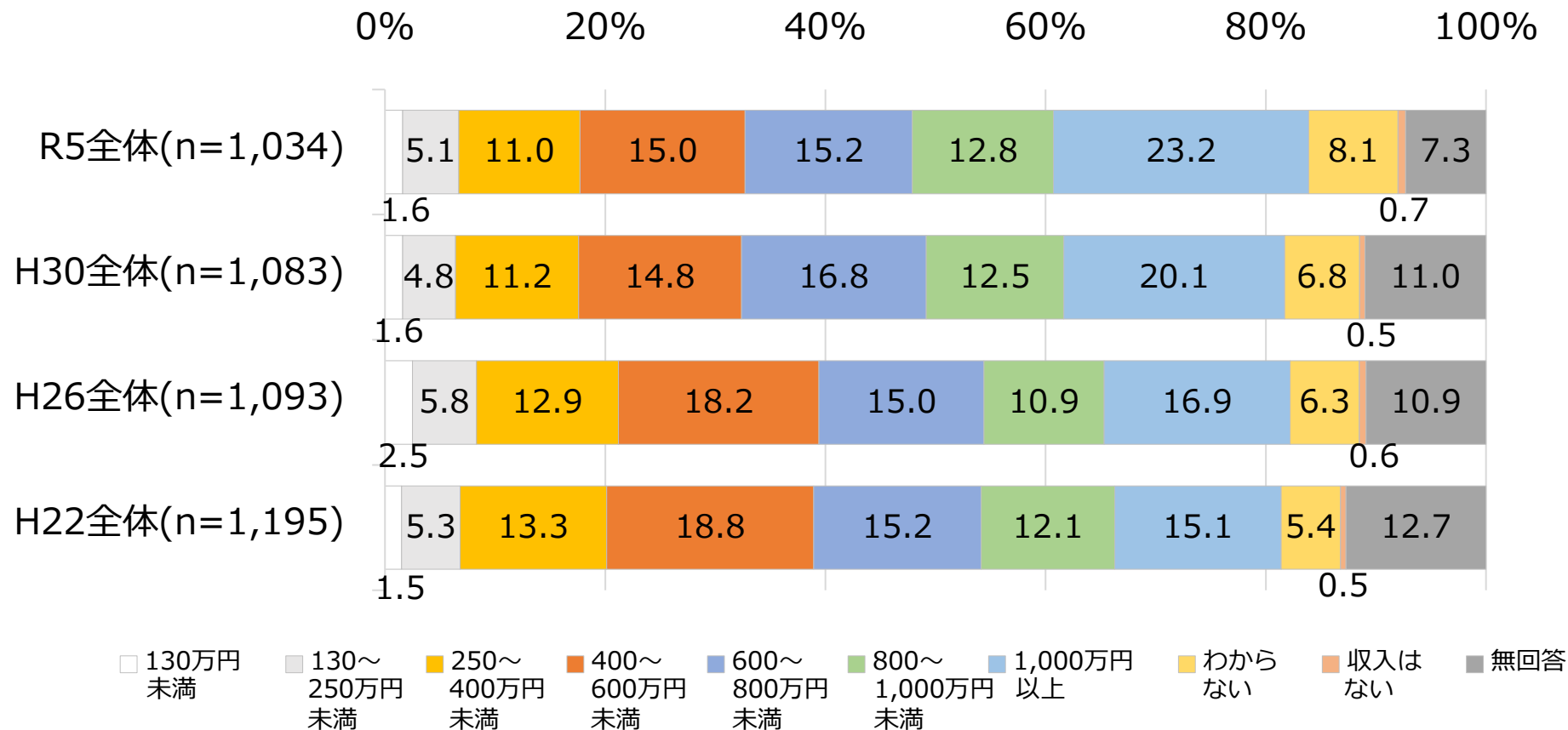
0% 20% 40% 60% 80% 100%



ベース：全対象者

回答者の属性(8)：世帯年収

世帯年収

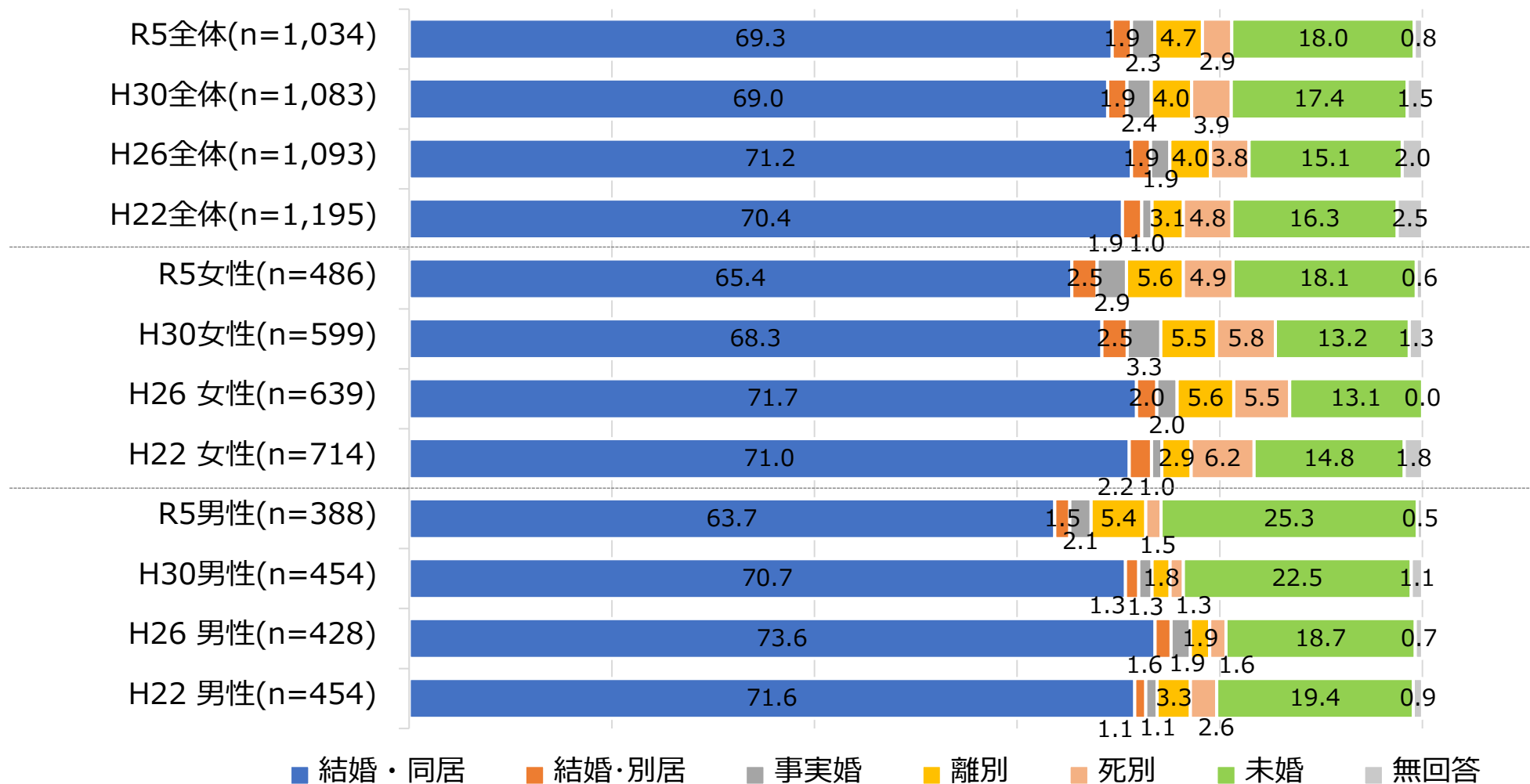


ベース：全対象者

回答者の属性(9)：婚姻状況

婚姻状況

0% 20% 40% 60% 80% 100%

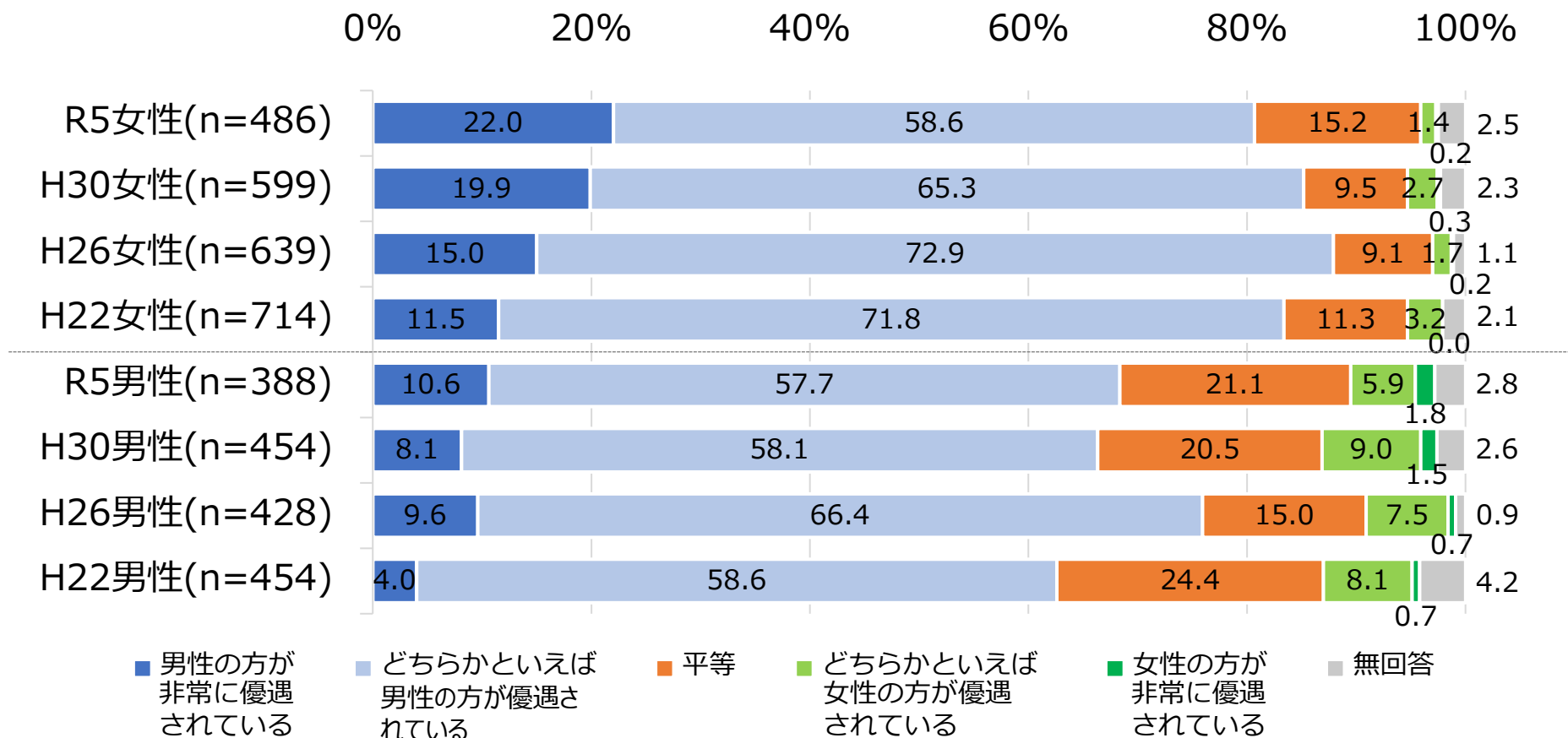


ベース：全対象者

1. 男女の地位の平等感

男女の地位の平等感(社会全体)

- 『社会全体』での男女の地位の平等感について、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した<男性優遇>の割合は、女性で80.7%、男性で68.3%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合は、女性では4.5ポイント低下しており、これは統計的に有意なものであった。なお、男性では有意な変化は見受けられなかった。

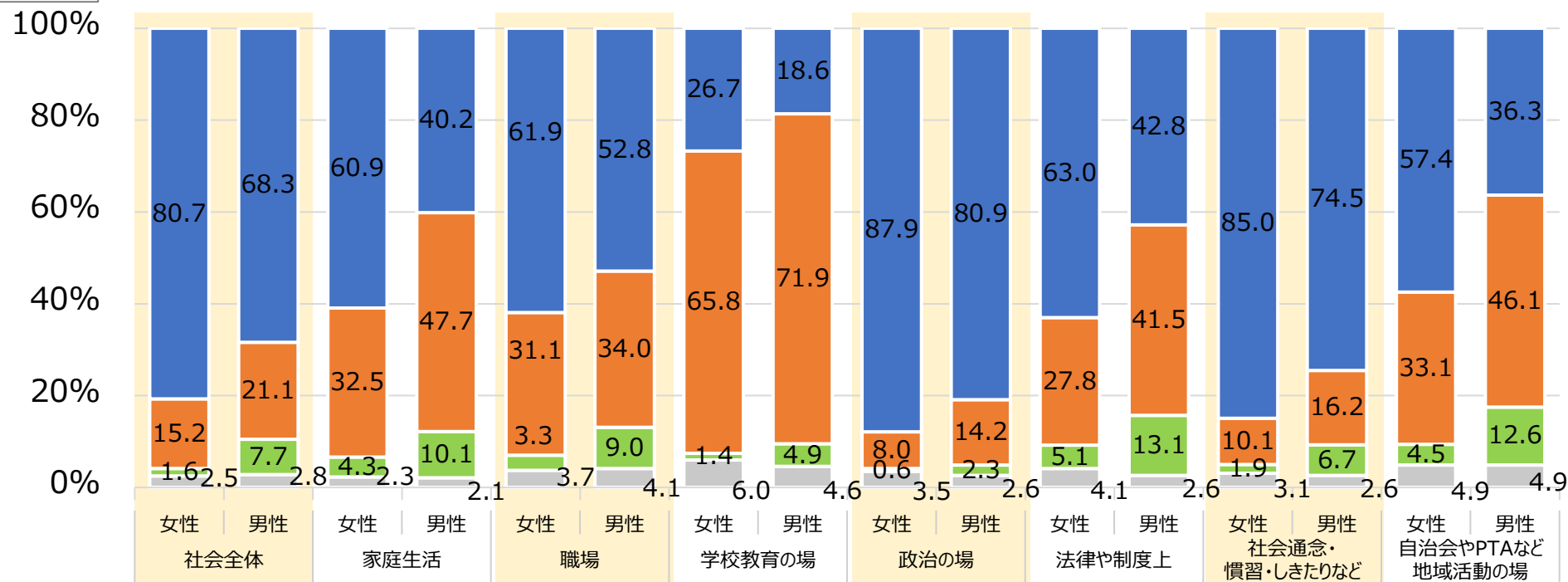


ベース：全対象者

男女の地位の平等感

- 男女の地位の平等感については、男女ともに、特に『政治の場』『社会通念・慣習・しきたりなど』で〈男性優遇〉が7~8割を超えた。
- 〈男性優遇〉の回答割合が最も低かったのは、男女ともに『学校教育の場』であった。
- 『職場』と『学校教育の場』を除いて、男性の方が女性よりも「平等」の回答割合が有意に高かった。

R5

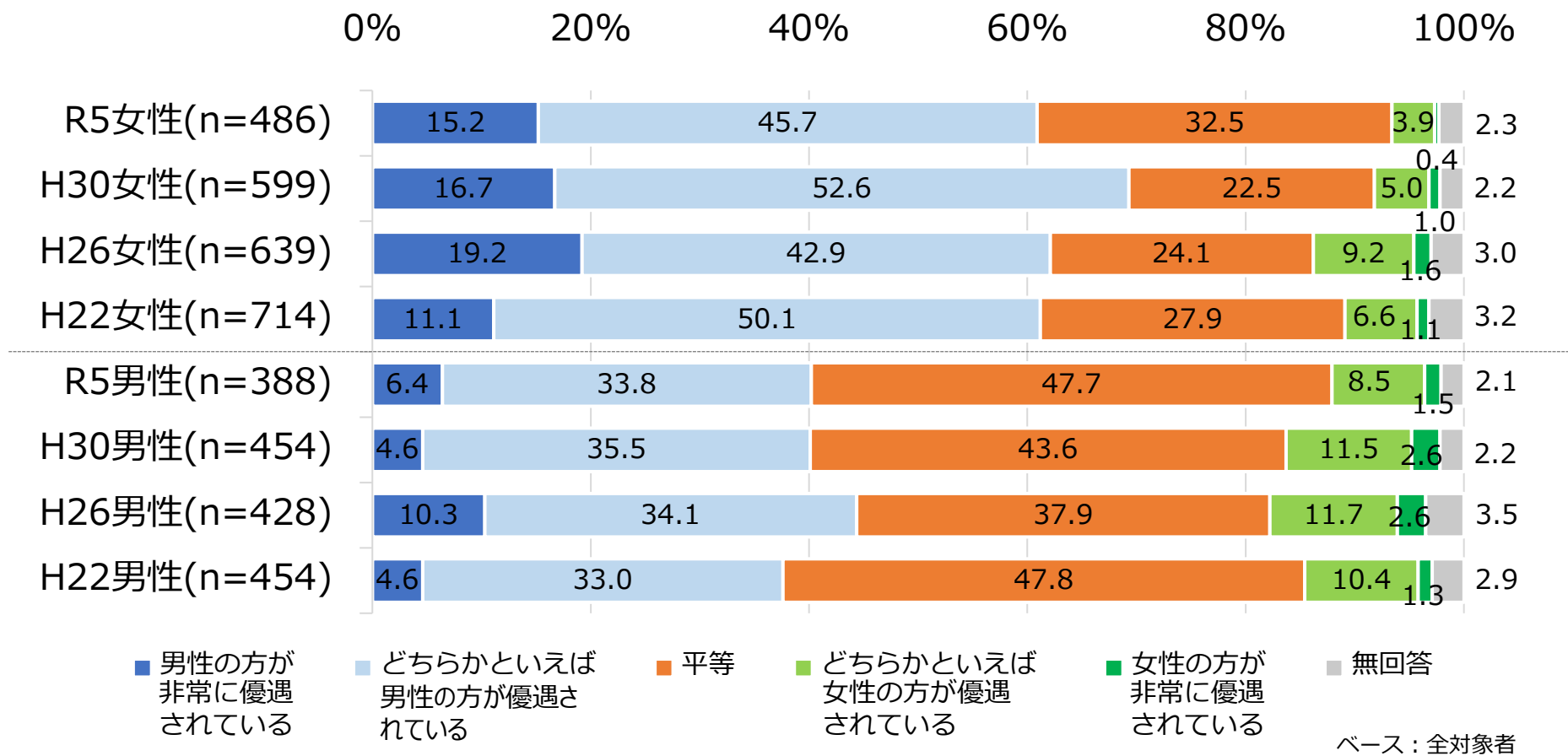


- 男性の方が優遇されている(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)
- 平等
- 女性の方が優遇されている(「女性性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)
- 無回答

ベース：全対象者

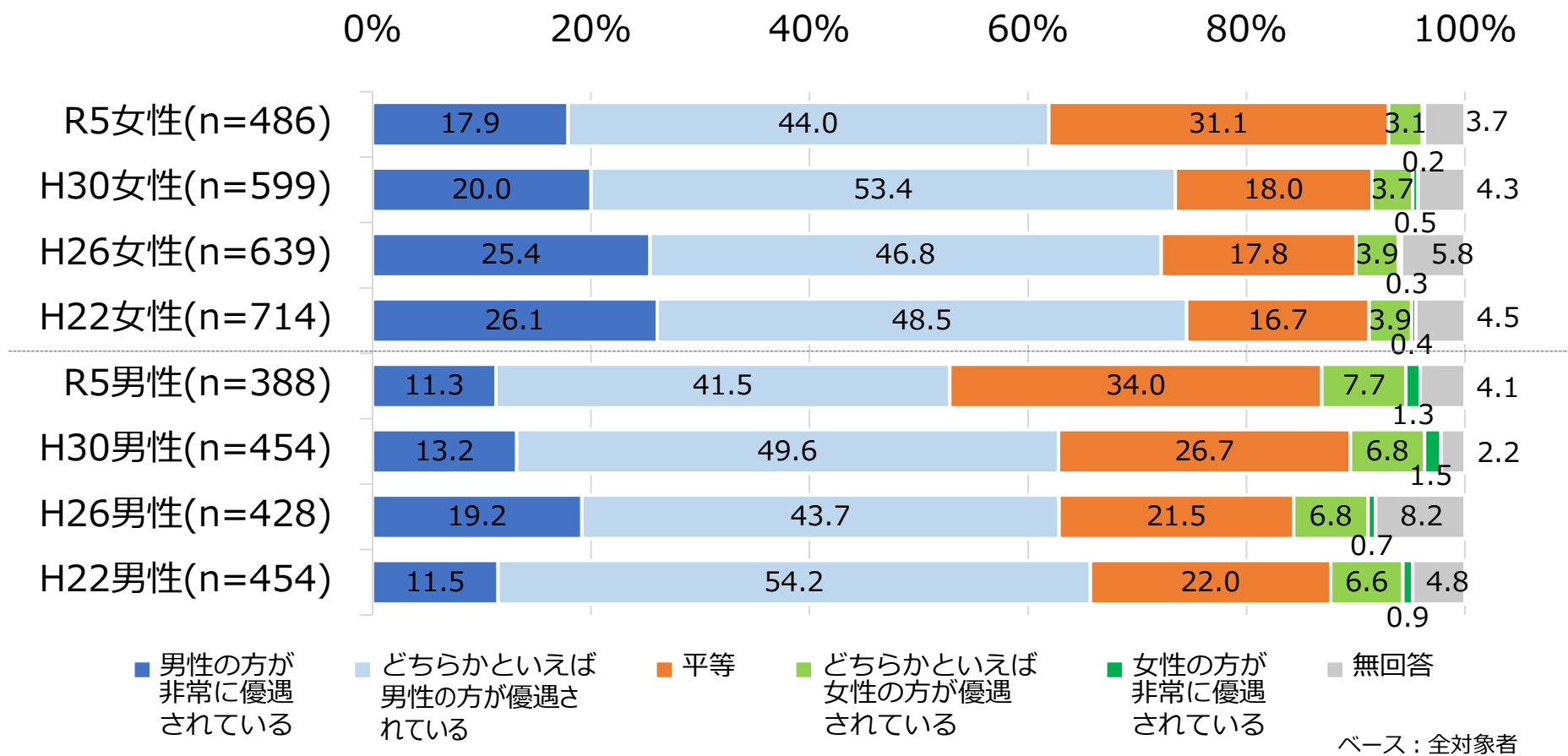
男女の地位の平等感(家庭生活)

- 『家庭生活』では、女性の60.9%、男性の40.2%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合は、女性では8.4ポイントの有意な低下を示したのに対して、男性ではほぼ前回同様であった。



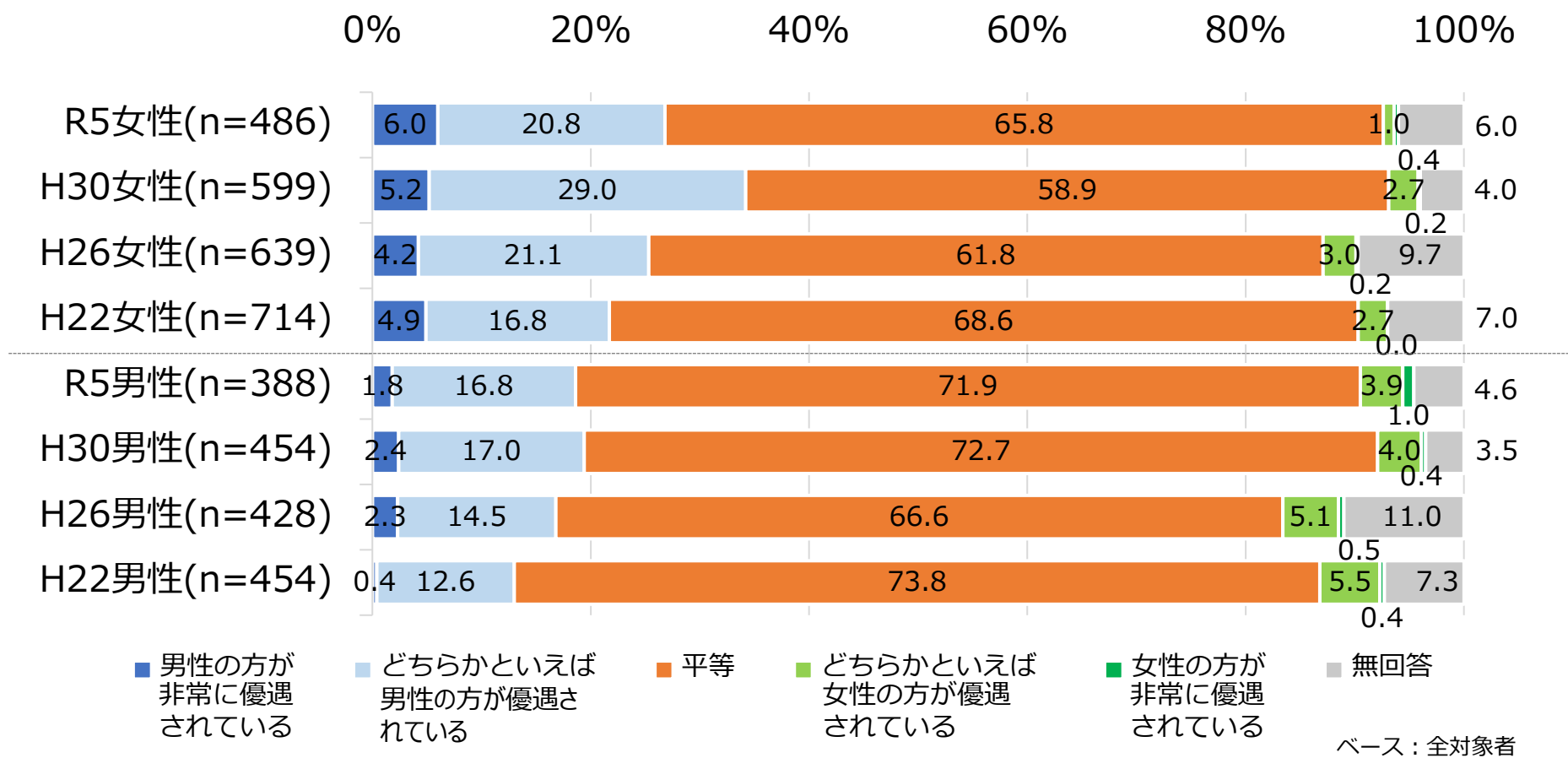
男女の地位の平等感(職場)

- 『職場』では、女性の61.9%、男性の52.8%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合は、女性では11.6ポイント、男性では10.0ポイント、それぞれ有意に低下した。



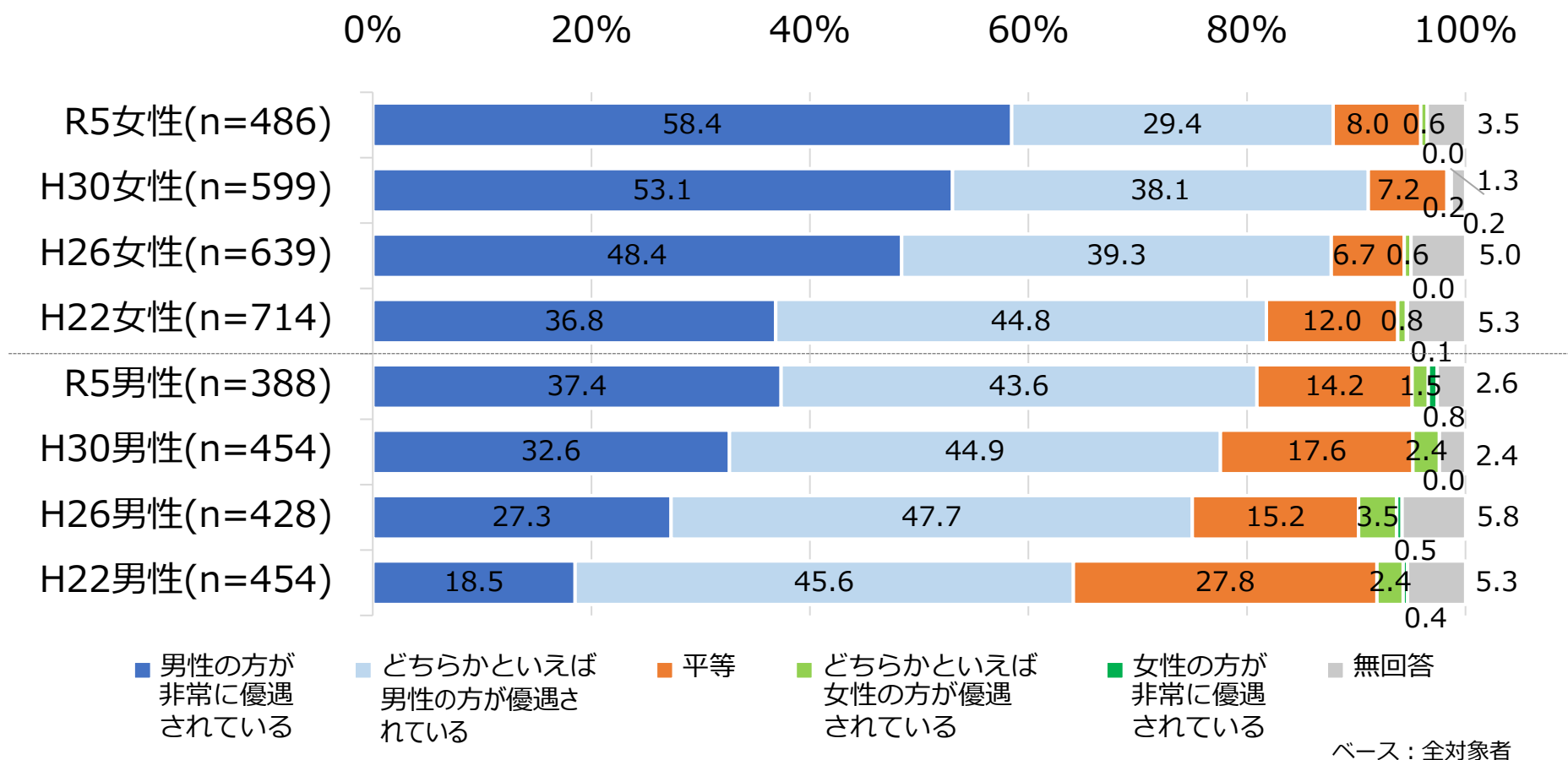
男女の地位の平等感(学校教育の場)

- 『学校教育の場』では、女性の26.7%、男性の18.6%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合は、女性では7.5ポイントの有意な低下を示したのに対して、男性ではほぼ前回同様であった。



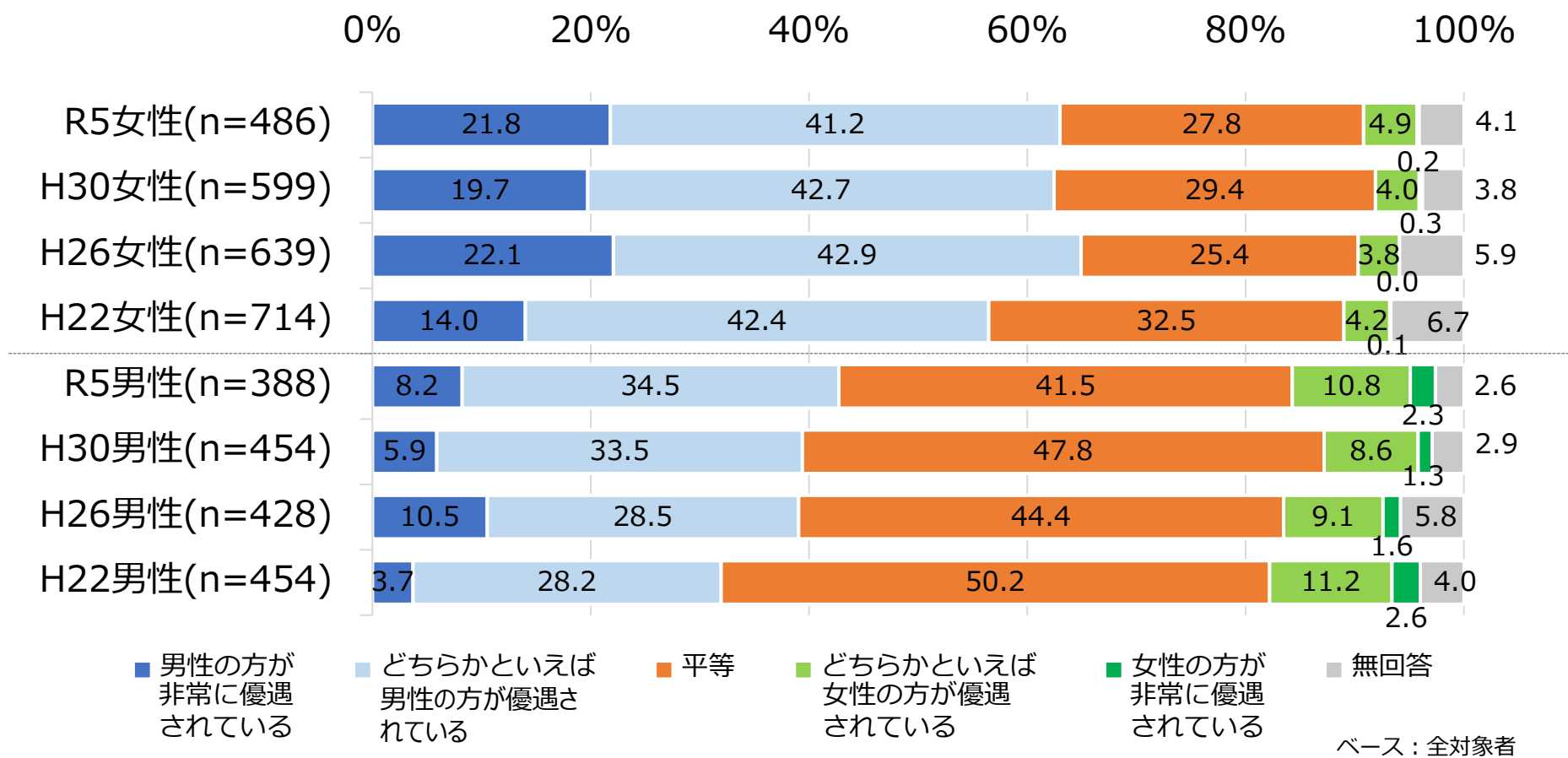
男女の地位の平等感(政治の場)

- 『政治の場』では、女性の87.9%、男性の80.9%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合に統計的に有意な変化は見受けられなかった。



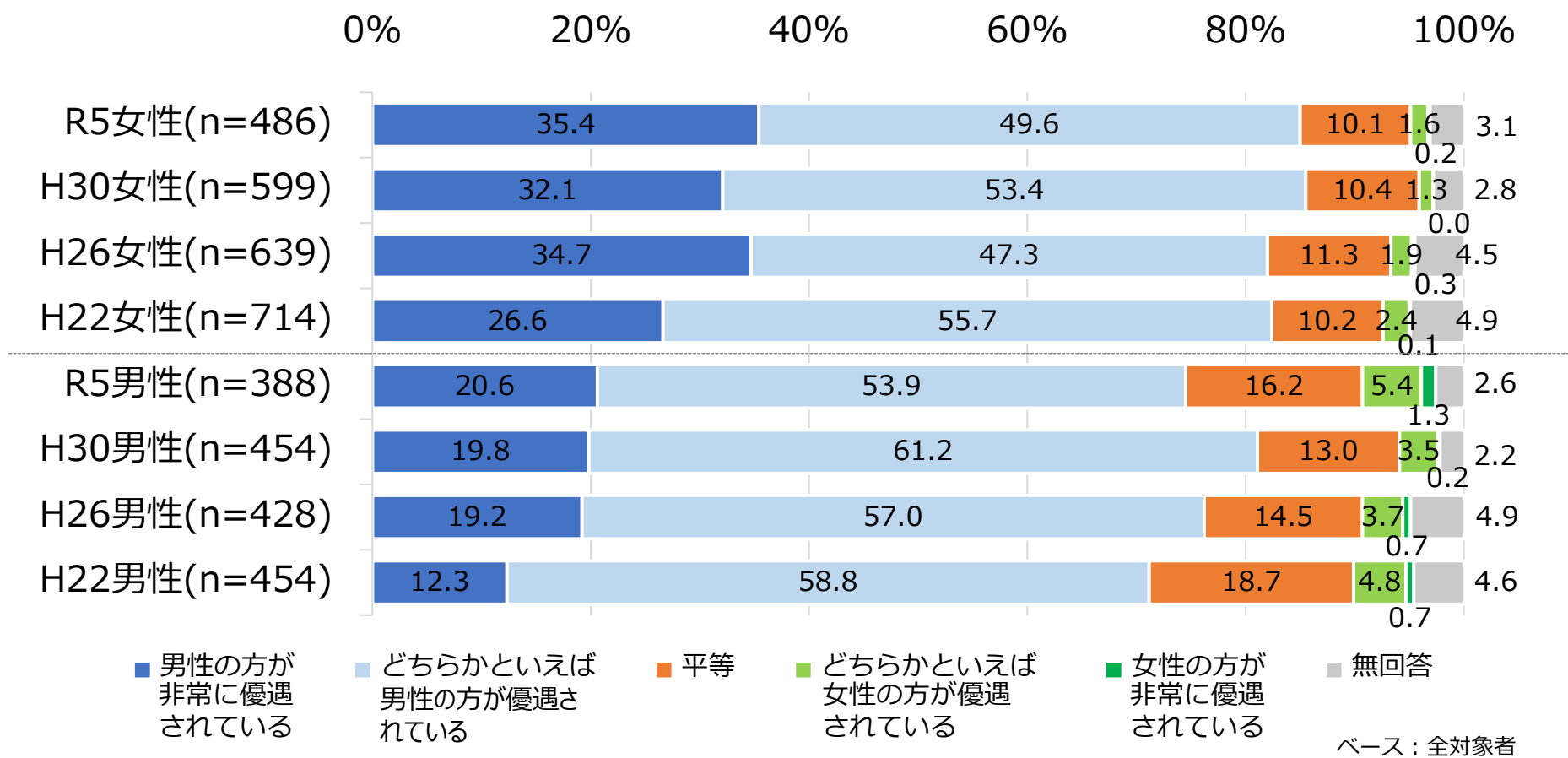
男女の地位の平等感(法律や制度の上)

- 『法律や制度の上』では、女性の63.0%、男性の42.8%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合に統計的に有意な変化は見受けられなかった。



男女の地位の平等感(社会通念・慣習・しきたり)

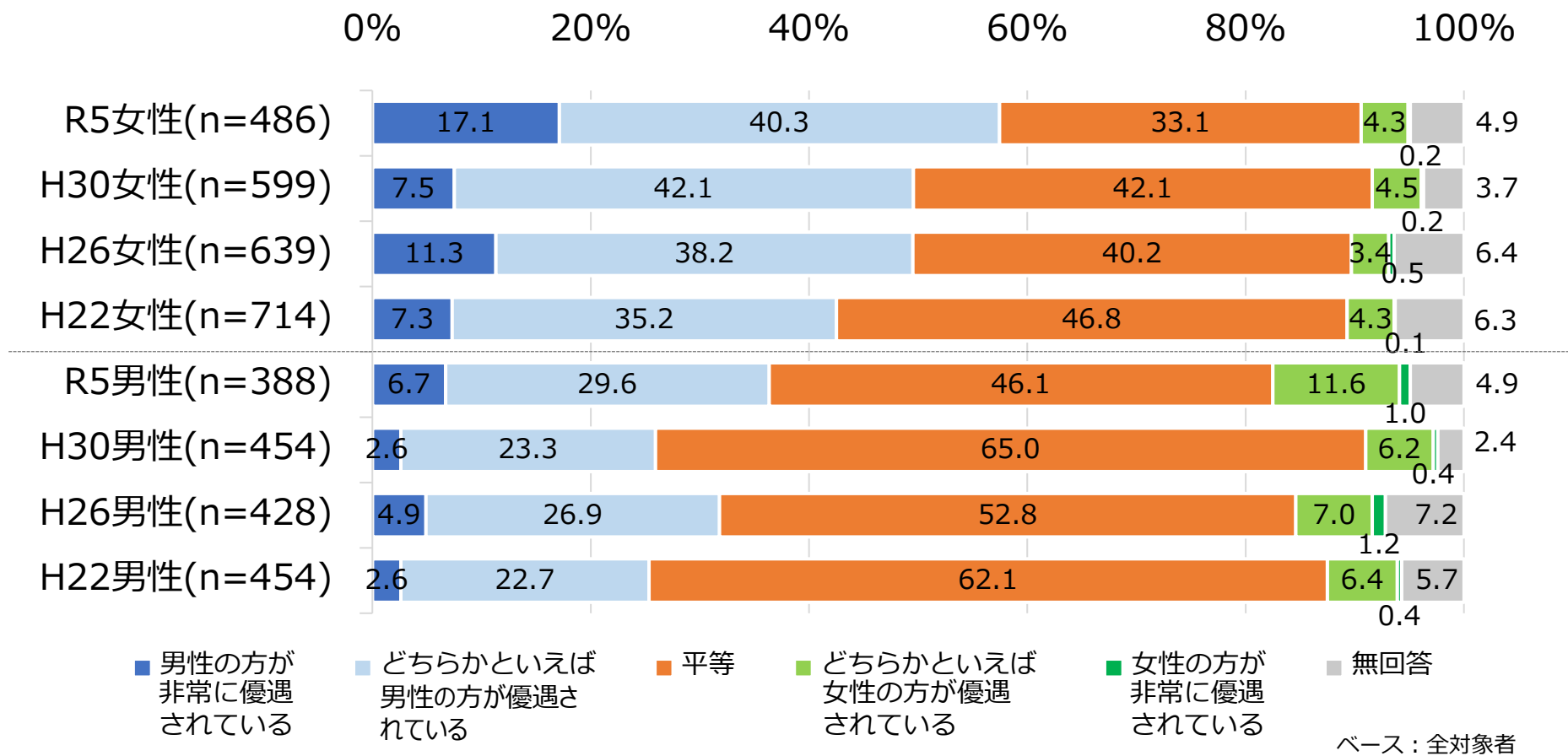
- 『社会通念・慣習・しきたり』では、女性の85.0%、男性の74.5%が<男性優遇>と回答した。
- 前回(H30)調査に比べると、<男性優遇>の割合は、女性ではほぼ同様であったが、男性では6.6ポイント低下しており、これは統計的に有意なものであった。



男女の地位の平等感(自治会やPTAなど地域活動の場)

※ H31までは「自治会やNPOなど地域活動の場」

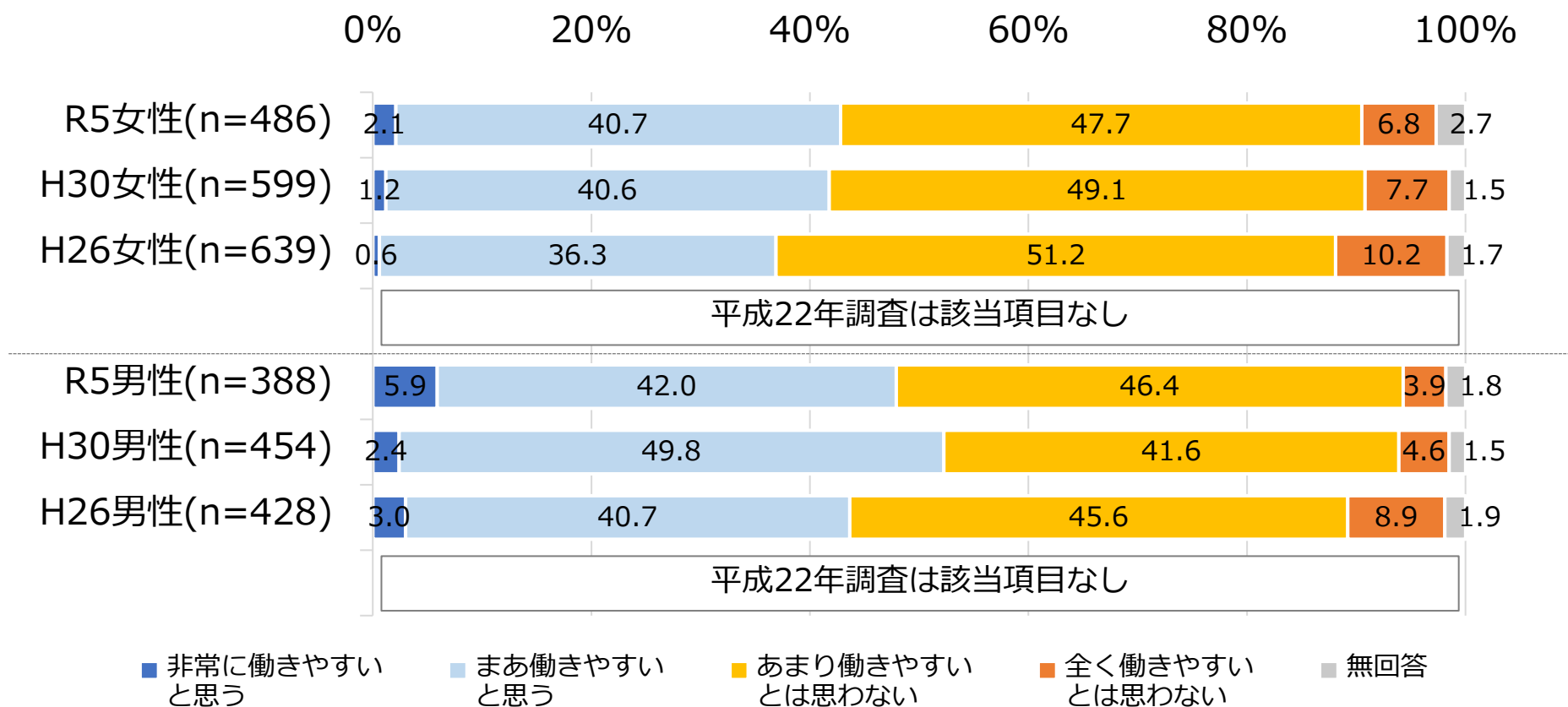
- 『自治会やPTAなど地域活動の場』では、女性の57.4%、男性の36.3%が<男性優遇>と回答した。
- なお、前回(H30)調査では、『自治会やNPOなど地域活動の場』について聞いており、今回とは文言が異なるため、直接比較にはなじまない。



2. 女性にとっての 働きやすさ

いまの社会は女性にとって働きやすいか

- 『いまの社会は女性にとって働きやすいか』 どうかについて、「非常に働きやすいと思う」と「まあ働きやすいと思う」を合計した<女性にとって働きやすいと思う>の割合は、女性で42.8%、男性47.9%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、<女性にとって働きやすいと思う>の割合に統計的に有意な変化は見受けられなかった。

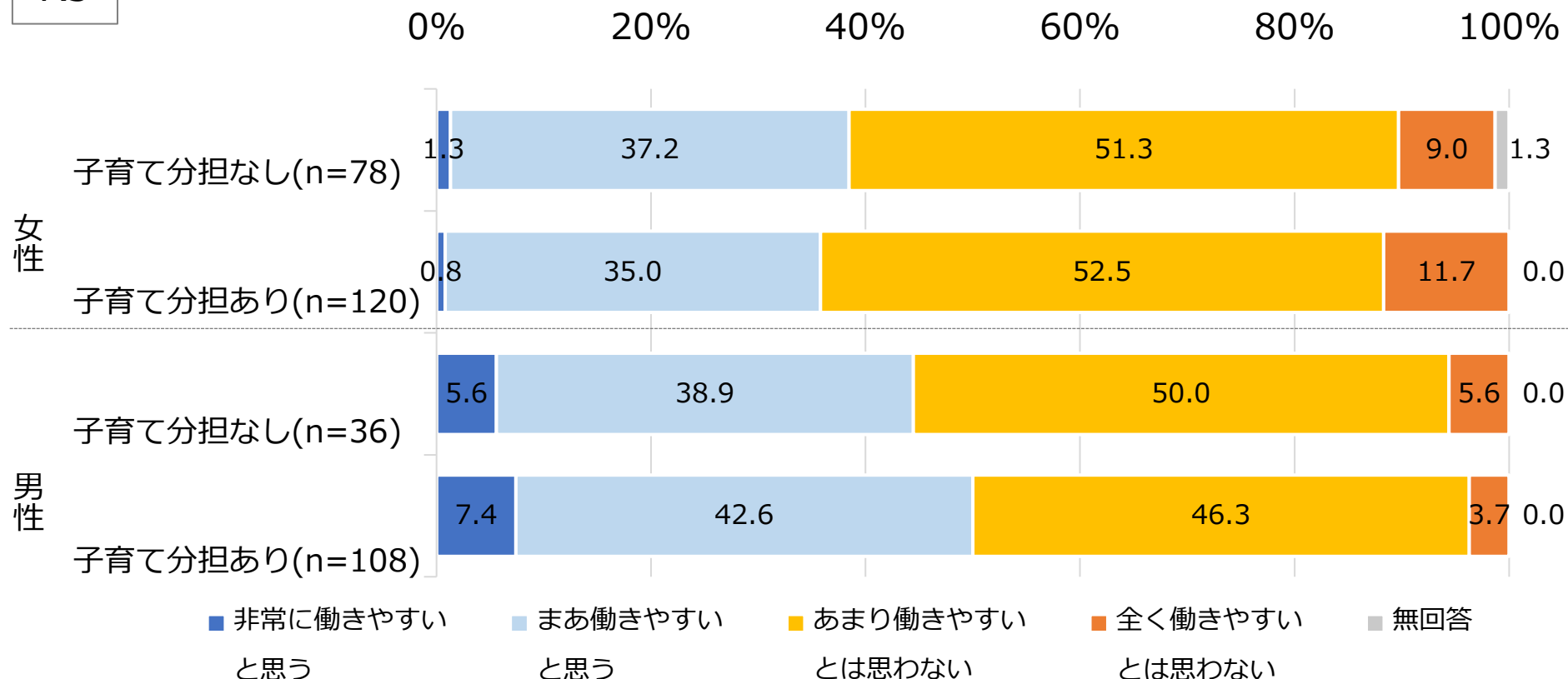


ベース：全対象者

いまの社会は女性にとって働きやすいか（性別、子育て分担有無別）

- 子育て分担状況別でみた場合、男女ともに<女性にとって働きやすいと思う>の割合に統計的に有意な差は見受けられなかった。

R5



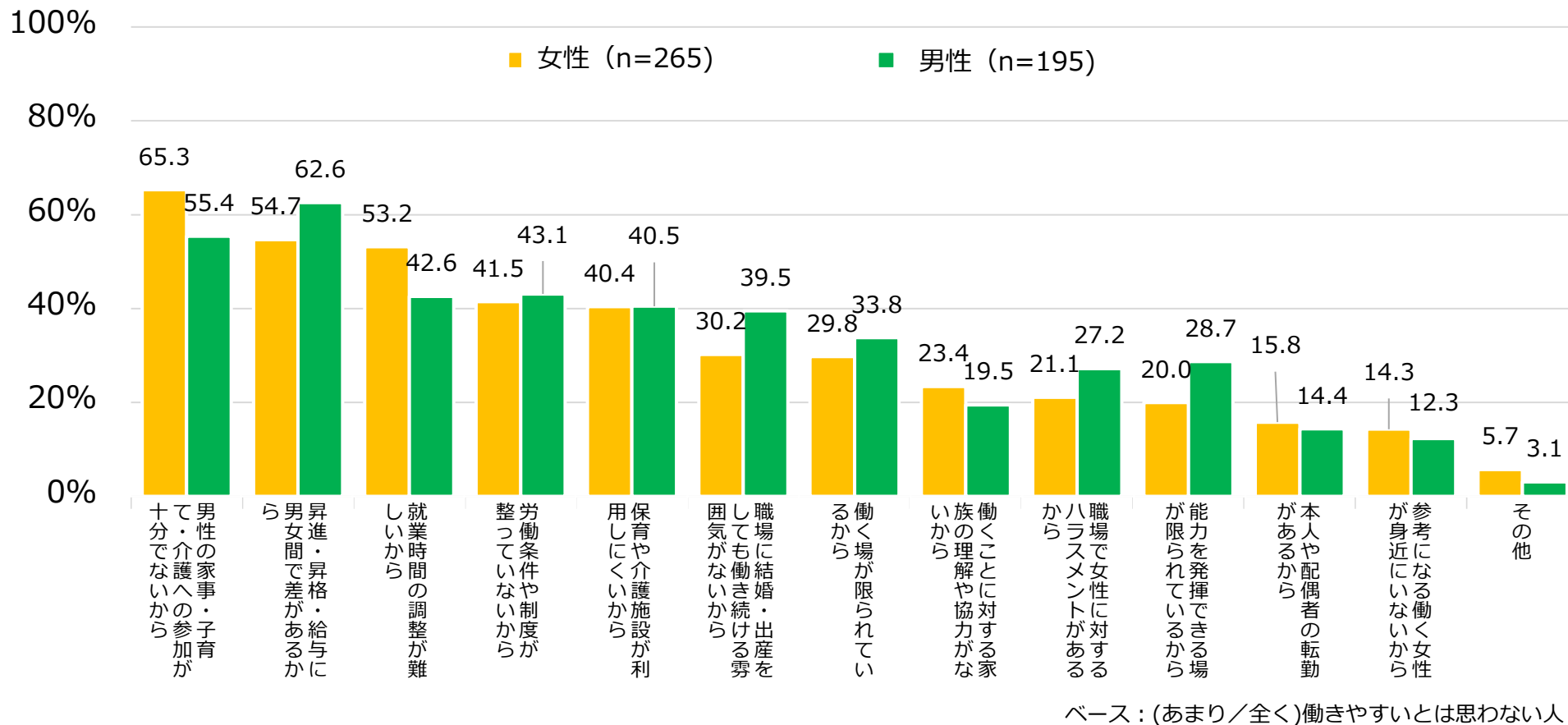
子育て分担あり：育児分担状況に関する質問で「どちらかといえば自分が中心」「配偶者またはパートナーとほぼ同等」「どちらかといえば配偶者またはパートナー」のいずれかを回答した人
 子育て分担なし：育児分担状況に関する質問で「自分が中心」または「配偶者またはパートナーが中心」と回答した人

ベース：全対象者

女性にとって働きやすいと思わない理由（性別、複数回答）

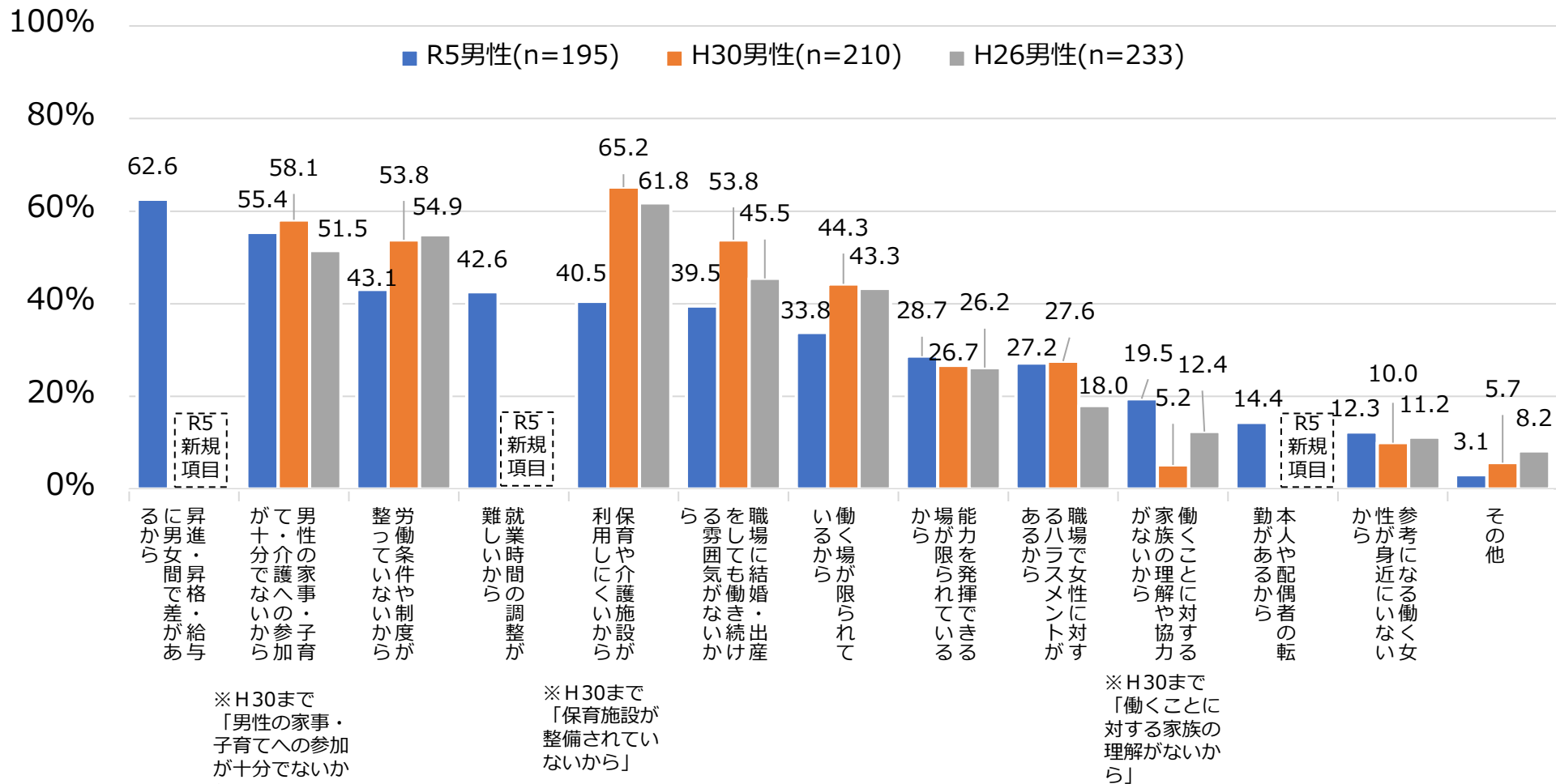
- 現在の社会が女性にとって働きやすいとは思わない人とその理由を尋ねたところ、女性では「男性の家事・子育て・介護への参加が十分でないから」(65.3%)が最も高く、男性では「昇進・昇格・給与に男女間で差があるから」(62.6%)が最も高かった。

R5



女性にとって働きやすいと思わない理由(男性、複数回答)

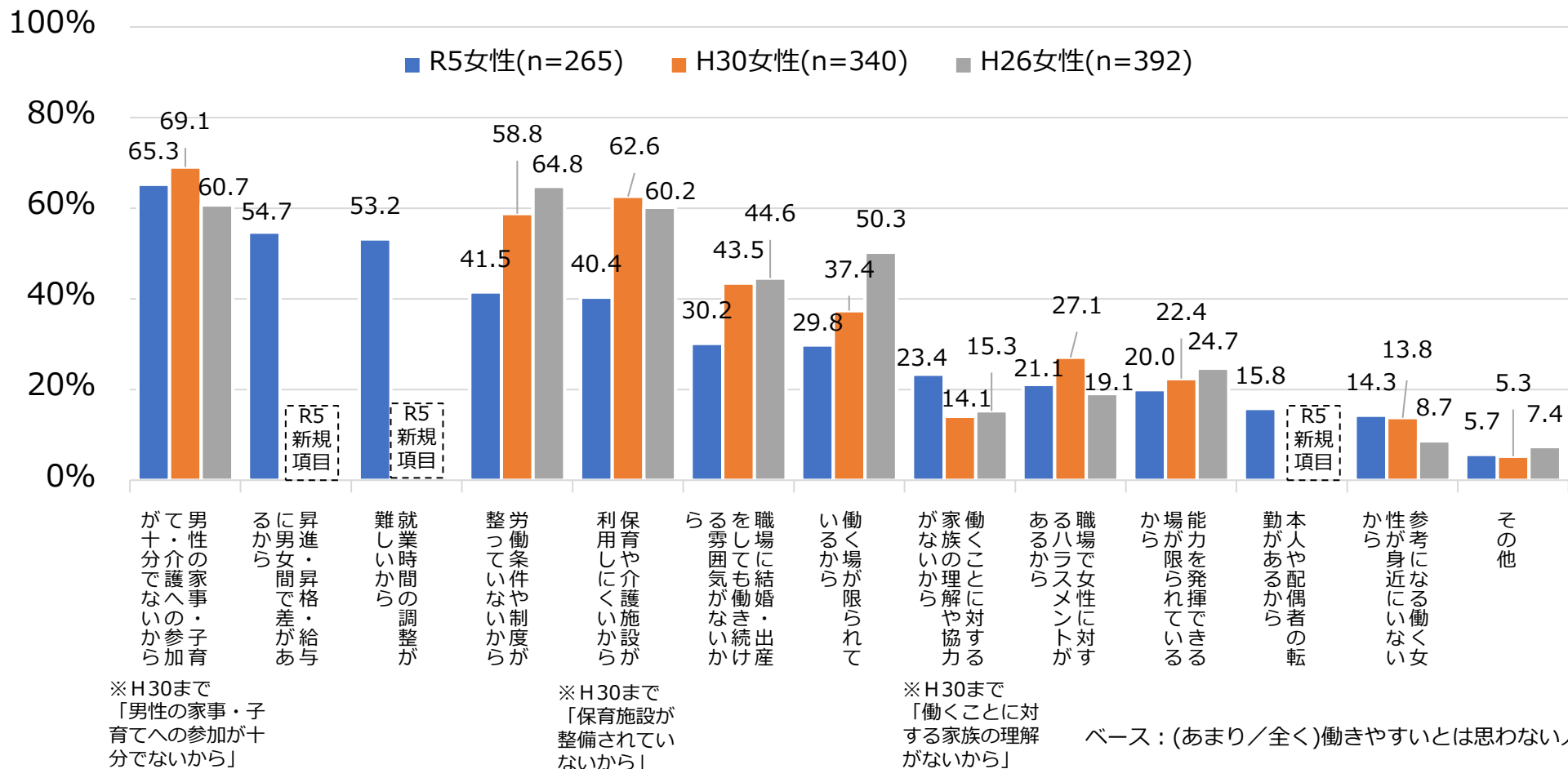
- 男性では「昇進・昇格・給与に男女間で差があるから」が62.6%で最も高く、次いで「男性の家事・子育て・介護への参加が十分でないから」が55.4%であった。



ベース：(あまり/全く)働きやすいと思わない人

女性にとって働きやすいと思わない理由(女性、複数回答)

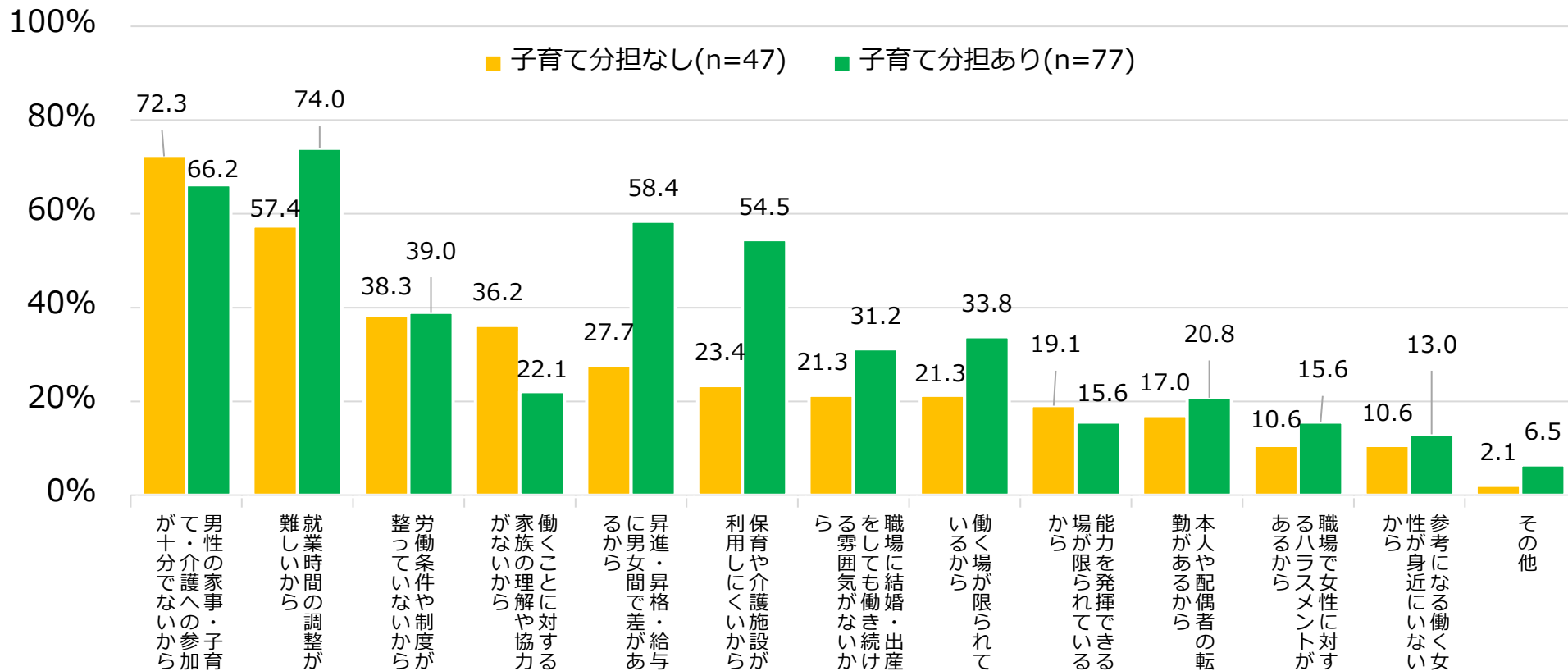
- いまの社会が<女性にとって働きやすいとは思わない>人にその理由を尋ねたところ、女性では「男性の家事・子育て・介護への参加が十分でないから」(65.3%)が最も高く、次いで「昇進・昇格・給与に男女間で差があるから」(54.7%)、「就業時間の調整が難しいから」(53.2%)の順であった。



女性にとって働きやすいと思わない理由(女性・子育て分担有無別、複数回答)

- 女性について子育て分担の有無別で有意な違いが見受けられたのは、「昇進・昇格・給与に男女間で差があるから」と「保育や介護施設が利用しにくいから」で、いずれも子育て分担ありの方が負担なしよりも高かった。

R5



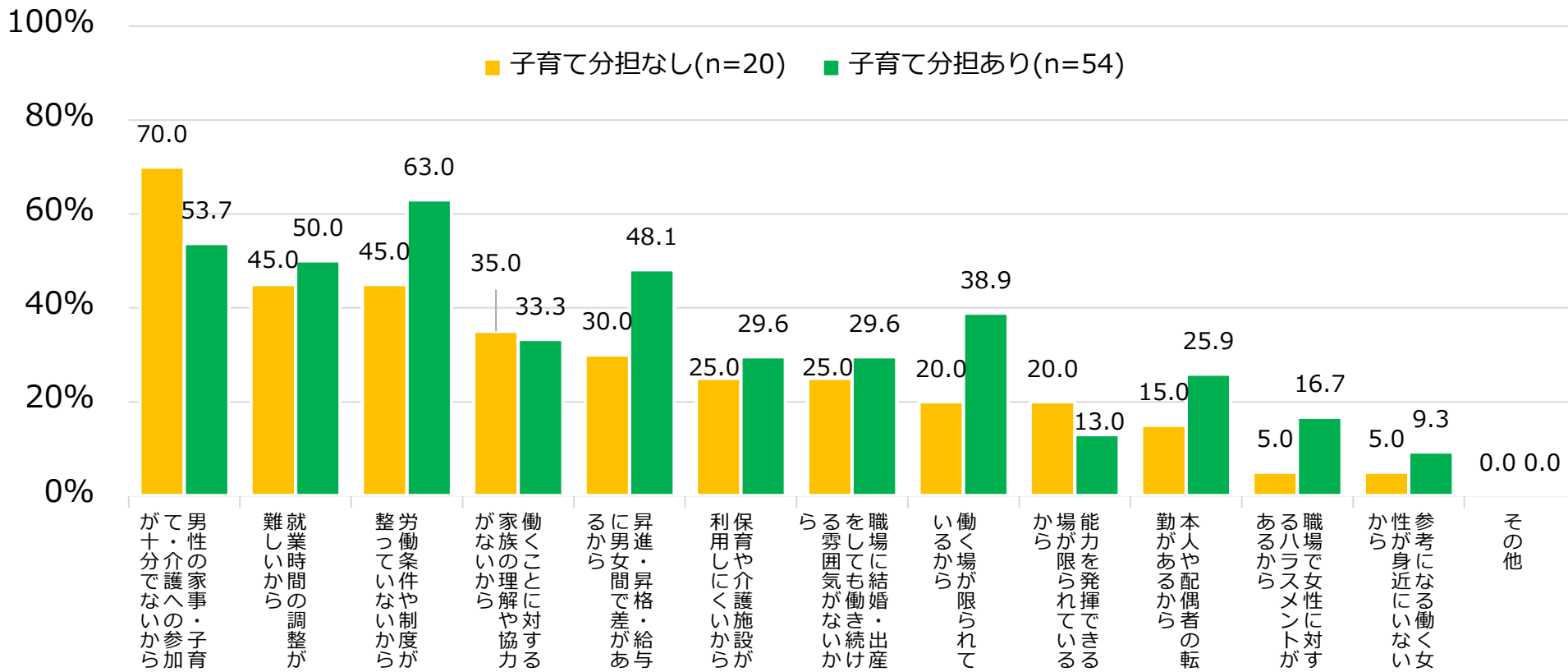
子育て分担あり：育児分担状況に関する質問で「どちらかといえば自分が中心」「配偶者またはパートナーとほぼ同等」「どちらかといえば配偶者またはパートナー」のいずれかを回答した人
 子育て分担なし：育児分担状況に関する質問で「自分が中心」または「配偶者またはパートナーが中心」と回答した人

ベース：(あまり/全く)働きやすいと思わない人

女性にとって働きやすいと思わない理由(男性・子育て分担有無別、複数回答)

- 子育て分担ありの男性では、「昇進・昇格・給与に男女間で差があるから」「男性の家事・子育て・介護への参加が十分でないから」「就業時間の調整が難しいから」が5割を超えて主な理由であった。
- 子育て分担なしについては回答者数が少ないため、参考値として参照されたい。

R5



子育て分担あり：育児分担状況に関する質問で「どちらかといえば自分が中心」「配偶者またはパートナーとほぼ同等」「どちらかといえば配偶者またはパートナー」のいずれかを回答した人
 子育て分担なし：育児分担状況に関する質問で「自分が中心」または「配偶者またはパートナーが中心」と回答した人

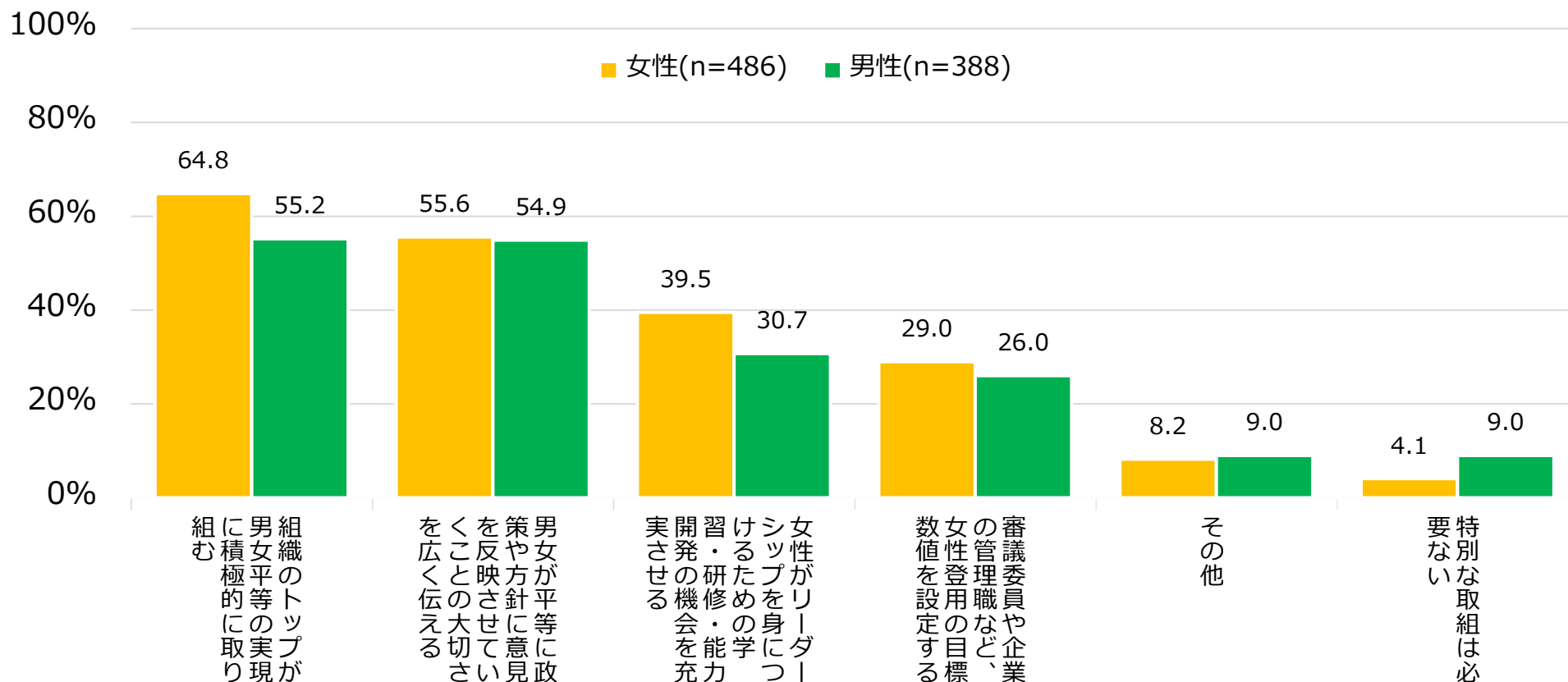
ベース：(あまり/全く)働きやすいとは思わない人

男女平等参画のために必要と思うこと

新規項目

- 『意思決定の場への参画』について、男女ともに「組織のトップが男女平等の実現に積極的に取り組む」が最も高く、「男女が平等に政策や方針に意見を反映させていくことの大切さを広く伝える」が続き、これら2項目がいずれも5割を超えた。

R5

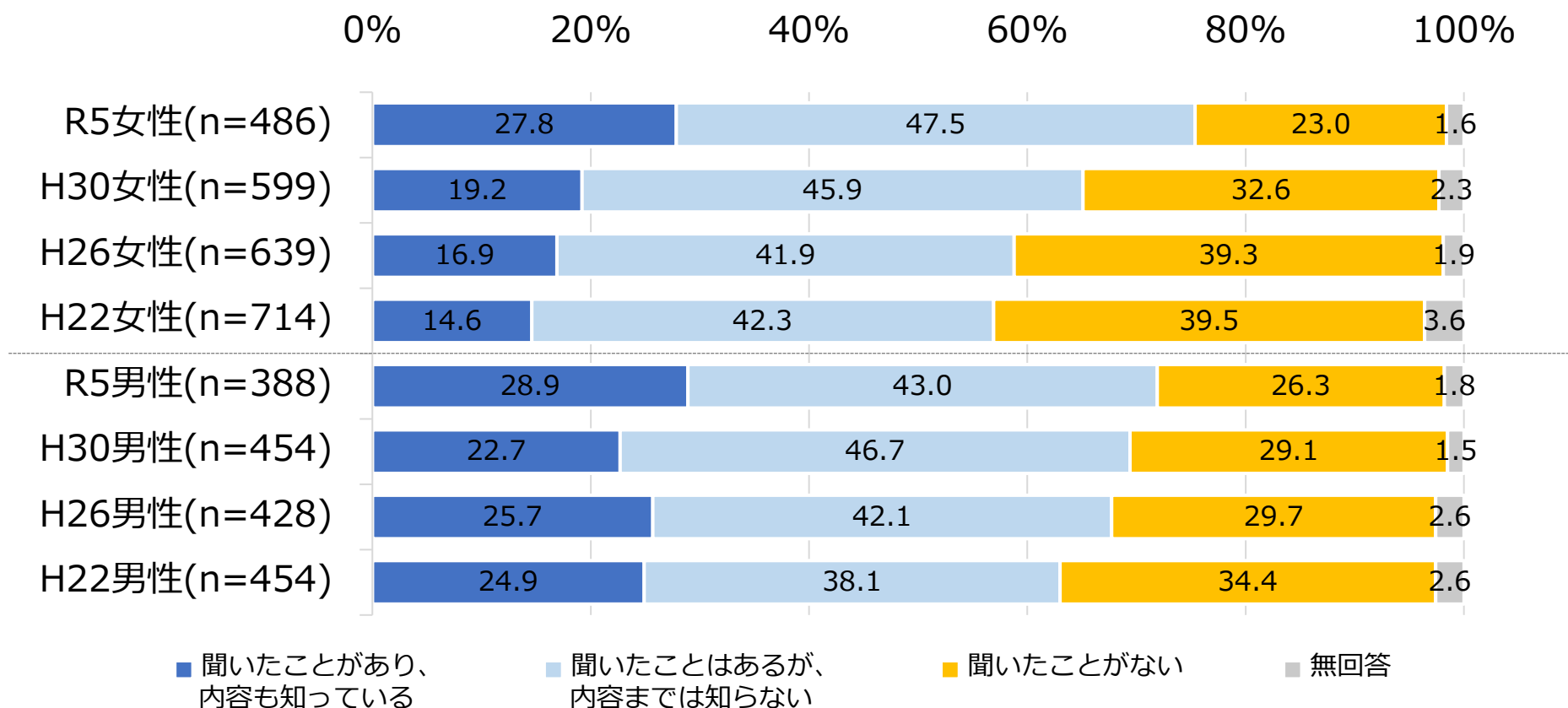


ベース：全対象者

3. 用語や制度の認知

用語や制度の認知：「男女共同参画社会」

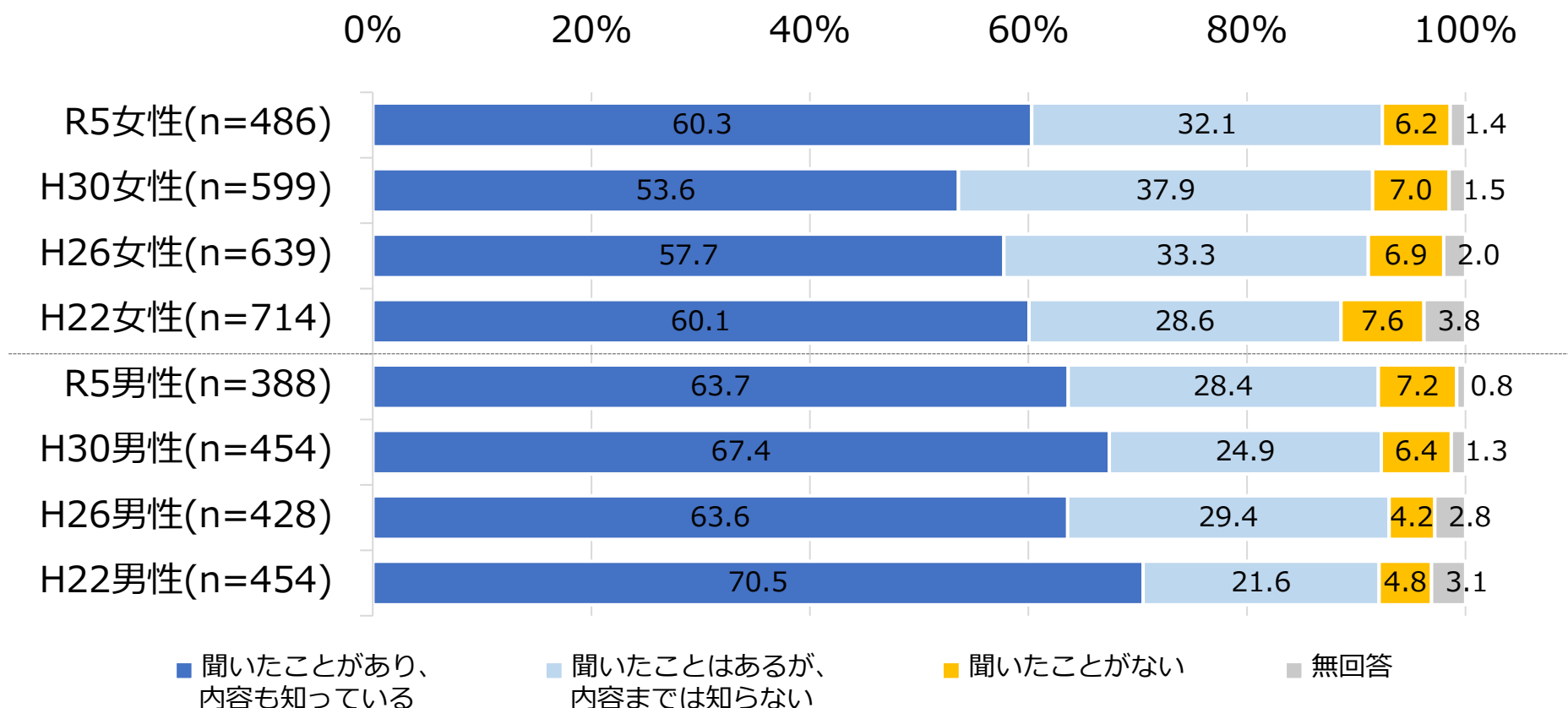
- 『男女共同参画社会』について「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」を合計した<認知度>は、女性が75.3%で、男性が71.9%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、女性で<認知度>が10.2ポイント上昇しており、これは統計的に有意なものであった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「男女雇用機会均等法」

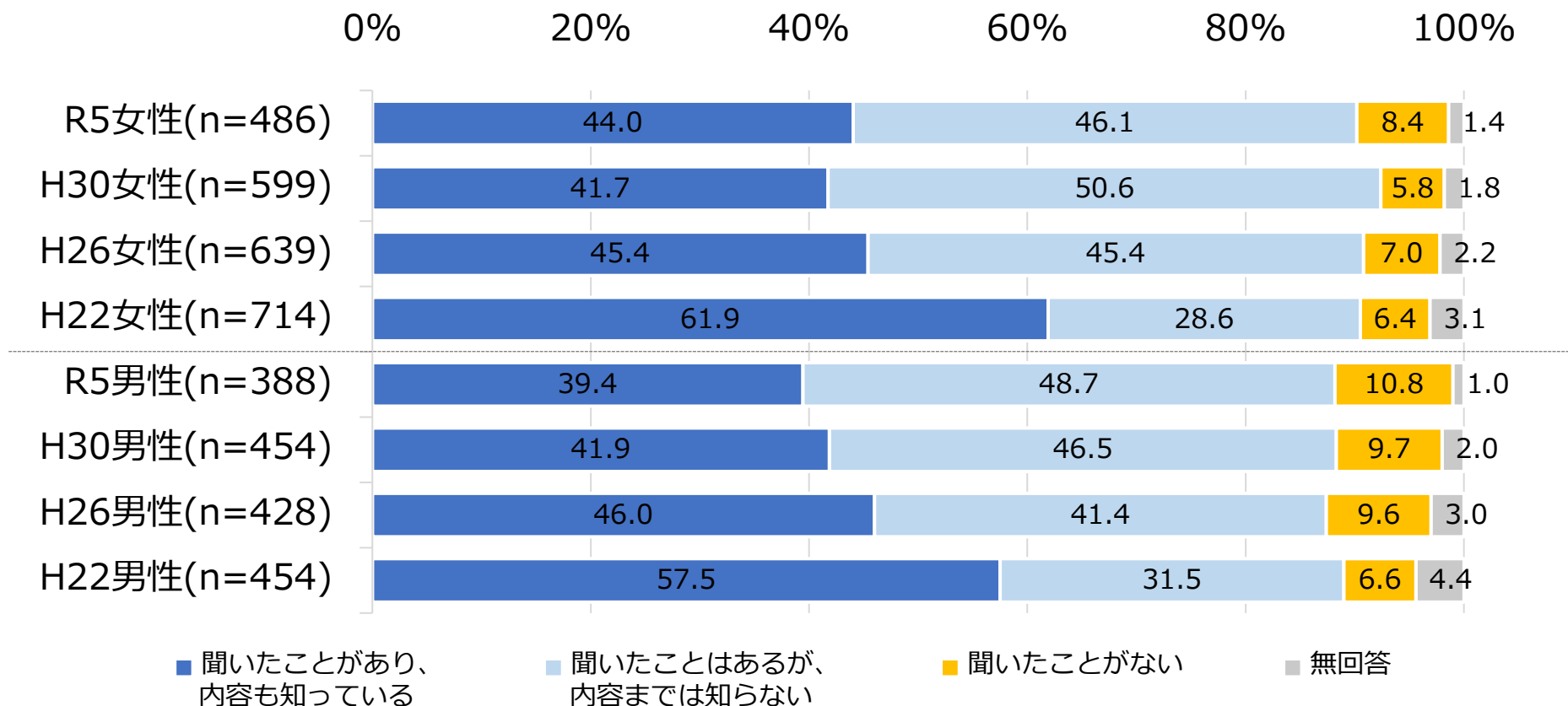
- 『男女雇用機会均等法』の<認知度>は、女性が92.4%で、男性が92.0%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「DV防止法」

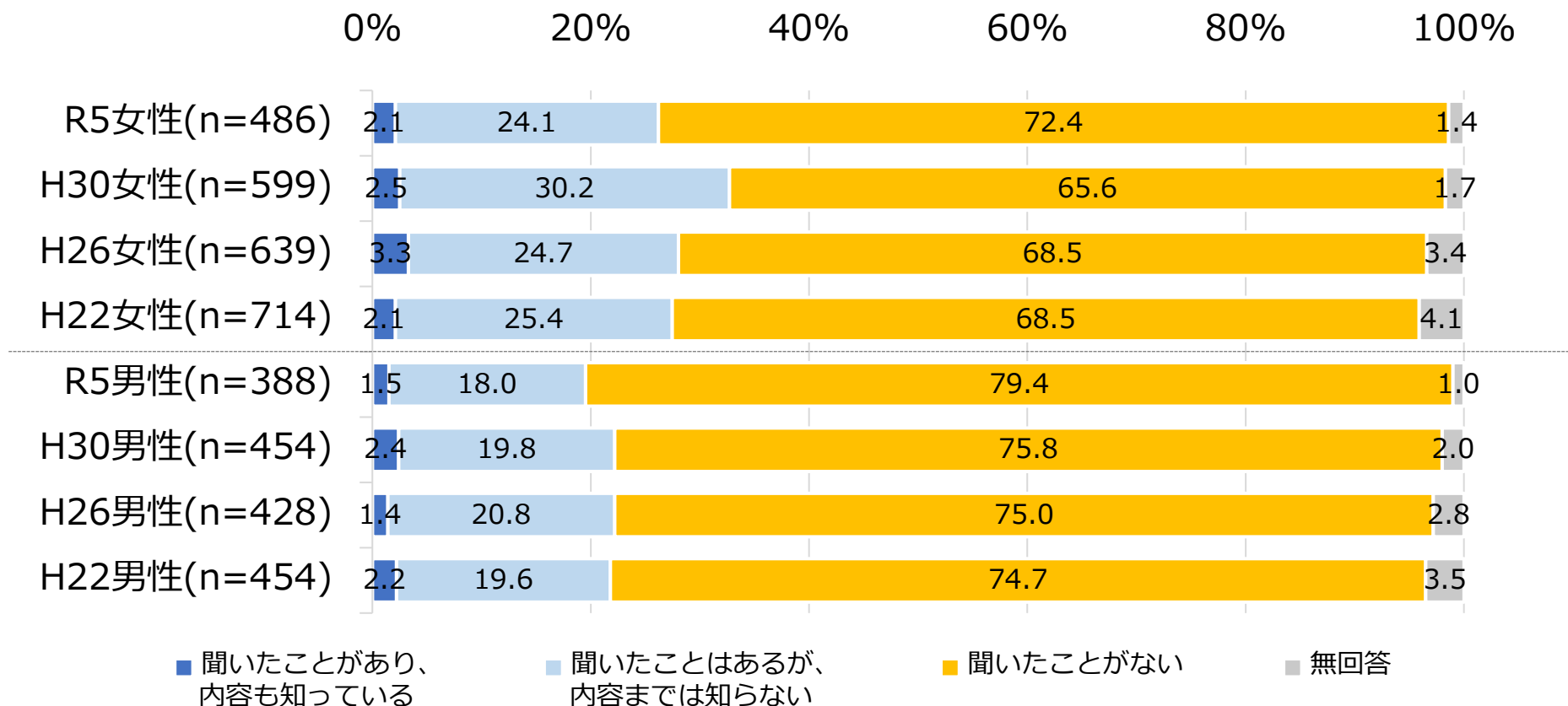
- 『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)』の<認知度>は、女性が90.1%で、男性が88.1%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「男女平等かわさき条例」

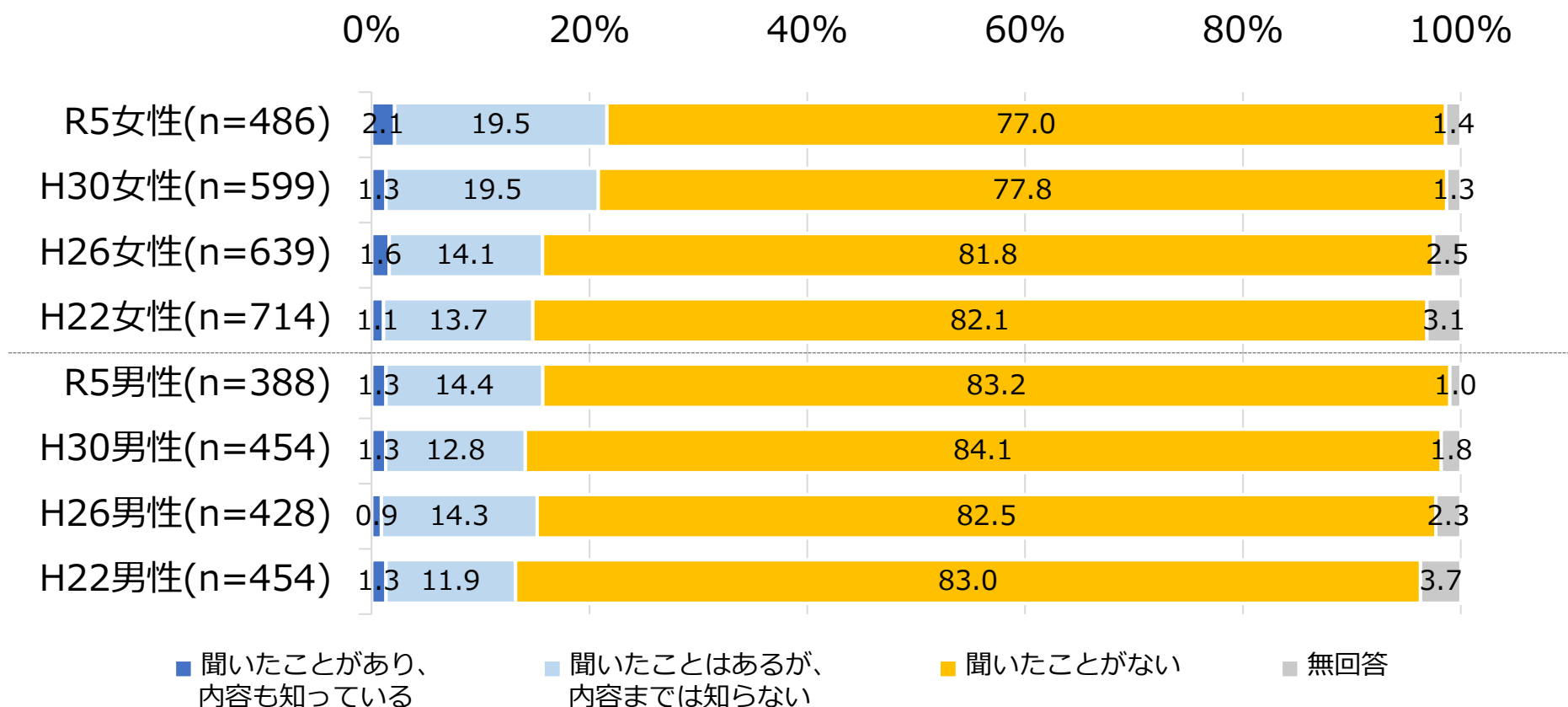
- 『男女平等かわさき条例』の<認知度>は、女性が26.1%に対して、男性は19.6%となり、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、女性で<認知度>が6.6ポイント低下しており、これは統計的に有意なものであった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「川崎市男女平等推進行動計画」

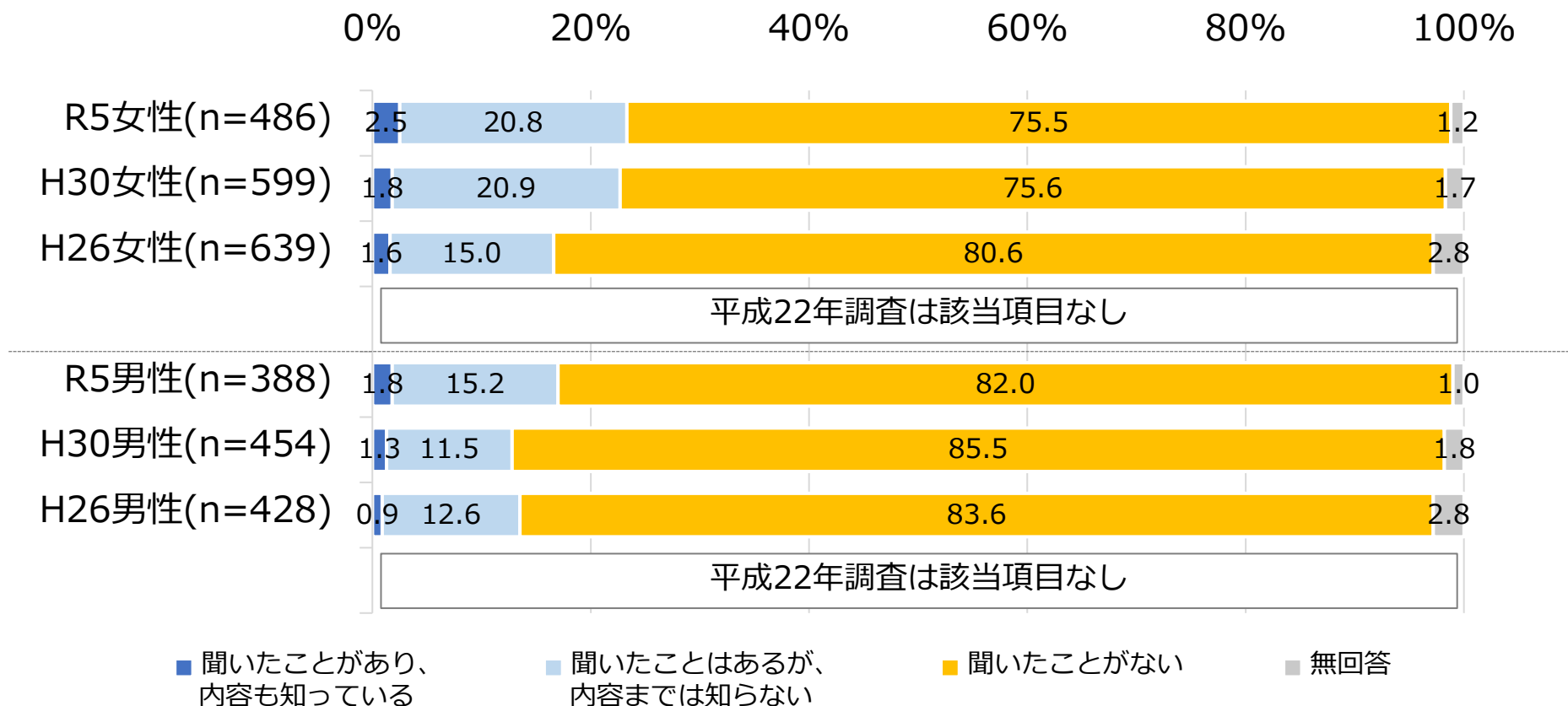
- 『川崎市男女平等推進行動計画』の<認知度>は、女性が21.6%に対して、男性は15.7%となり、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「川崎市DV防止・被害者支援基本計画」

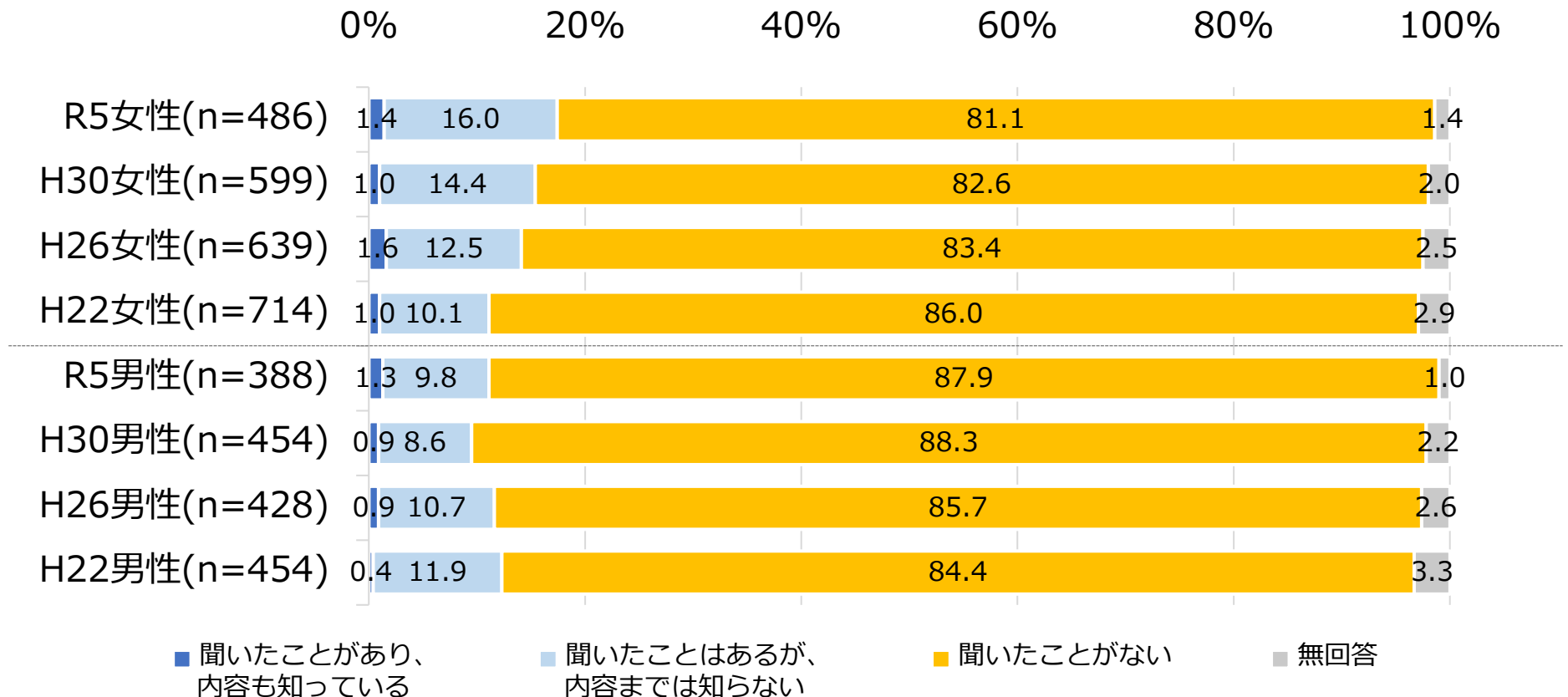
- 『川崎市DV防止・被害者支援基本計画』の<認知度>は、女性が23.3%に対して、男性は17.0%となり、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「川崎市男女平等推進週間(毎年6月23日～29日)」

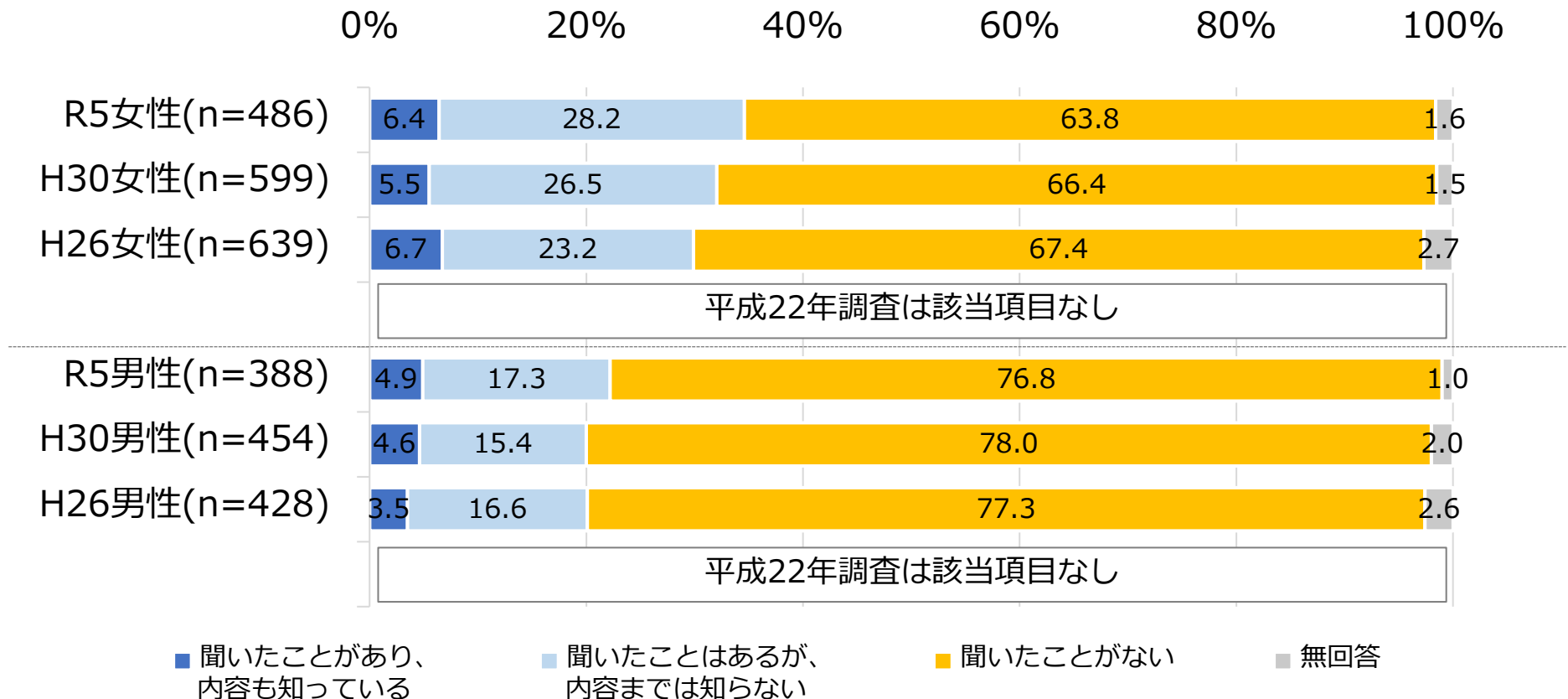
- 『川崎市男女平等推進週間(毎年6月23日～29日)』の<認知度>は、女性が17.5%に対して、男性は11.1%となり、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

用語や制度の認知：「川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)」

- 『川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)』の<認知度>は、女性が34.6%に対して、男性は22.2%となり、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。

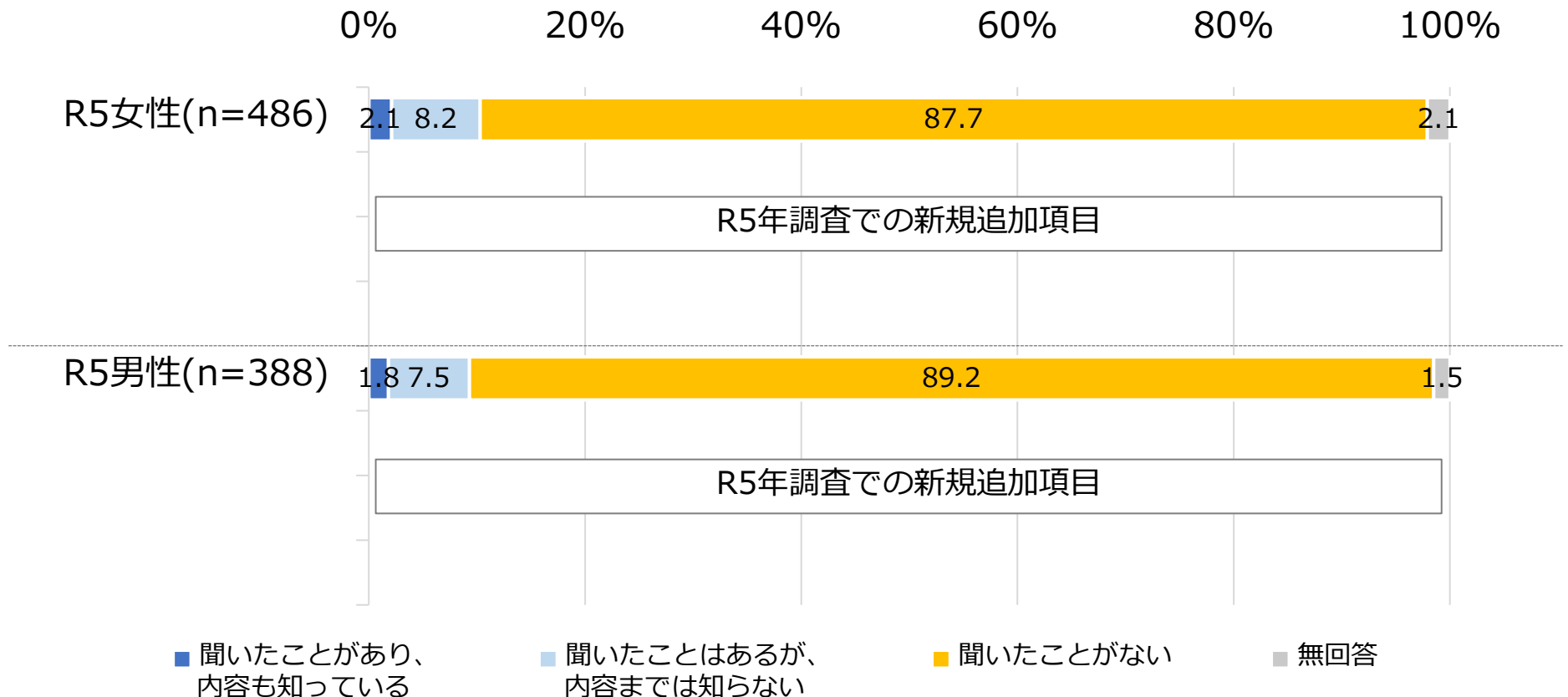


ベース：全対象者

用語や制度の認知：「『かわさき☆えるぼし』認証制度」

新規項目

- 『かわさき☆えるぼし認証制度』の<認知度>は、女性が10.3%で、男性が9.3%であった。

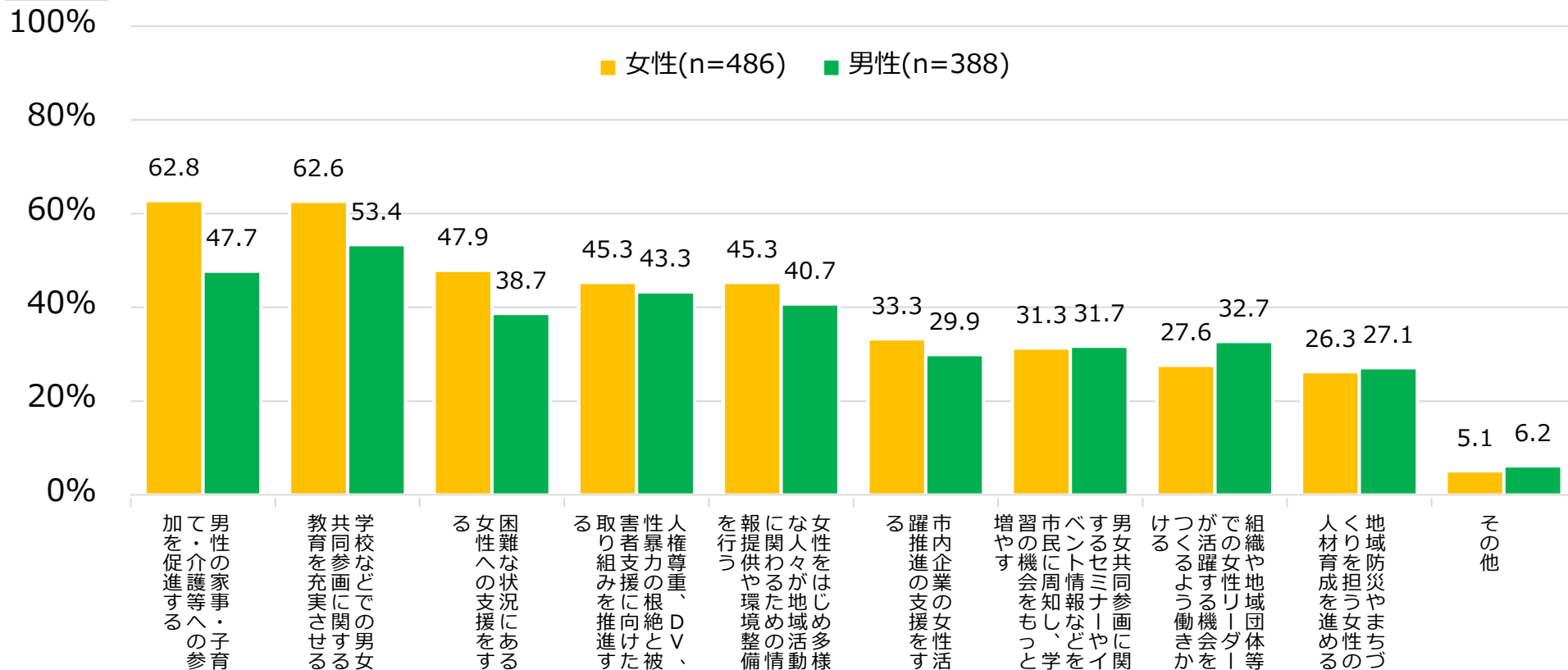


ベース：全対象者

男女共同参画社会の実現のために川崎市が力を入れていくべきこと

- 『男女共同参画社会の実現のために川崎市が力を入れていくべきこと』について尋ねたところ、女性では「男性の家事・子育て・介護等への参加を促進する」と「学校などでの男女共同参画に関する教育を充実させる」が6割を超え最も高かった。このうち、「学校などでの男女共同参画に関する教育を充実させる」は、男性でも5割を超えて最も高かった。

R5



ベース：全対象者

4. 家庭内での分担状況

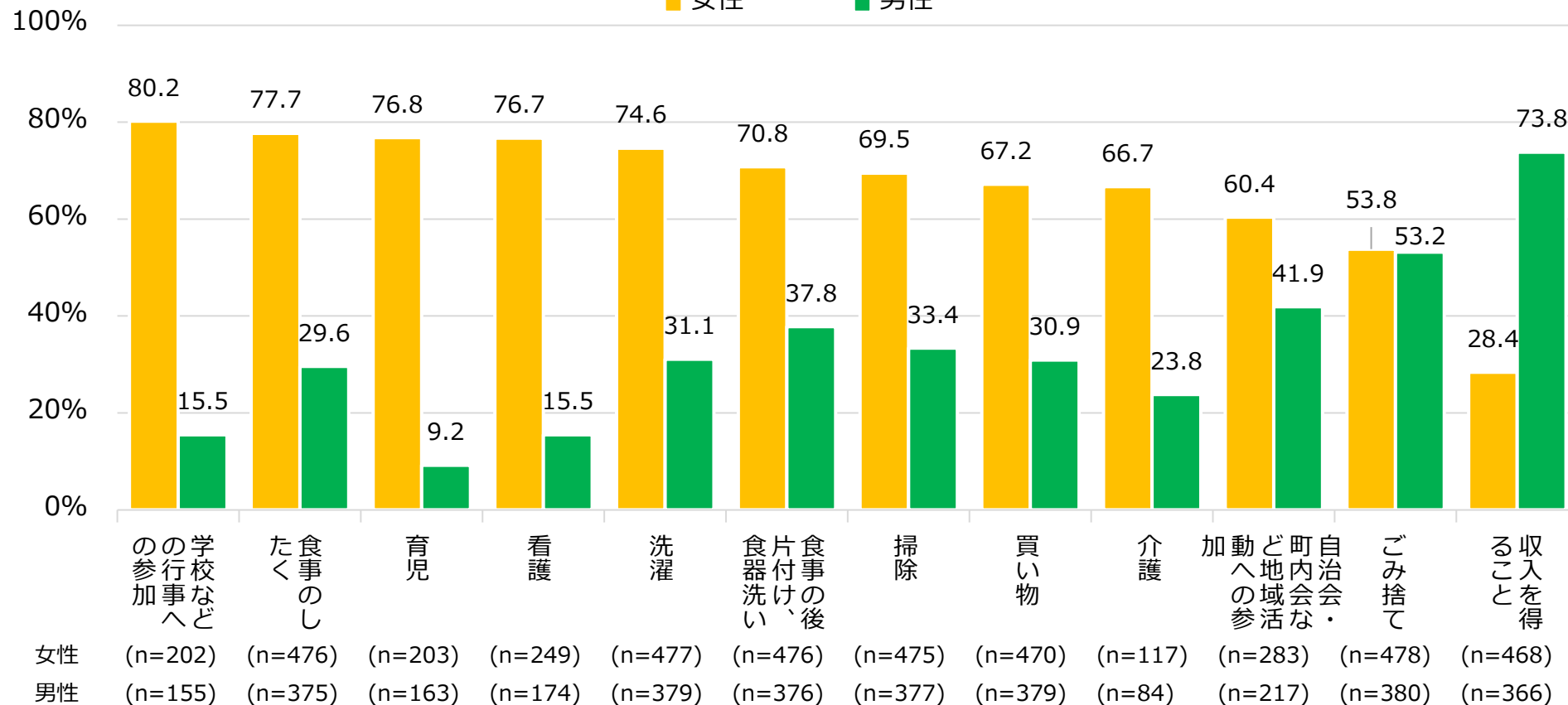
家庭内での分担状況：「自分が中心」サマリー

- 『家庭内での分担状況』について「主に自分が中心」と「どちらかといえば自分が中心」を合計したく自分が中心>について、特に男女差が大きかったのは「学校などの行事への参加」「育児」「看護」で、その差はいずれも60ポイントを超えた。

R5

「主に自分が中心」 + 「どちらかといえば自分が中心」

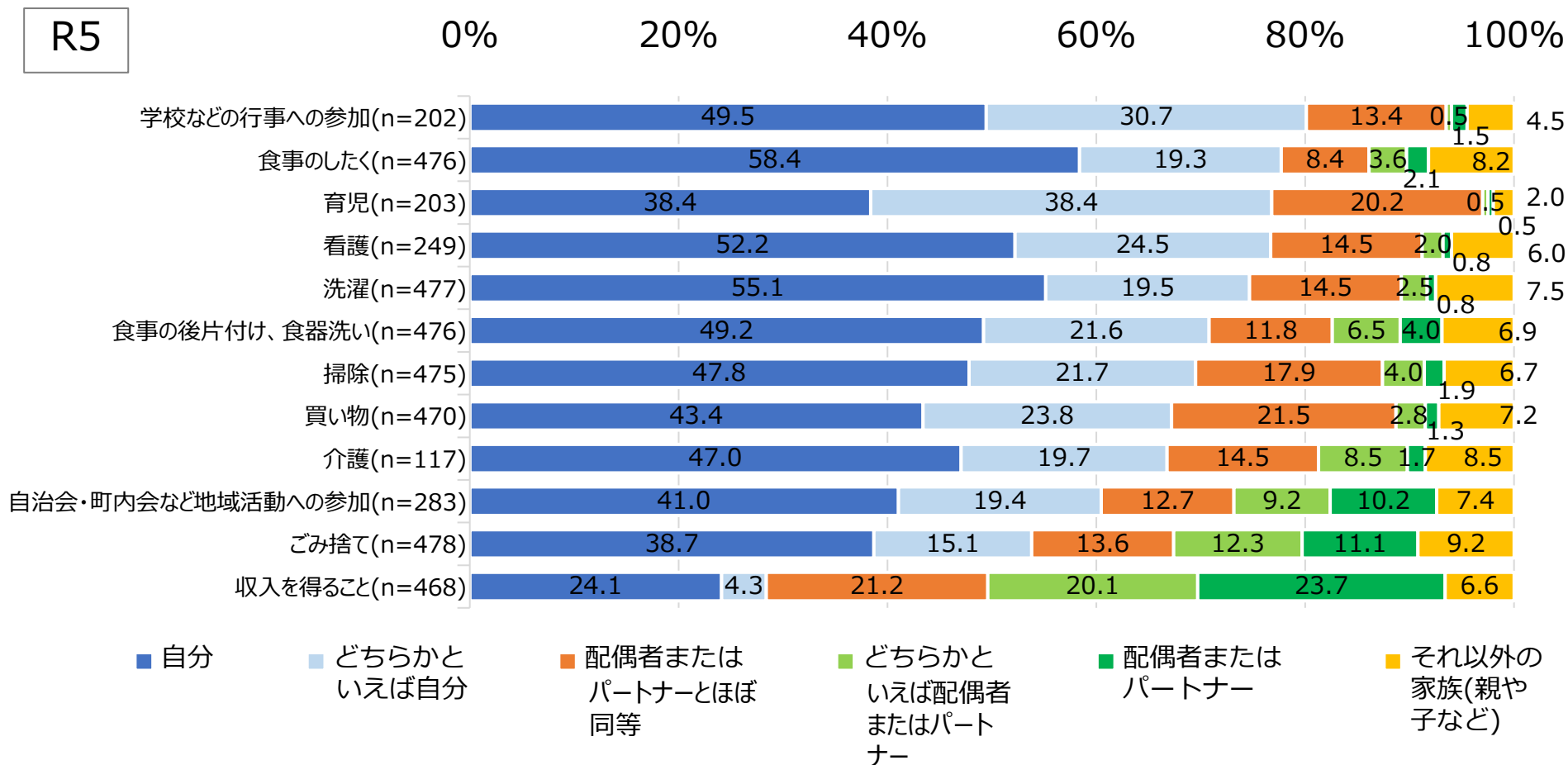
■ 女性 ■ 男性



ベース：「該当なし」「無回答」を除く有効回答

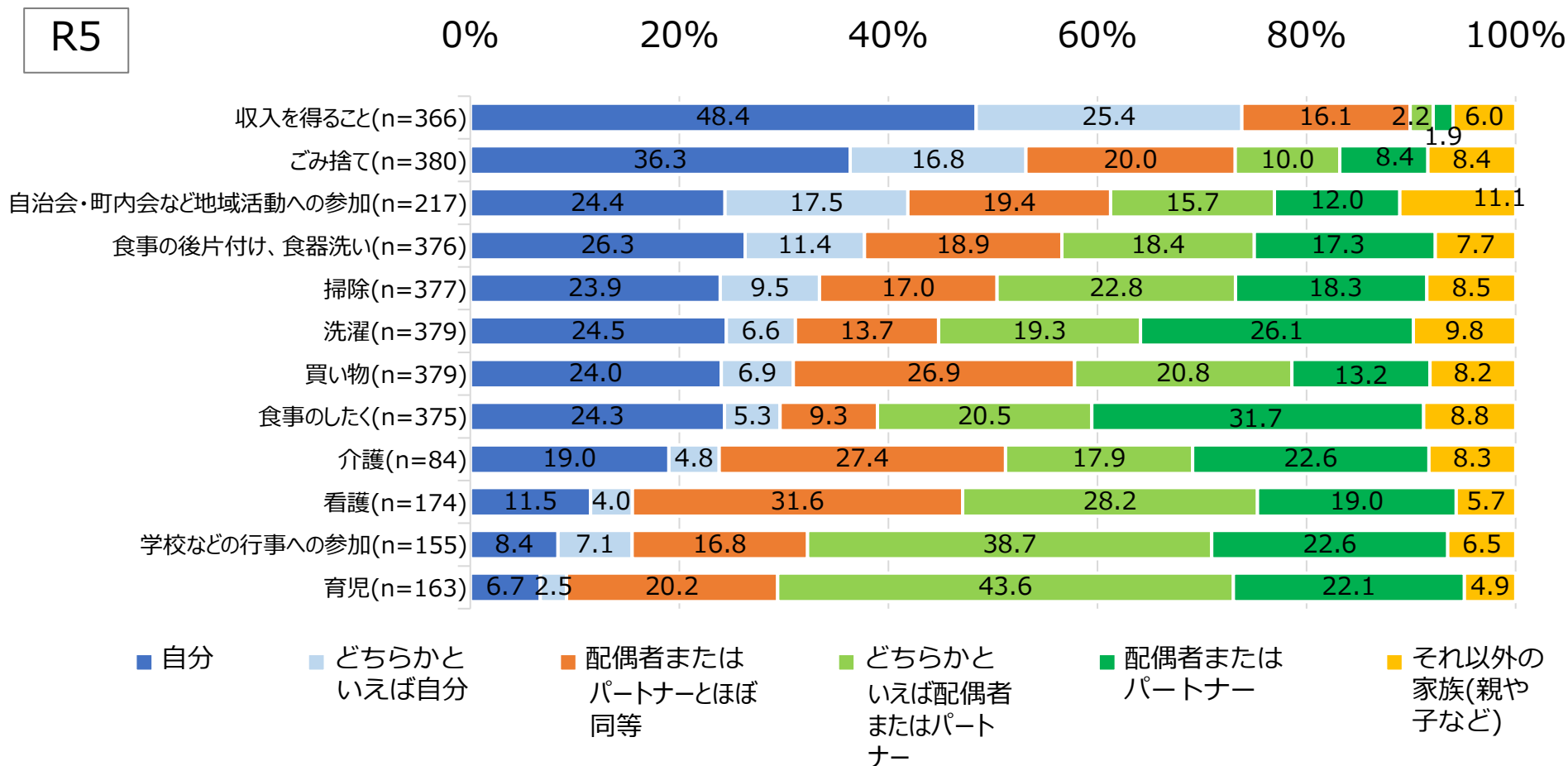
家庭内での分担状況(女性)

- 女性で<自分が中心>が最も高かったのは、「学校などの行事への参加」(80.2%)で、次いで、「食事のしたく」(77.7%)、「育児」(76.8%)、「看護」(76.7%)、「洗濯」(74.6%)がいずれも7割台であった。



家庭内での分担状況(男性)

- 男性で<自分が中心>が最も高かったのは、「収入を得ること」(73.8%)で、他には「ごみ捨て」(53.2%)が5割を超えた。



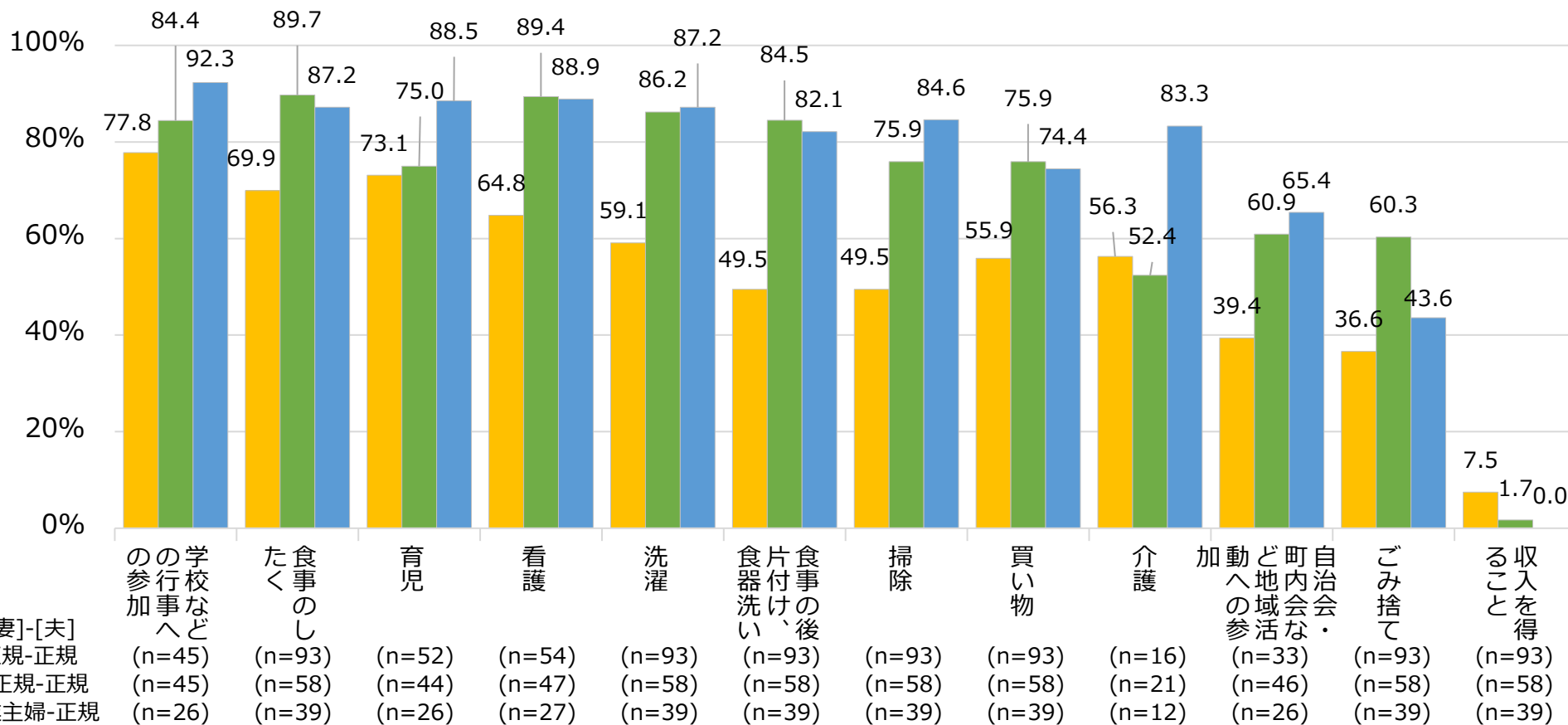
家庭内での分担状況(女性、夫婦就業形態別)：「自分が中心」サマリー

- [夫]の就業形態が『正規』である女性について自身の就業形態別で見ると、総じて、『正規』のほうが『非正規』または『専業主婦』よりも「自分が中心」の割合が低い傾向であった。

R5

「主に自分が中心」+「どちらかといえば自分が中心」

■ [妻]正規-[夫]正規 ■ [妻]非正規-[夫]正規 ■ [妻]専業主婦-[夫]正規



ベース：「該当なし」「無回答」を除く有効回答

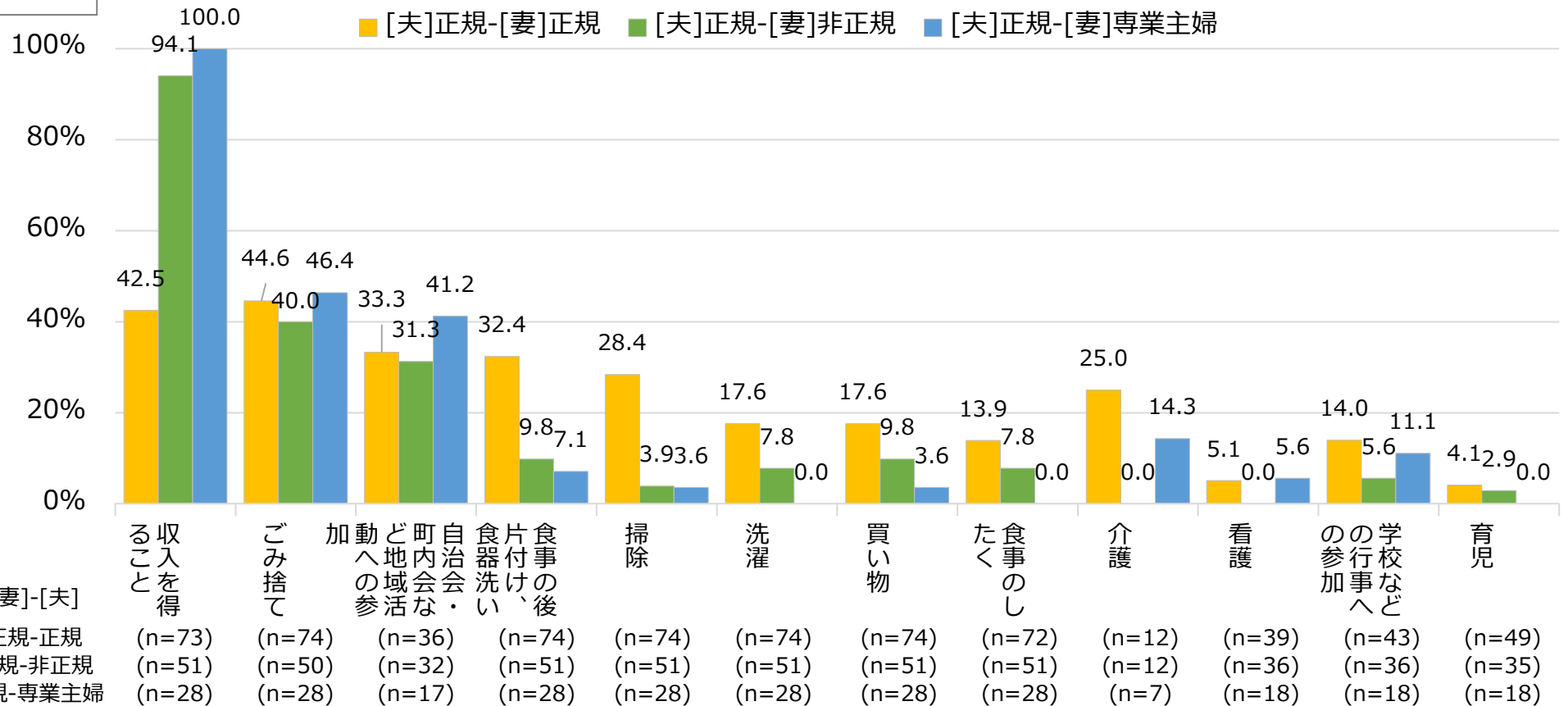
家庭内での分担状況(男性、夫婦就業形態別)：「自分が中心」サマリー

- 自身の就業形態が『正規』である男性について[妻]の就業形態別で見ると、「食事の後片付け、食器洗い」と「掃除」で、[妻]が『正規』の方が、妻が『非正規』よりも、＜自分が中心＞の割合が有意に高かった。
- なお、[妻]が『専業主婦』については、回答者数が少ないため、参考値として参照されたい。

R5

「主に自分が中心」+「どちらかといえば自分が中心」

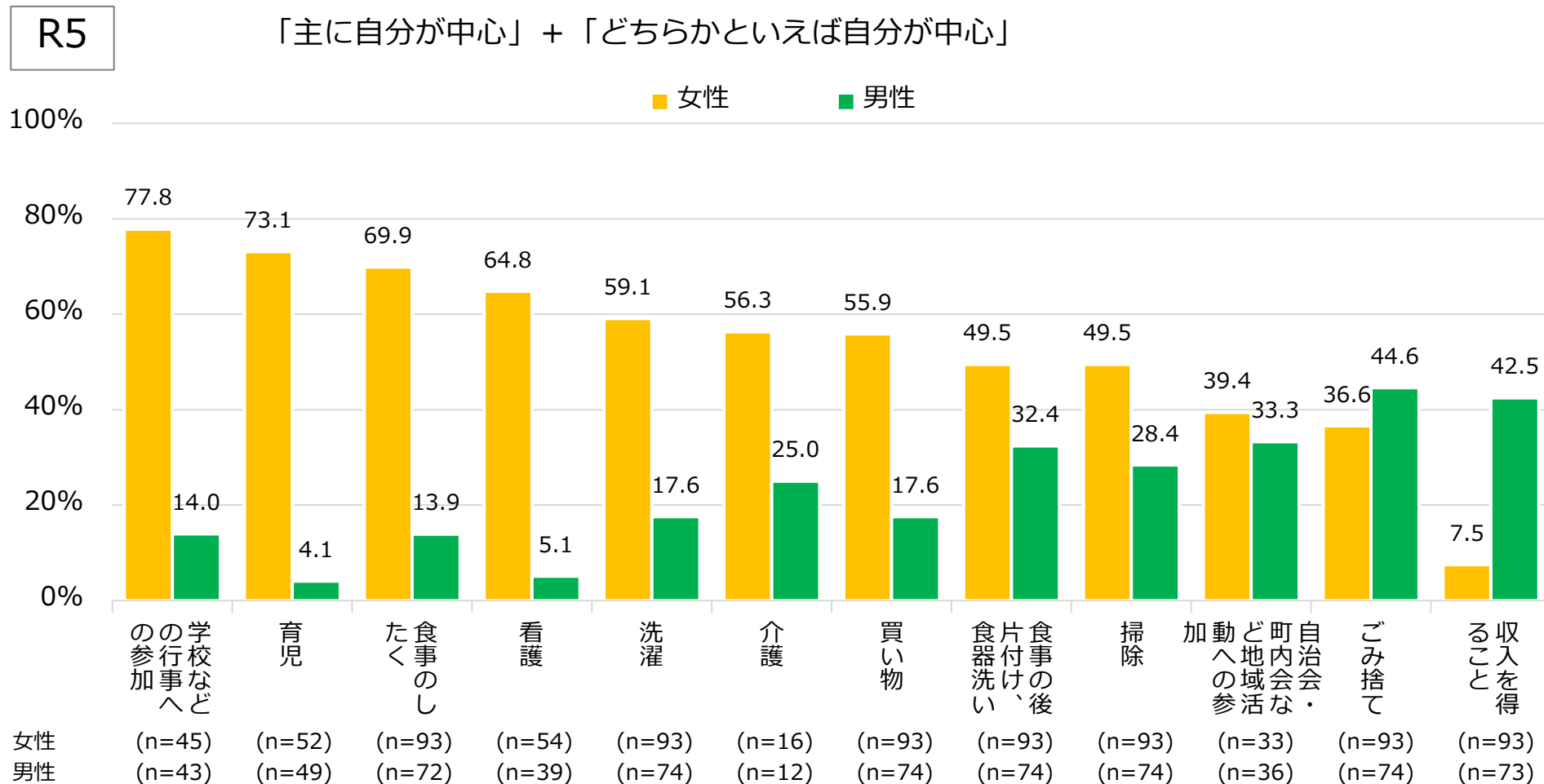
■ [夫]正規-[妻]正規 ■ [夫]正規-[妻]非正規 ■ [夫]正規-[妻]専業主婦



ベース：「該当なし」「無回答」を除く有効回答 51

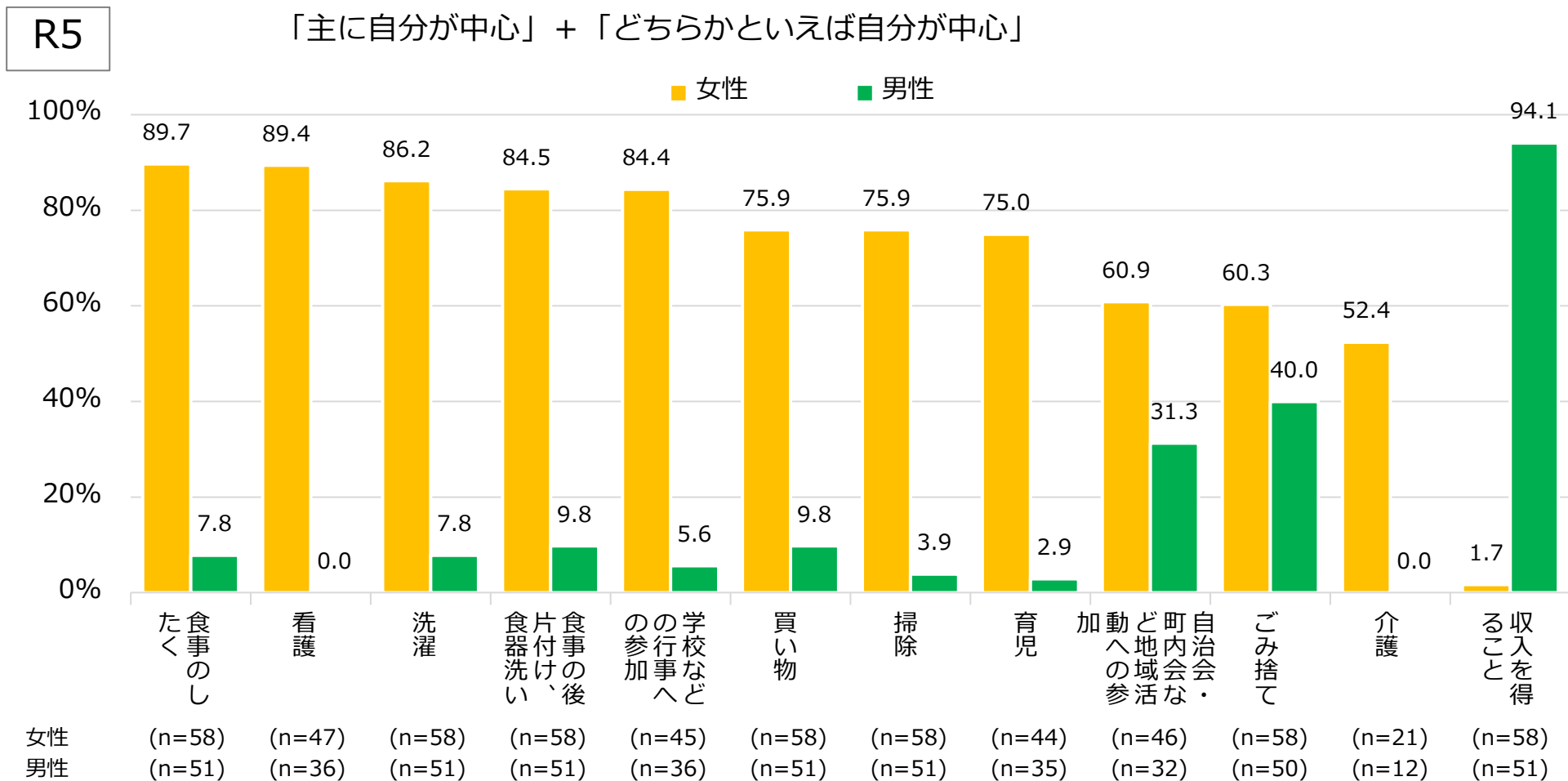
家庭内での分担状況(夫婦とも正規)：「自分が中心」サマリー

- 夫婦ともに『正規』について、回答者数がn=30を超える項目について「自分が中心」の割合をみると、「自治会・町内会」「ごみ捨て」「収入を得ること」を除いて、女性の方が有意に高かった。



家庭内での分担状況([妻]非正規-[夫]正規)：「自分が中心」サマリー

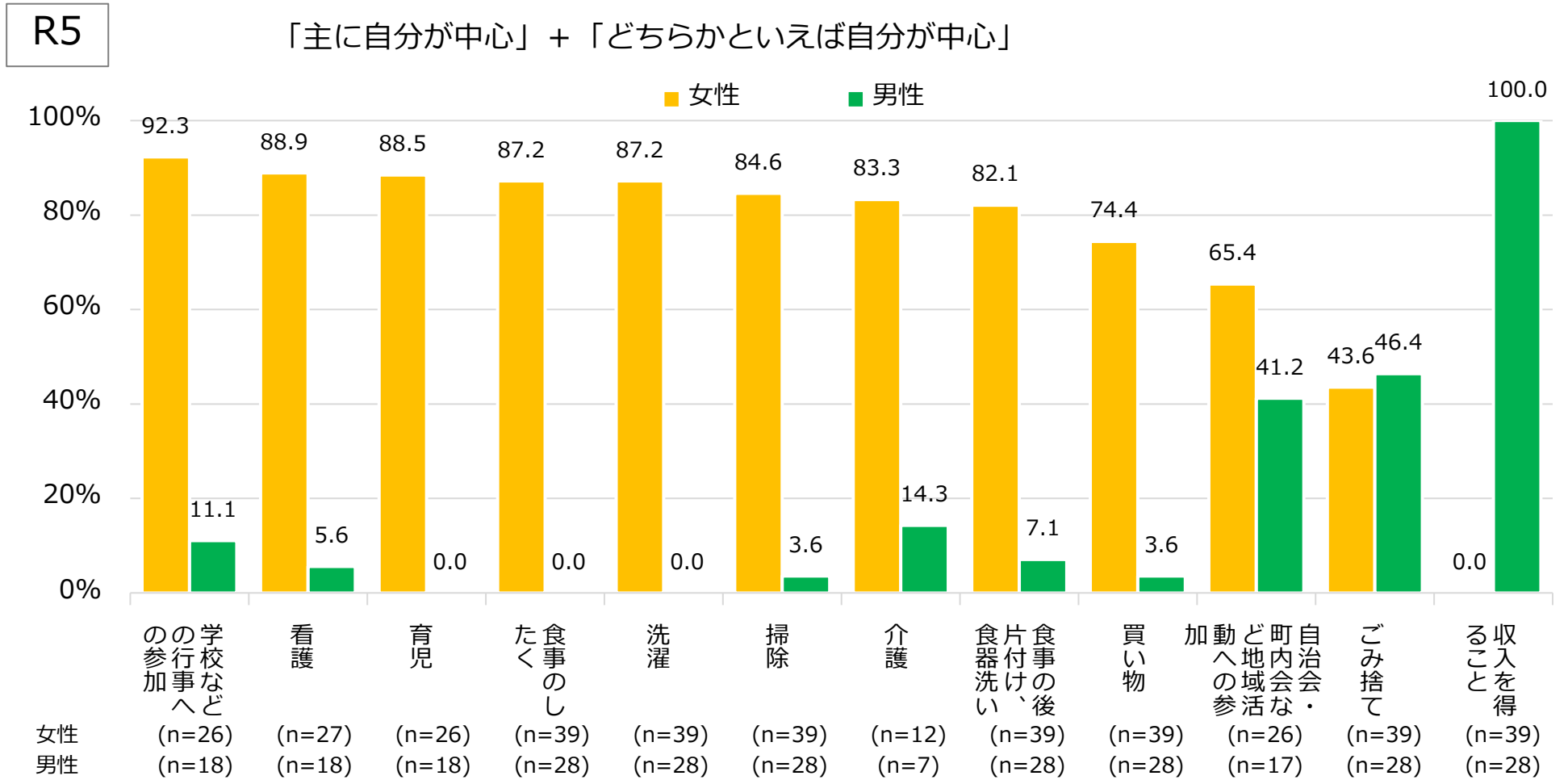
●[妻]が非正規で[夫]が正規では、以下のとおりであった。



ベース：「該当なし」「無回答」を除く有効回答

家庭内での分担状況([妻]専業主婦-[夫]正規)：「自分が中心」サマリー

●[妻]が専業主婦で[夫]が正規では、以下のとおりであった。



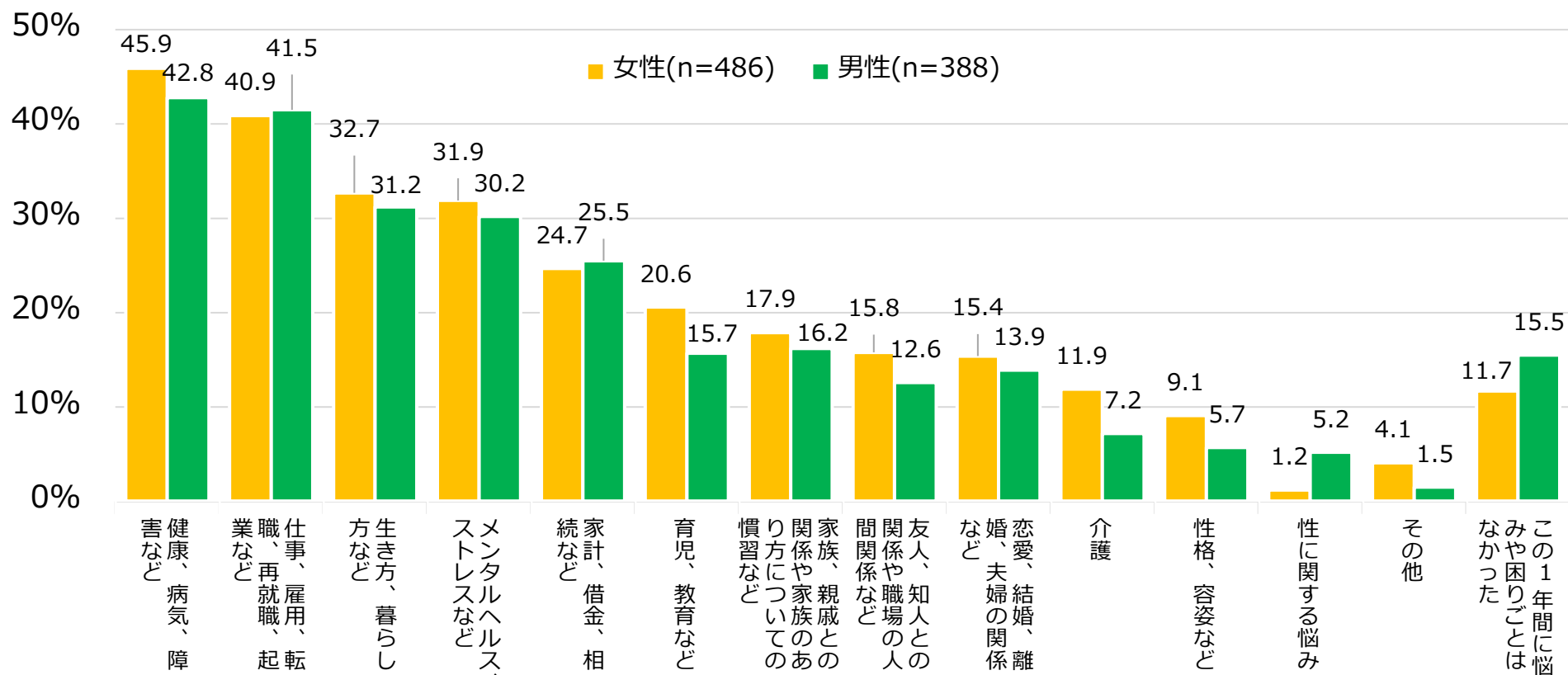
ベース：「該当なし」「無回答」を除く有効回答

5. この1年間の悩みごと、 困りごと

この1年間の悩みごと、困りごと（複数回答、性別）

- 『この1年間の悩みごと、困りごと』として多くあげられたのは、「健康、病気、障害など」「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」で、いずれも男女ともに4割を超えた。
- 男女間で有意差が見受けられたのは「介護」と「性に関する悩み」で、「介護」については女性の方が、「性に関する悩み」については男性の方が有意に高かった。

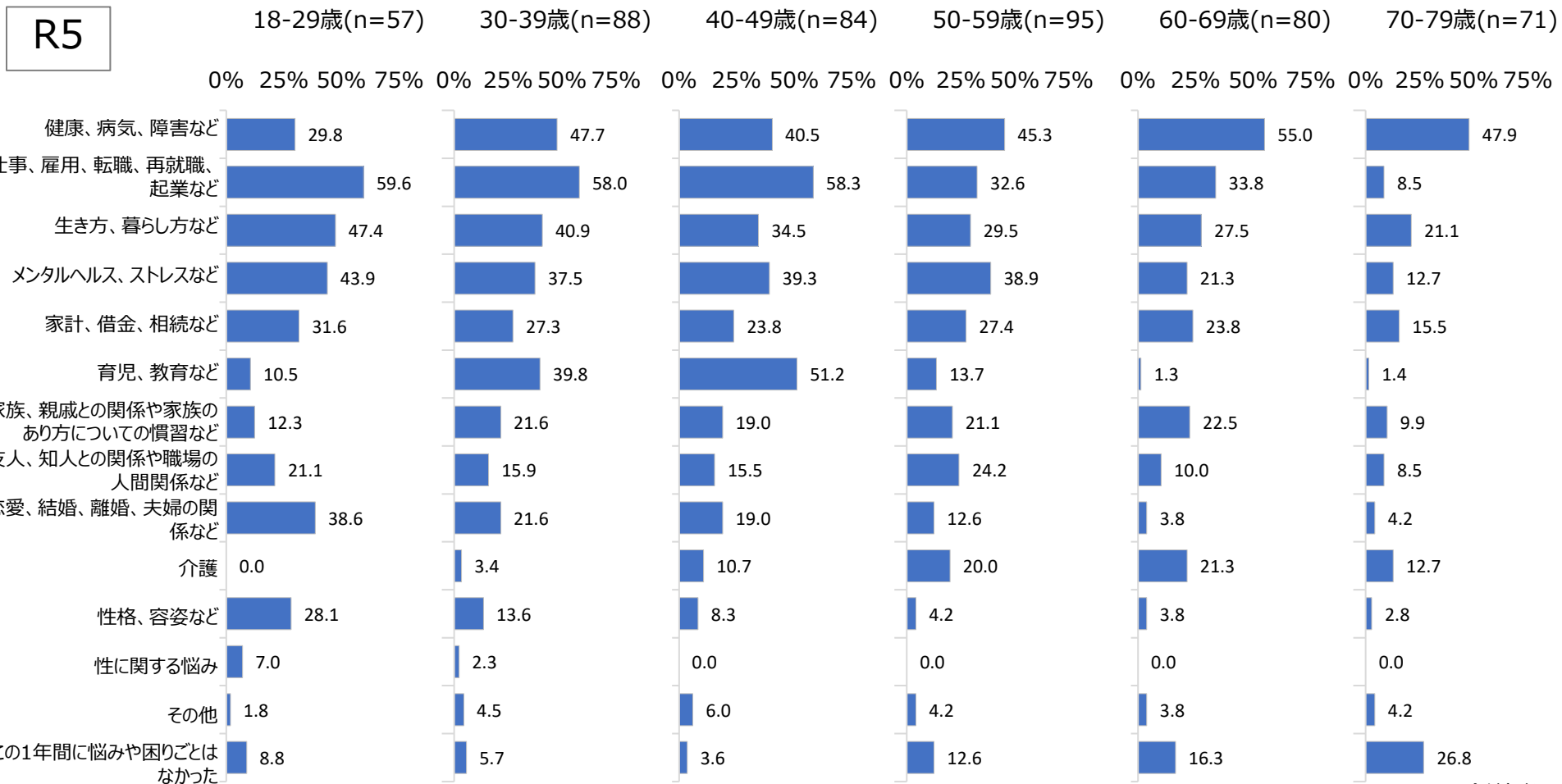
R5



ベース：全対象者

この1年間の悩みごと、困りごと(女性、年代別、複数回答)

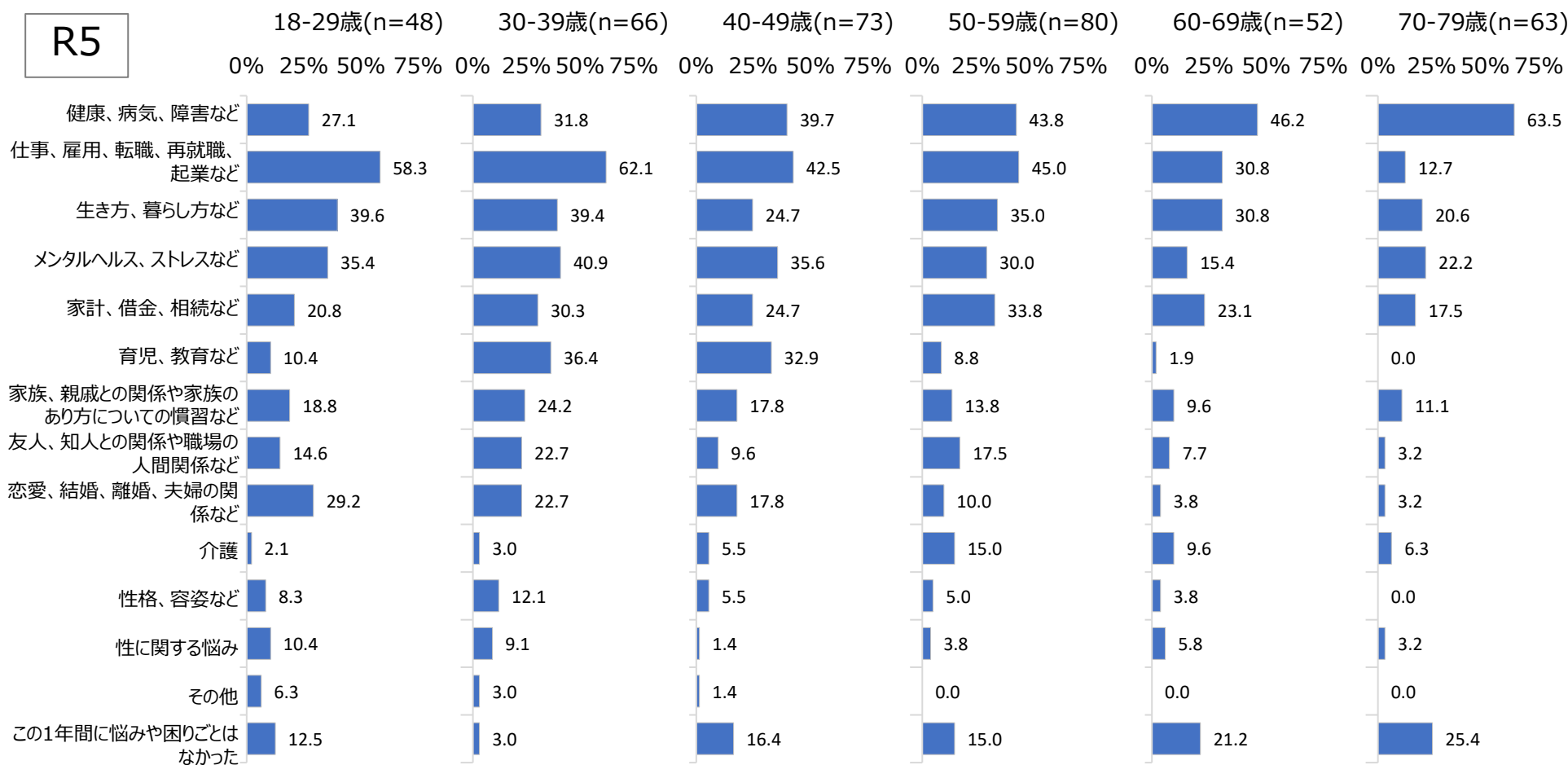
- 女性について年代別で見ると、40代以下では「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が5割を超え最も高く、50代以上では「健康、病気、障害など」が最も高く、特に60代では5割を超えた。
- 40代では「育児」も5割を超えた。



この1年間の悩みごと、困りごと(男性、年代別、複数回答)

- 男性の20代と30代では「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が最も高く、6割前後であった。
- 40代と50代でも「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が最も高かったものの、その割合は4割前後となり、「健康、病気、障害など」と同程度であった。60代と70代では「健康、病気、障害など」が最も高くなり、特に70代では6割を超えた。

R5

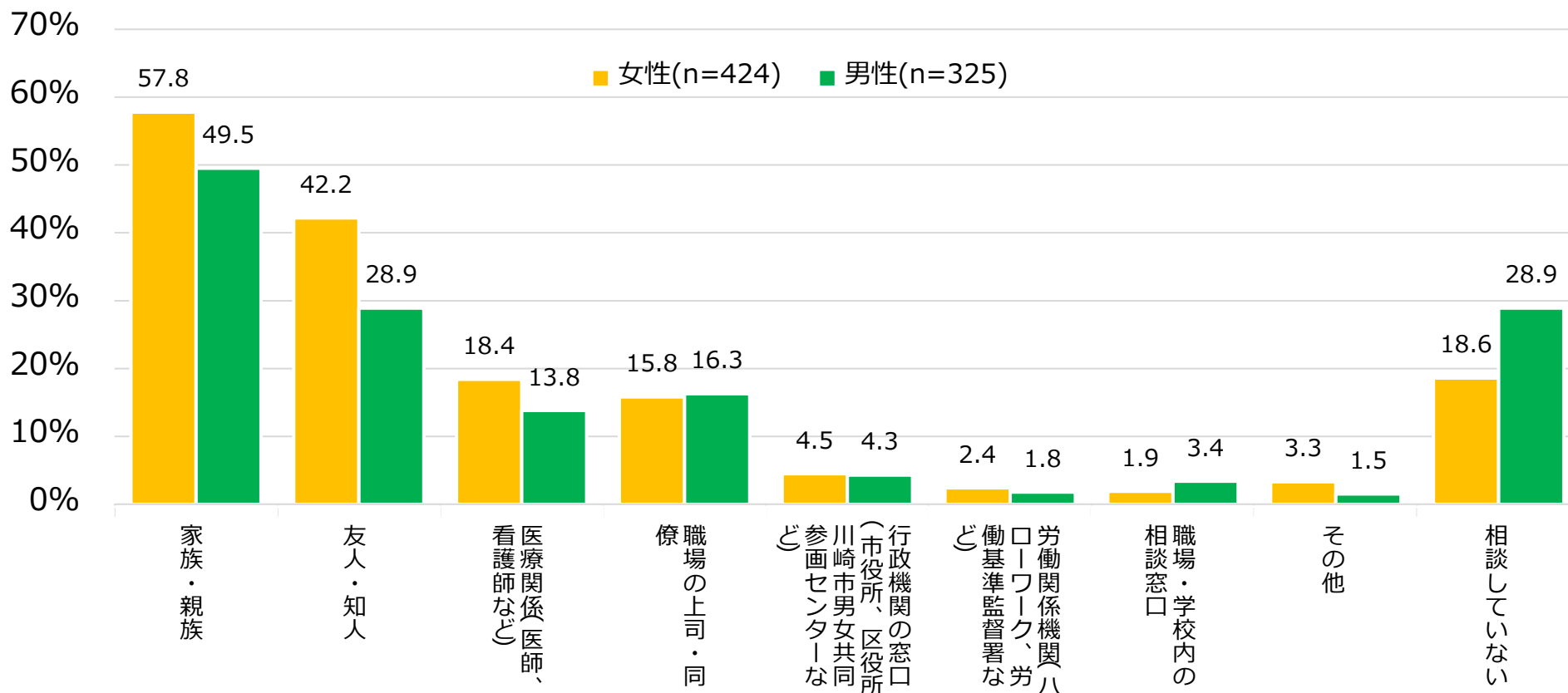


ベース：全対象者

悩みや困りごとの相談先（性別、複数回答）

- 『悩みや困りごとの相談先』を尋ねたところ、男女ともに、「家族・親戚」が最も高く、次いで「友人・知人」の順であった。また、これらの相談先については、女性の方が有意に高かった。
- また、男性の28.9%が「相談していない」と回答しており、その割合は女性(18.6%)に比べて有意に高かった。

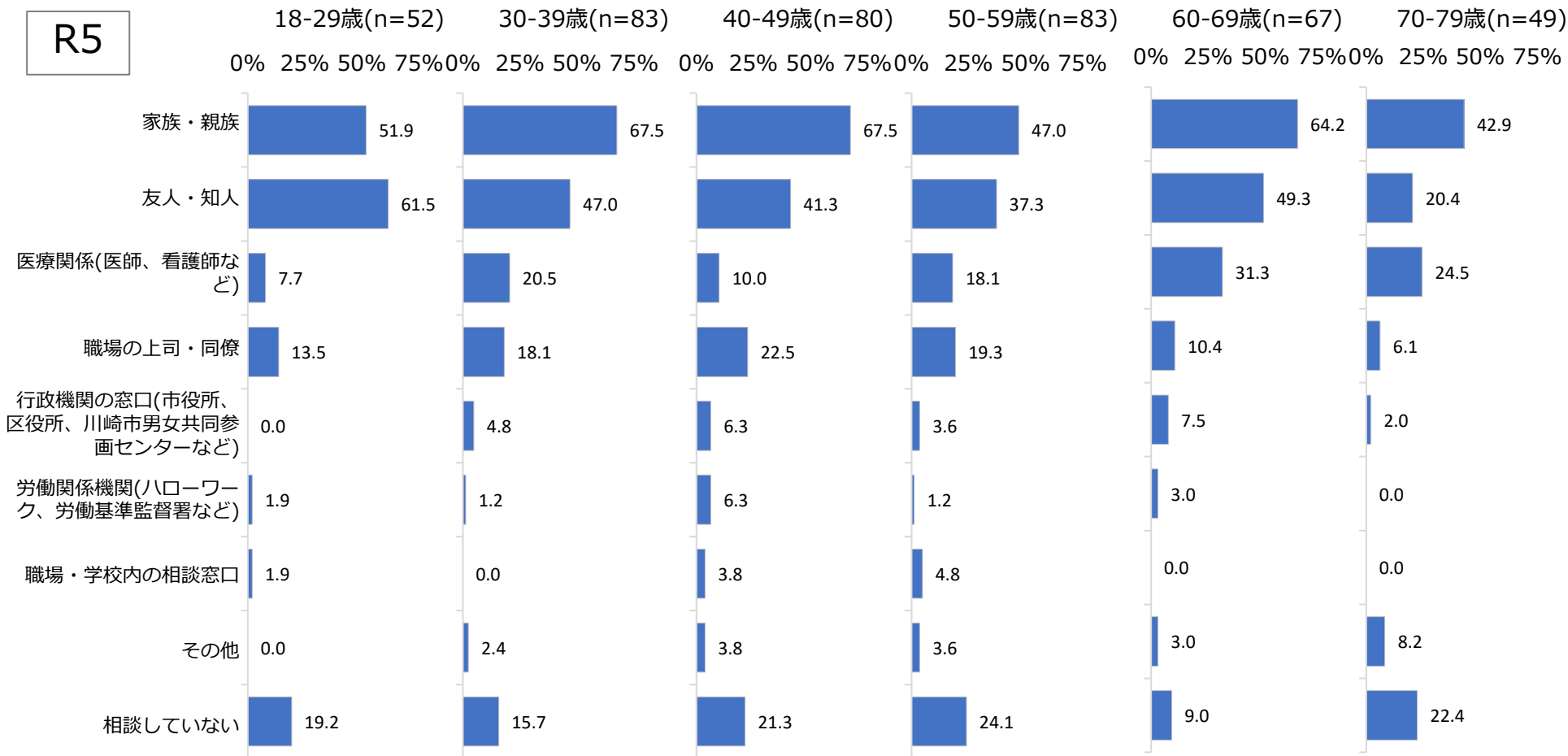
R5



ベース：過去1年間に悩みや困りごとがあった人

悩みや困りごとの相談先(女性、年代別、複数回答)

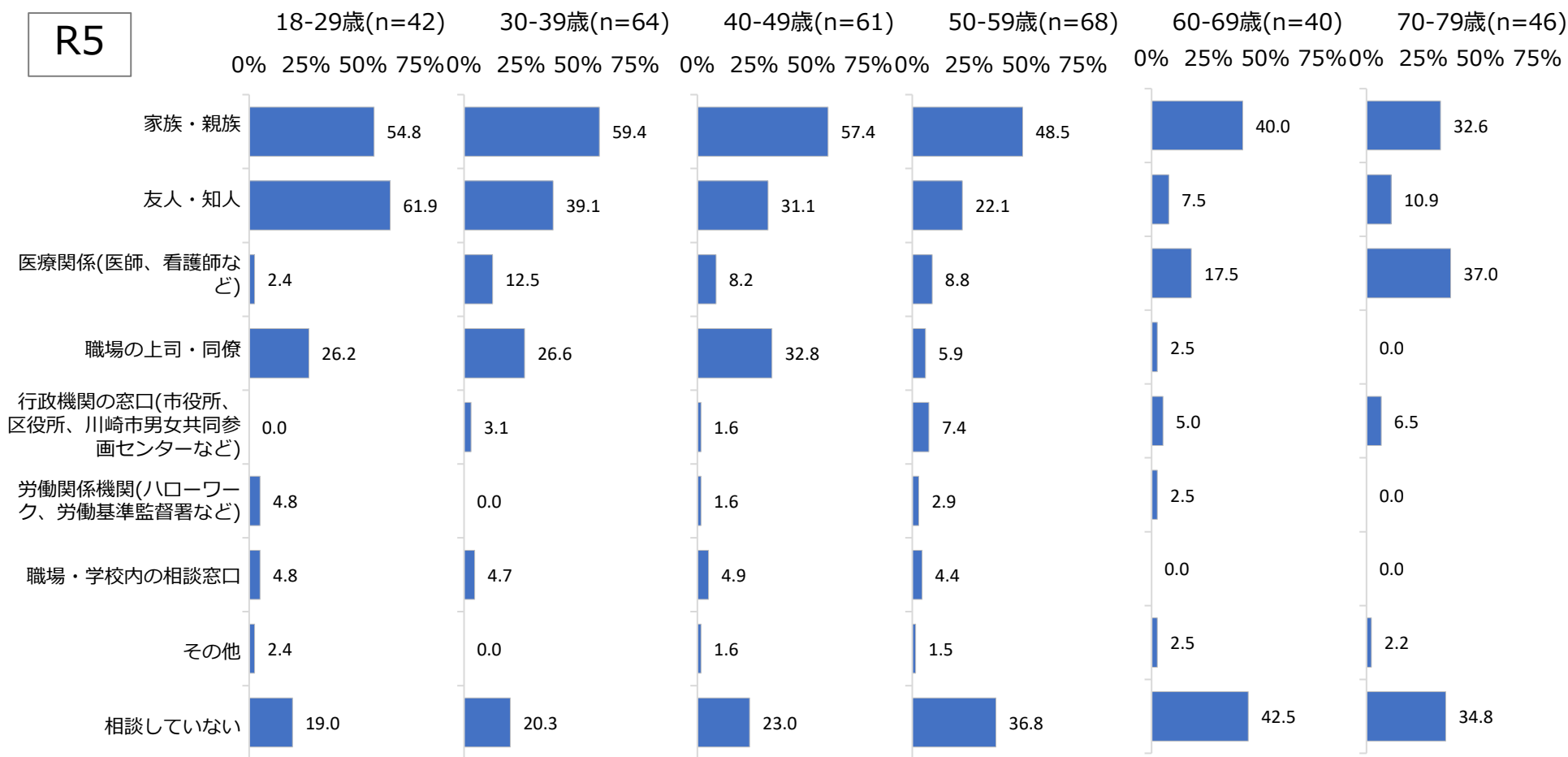
- 女性について年代別で見ると、20代では「友人・知人」が6割を超えて最も高く、次いで「家族・親戚」が5割を超えた。
- 30代以上では「家族・親戚」が最も高く、特に30代、40代、60代では6割を超えた。



悩みや困りごとの相談先(男性、年代別、複数回答)

- 20代では「友人・知人」が6割を超えて最も高く、次いで「家族・親戚」が5割を超えた。
- 30代以上では「家族・親戚」が最も高く、特に30代と40代では6割近く、50代では5割近くであった。
- なお、50代以上では、「相談していない」が3割～4割程度であった。

R5

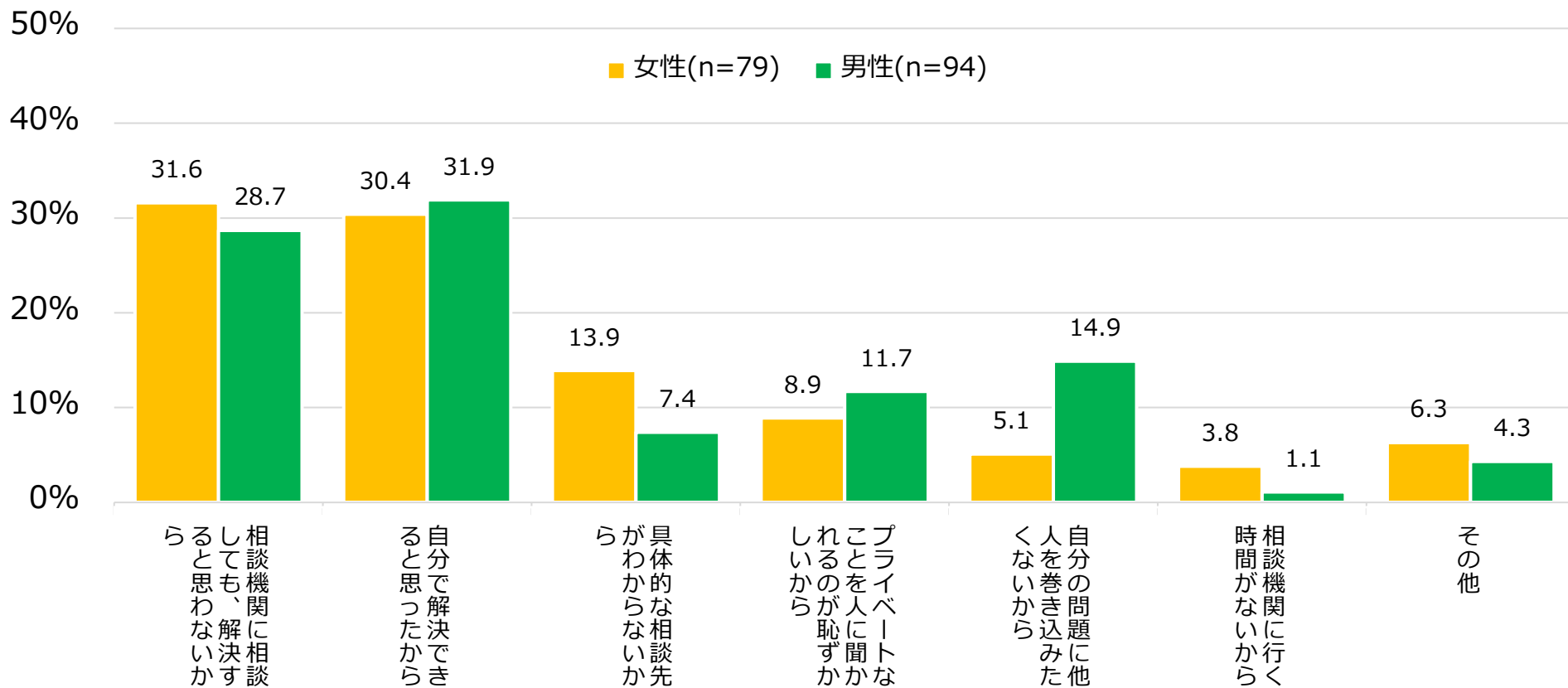


ベース：過去1年間に悩みや困りごとがあった人

相談しなかった理由（性別）

- 『相談していない』 人にその理由を尋ねたところ、男女ともに「相談機関に相談しても、解決すると思わないから」と「自分で解決できると思ったから」が多く挙げられ、その割合は3割前後であった。
- 男女で有意差が見受けられたのは「自分の問題に他人を巻き込みたくないから」で、男性(14.9%)の方が有意に高かった。

R5

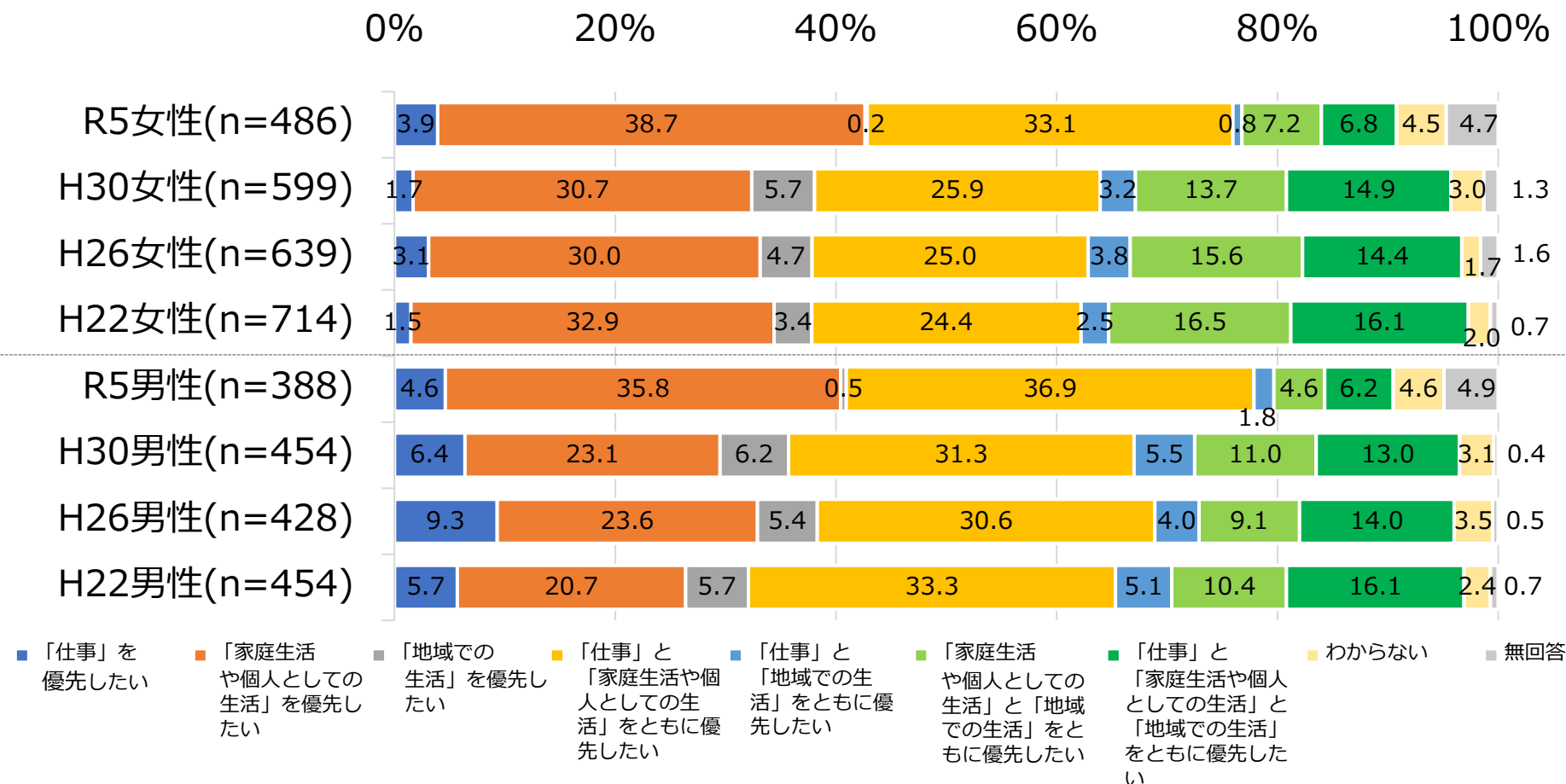


ベース：相談していない人

6. 生活優先度の[希望] と[現実]

生活優先度の[希望]

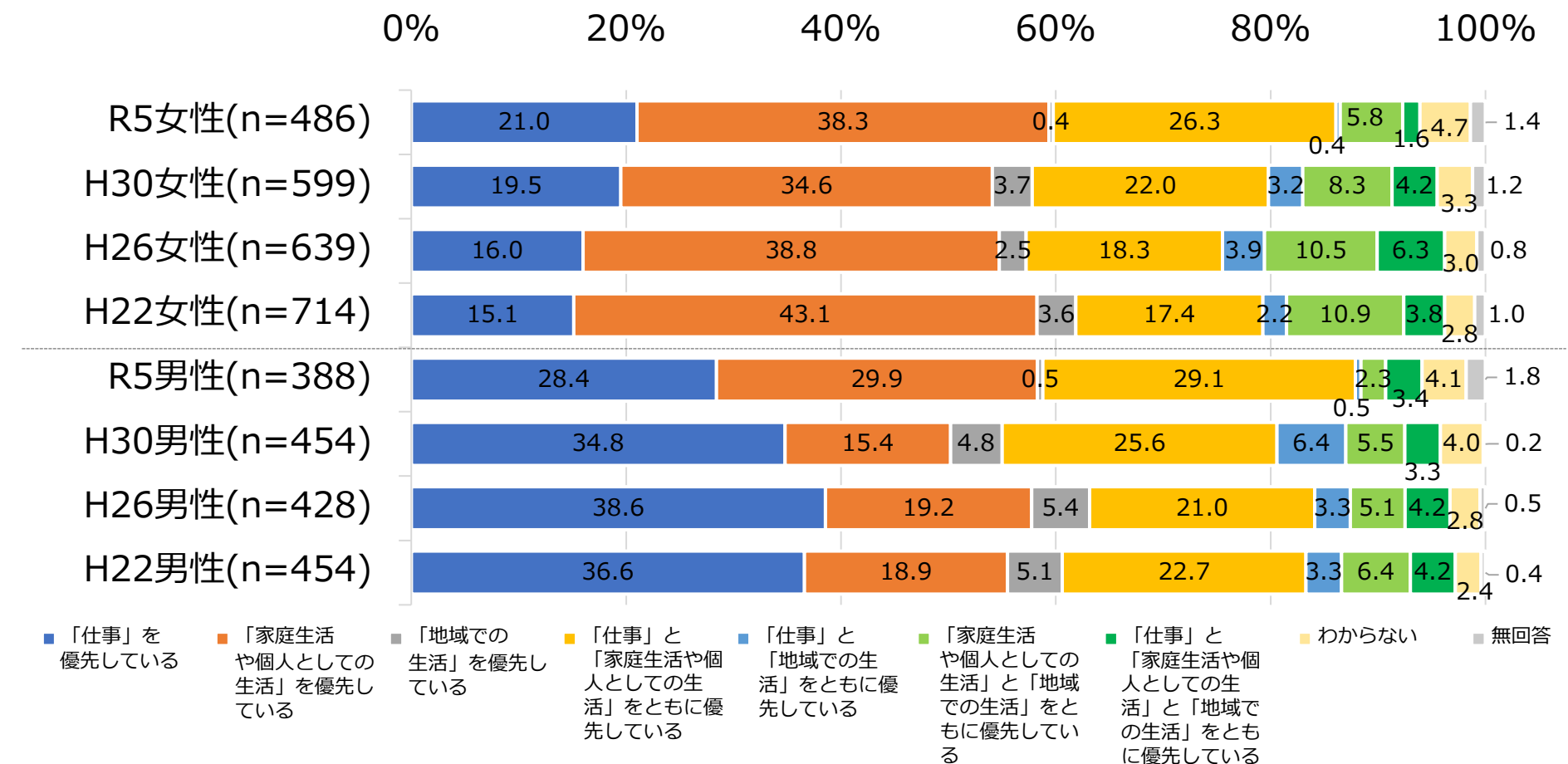
- 生活優先度の[希望]について、女性では高い方から順に「家庭生活や個人としての生活」(38.7%)、「仕事と家庭生活や個人としての生活」(33.1%)であった。男性では、これら2項目が3割台半ばで同程度であった。
- 「家庭生活や個人としての生活」は、男女ともに前回(H30)調査よりも有意に高かった。女性では「仕事と家庭生活や個人としての生活」についても、前回に比べ有意に高かった。



ベース：全対象者

生活優先度の[現実]

- 生活優先度の[現実]について、女性では高い方から順に「家庭生活や個人としての生活」(38.3%)、「仕事と家庭生活や個人としての生活」(26.3%)、「仕事」(21.0%)であった。男性では、これら3項目が約3割で同程度であった。
- 「家庭生活や個人としての生活」は、男性では前回(H30)調査よりも有意に高かった。一方、女性では前回からの有意な変化は見受けられなかった。

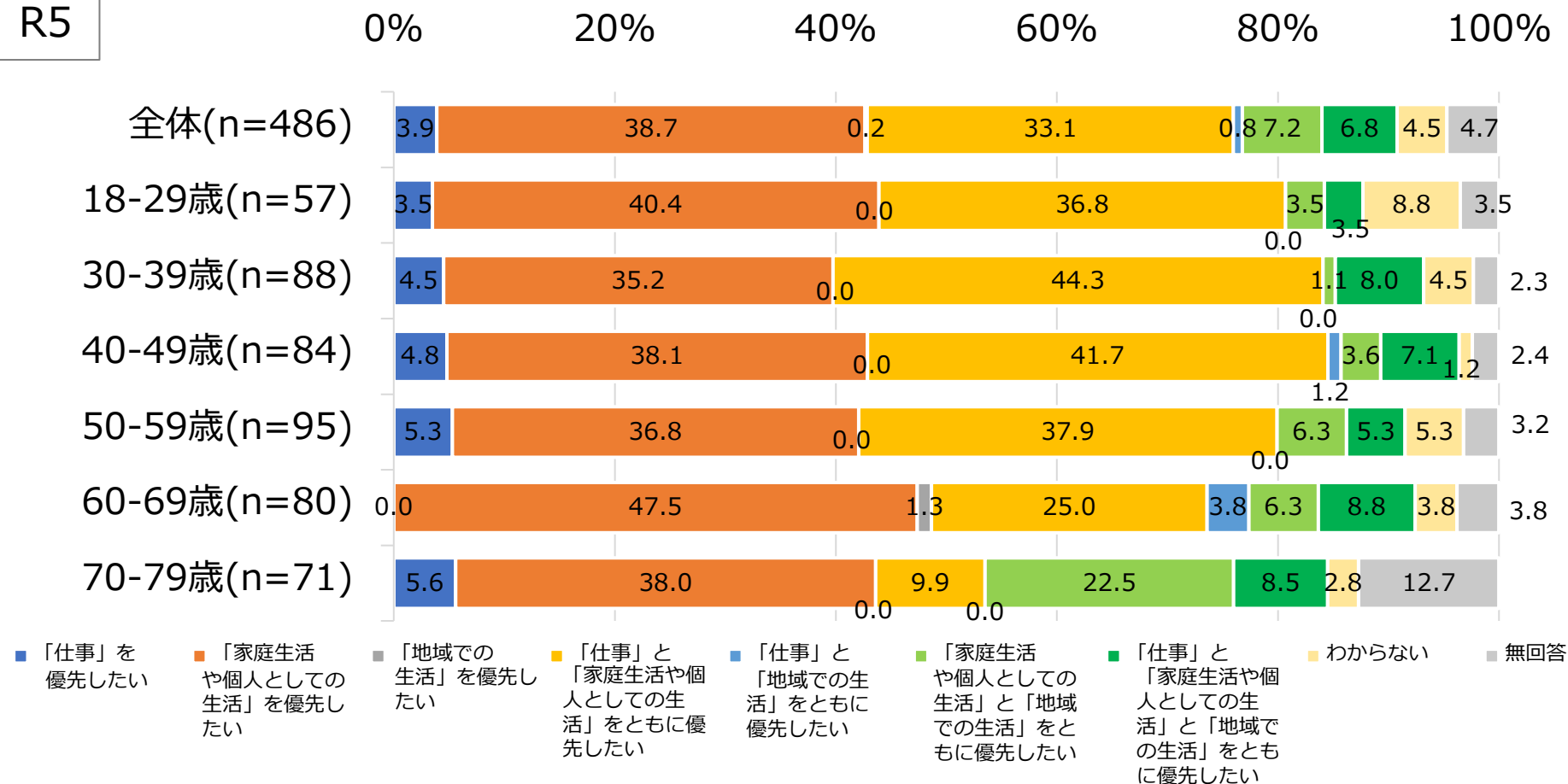


ベース：全対象者

生活優先度の[希望](女性、年代別)

- 女性について年代別で見ると、30歳未満と60代以上では「家庭生活や個人としての生活」が、30代と40代では「仕事と家庭生活や個人としての生活」が、それぞれ最も高く、50代ではそれら2項目がほぼ同程度であった。

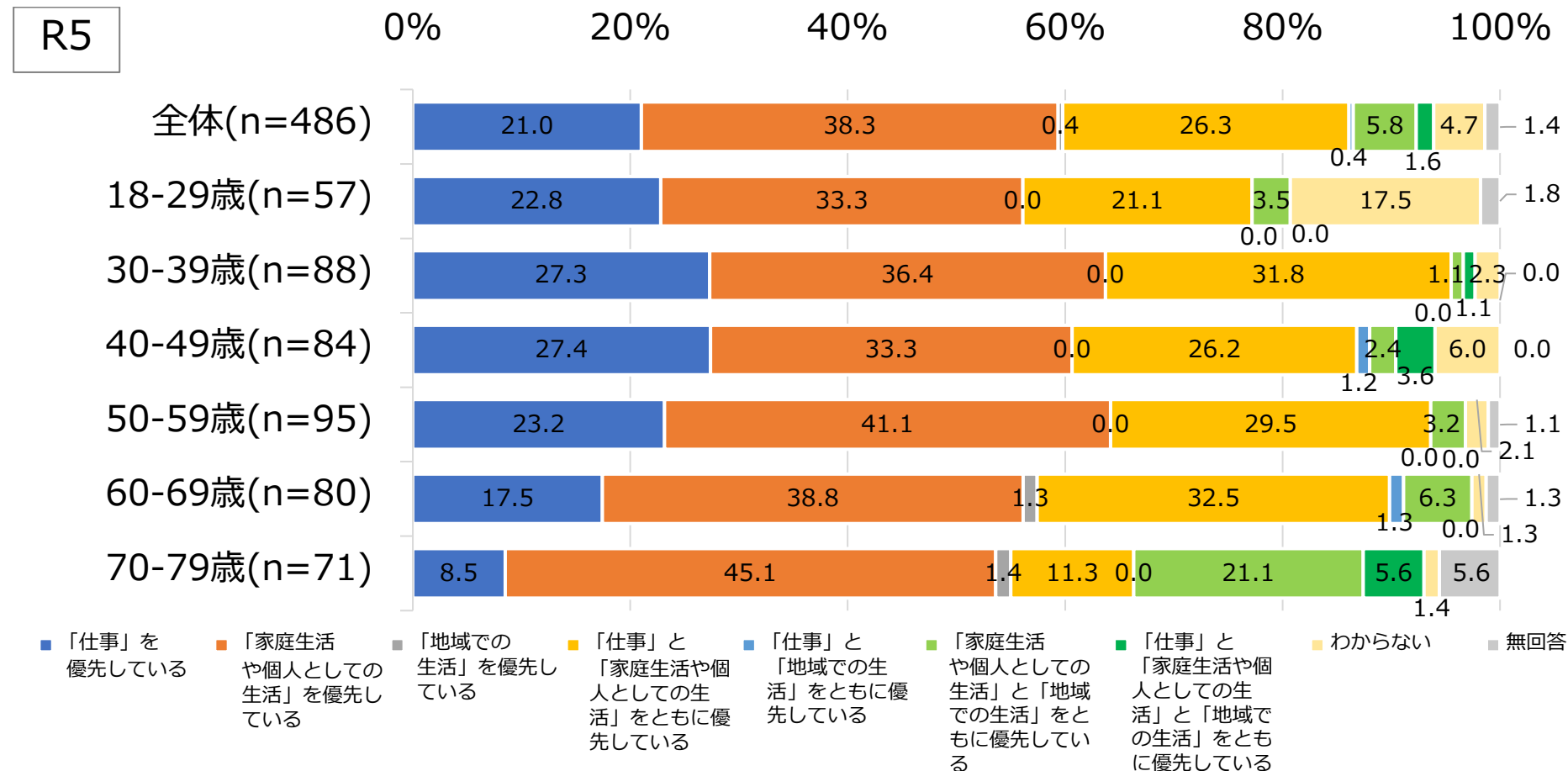
R5



ベース：全対象者

生活優先度の[現実](女性、年代別)

- すべての年代で「家庭生活や個人としての生活」が最も高かった。
- 50代以下では「仕事」が2割を超えた。

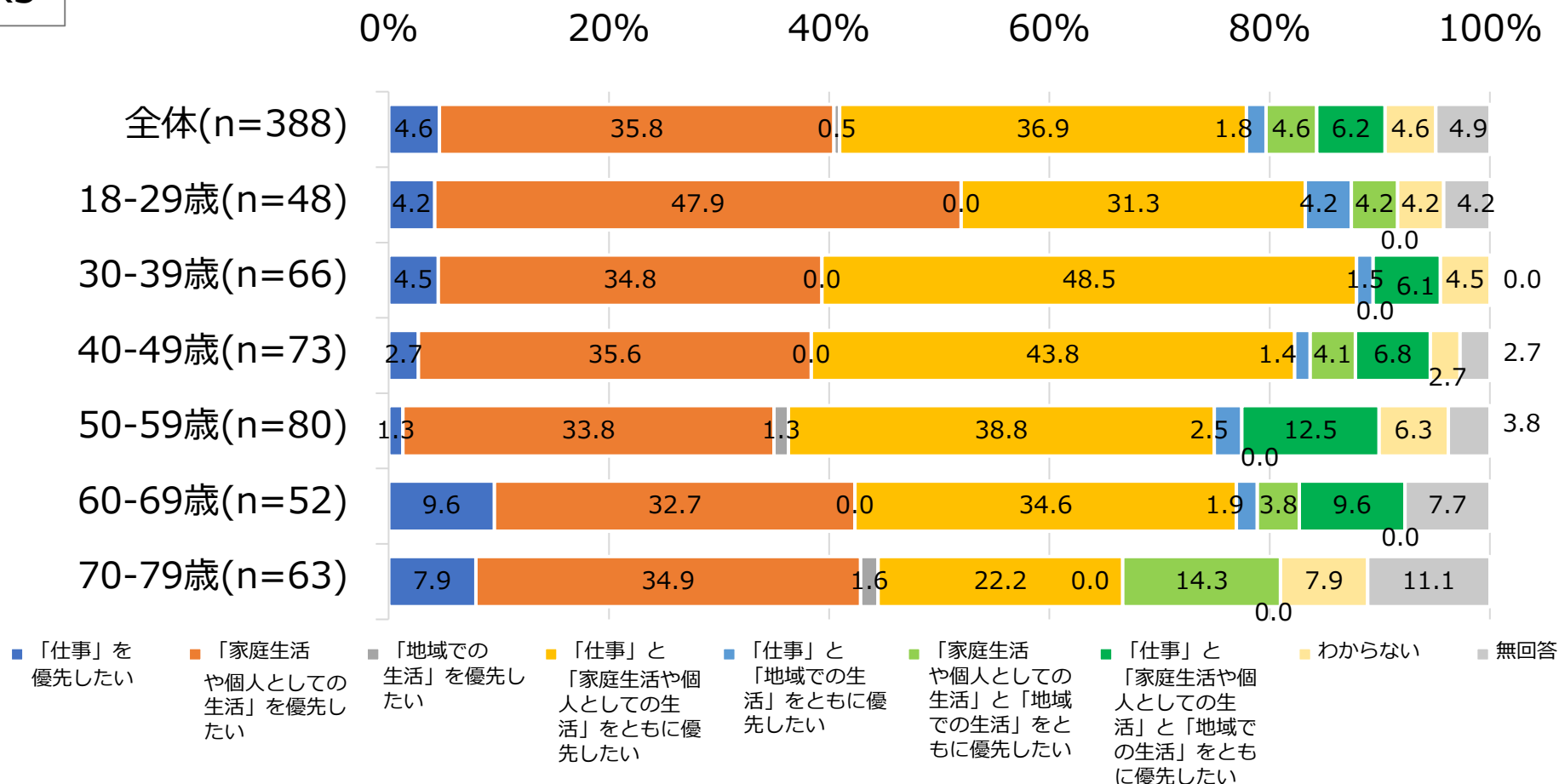


ベース：全対象者

生活優先度の[希望](男性、年代別)

- 30歳未満と70代では「家庭生活や個人としての生活」が、30代から50代では「仕事と家庭生活や個人としての生活」が、それぞれ最も高く、60代ではそれら2項目がほぼ同程度であった。

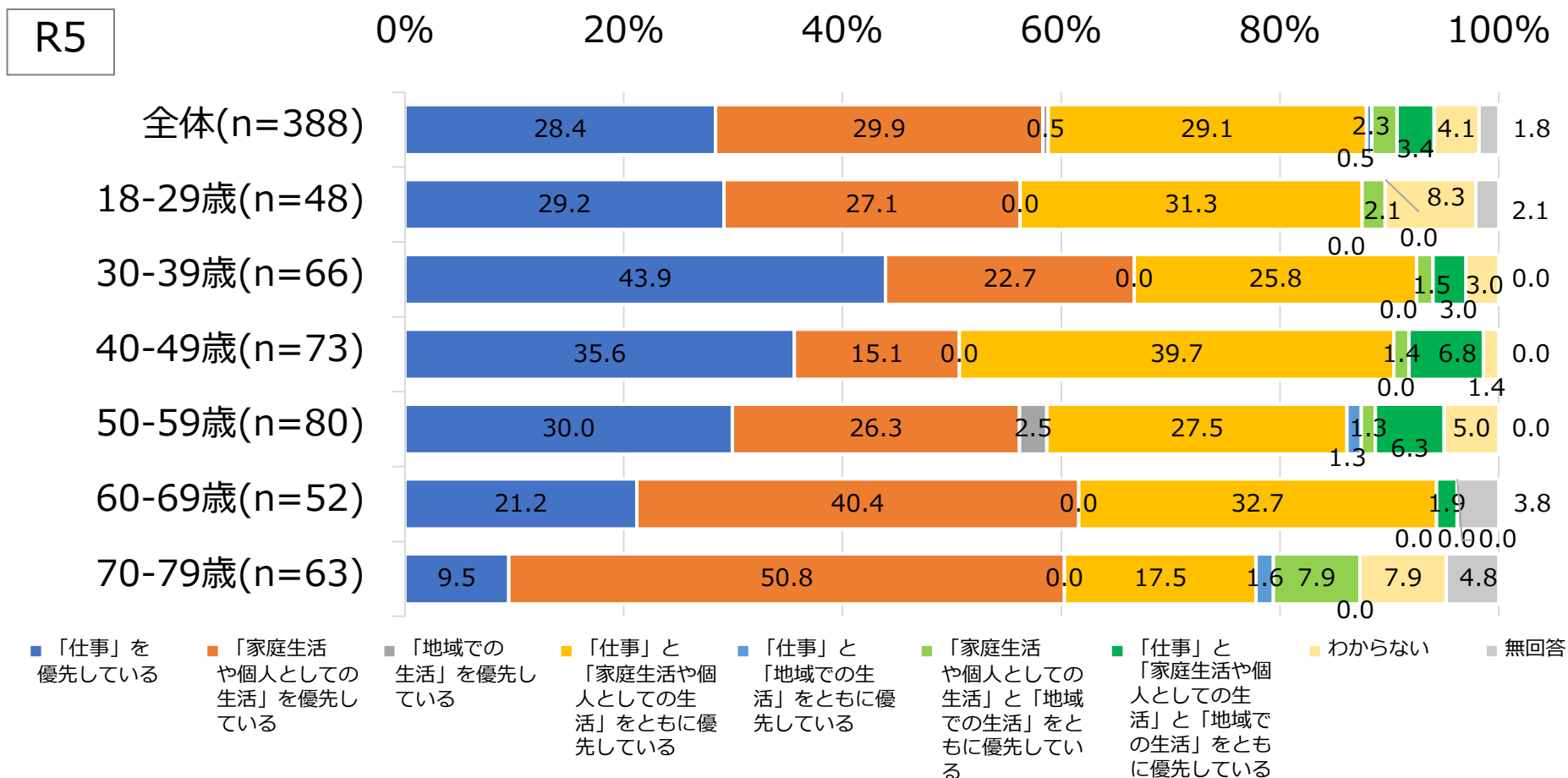
R5



ベース：全対象者

生活優先度の[現実](男性、年代別)

- 30代では「仕事」が、60代以上では「家庭生活や個人としての生活」が、それぞれ最も高かった。
- 30歳未満と50代では、「仕事」「家庭生活や個人としての生活」「仕事と家庭生活や個人としての生活、地域での生活」の3項目が、そして40代では、「仕事」と「仕事と家庭生活や個人としての生活、地域での生活」の2項目がほぼ同程度であった。



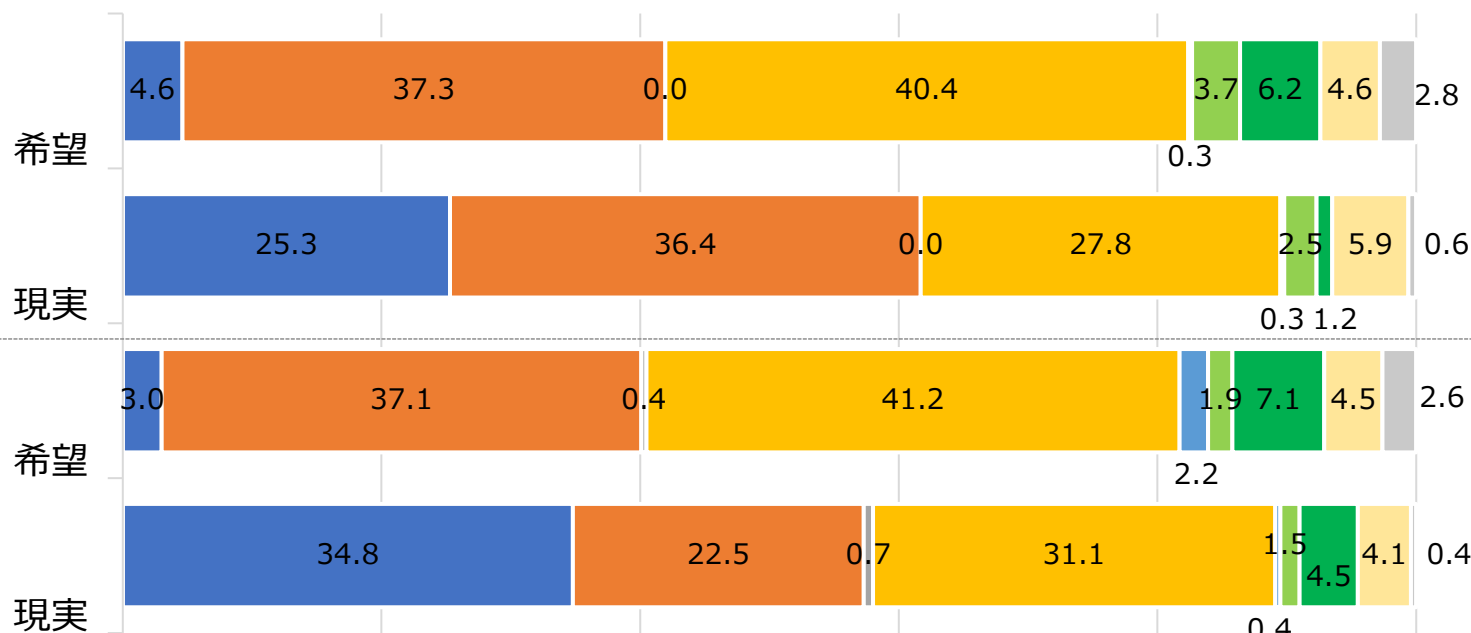
ベース：全対象者

生活優先度の[希望]と[現実](18~59歳)

- 18~59歳の男女の生活優先度の[希望]と[現実]を比べると、男女ともに、現実においては「仕事」が高くなる一方で、「仕事と家庭生活や個人としての生活」が低下している。

R5

0% 20% 40% 60% 80% 100%



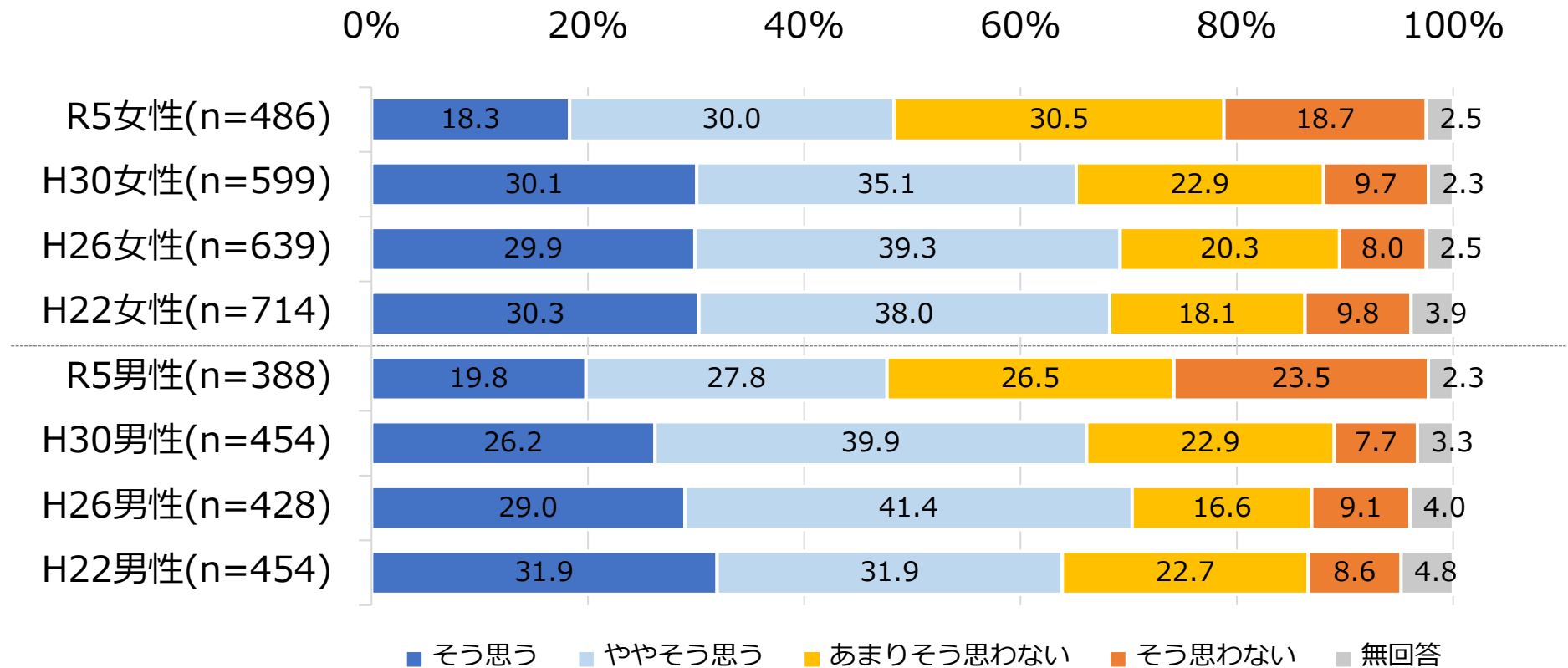
- 「仕事」を優先したい/している
- 「家庭生活や個人としての生活」を優先したい/している
- 「地域での生活」を優先したい/している
- 「仕事」と「家庭生活や個人としての生活」をともに優先したい/している
- 「仕事」と「地域での生活」をともに優先したい/している
- 「家庭生活や個人としての生活」と「地域での生活」をともに優先したい/している
- 「仕事」と「家庭生活や個人としての生活」と「地域での生活」をともに優先したい/している
- わからない
- 無回答

ベース：全対象者

7. ジェンダー規範

「女性は、収入が少なくても、勤務時間を選べる仕事が望ましい」

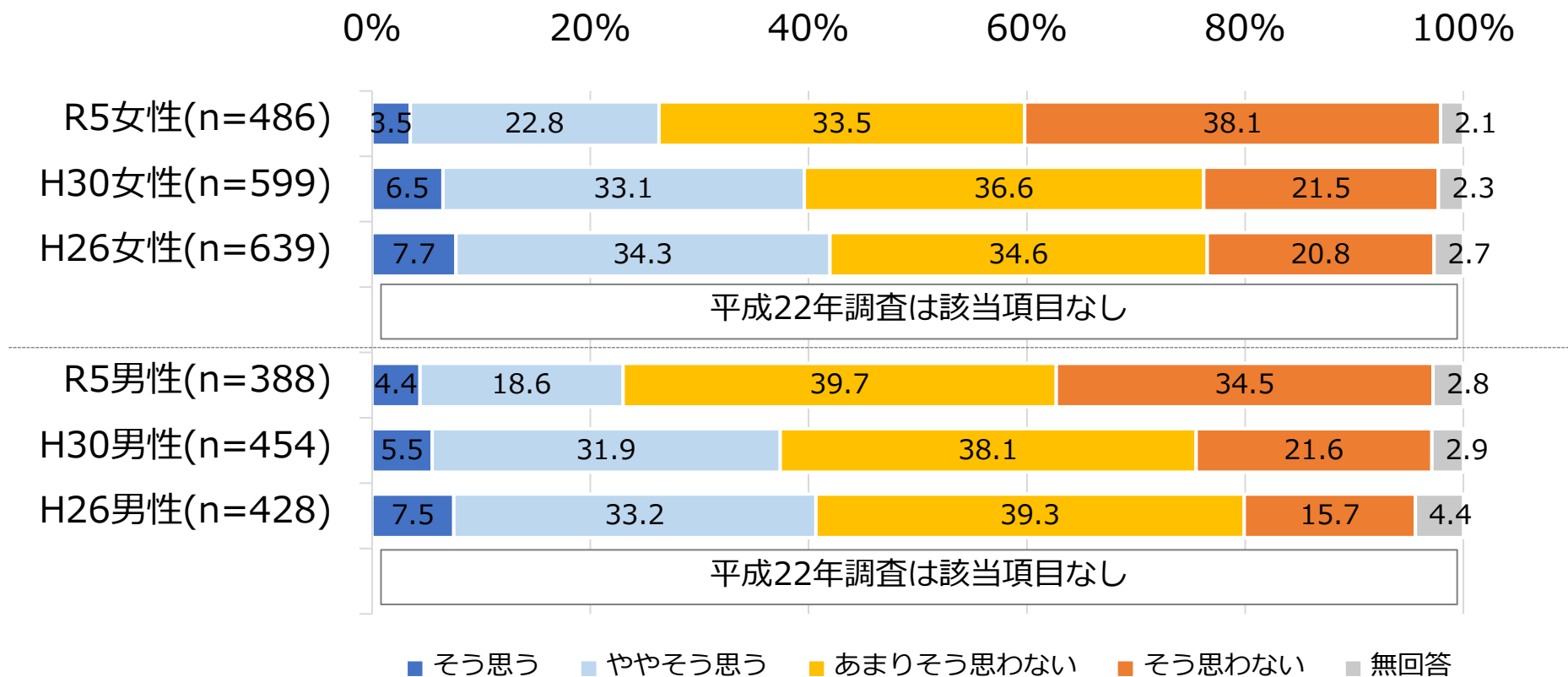
- 『女性は、収入が少なくても、勤務時間を選べる仕事が望ましい』について、「そう思う」と「ややそう思う」を合計したくそう思うの割合は、女性で48.4%、男性で47.7%であった。
- なお、前回(H30)調査では、『女性の仕事は、収入が少なくても、勤務時間を選べる仕事が望ましい』について聞いており、今回とは文言が異なるため、直接比較にはなじまない。



ベース：全対象者

「女性は、結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活すべきである」

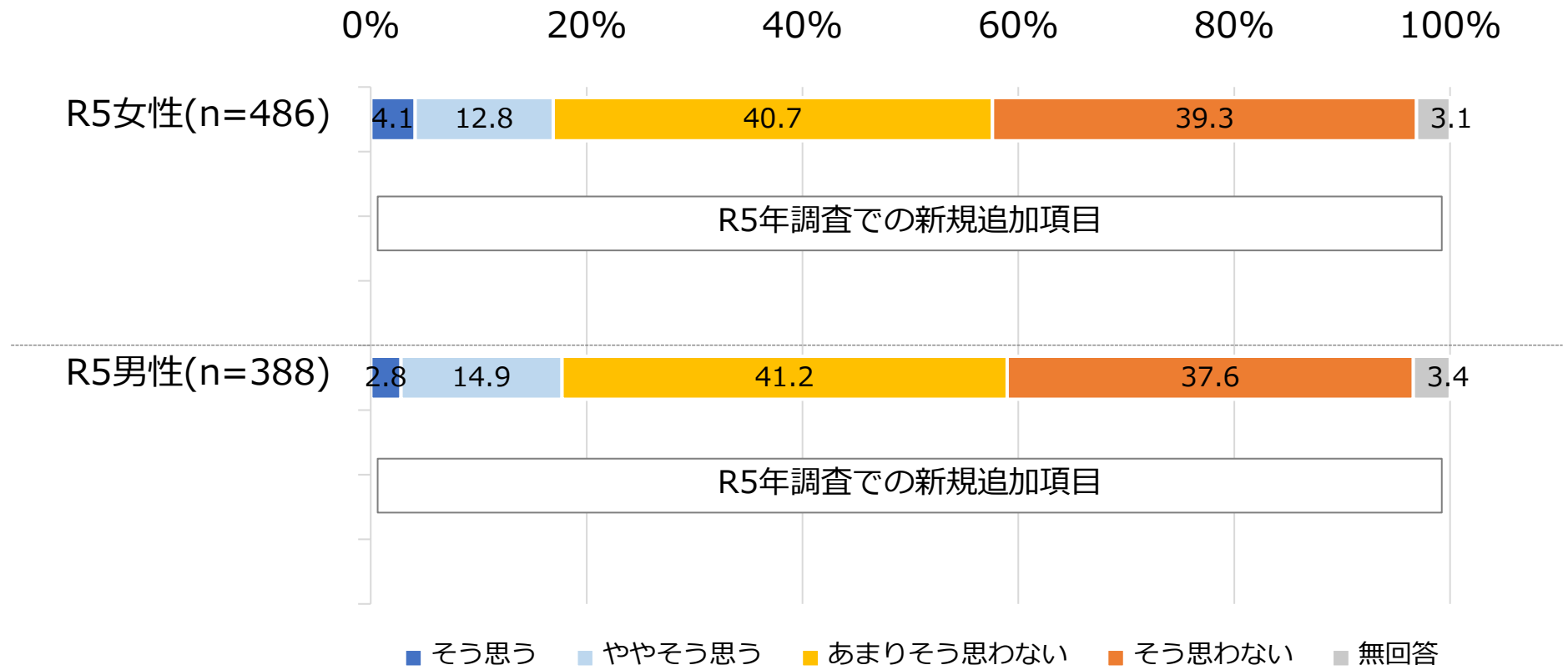
- 『女性は、結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活すべきである』について<そう思う>割合は、女性で26.3%、男性で22.9%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、<そう思う>の割合は、男女ともに有意に低下した。



ベース：全対象者

「女性は、仕事をもっても家事を率先してするほうがよい」

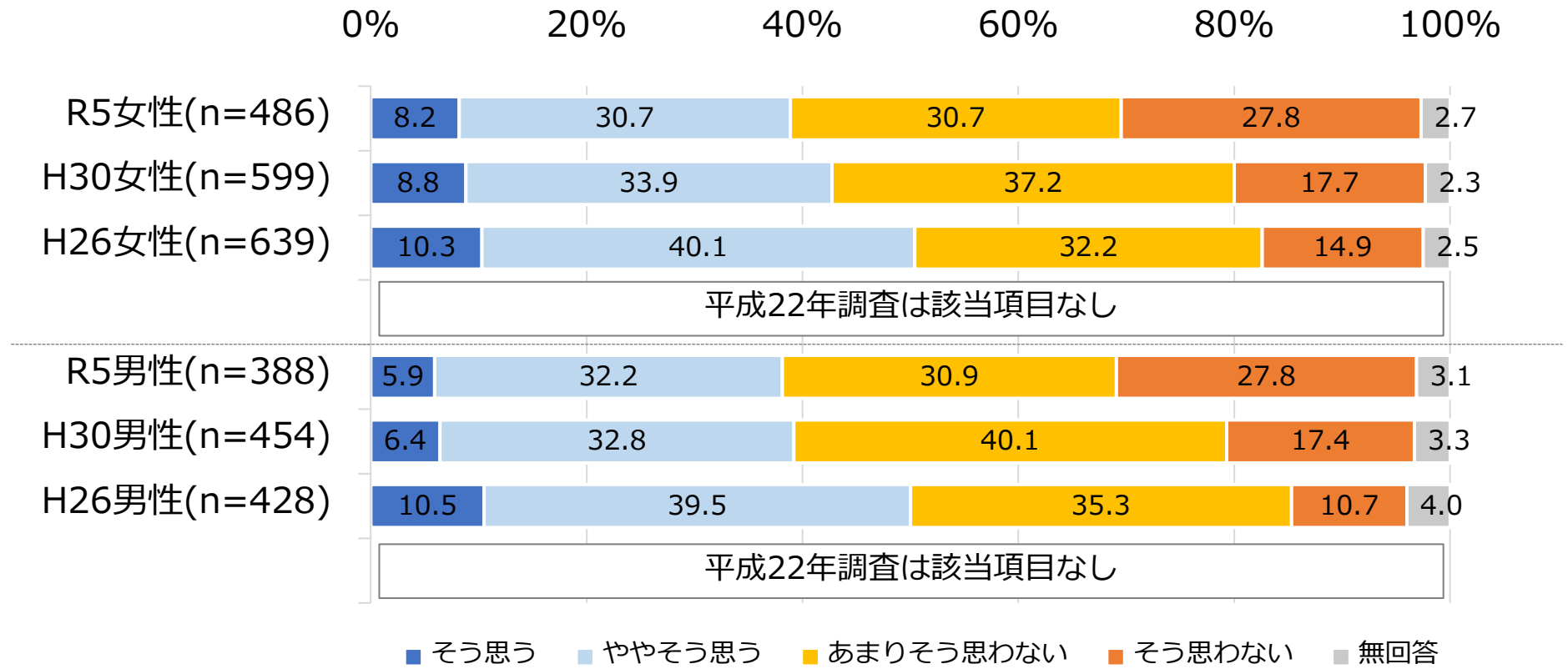
- 『女性は、仕事をもっても家事を率先してするほうがよい』について<そう思う>割合は、女性で16.9%、男性で17.8%であった。



ベース：全対象者

「女性は、仕事をもっても育児を率先してするほうがよい」

- 『女性は、仕事をもっても育児を率先してするほうがよい』について<そう思う>割合は、女性で38.9%、男性で38.1%であった。
- なお、前回(H30)調査では、『女性は、仕事をもっても家事・育児もきちんとすべきである』について聞いており、今回とは文言が異なるため、直接比較にはなじまない。

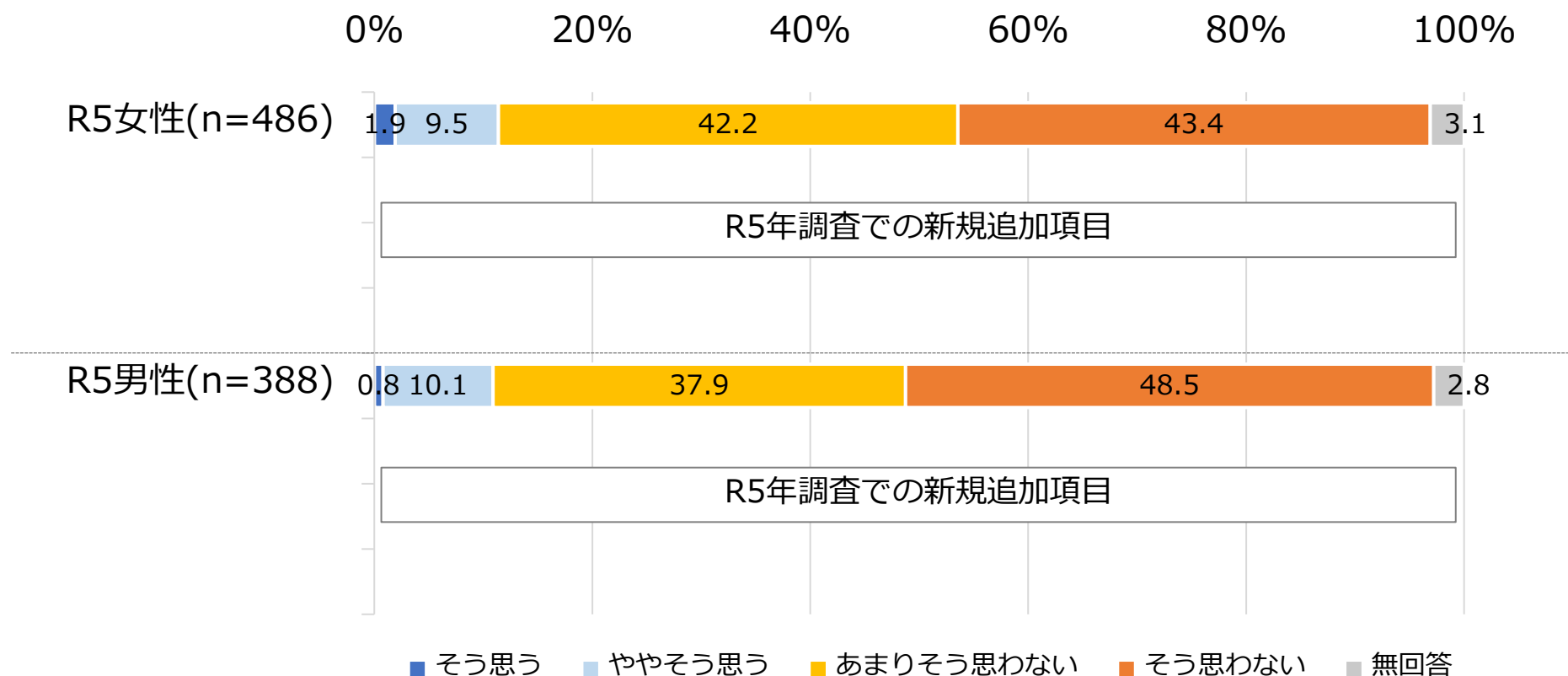


ベース：全対象者

「女性は、仕事をもっても介護を率先してするほうがよい」

新規項目

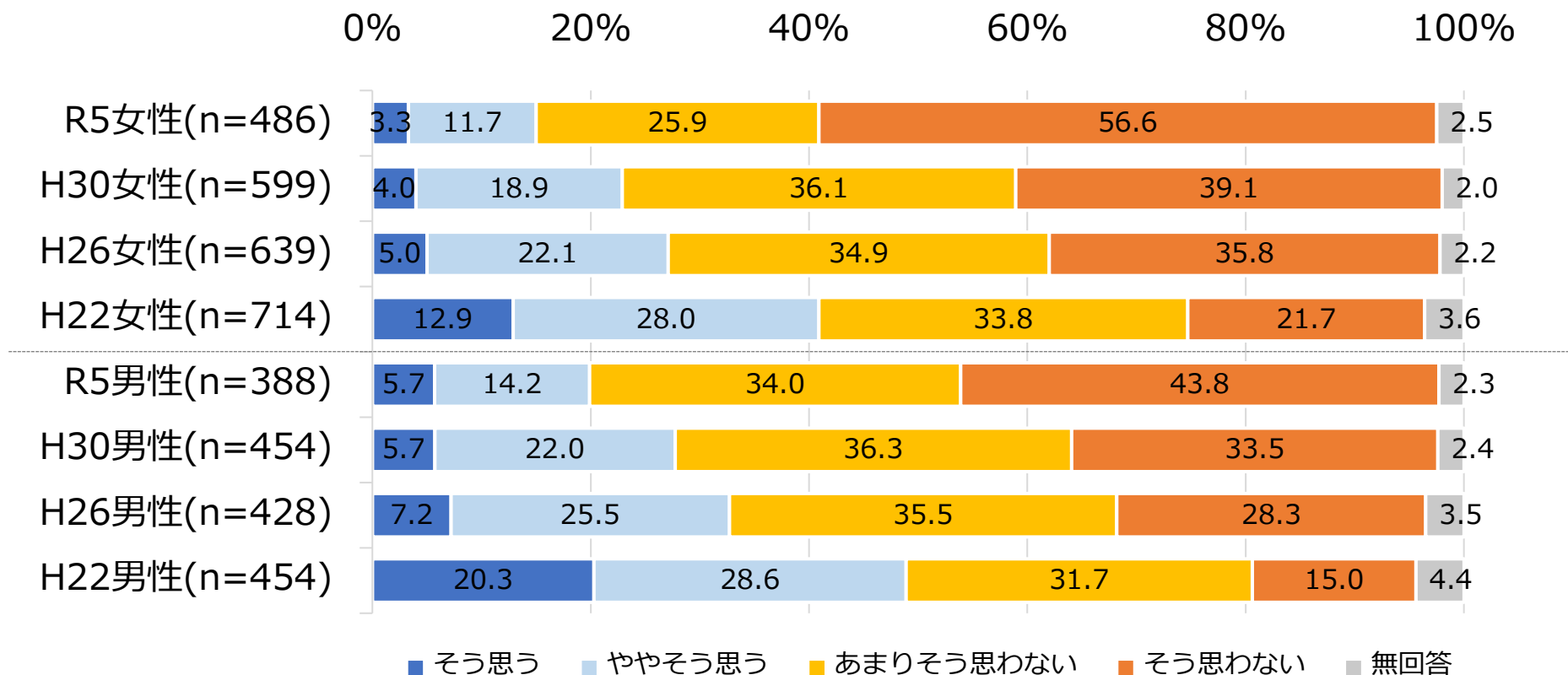
- 『女性は、仕事をもっても介護を率先してするほうがよい』について<そう思う>割合は、女性で11.3%、男性で10.8%であった。



ベース：全対象者

「男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい」

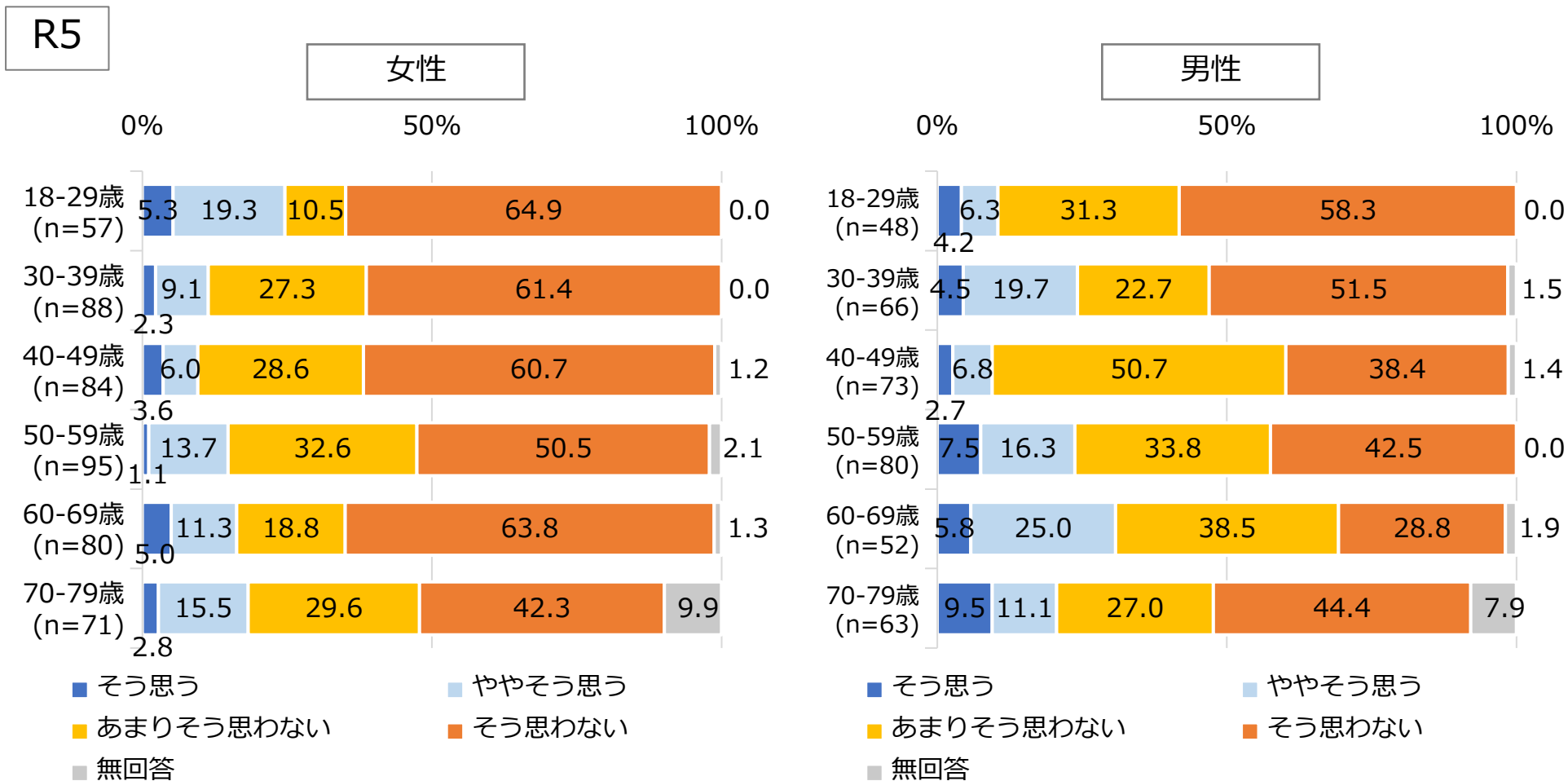
- 『男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい』について<そう思う>割合は、女性で15.0%、男性19.8%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、<そう思う>の割合は、男女ともに有意に低下した。



ベース：全対象者

「男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい」(年代別)

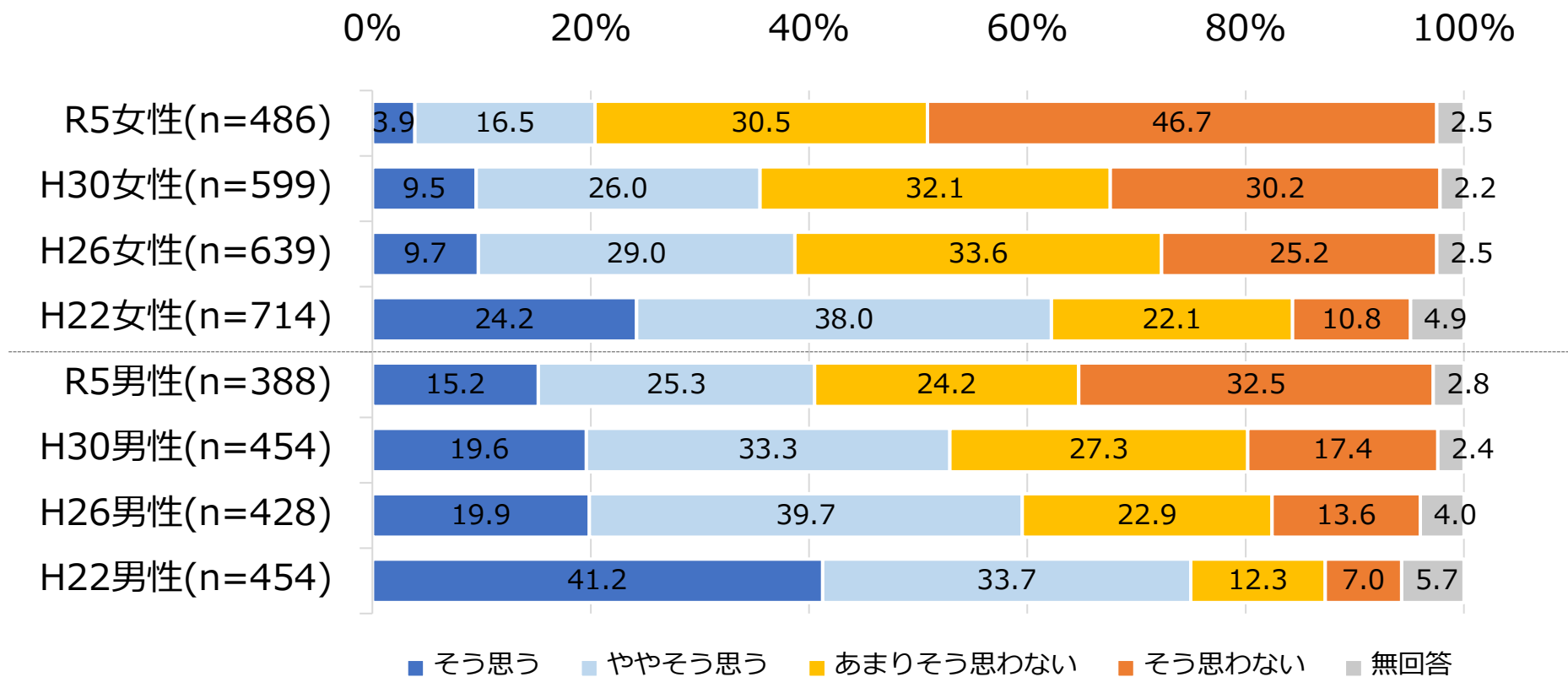
- 女性の30歳未満、男性の30代、男性の50代以上で<そう思う>の割合が2割を超え、特に男性の60代では3割を超えた。



ベース：全対象者

「家族を養うのは、もっぱら男性の責任である」

- 『家族を養うのは、もっぱら男性の責任である』について<そう思う>割合は、女性が20.4%に対して、男性では40.5%と、男性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べると、<そう思う>の割合は、男女ともに有意に低下した。

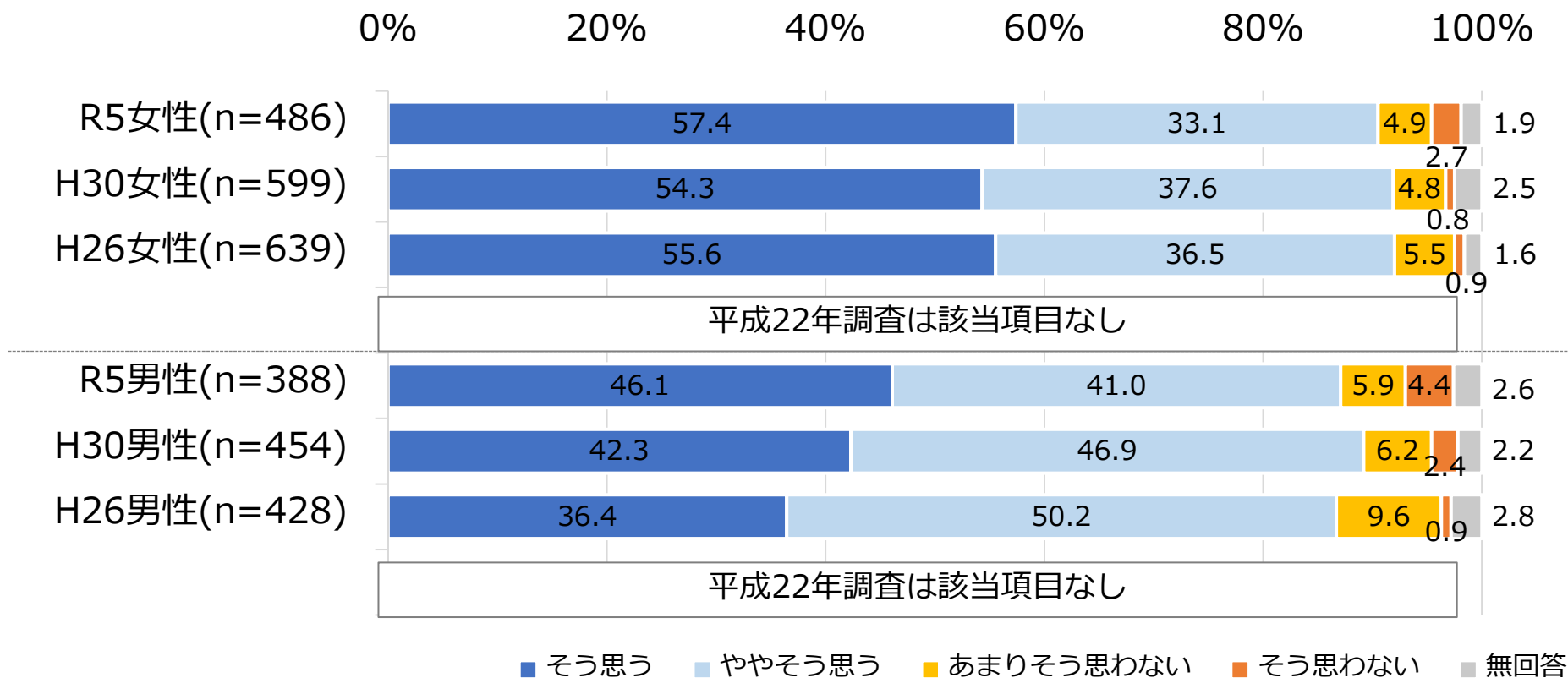


ベース：全対象者

「男性は家事に積極的に参加するほうがよい」

※ H30までは「男性も家事に積極的に参加すべきである」

- 『男性は家事に積極的に参加するほうがよい』 について <そう思う> 割合は、女性で90.5%、男性で87.1%であった。
- なお、前回(H30)調査では、『男性も家事に積極的に参加すべきである』 について聞いており、今回とは文言が異なるため、直接比較にはなじまない。

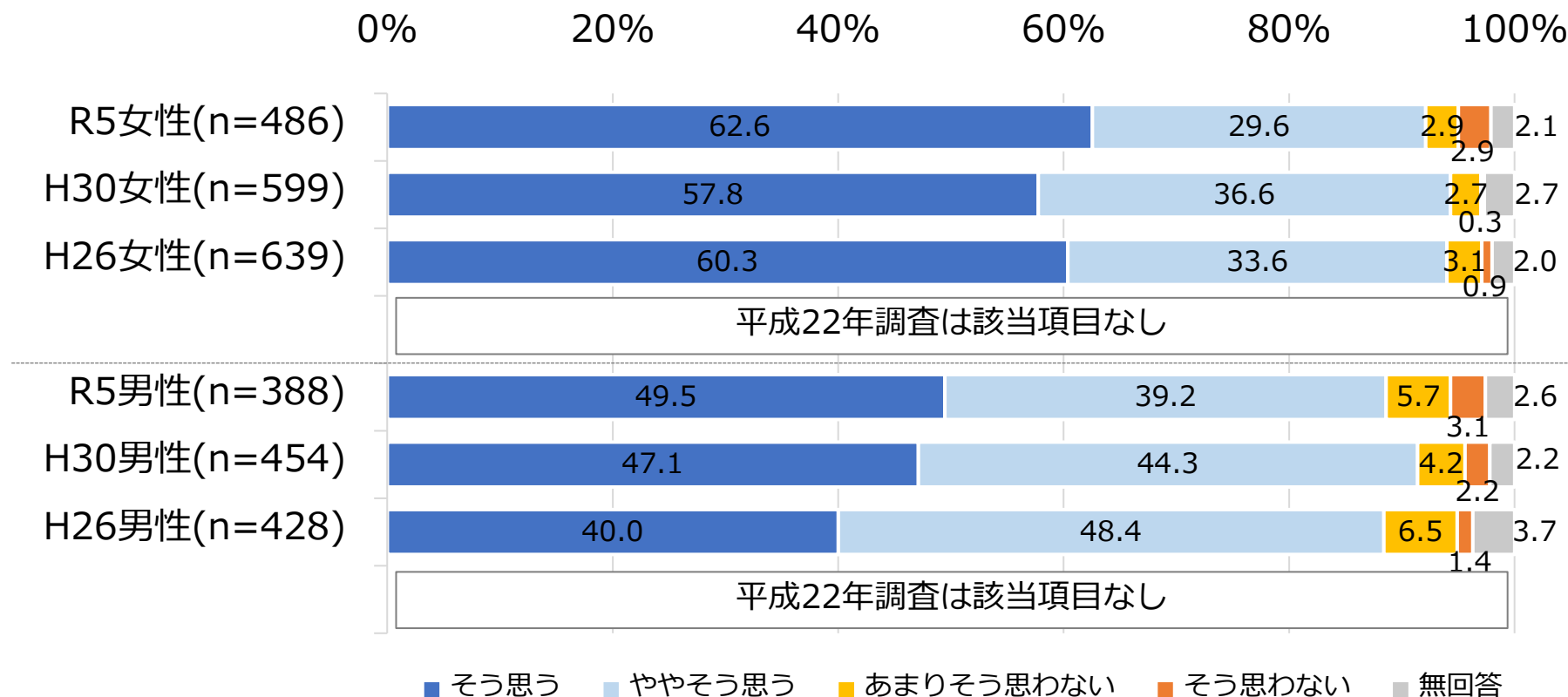


ベース：全対象者

「男性は育児に積極的に参加するほうがよい」

※ H30までは「男性も育児に積極的に参加すべきである」

- 『男性は育児に積極的に参加するほうがよい』について<そう思う>割合は、女性で92.2%、男性で88.7%であった。
- なお、前回(H30)調査では、『男性も育児に積極的に参加すべきである』について聞いており、今回とは文言が異なるため、直接比較にはなじまない。

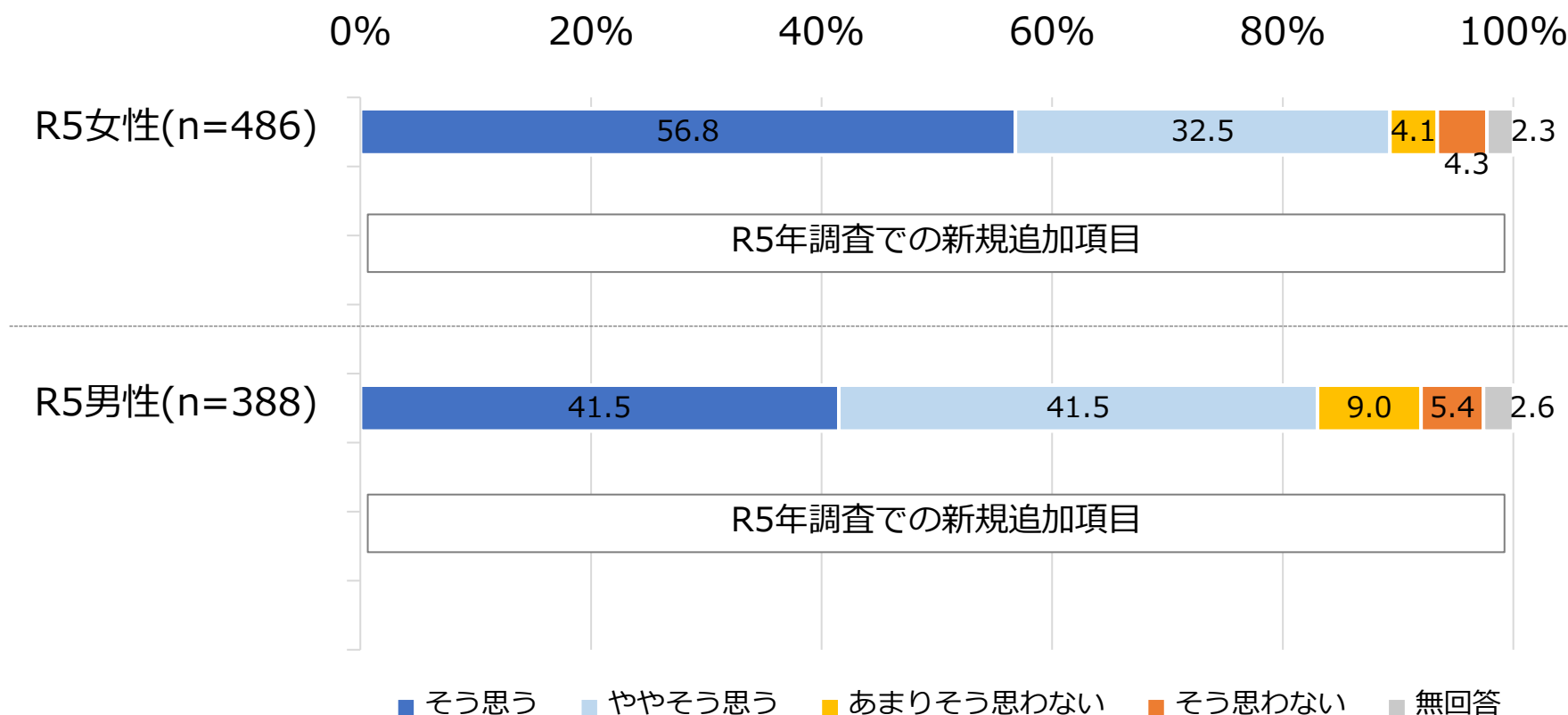


ベース：全対象者

「男性は介護に積極的に参加するほうがよい」

新規項目

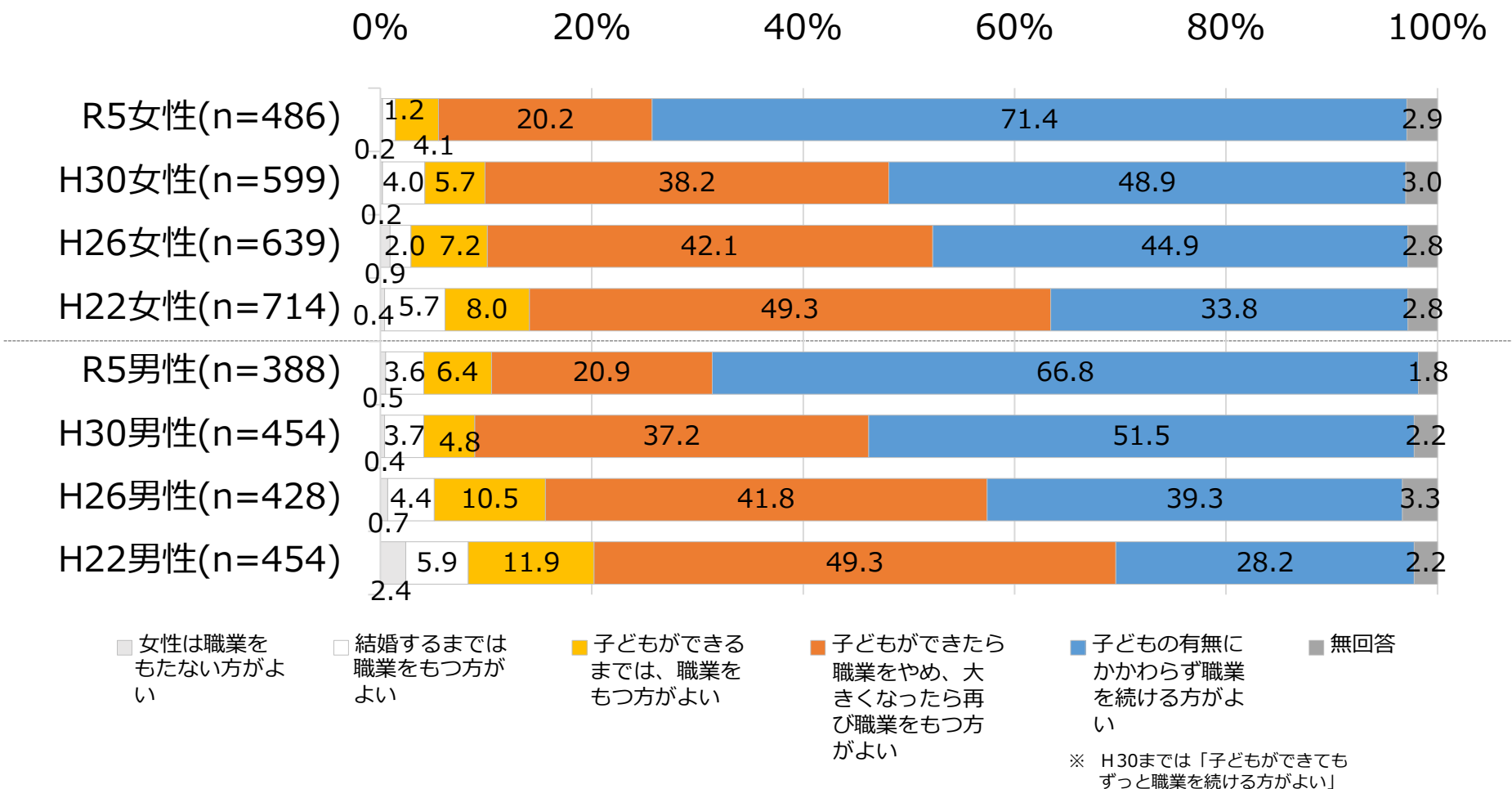
- 『男性は介護に積極的に参加するほうがよい』 について <そう思う> 割合は、女性が89.3 %に対して、男性では83.0%と、女性の方が有意に高かった。



ベース：全対象者

一般的に、女性が職業をもつことについて

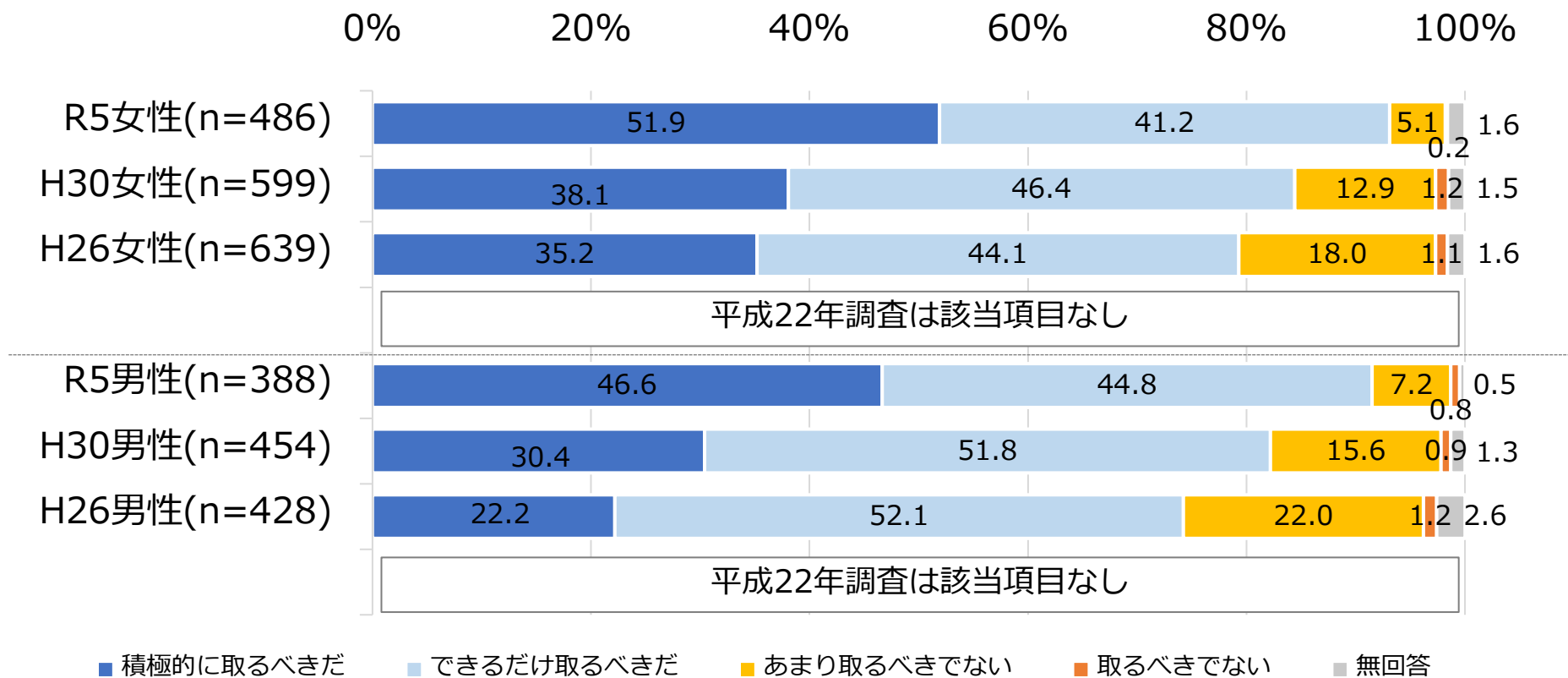
- 『一般的に、女性が職業をもつこと』について「子どもの有無にかかわらず職業を続ける方がよい」は、女性で71.4%、男性で66.8%であった。



ベース：全対象者

男性の育児休業取得について

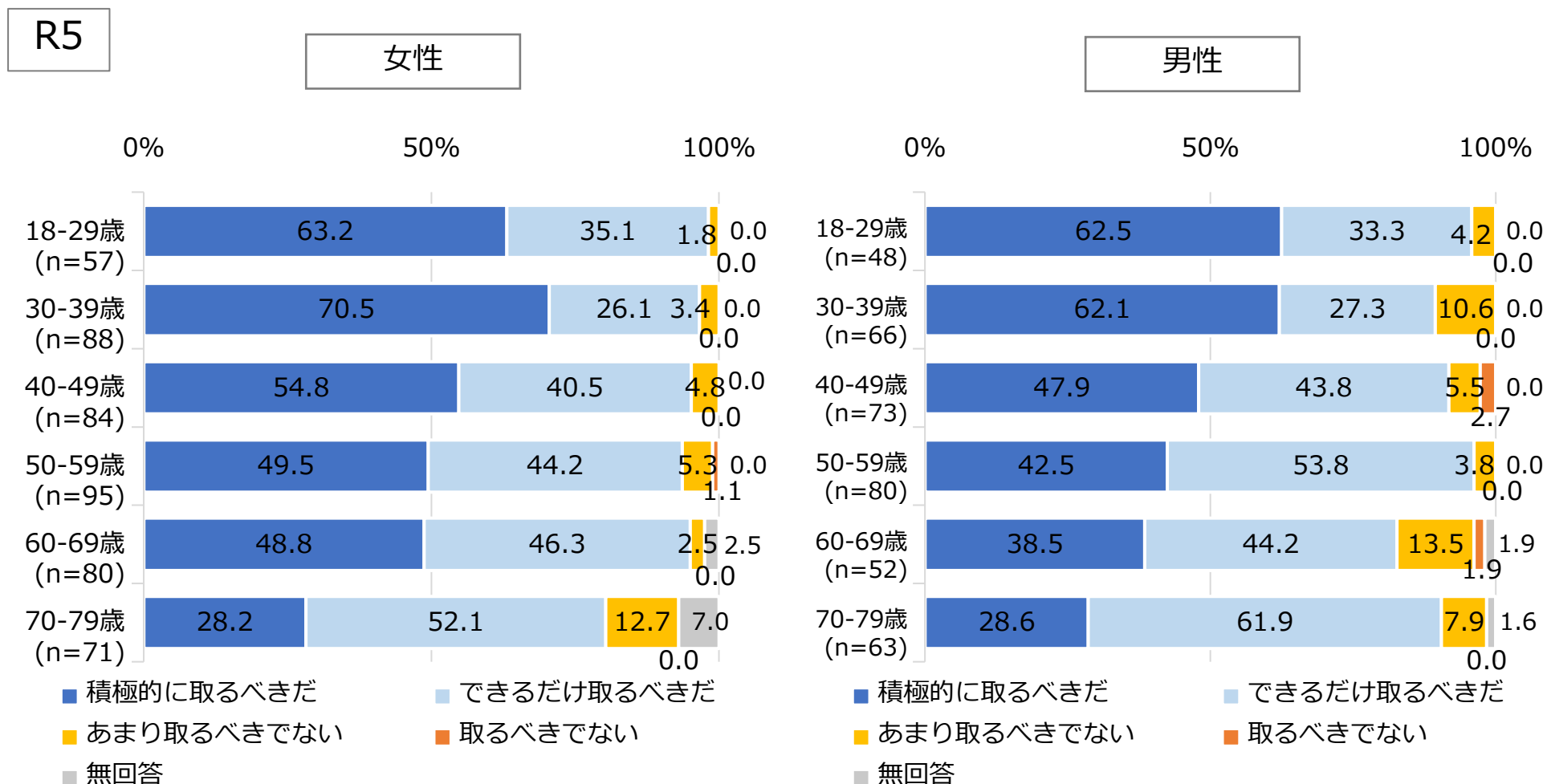
- 『男性の育児休業取得』について「積極的に取るべきだ」は、女性で51.9%、男性46.6%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、「積極的に取るべきだ」は、男女ともに有意に上昇した。



ベース：全対象者

男性の育児休業取得について(年代別)

●男女ともに30代以下で「積極的に取るべきだ」が6割を超え、特に女性の30代では7割を超えた。



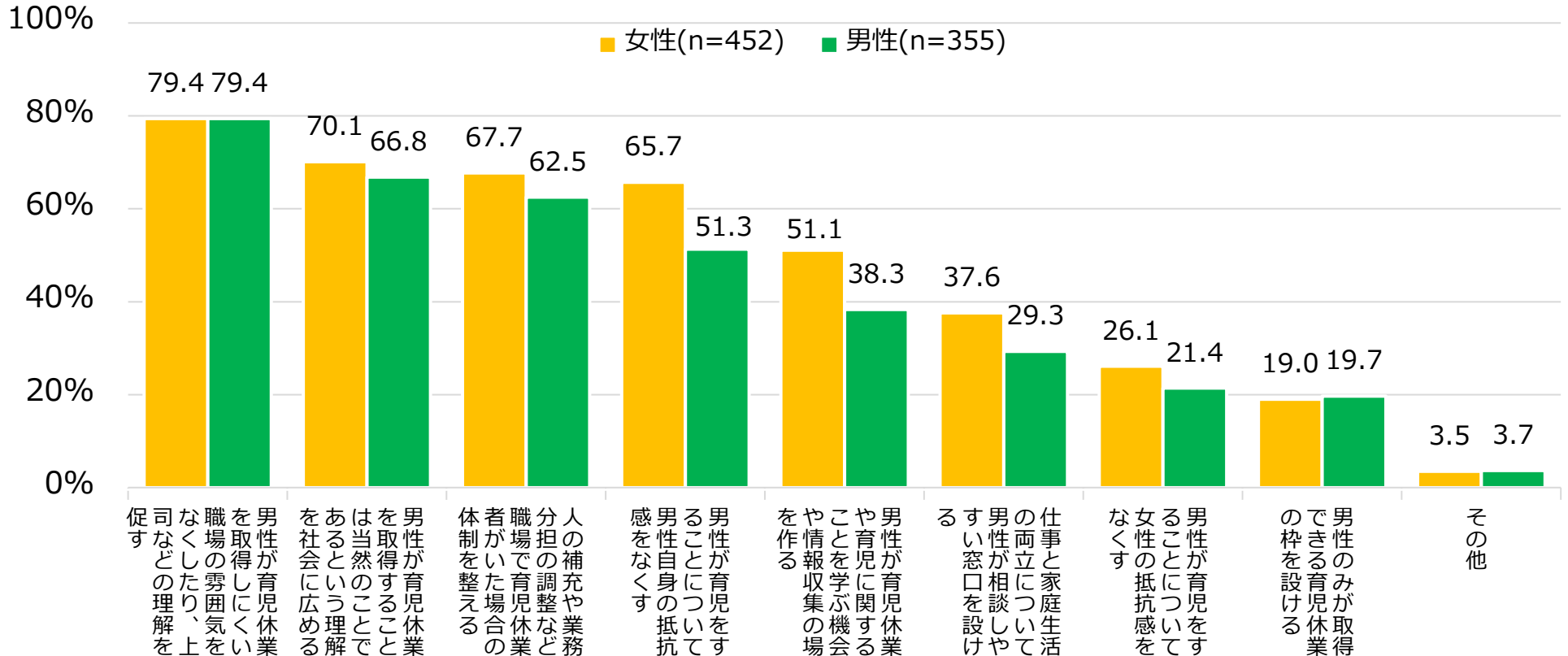
ベース：全対象者

男性の育児休業取得促進に必要と思うこと

新規項目

- 『男性の育児休業取得促進に必要と思うこと』について、男女ともに「男性が育児休業を取得しにくい職場の雰囲気はなくしたり、上司などの理解を促す」が約8割で最も高く、次いで「男性が育児休業を取得することは当然のことであるという理解を社会に広める」「人の補充や業務分担の調整など職場で育児休業者がいた場合の体制を整える」の順であった。
- また、「男性が育児をすることについて男性自身の抵抗感をなくす」は女性で65.7%、男性で51.3%、「男性が育児休業や育児に関することを学ぶ機会や情報収集の場を作る」は、女性で51.1%、男性で38.3%であった。

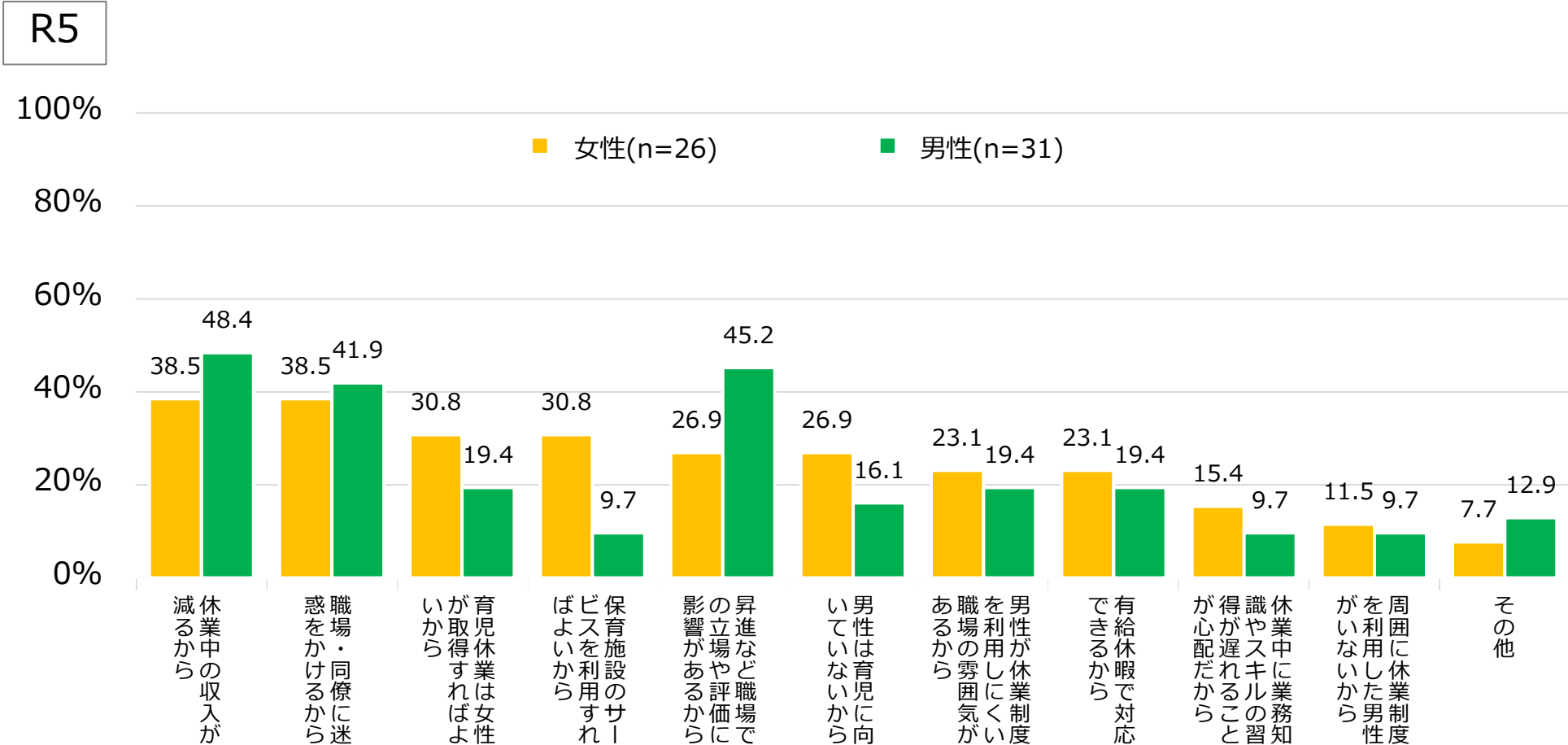
R5



ベース：男性の育児休暇について(積極的に/できるだけ)取るべきだと考えている人

男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由(性別、複数回答)

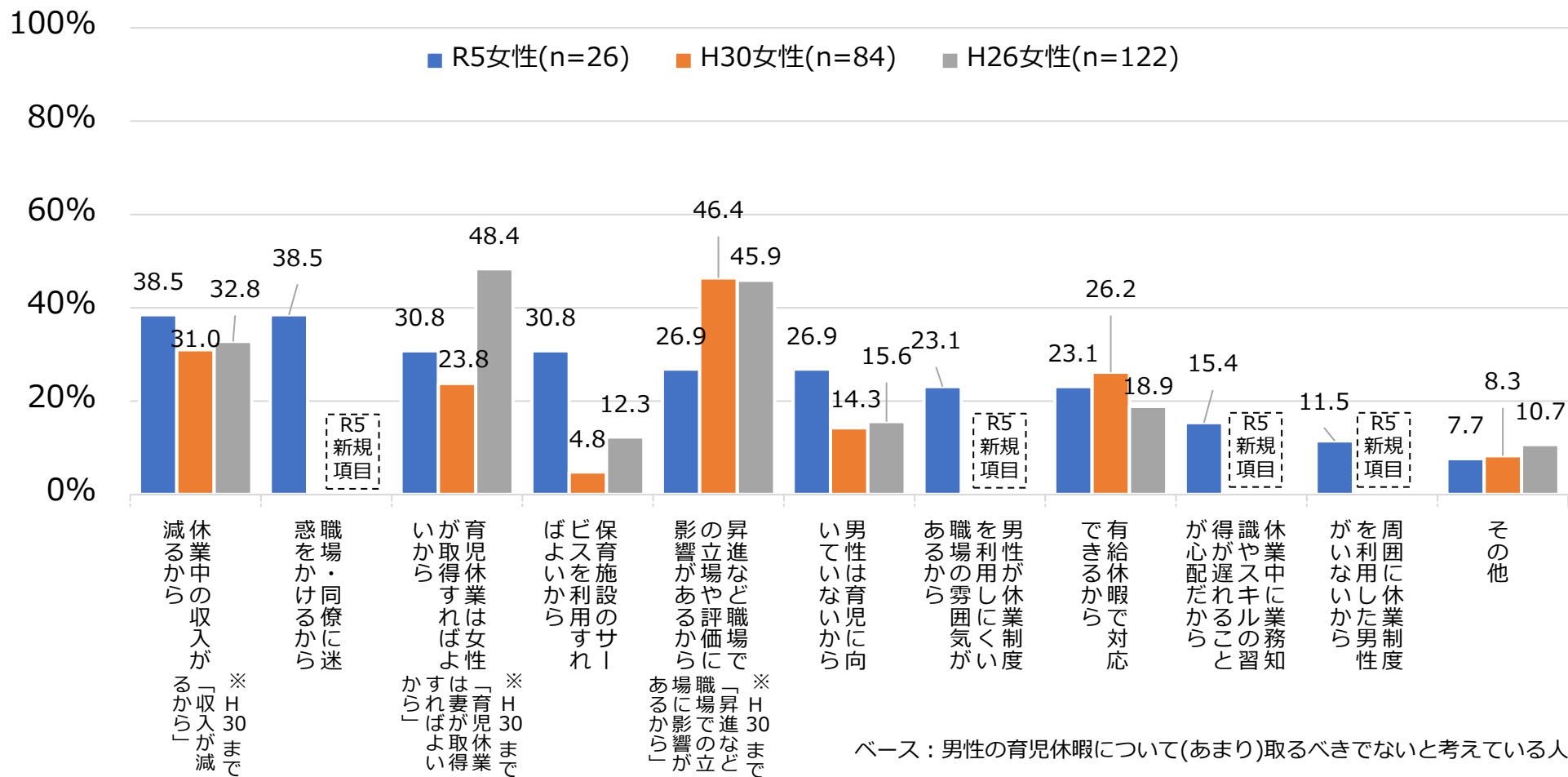
- 回答者数が少ない点に留意が必要であるが、『男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由』について、性別では以下のとおりであった。



ベース：男性の育児休暇について(あまり)取るべきでないと考えている人

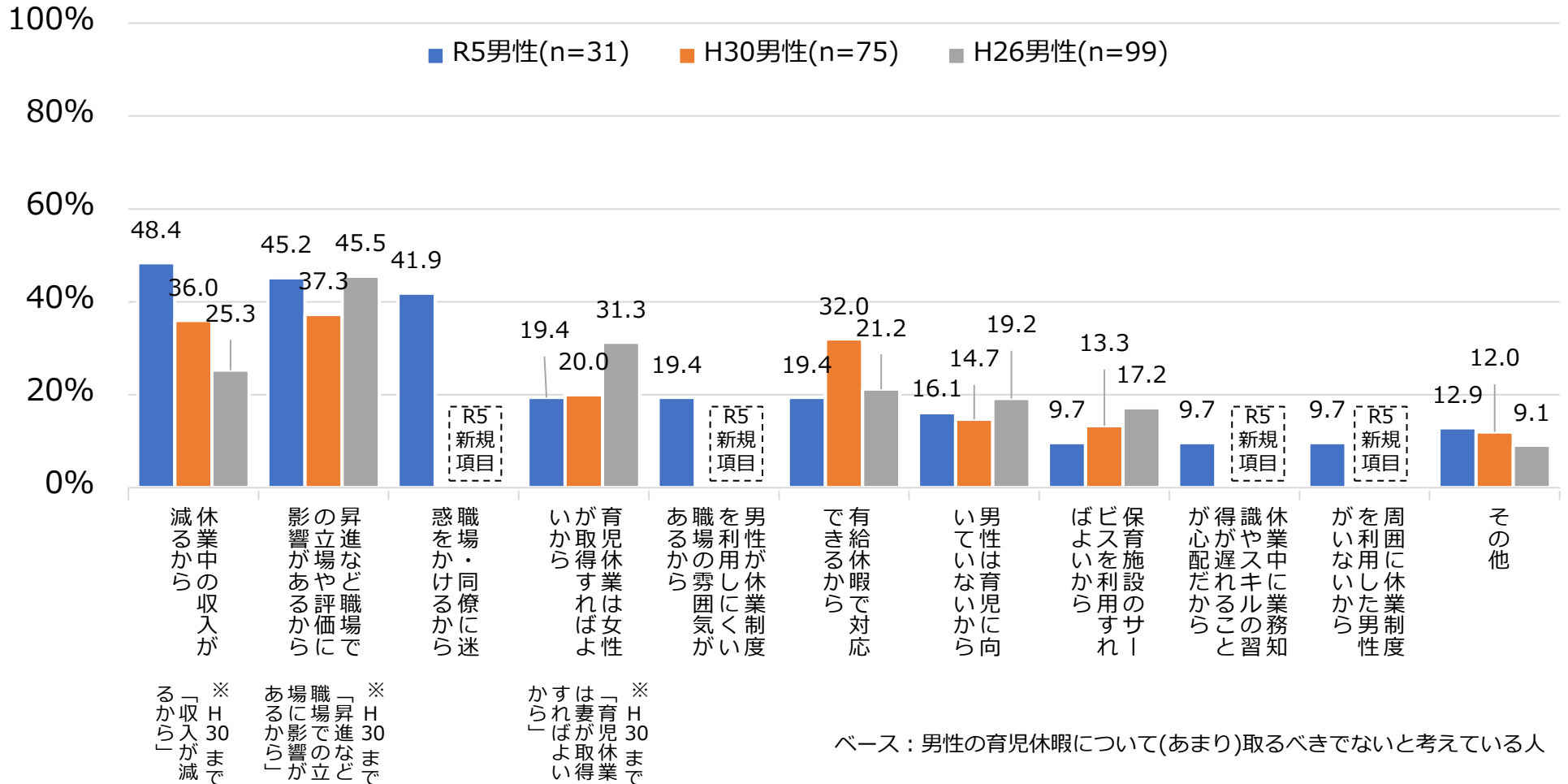
男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由(女性、複数回答)

- 『男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由』については、回答者数が少ないため、参考値として参照されたい。



男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由(男性、複数回答)

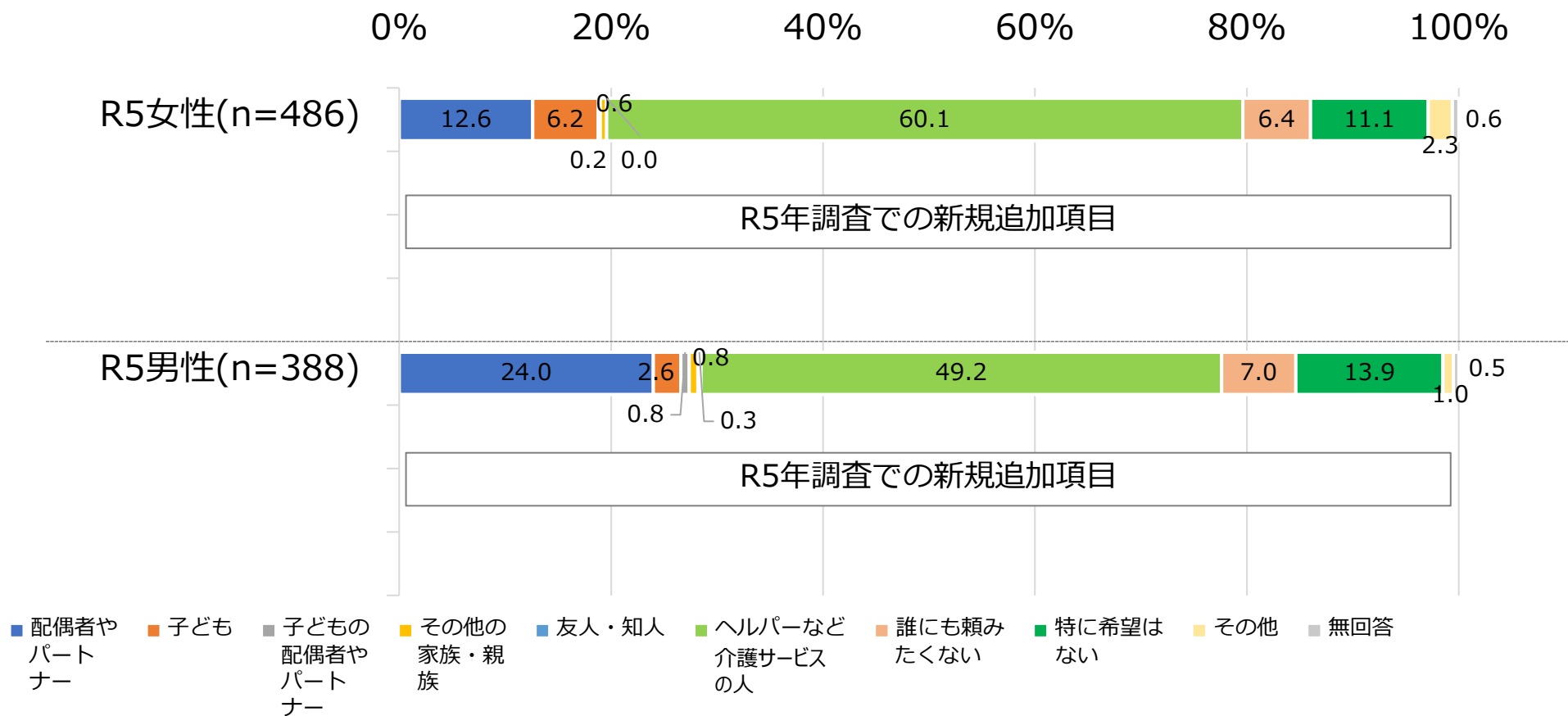
- 『男性が育児休業を取得するべきでないと思う理由』については、「休業中の収入が減るから」「昇進など職場での立場や評価に影響があるから」「職場・同僚に迷惑をかけるから」が4割を超えた。



将来介護が必要になった時に希望する介護者

新規項目

- 『将来介護が必要になった時に希望する介護者』については、男女ともに「ヘルパーなど介護サービスの人」が最も高く、次いで「配偶者やパートナー」であった。



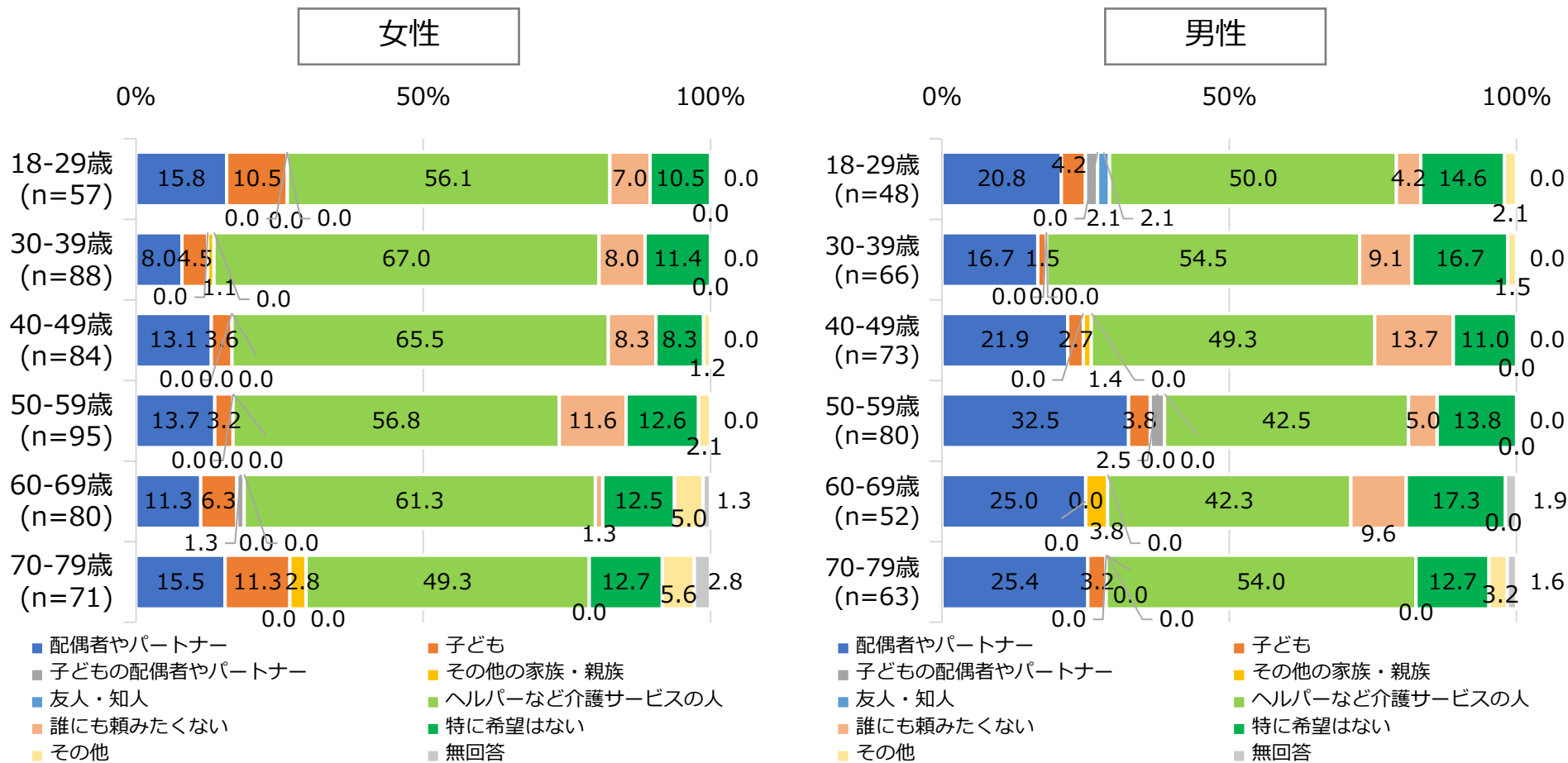
ベース：全対象者

将来介護が必要になった時に希望する介護者(年代別)

新規項目

●男女ともに、すべての年代で「ヘルパーなど介護サービスの人」が最も高かった。

R5

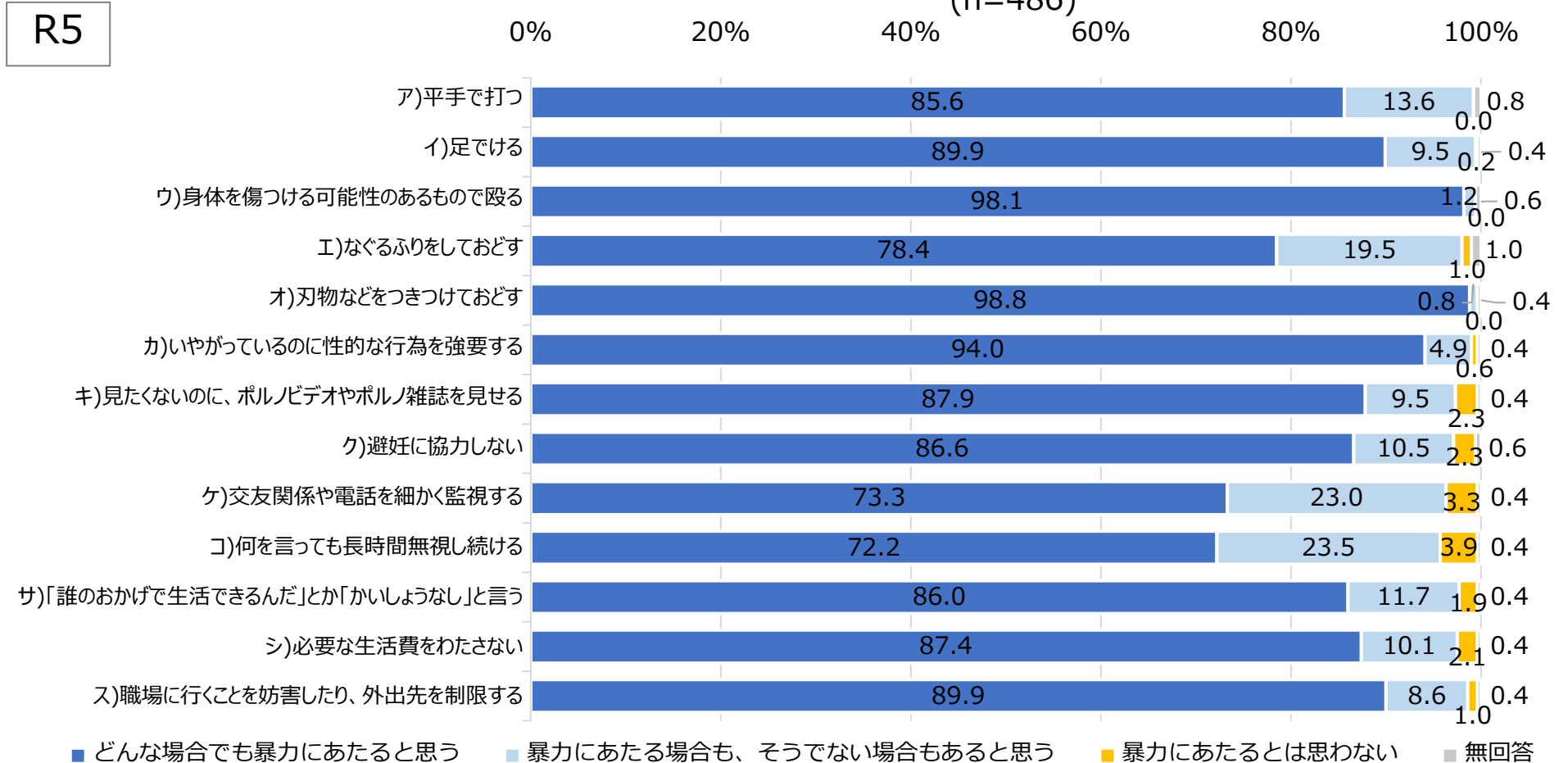


ベース：全対象者

8. DV／デートDV 被害の認知と現状

DVについての認識(女性)

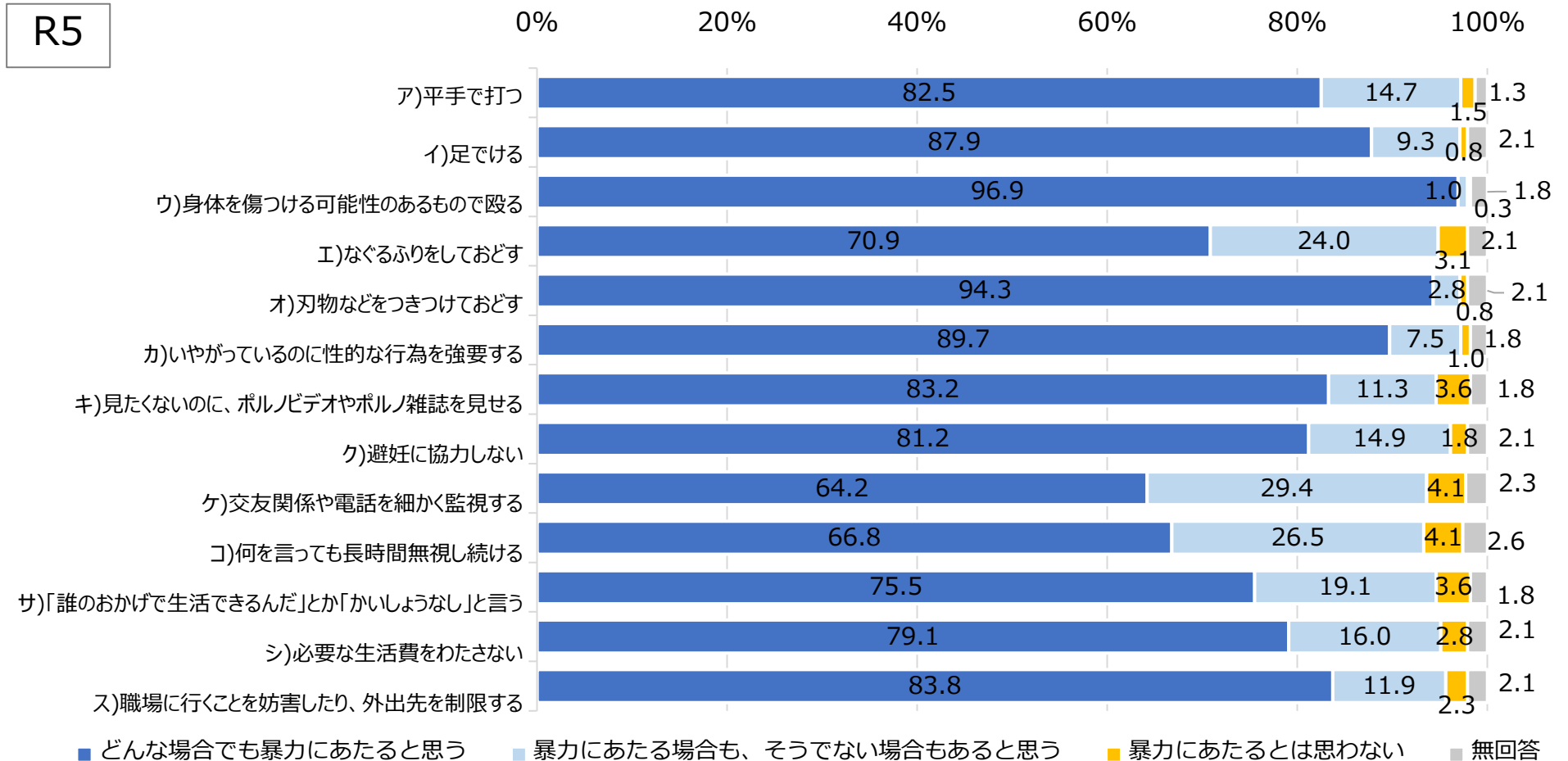
- DVについての認識を尋ねたところ、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が高い方から順に、『オ)刃物などをつきつけておどす』(98.8%)、『ウ)身体を傷つける可能性のあるもので殴る』(98.1%)、『カ)いやがっているのに性的な行為を強要する』(94.0%)であった。



ベース：全対象者

DVについての認識(男性)

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が高い方から順に、『ウ)身体を傷つける可能性のあるもので殴る』(96.9%)、『オ)刃物などをつきつけておどす』(94.3%)、『カ)いやがっているのに性的な行為を強要する』(89.7%)であった。(n=388)

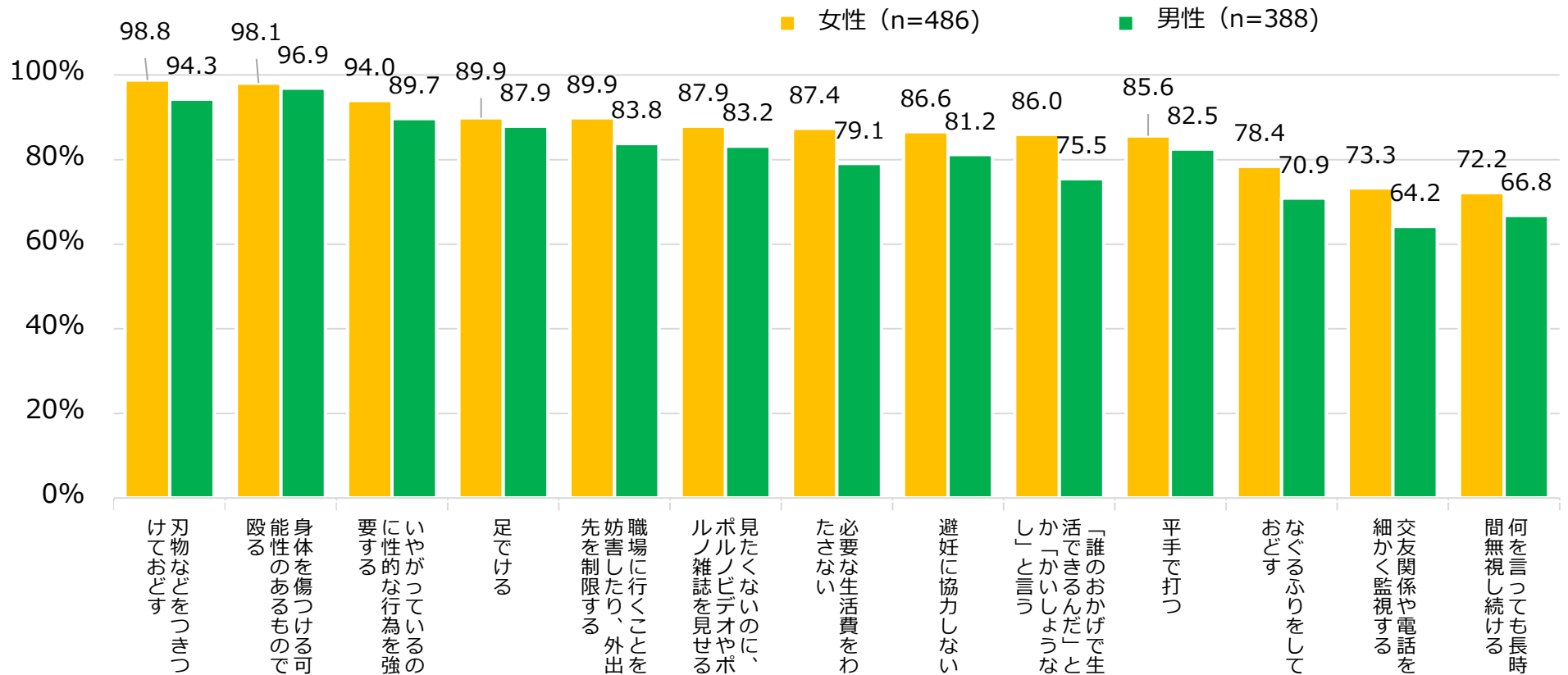


ベース：全対象者

DVについての認識：「どんな場合でも暴力にあたると思う」（性別）

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合について、性別では以下のとおりであった。

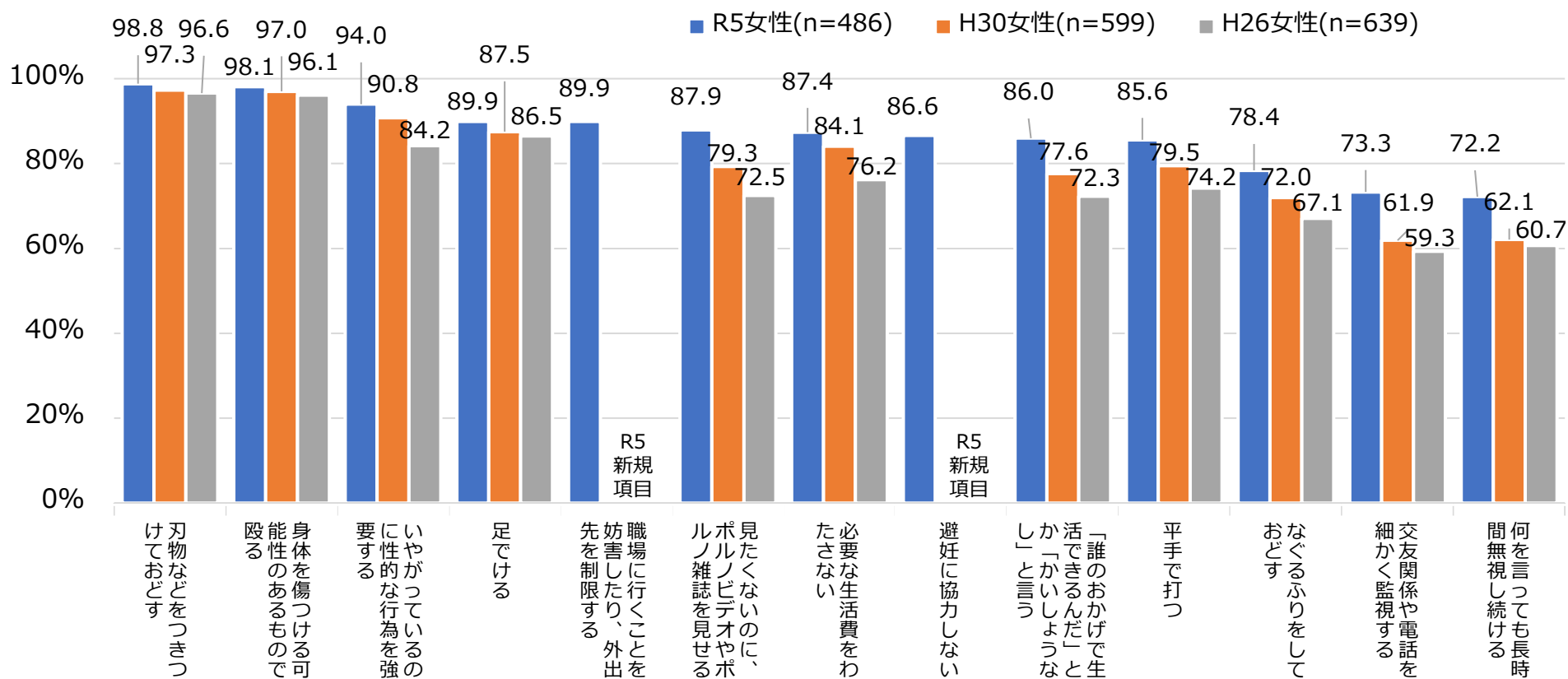
R5



ベース：全対象者

DVについての認識(女性)：「どんな場合でも暴力にあたると思う」

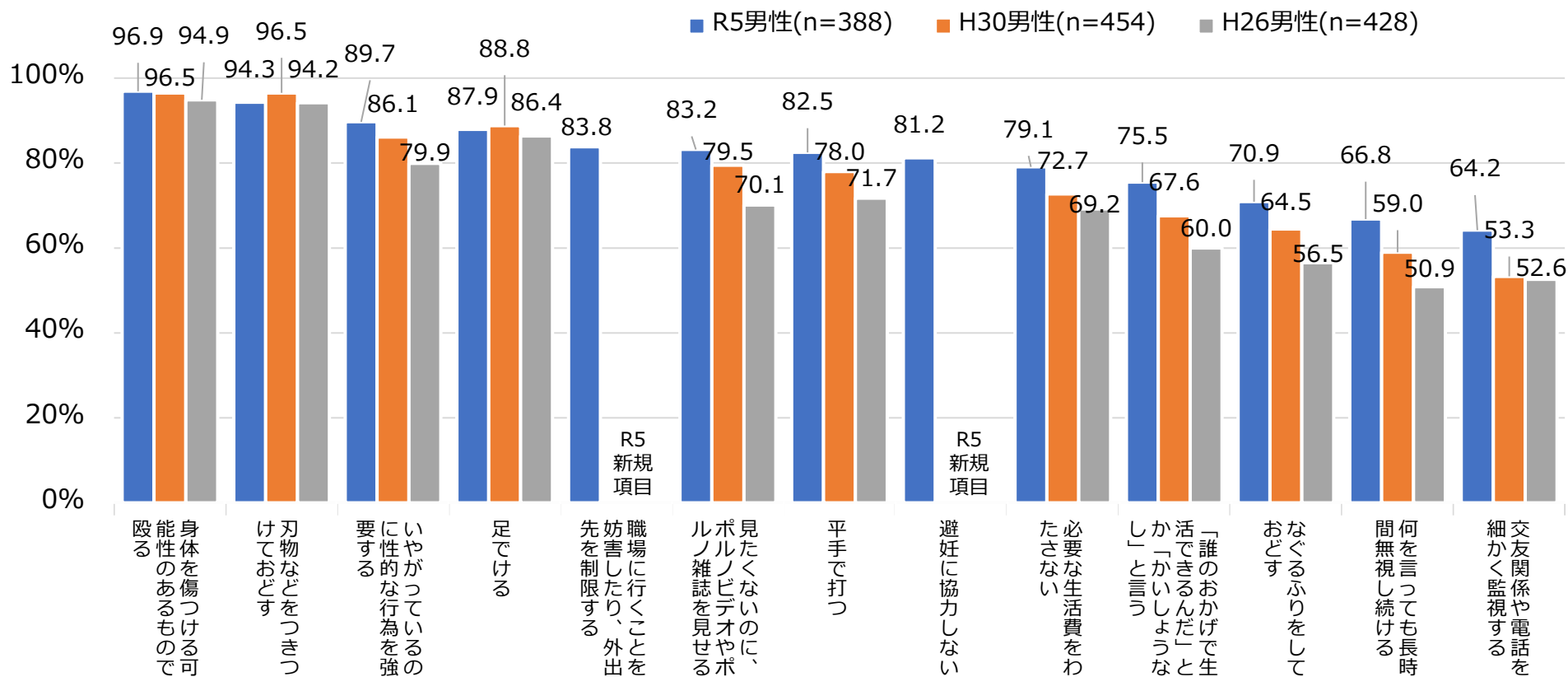
- 前回(H30)調査に比べて有意な上昇が見受けられたのは、『交友関係や電話を細かく監視する』(+11.4ポイント)、『何を言っても長時間無視し続ける』(+10.1ポイント)、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』(+8.6ポイント)、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う』(+8.4ポイント)、『なぐるふりをしておどす』(+6.4ポイント)、『平手で打つ』(+6.1ポイント)、『いやがっているのに性的な行為を強要する』(+3.2ポイント)であった。



ベース：全対象者

DVについての認識(男性)：「どんな場合でも暴力にあたると思う」

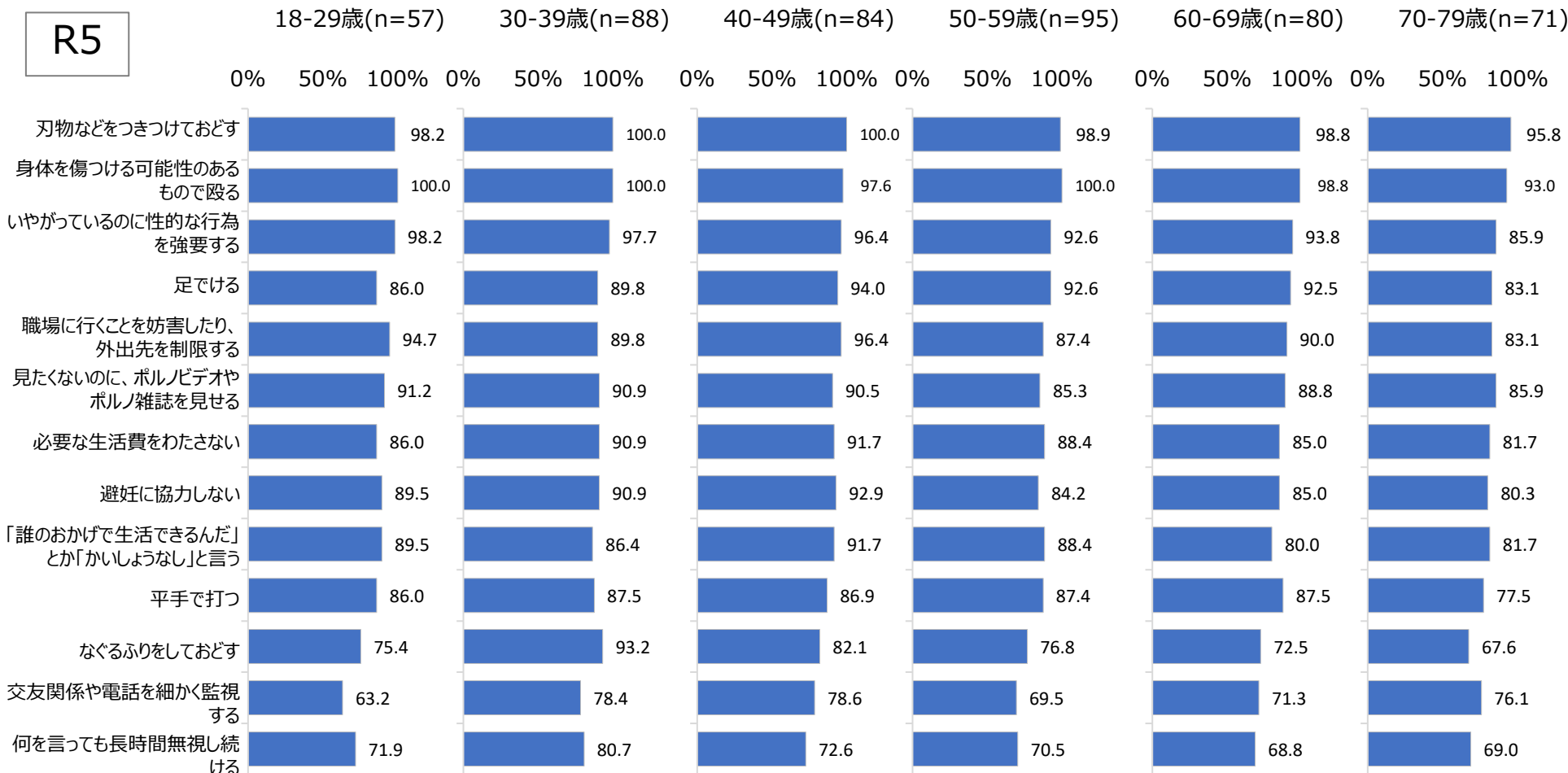
- 前回(H30)調査に比べて有意な上昇が見受けられたのは、『交友関係や電話を細かく監視する』(+10.9ポイント)、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う』(+7.9ポイント)、『何を言っても長時間無視し続ける』(+7.8ポイント)、『必要な生活費をわたさない』(+6.4ポイント)、『なぐるふりをしておどす』(+6.4ポイント)であった。



ベース：全対象者

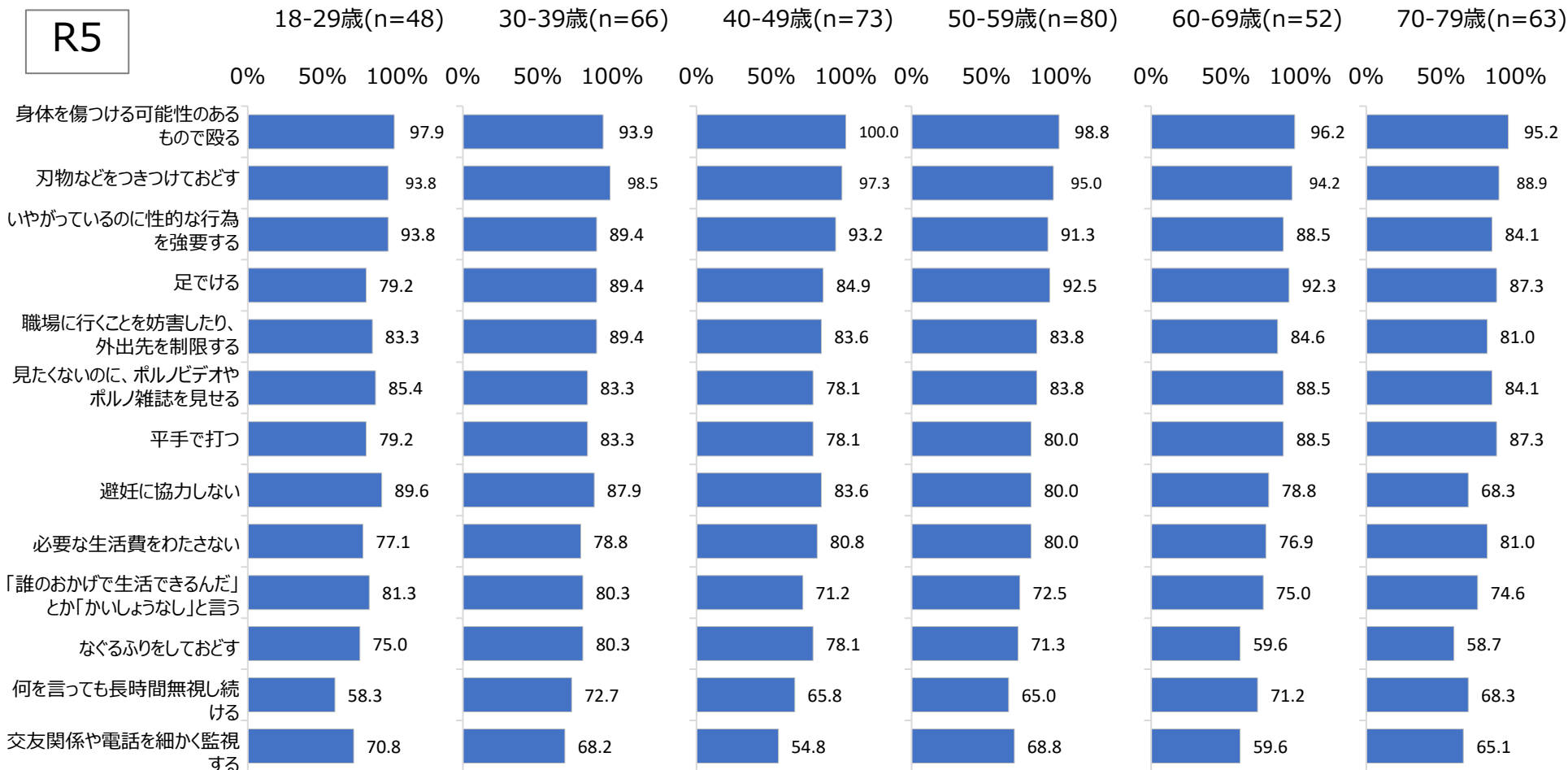
DVについての認識(女性、年代別)：「どんな場合でも暴力にあたると思う」

- ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割を超えるなかで、『何を言っても長時間無視し続ける』と『交友関係や電話を細かく監視する』については、多くの年代で6~7割台であった。



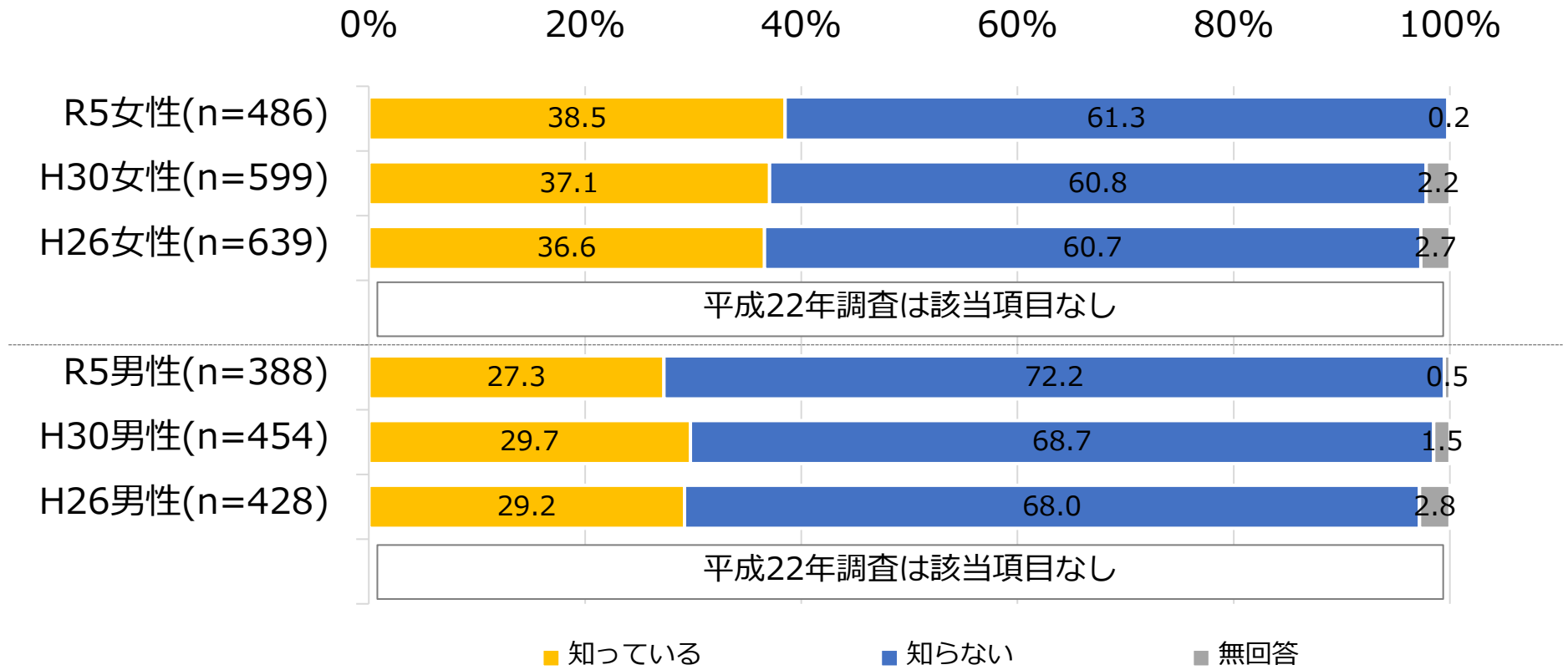
DVについての認識(男性、年代別)：「どんな場合でも暴力にあたると思う」

- ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割を超えるなかで、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う』『なぐるふりをしておどす』『何を言っても長時間無視し続ける』『交友関係や電話を細かく監視する』については、多くの年代で6~7割台であった。



DV相談窓口の認知

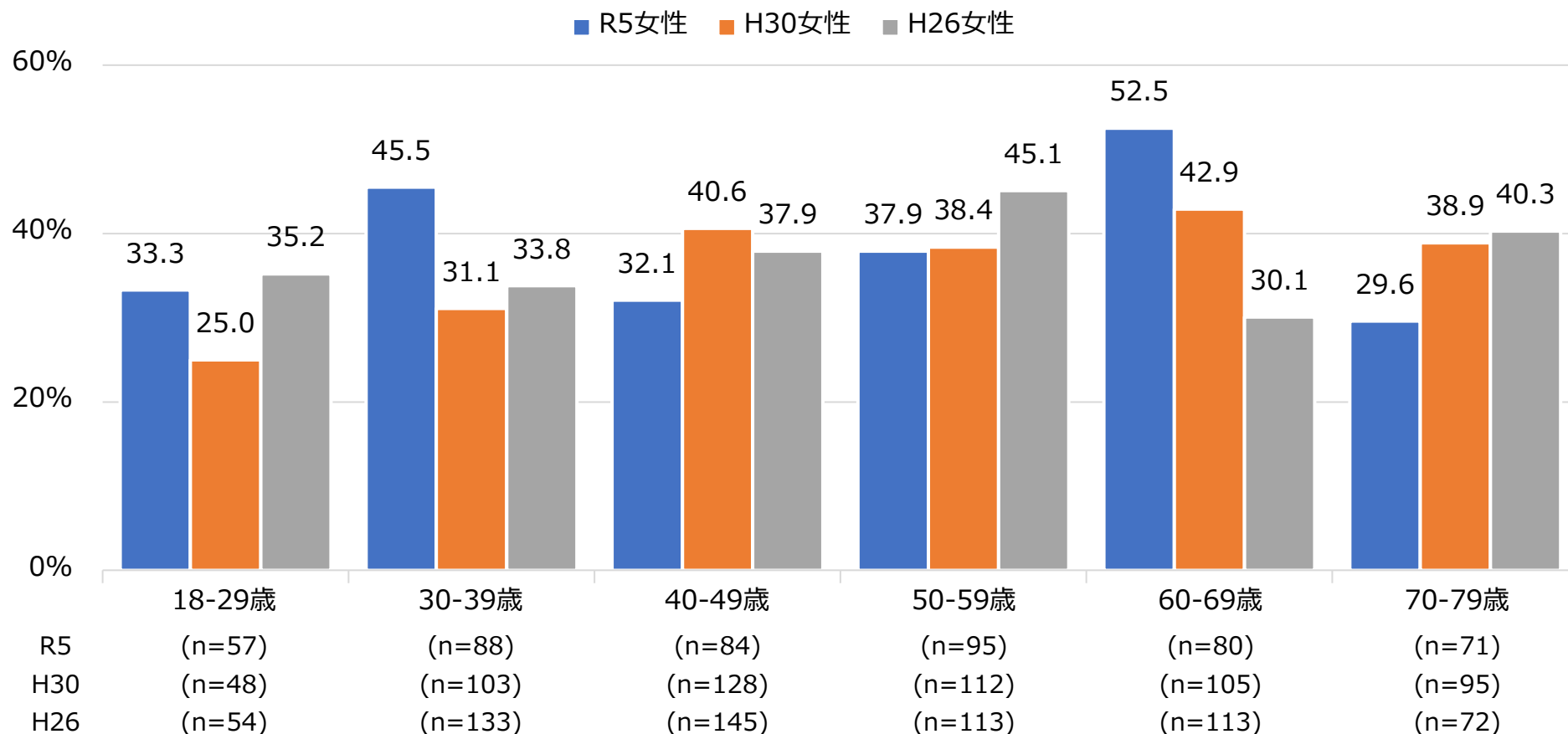
- 『DV相談窓口』の認知度(『DV相談窓口』を「知っている」割合)は、女性が38.5%に対して、男性では27.3%と、女性の方が有意に高かった。



ベース：全対象者

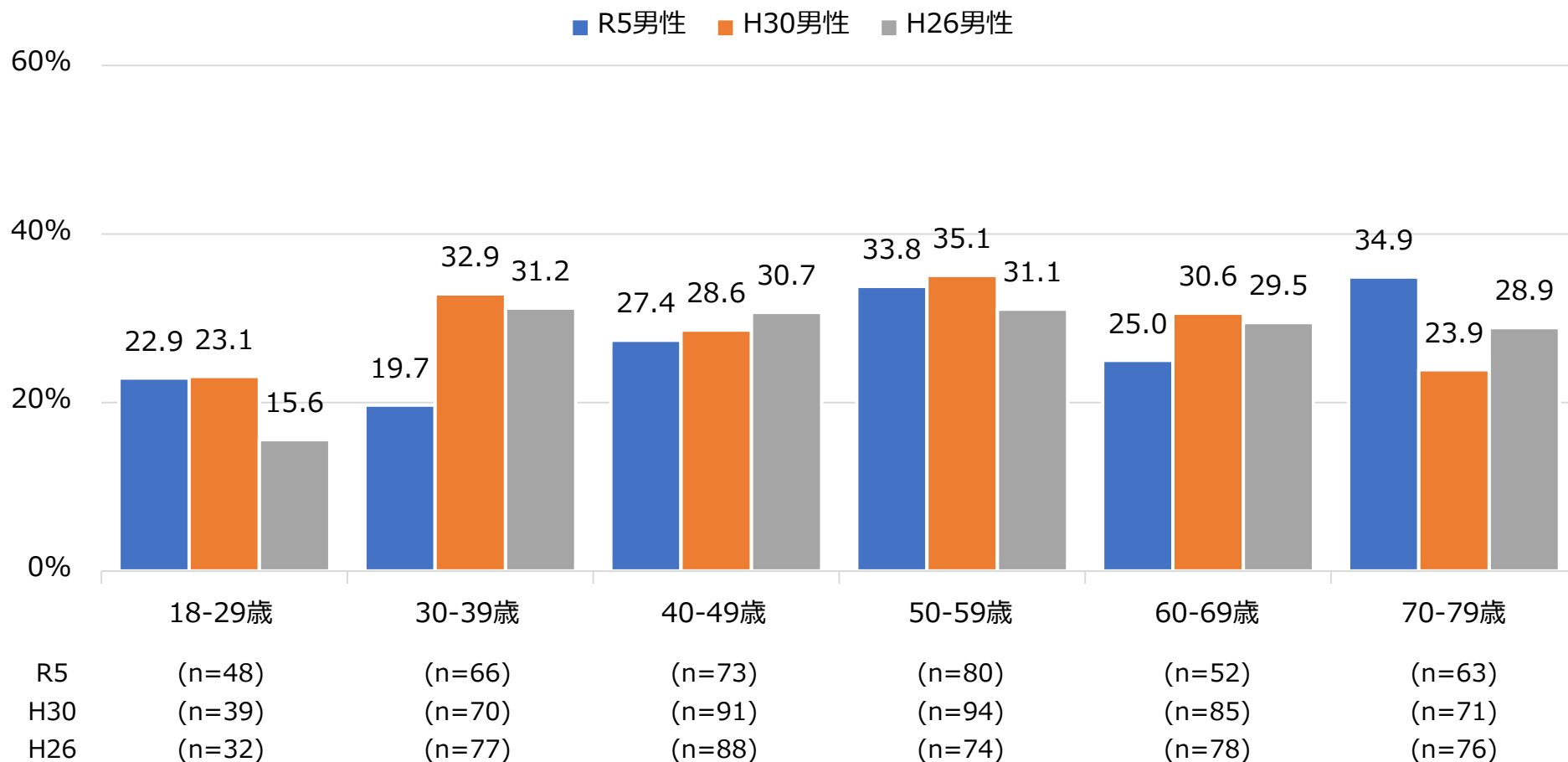
DV相談窓口の認知(女性、年代別)：「DV相談窓口を知っている」

- 『DV相談窓口』の認知度を女性について年代別で見ると、60代では5割を超え、30代でも4割を超えた。
- 前回(H30)調査に比べ、30代では認知度が有意に上昇した。



DV相談窓口の認知(男性、年代別)：「DV相談窓口を知っている」

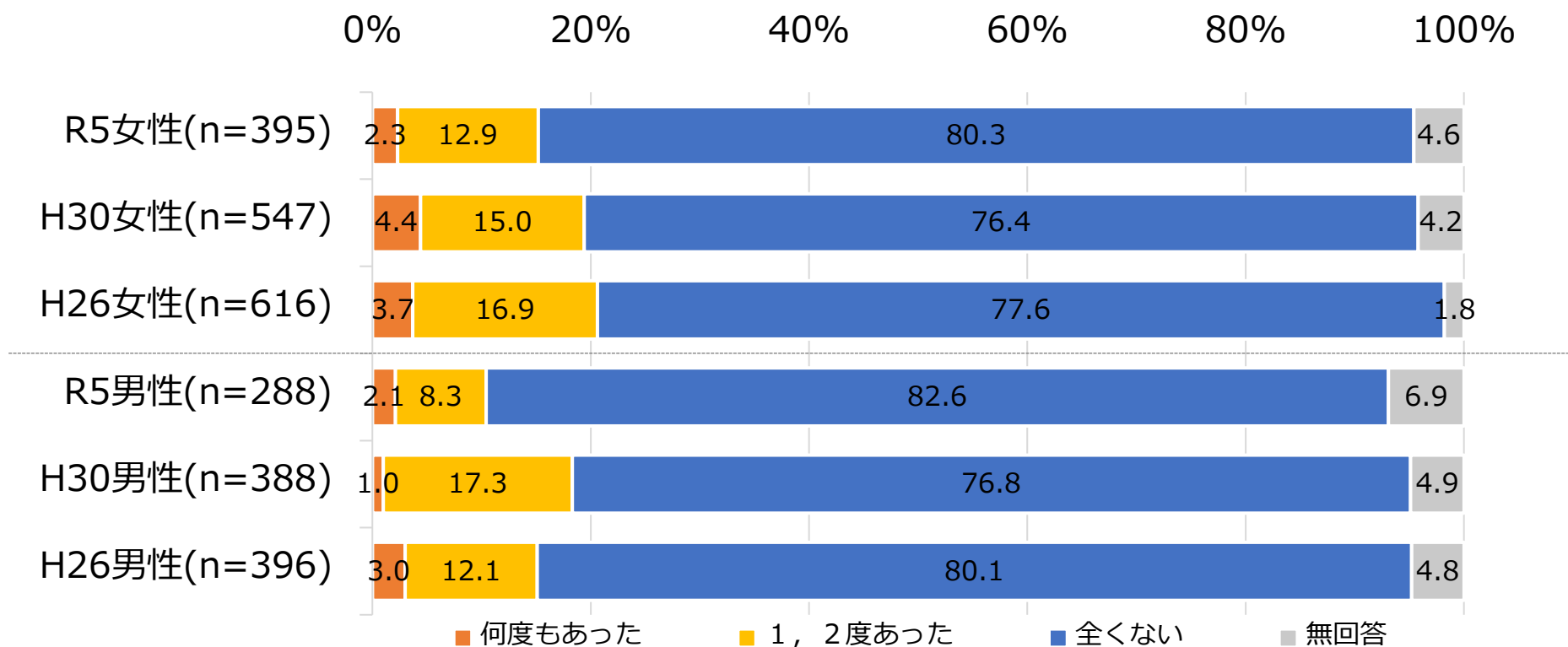
- 『DV相談窓口』の認知度は、50代と70代で3割を超えた。
- 前回(H30)調査に比べ、認知度に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

これまでのDV被害経験：身体的暴力

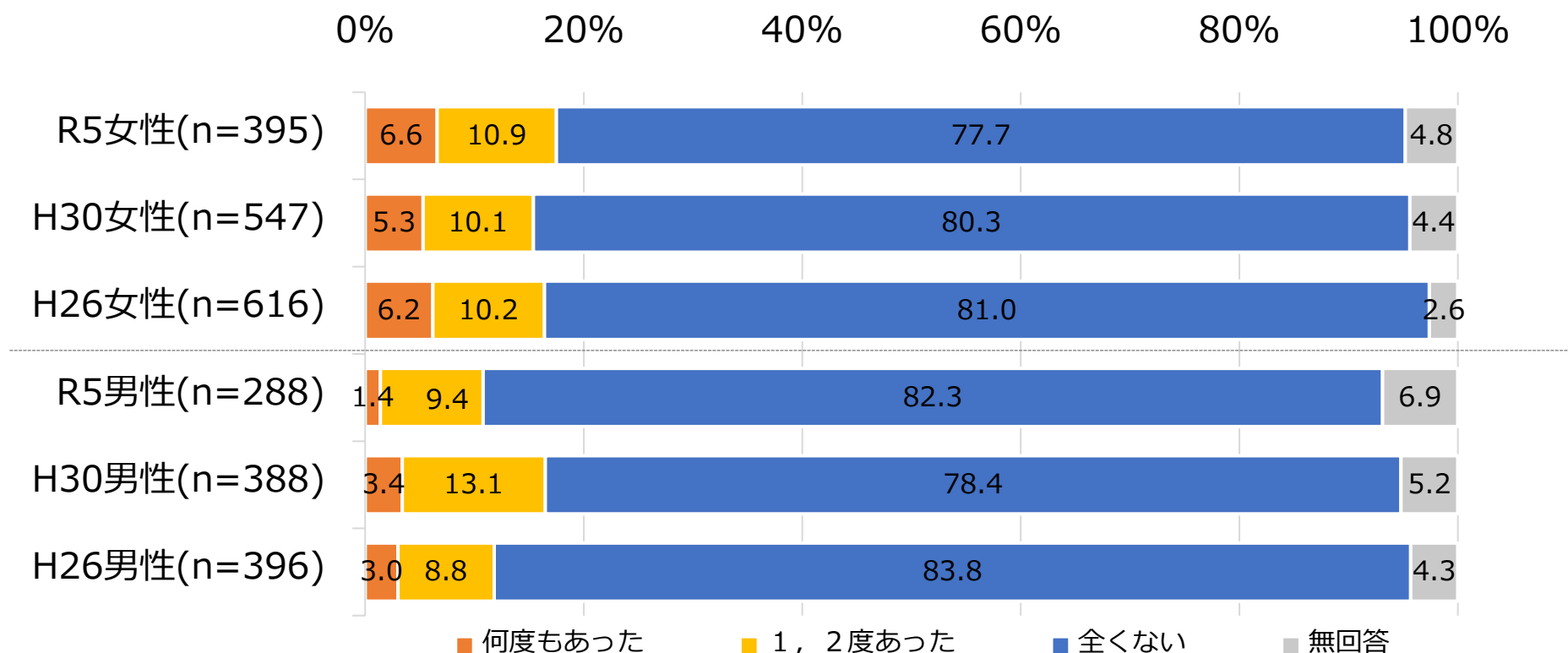
- これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人にDV被害経験について尋ねたところ、『身体的暴力』について「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した＜DV被害経験率＞は、女性では15.2%、男性では10.4%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、男性で『身体的暴力』の＜DV被害経験率＞が有意に低下した。



身体的暴力 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」

これまでのDV被害経験：精神的暴力

- 『精神的暴力』の<DV被害経験率>は、女性では17.5%、男性では10.8%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、男性で『精神的暴力』の<DV被害経験率>が有意に低下した。

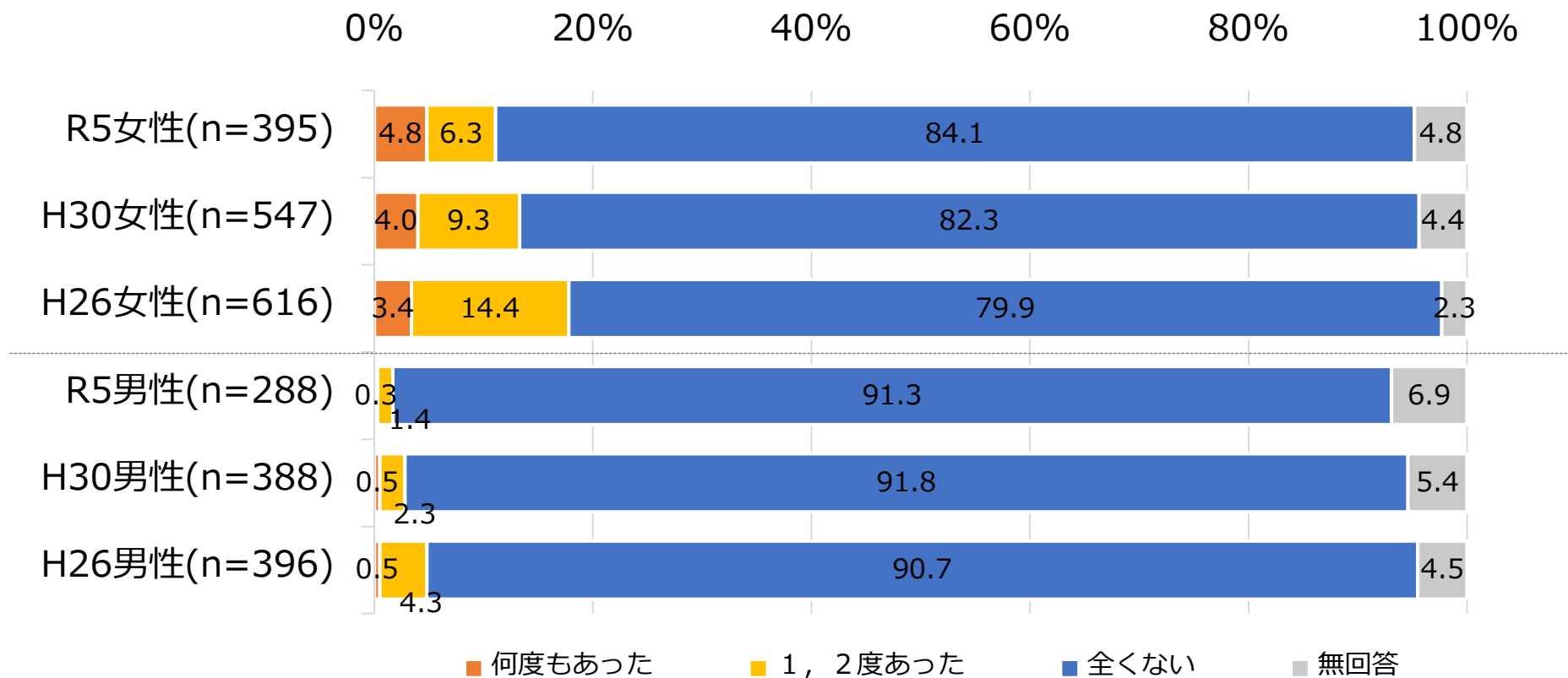


精神的暴力 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

これまでのDV被害経験：性的強要

- 『性的強要』の<DV被害経験率>は、女性では11.1%、男性では1.7%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに『性的強要』の<DV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

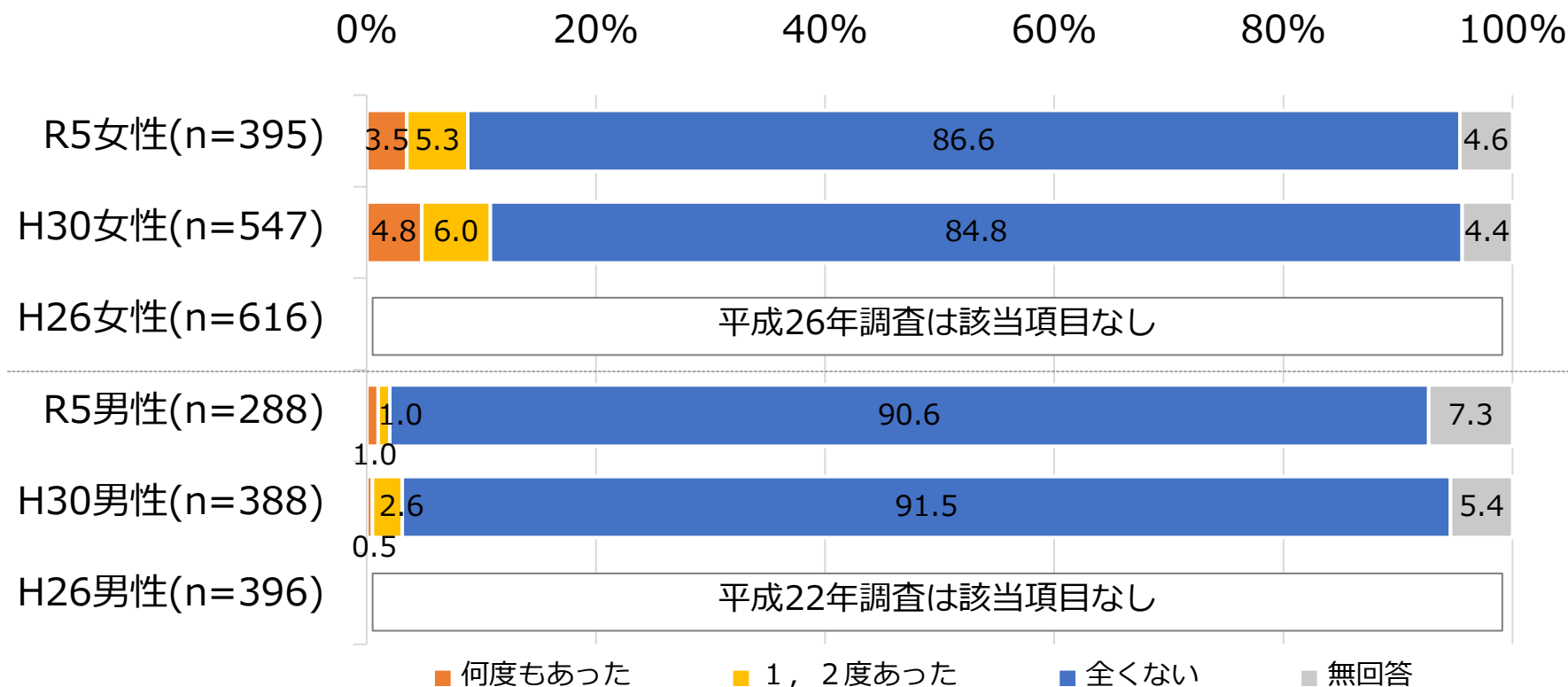


性的強要 「いやがっているのに性的な行為を強要された」

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

これまでのDV被害経験：経済的圧迫

- 『経済的圧迫』の<DV被害経験率>は、女性では8.9%、男性では2.1%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに『経済的圧迫』の<DV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

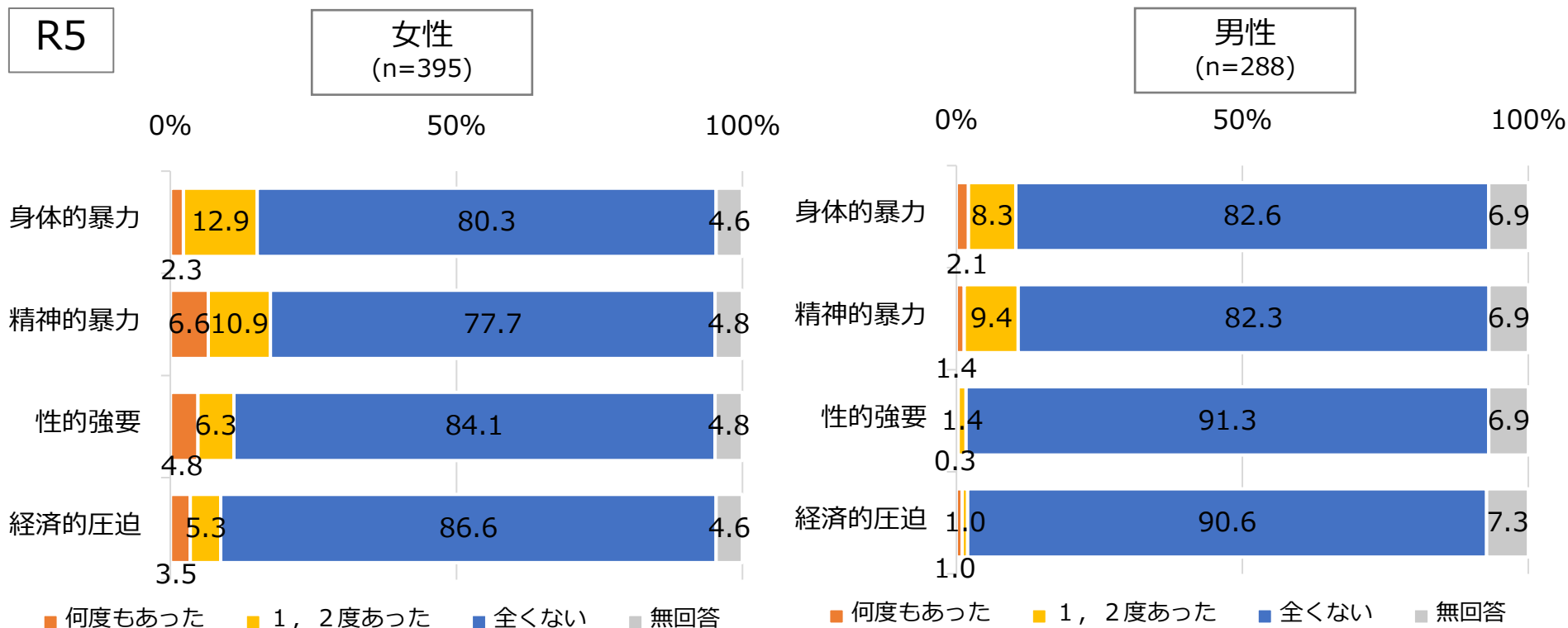


経済的圧迫 「生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなどの経済的圧迫を受けた」

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

配偶者・パートナーから受けたDVの種類別被害経験

- <DV被害経験率> を種類別に見ると、男女ともに、『身体的暴力』と『精神的暴力』が『性的強要』や『経済的圧迫』よりも高い傾向であった。

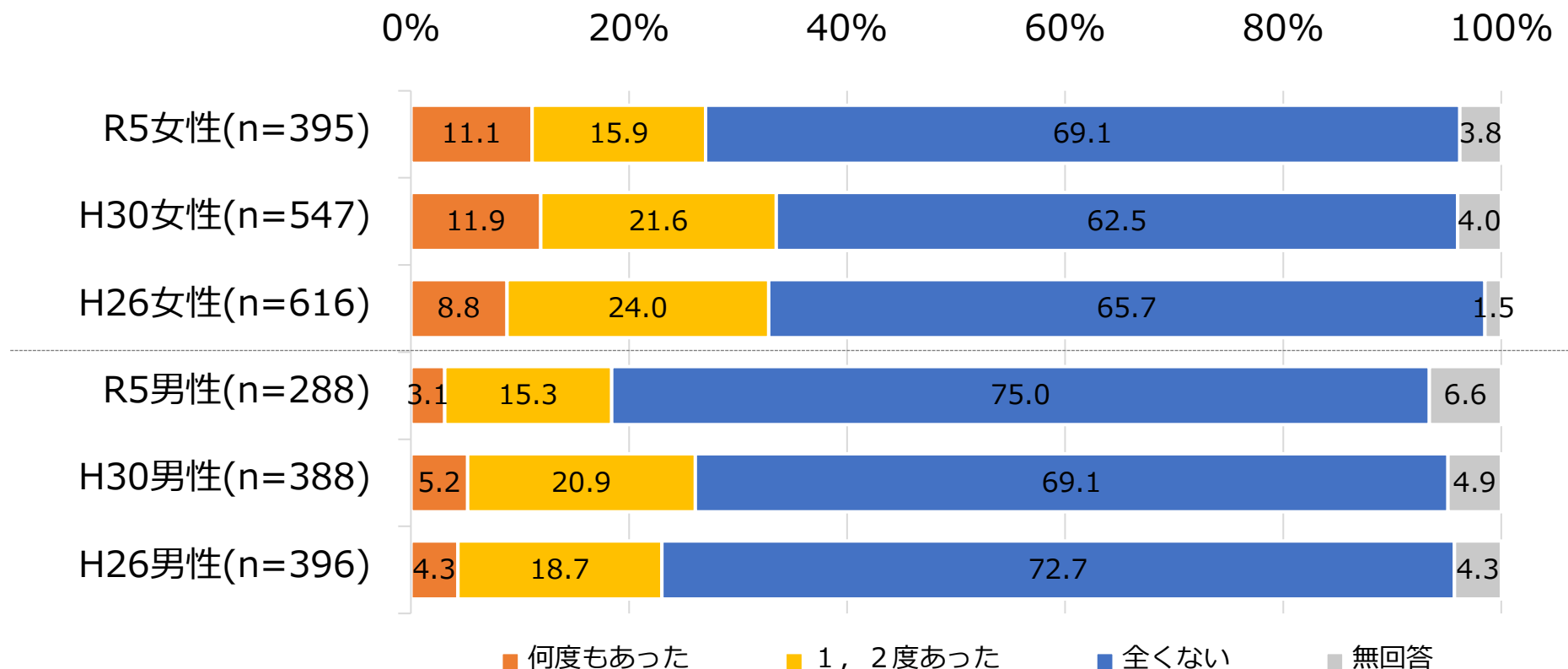


身体的暴力 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」
精神的暴力 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」
性的強要 「いやがっているのに性的な行為を強要された」
経済的圧迫 「生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなどの経済的圧迫を受けた」

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

これまでのDV被害経験：いずれかの暴力を受けたことがある

- 『身体的暴力』『精神的暴力』『性的強要』『経済的圧迫』のいずれかを受けたことがある人の割合を<DV被害経験率>とすると、女性では27.1%、男性では18.4%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<DV被害経験率>が有意に低下した。



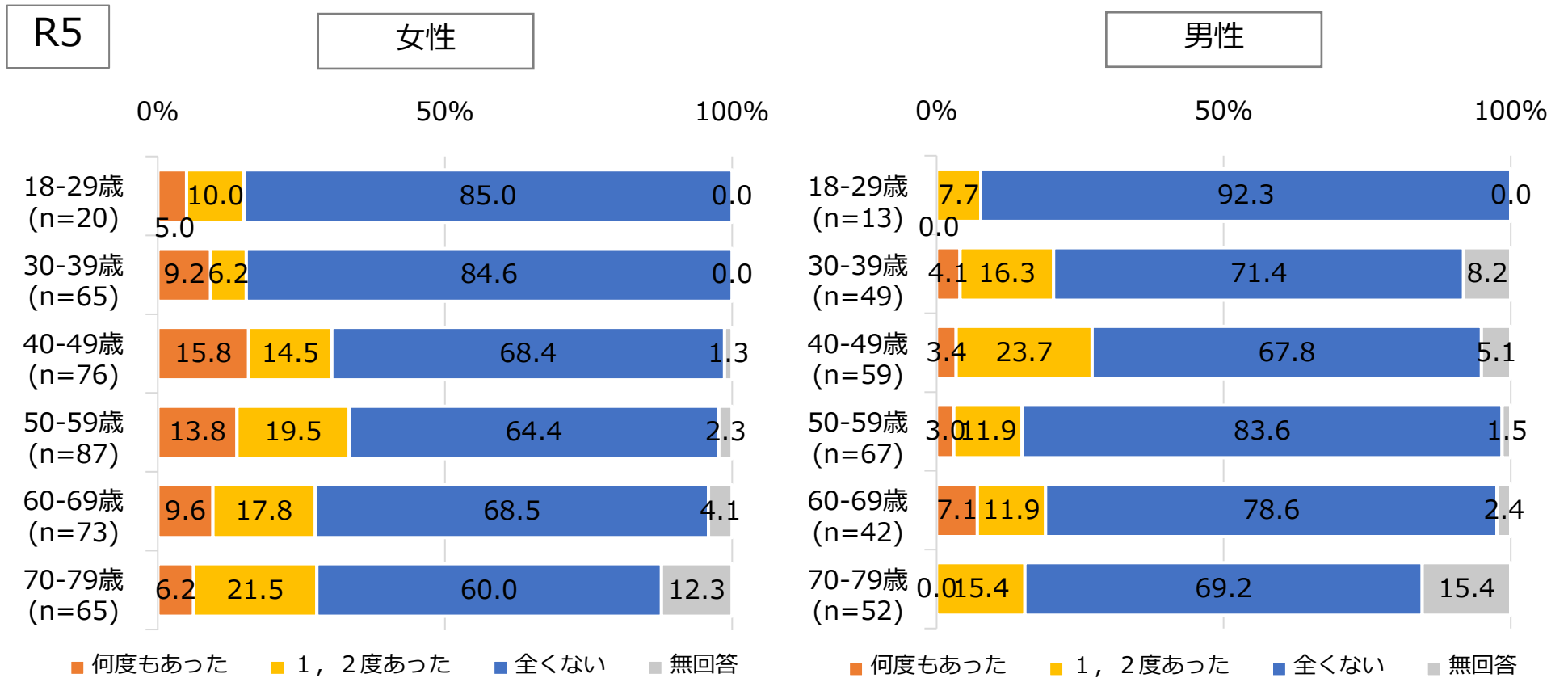
いずれかの暴力を受けたことがある 「身体的暴力」「精神的暴力」「性的強要」「経済的圧迫」のいずれかを受けたことがある人

※ H26は「経済的圧迫を含んでいない」

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

これまでのDV被害経験：いずれかの暴力を受けたことがある(年代別)

- 女性では、40代と50代で<DV被害経験率>が3割を超え、60代と70代では3割弱であった。
- 男性では、30代と40代で<DV被害経験率>が2割を超えた。

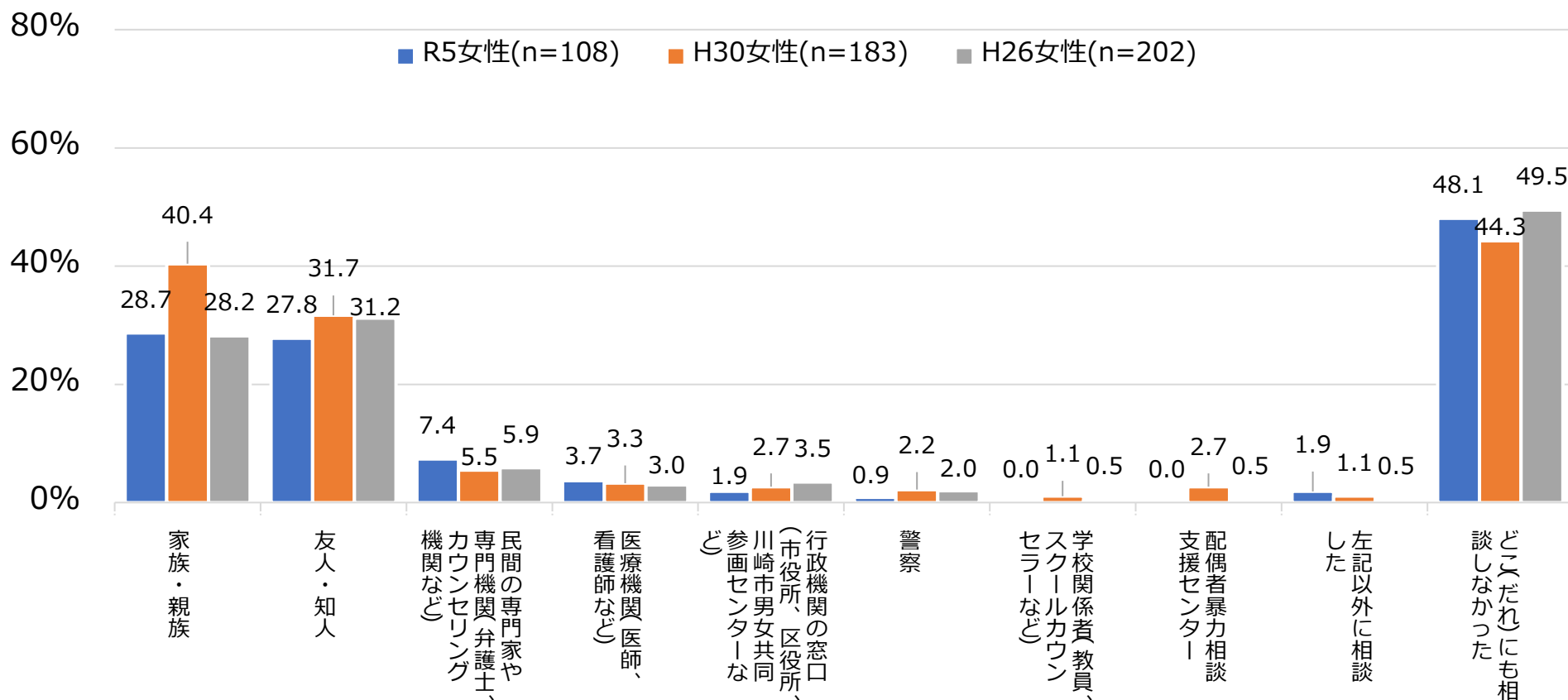


いずれかの暴力を受けたことがある 「身体的暴力」「精神的暴力」「性的強要」「経済的圧迫」のいずれかを受けたことがある人

ベース：これまでに配偶者やパートナーがいたことがある人

DV被害の相談先(女性、複数回答)

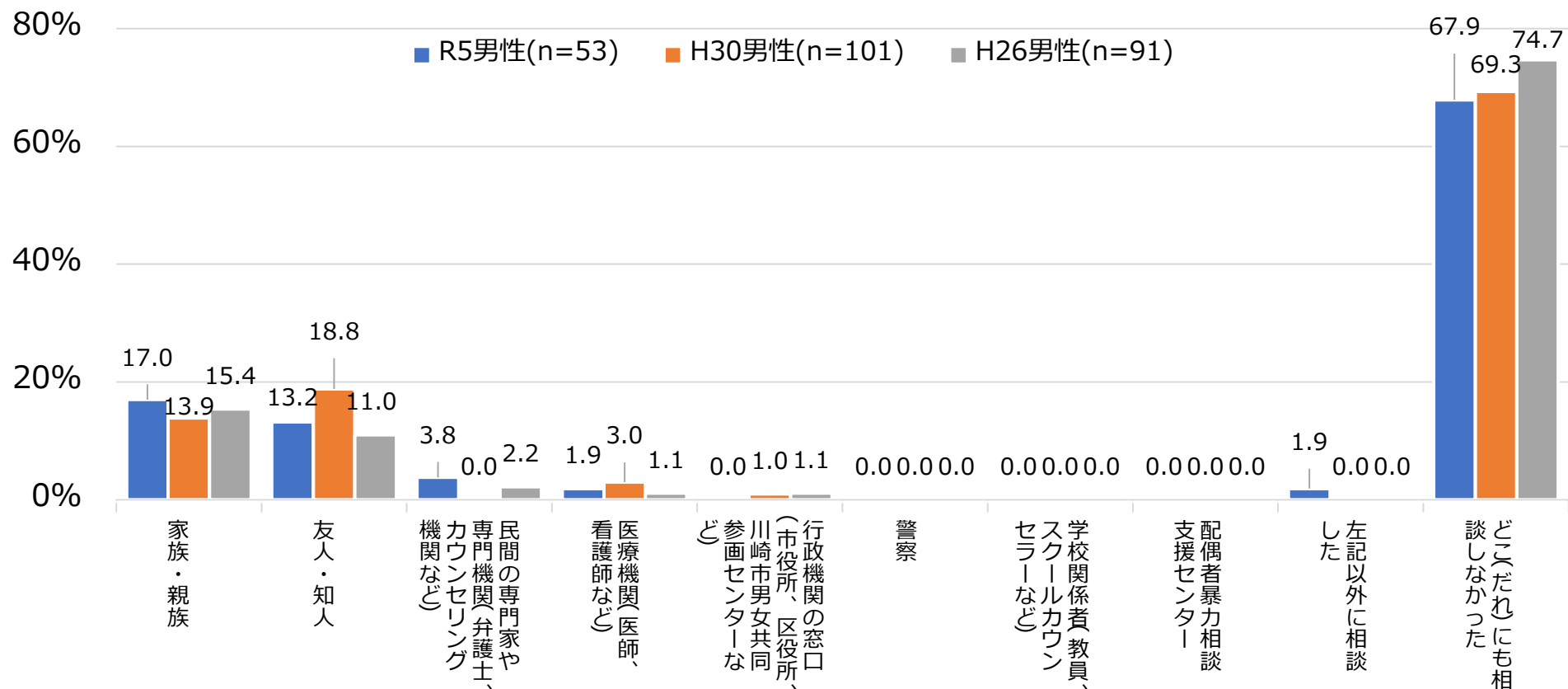
- 『DV被害の相談先』を尋ねたところ、「家族・親族」(28.7%)と「友人・知人」(27.8%)が主な相談先であった。一方で、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が48.1%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、「家族・親族」と「配偶者暴力相談支援センター」が有意に低下した。



ベース：配偶者・パートナーからのDVを受けたことがある人

DV被害の相談先(男性、複数回答)

- 男性でも女性と同様、「家族・親族」(17.0%)と「友人・知人」(13.2%)が主な相談先であった。一方で、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が67.9%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、有意な変化は見受けられなかった。

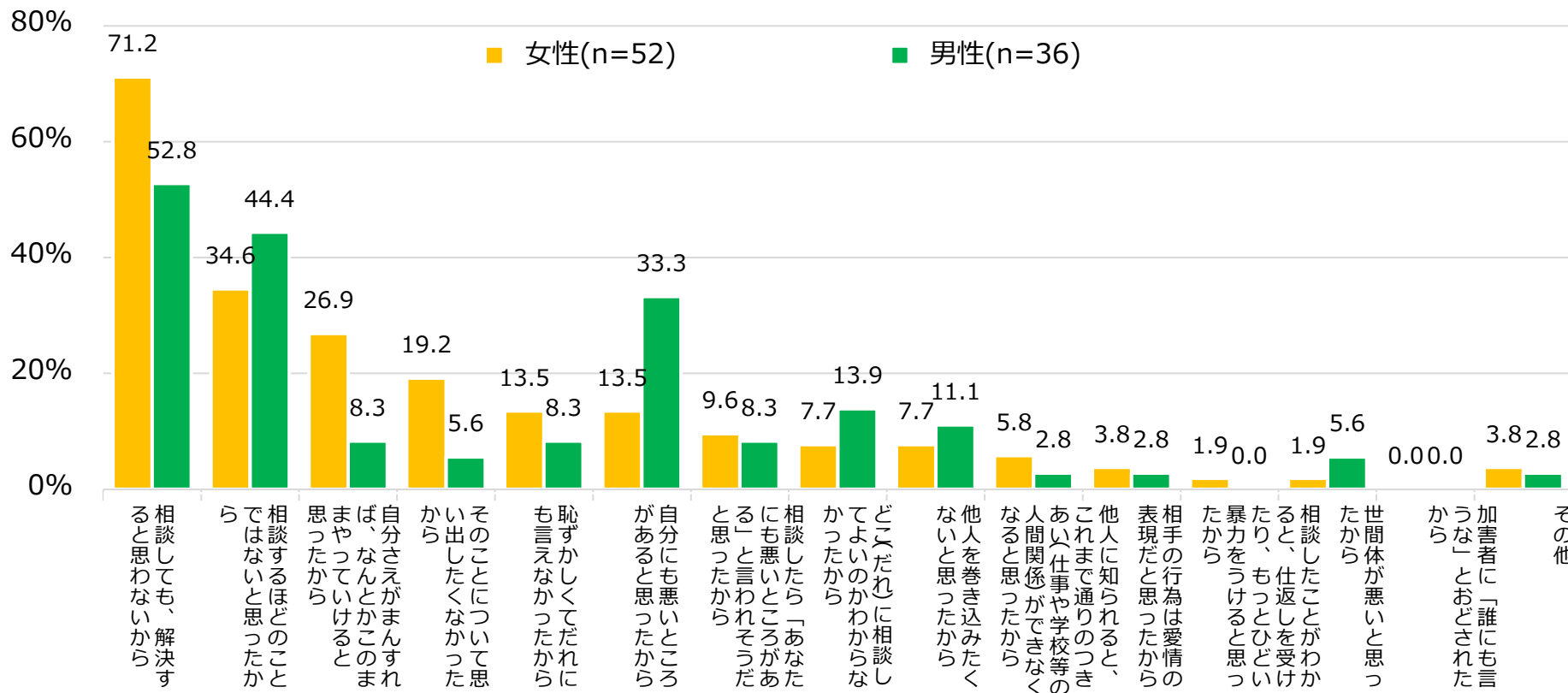


ベース：配偶者・パートナーからのDVを受けたことがある人

DV被害について相談しなかった理由(性別、複数回答)

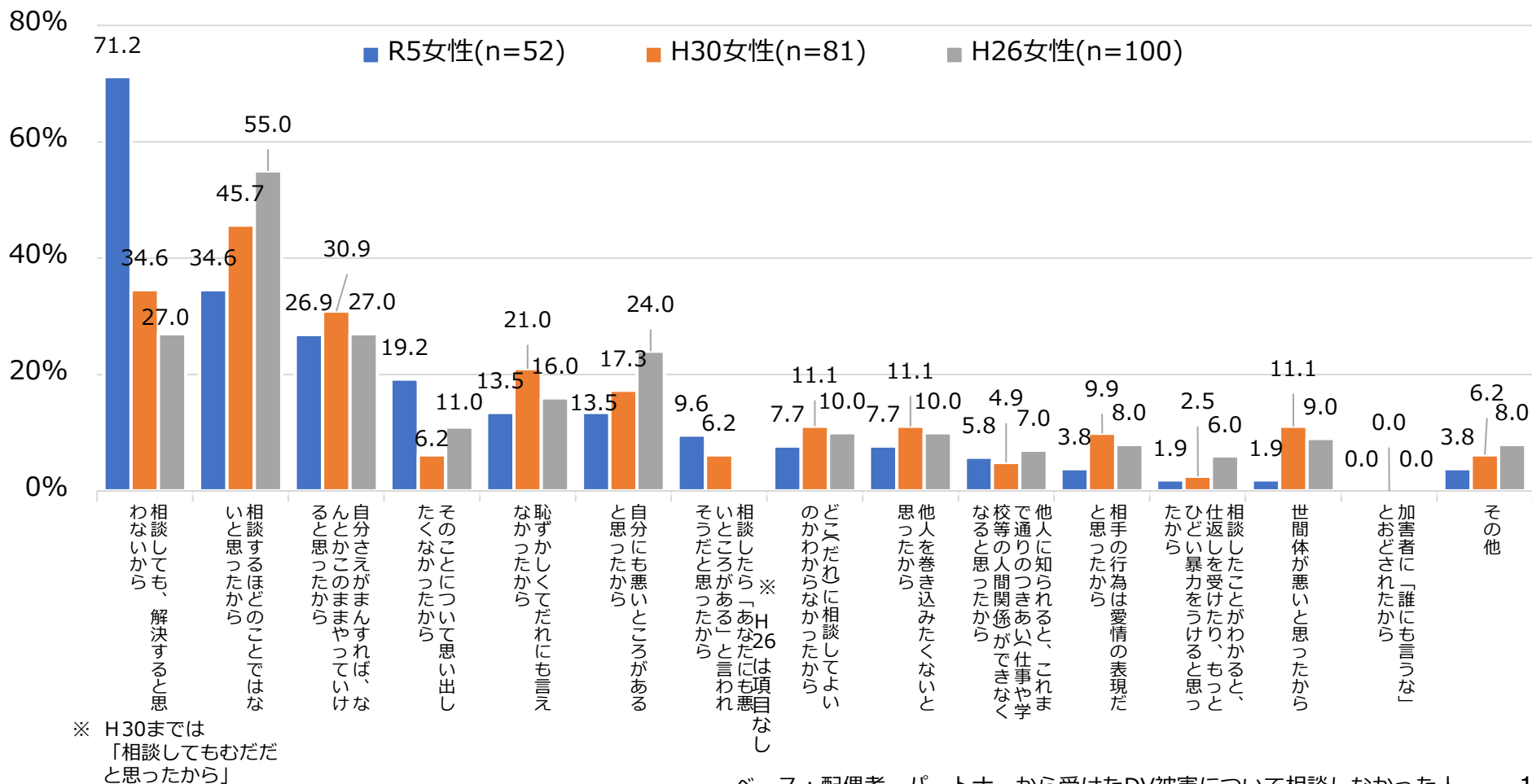
- 配偶者・パートナーから受けたDV被害について相談しなかった人に『DV被害について相談しなかった理由』を尋ねたところ、男女ともに「相談しても、解決すると思わないから」(女性：71.2%、男性：52.8%)が最も高かった。「相談するほどのことではないと思ったから」が女性34.6%、男性44.4%で2番目に高かった。
- 「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたら良かったから」が女性26.9%、男性8.3%、「自分にも悪いところがあったから」は女性13.5%、男性33.3%だった。

R5



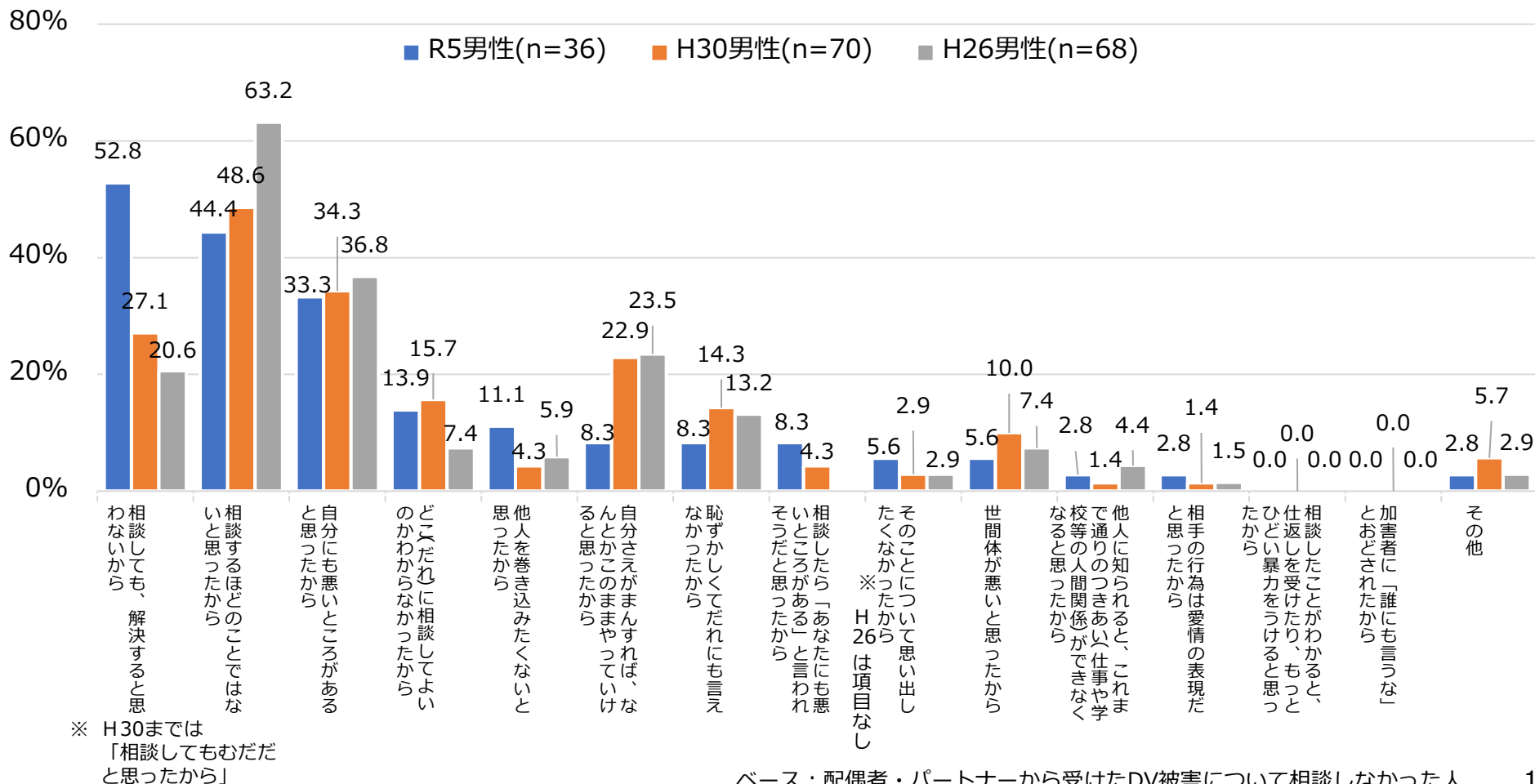
DV被害について相談しなかった理由(女性、複数回答)

- 配偶者・パートナーから受けたDV被害について相談しなかった人に『DV被害について相談しなかった理由』を尋ねたところ、「相談しても、解決すると思わないから」が71.2%で最も高かった。他には、「相談するほどのことではないと思ったから」(34.6%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたらよかったから」(26.9%)などであった。



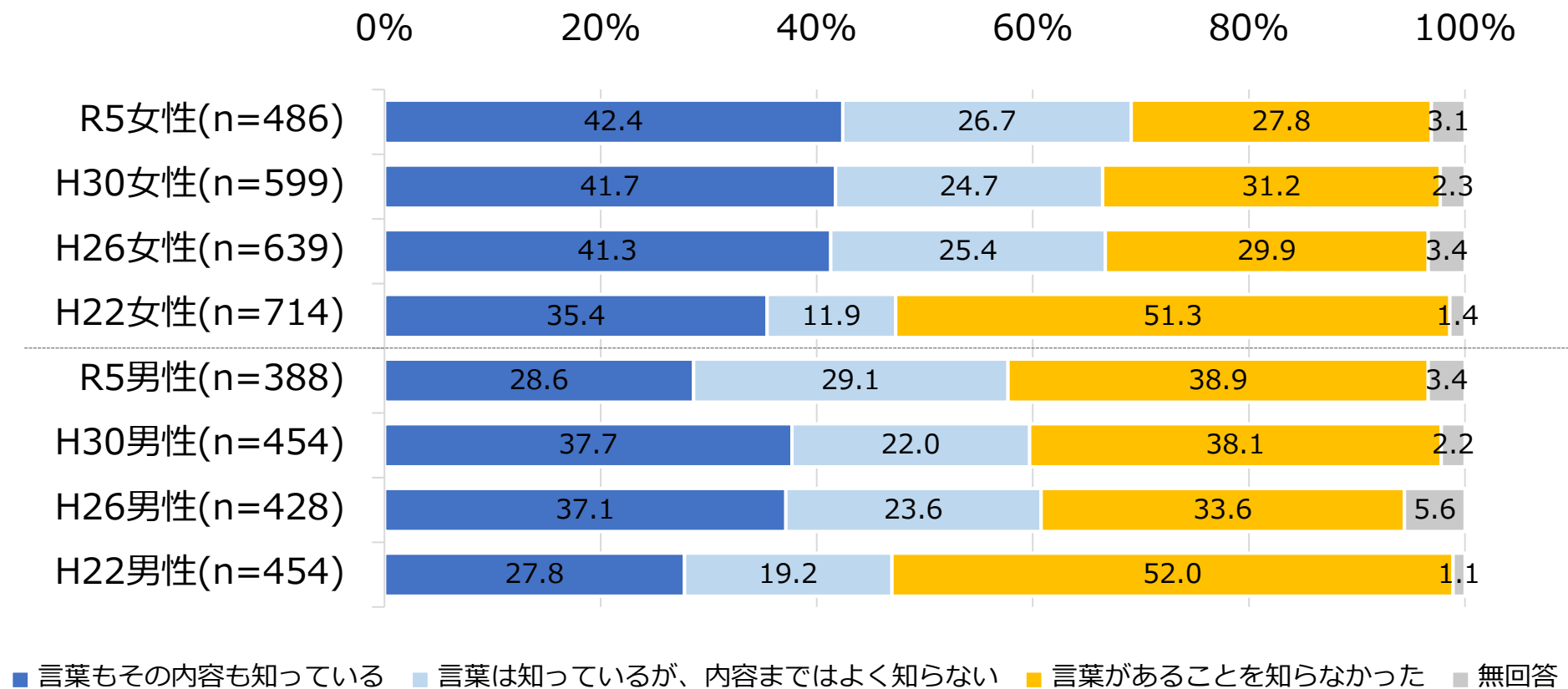
DV被害について相談しなかった理由(男性、複数回答)

● 配偶者・パートナーから受けたDV被害について相談しなかった人に『DV被害について相談しなかった理由』を尋ねたところ、「相談しても、解決すると思わないから」が52.8%で最も高かった。他には、「相談するほどのことではないと思ったから」(44.4%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(33.3%)などであった。



デートDVの認知

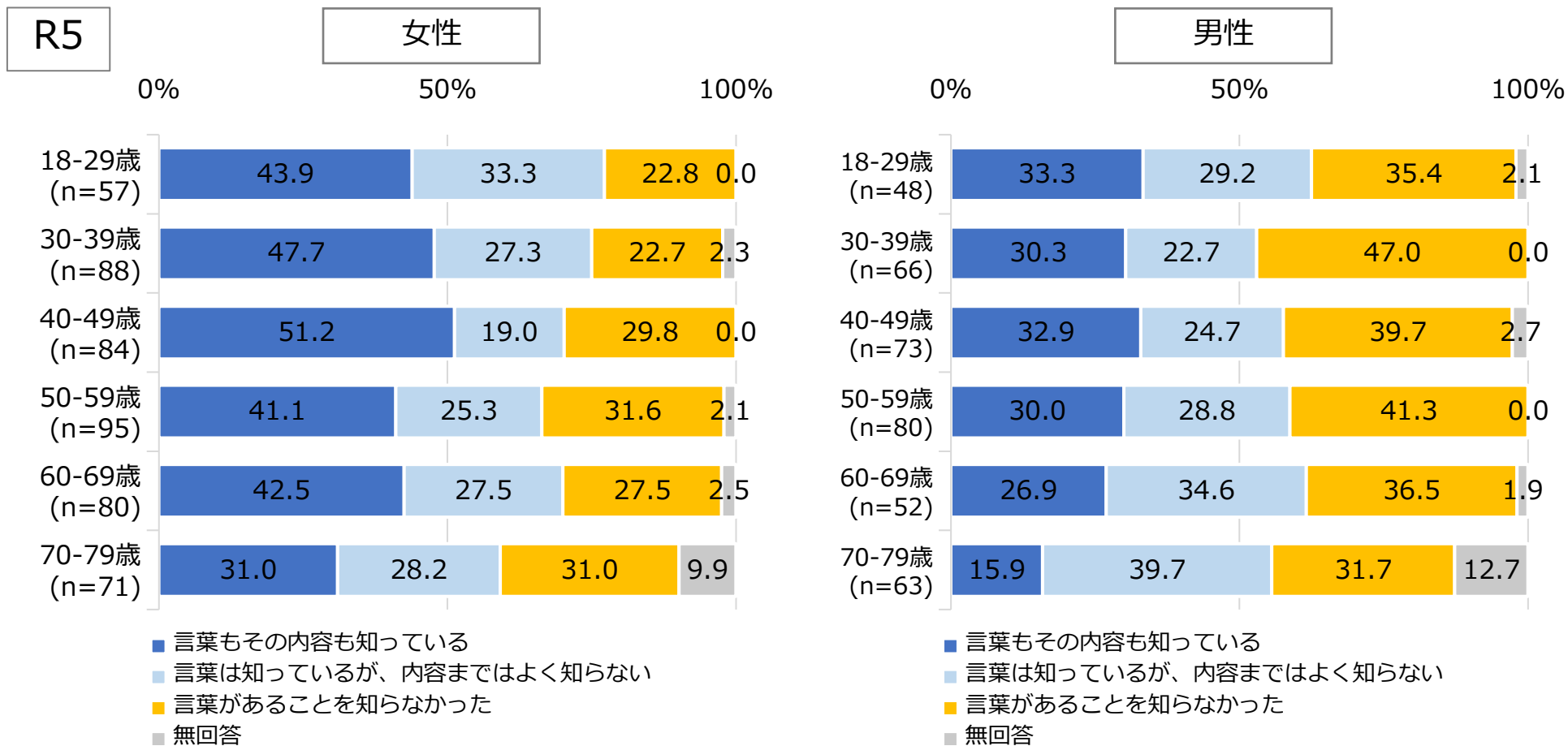
- 『デートDV』について「言葉もその内容も知っている」と「言葉は知っているが、内容まではよく知らない」を合計した<認知度>は、女性が69.1%対して、男性では57.7%と、女性の方が有意に高かった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<認知度>に有意な変化は見受けられなかった。



ベース：全対象者

デートDVの認知(年代別)

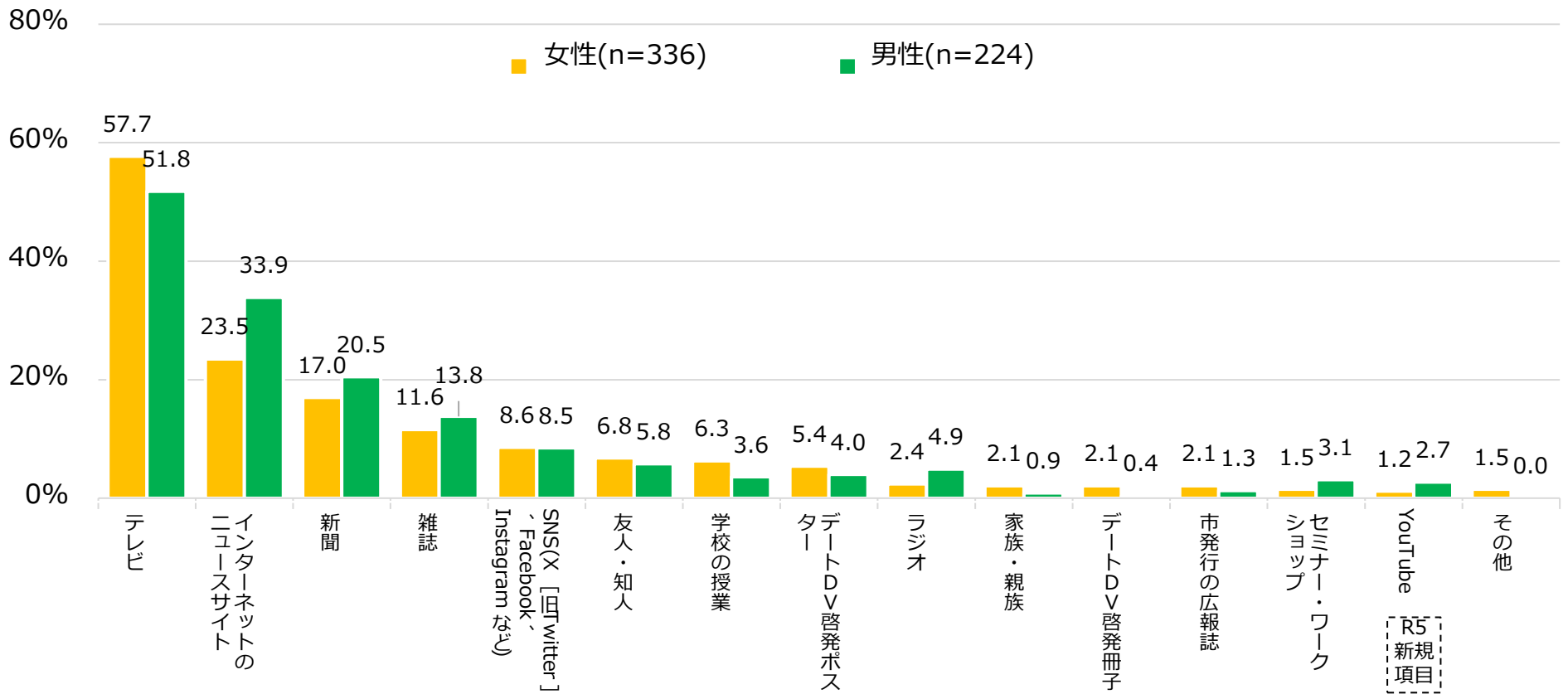
- 『デートDV』の<認知度>は、すべての性・年代で5割を超えており、特に、女性の40代以下と60代で7割を超えた。男性においても、30歳未満と60代で6割を超えた。



デートDVの認知経路(性別、複数回答)

- 『デートDV』という言葉を知っている人に、その認知経路を尋ねたところ、男女ともに「テレビ」(女性：57.7%、男性：51.8%)が最も高かった。
- インターネットのニュースサイトが二番目に高く、女性23.5%、男性33.9%であった。

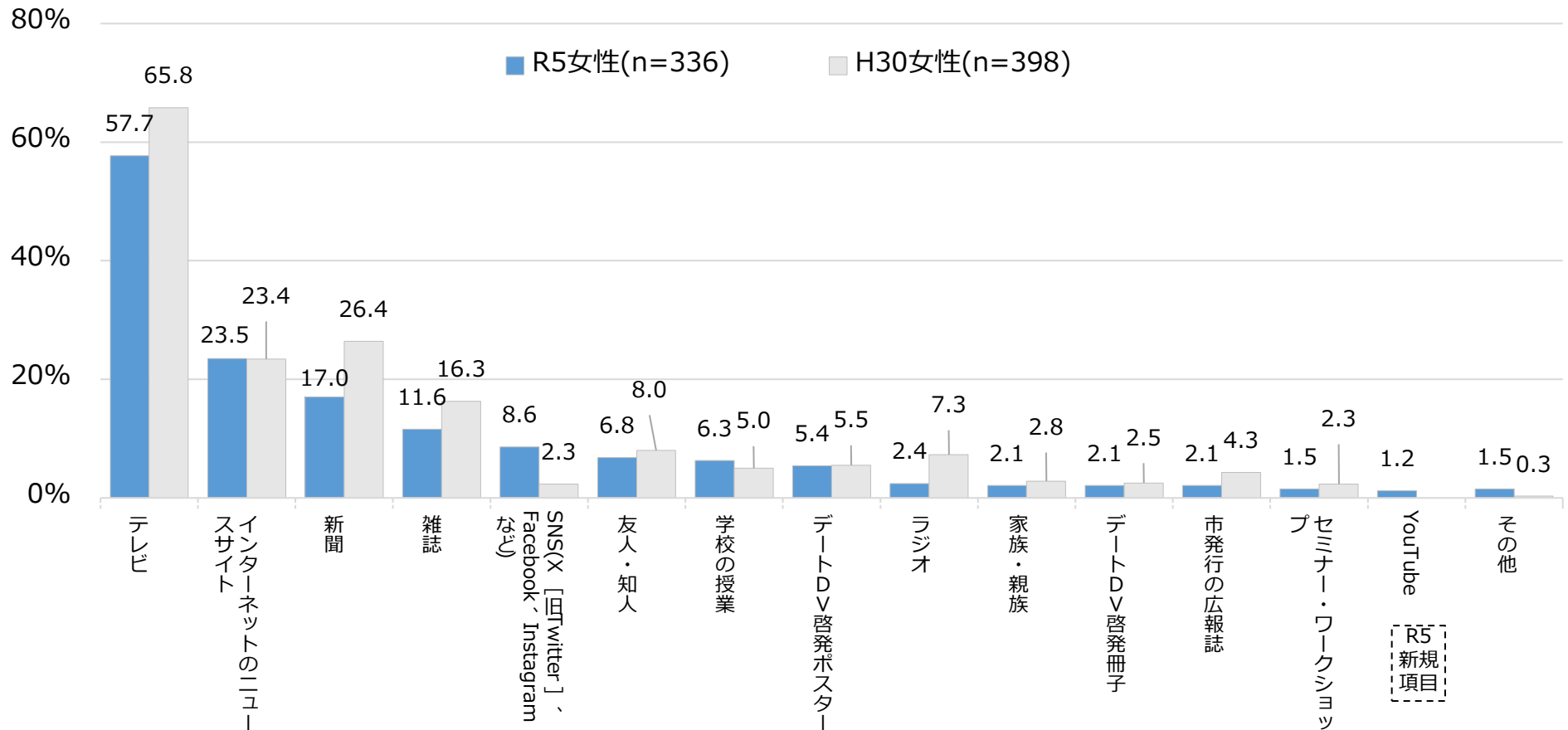
R5



ベース：デートDVという言葉を知っている人

デートDVの認知経路(女性、複数回答)

- 『デートDV』という言葉を知っている人に、その認知経路を尋ねたところ、「テレビ」が57.7%で最も高く、他には、「インターネットのニュースサイト」(23.5%)、「新聞」(17.0%)、「雑誌」(11.6%)などであった。

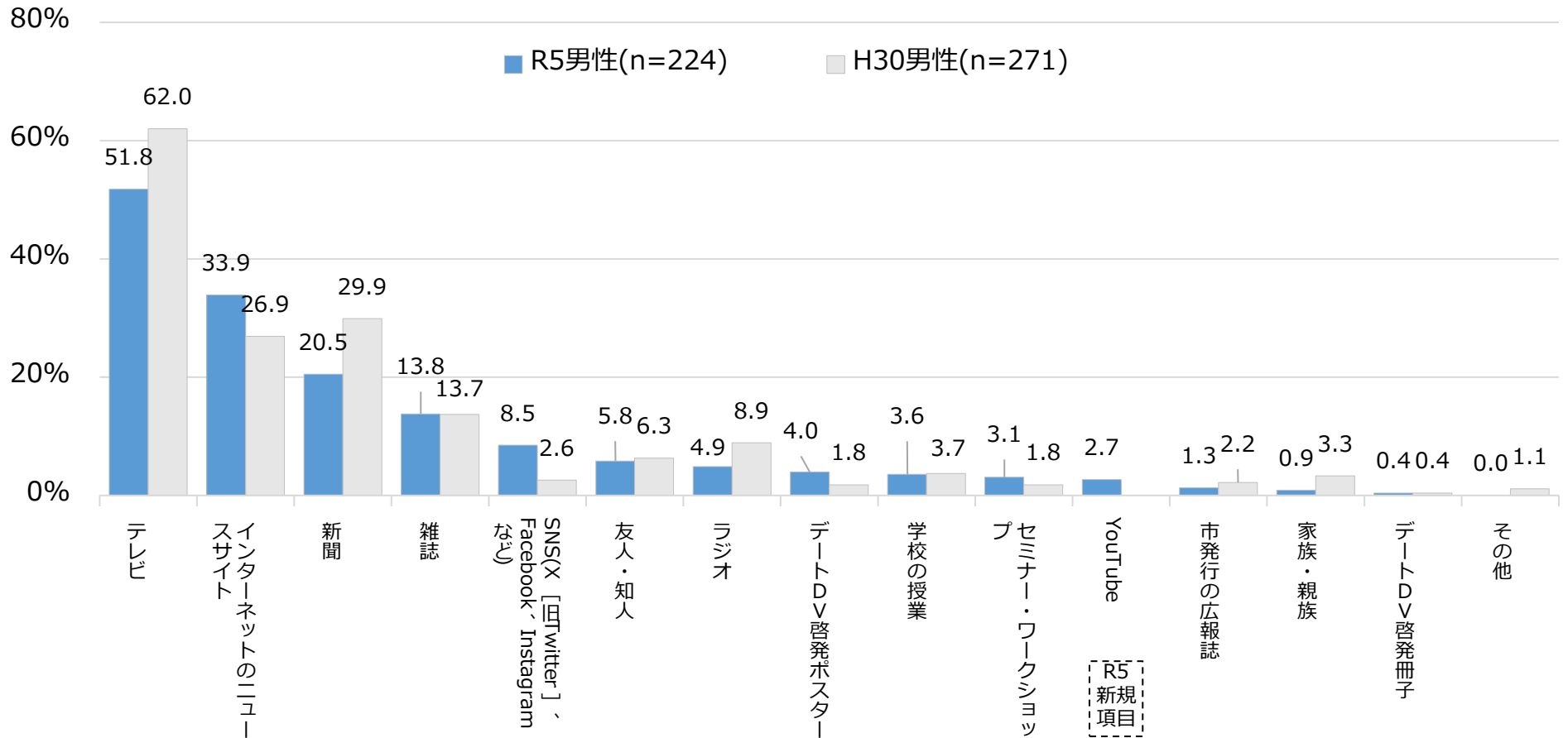


※ H30では「Twitter(2.3%)」と「Facebook(0.3%)」に分かれていた。

ベース：デートDVという言葉を知っている人

デートDVの認知経路(男性、複数回答)

- 『デートDV』の認知経路について、男性でも「テレビ」が51.8%で最も高く、他には、「インターネットのニュースサイト」(33.9%)、「新聞」(20.5%)、「雑誌」(13.8%)などであった。



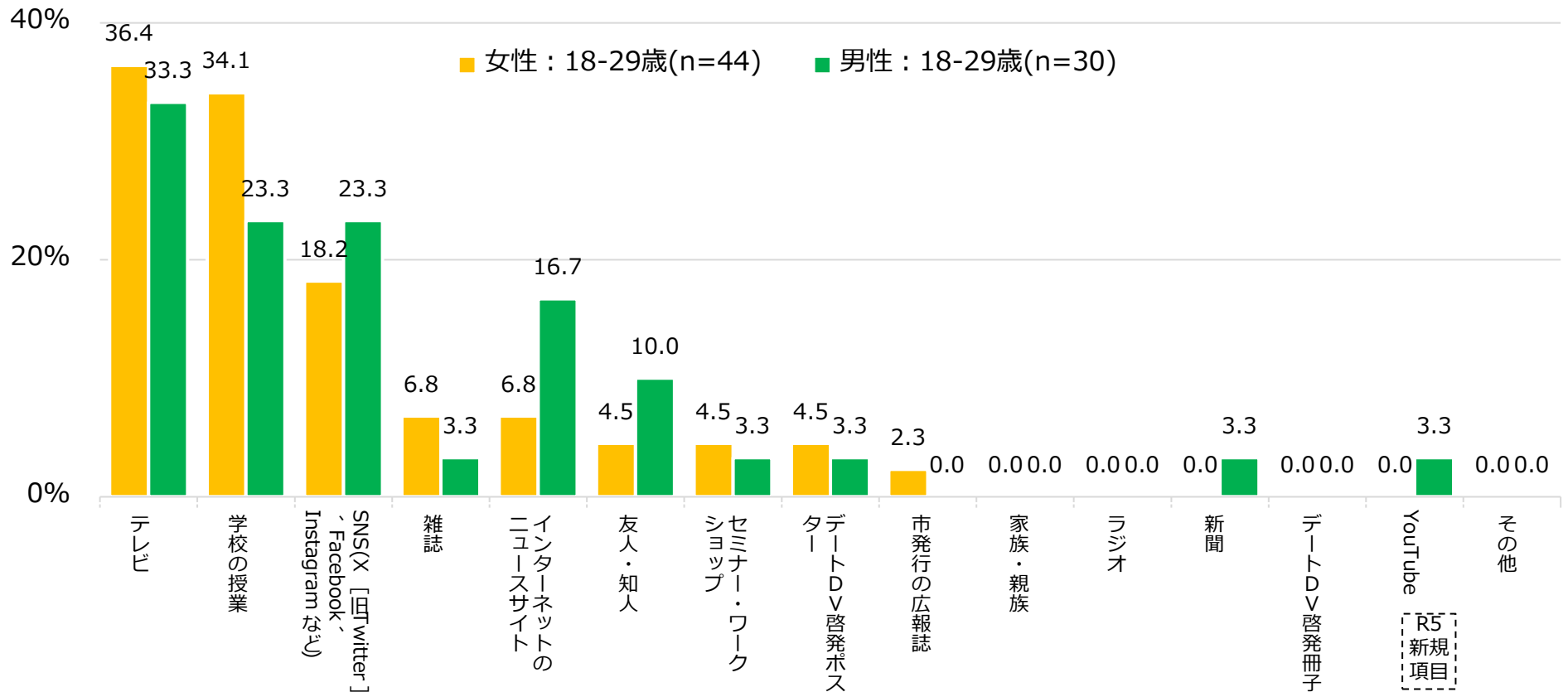
※ H30では「Twitter(2.6%)」と「Facebook(1.1%)」に分かれていた。

ベース：デートDVという言葉を知っている人

デートDVの認知経路(18~29歳、複数回答)

- 『デートDV』の認知経路を30歳未満で見ると、女性では「テレビ」と「学校の授業」が3割を超え、ほぼ同程度であった。3番目に高かったのは「SNS」で18.2%であった。
- 男性では、「テレビ」が33.3%で最も高かった。2番目は「学校の授業」と「SNS」で、ともに23.3%であった。

R5



※ H30では「Twitter」「Facebook」に分かれていた。

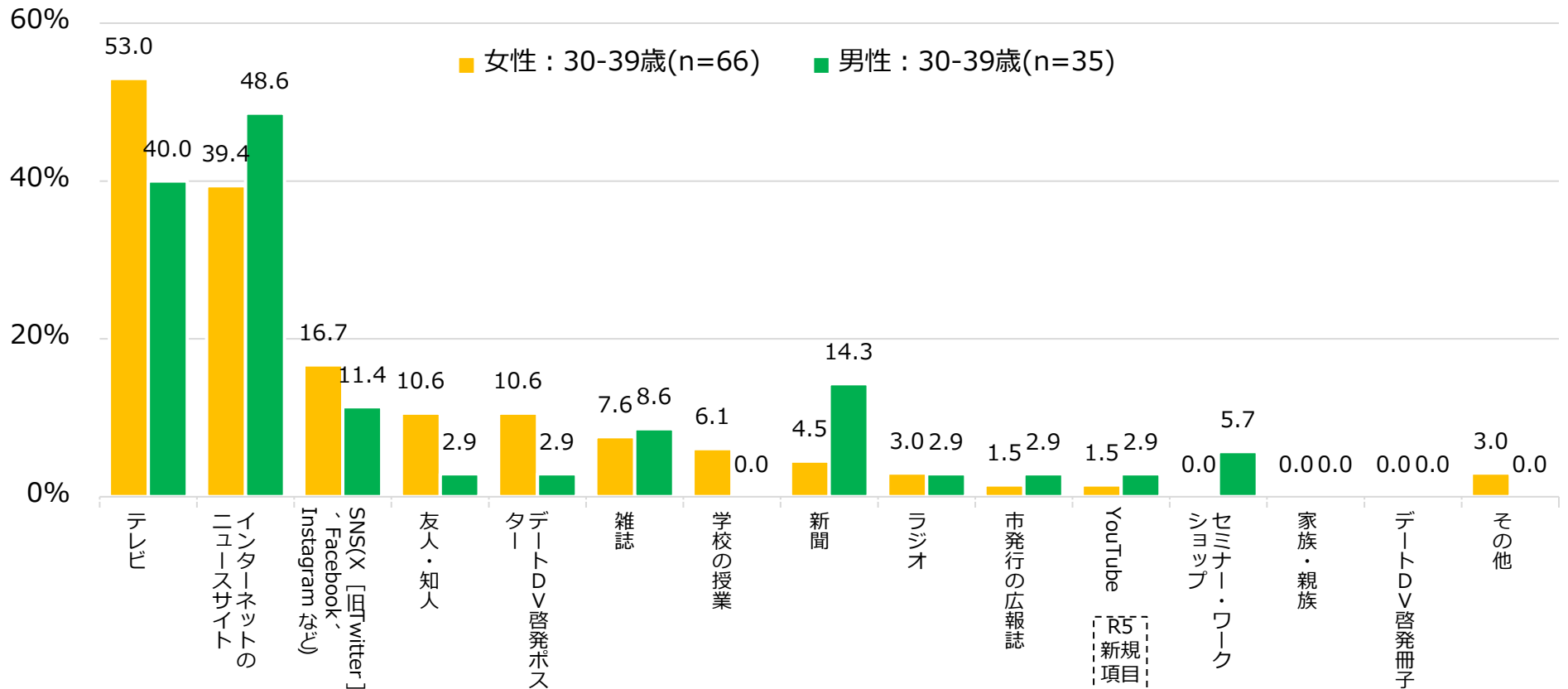
ベース：デートDVという言葉を知っている人

R5
新規
項目

デートDVの認知経路(30~39歳、複数回答)

- 30歳代でみると、女性では「テレビ」が53.0%で最も高く、次いで「インターネットのニュースサイト」が39.4%であった。
- 男性では、「インターネットのニュースサイト」が48.6%で最も高く、次いで、「テレビ」が40.0%であった。

R5

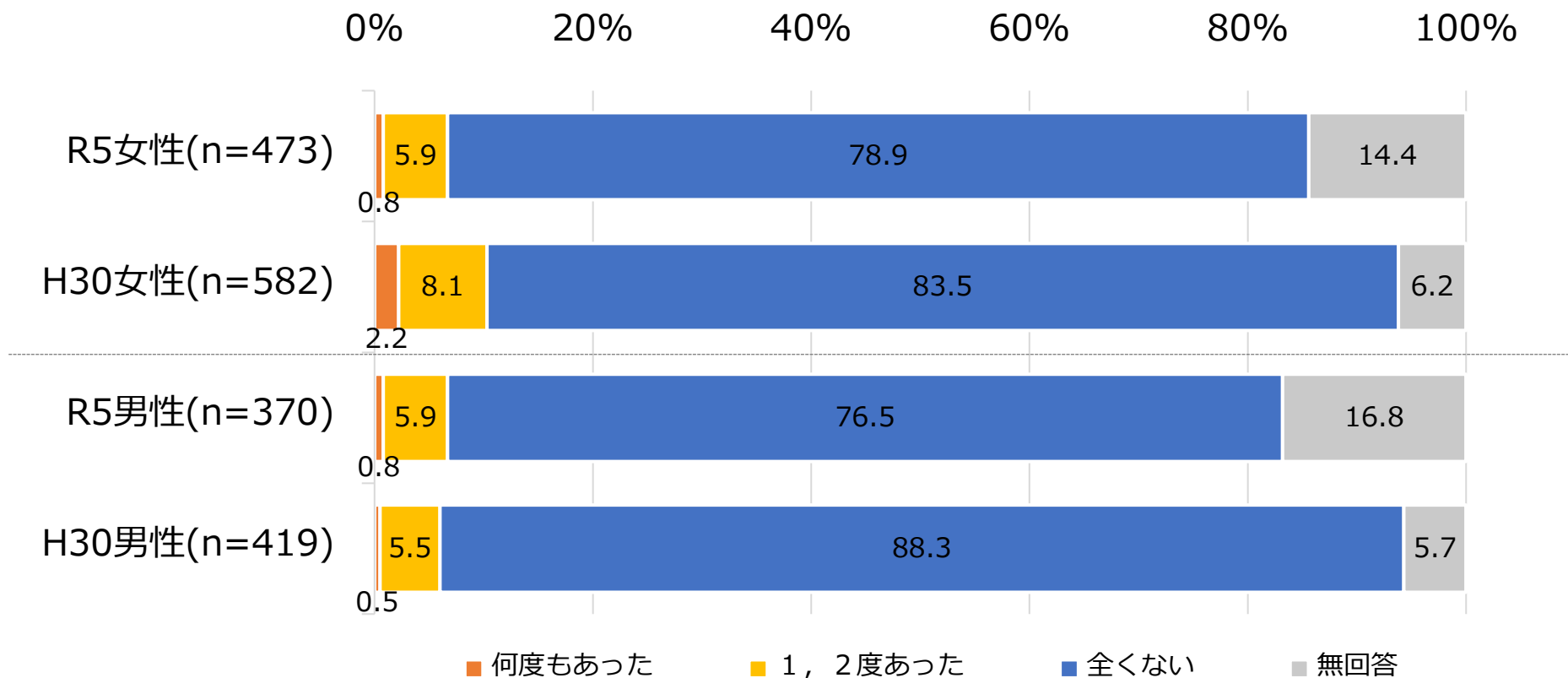


※ H30では「Twitter」「Facebook」に分かれていた。

ベース：デートDVという言葉を知っている人

これまでのデートDV被害経験：身体的暴力

- これまでに交際相手がいことがあある人にデートDV被害経験について尋ねたところ、『身体的暴力』について「何度もあった」と「1、2度あった」を合計したくデートDV被害経験率>は、男女ともに6.8%であった。
- 前回(H30)調査に比べると、女性で『身体的暴力』のくデートDV被害経験率>が有意に低下した。

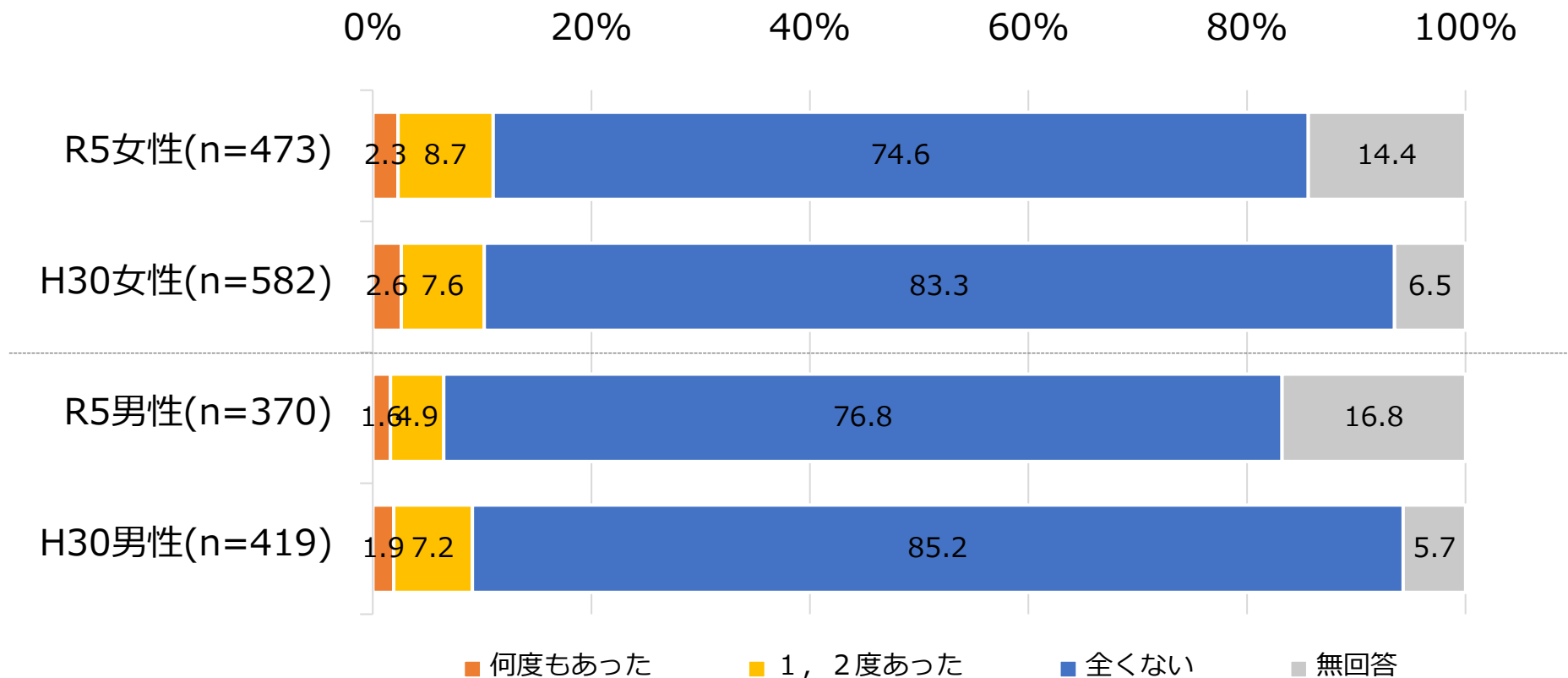


身体的暴力 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」

ベース：これまでに交際相手がいことがあある人

これまでのデートDV被害経験：精神的暴力

- 『精神的暴力』の<デートDV被害経験率>は、女性では11.0%、男性では6.5%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<デートDV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

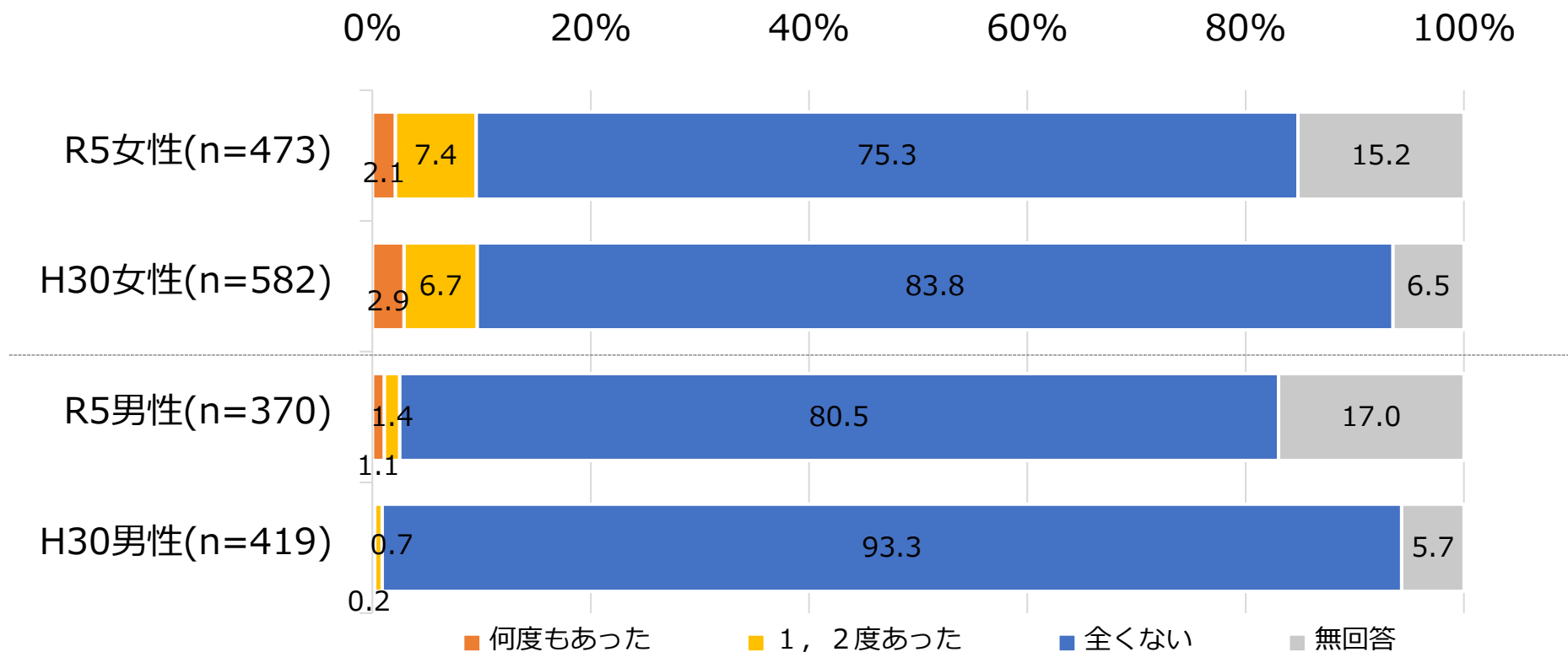


精神的暴力 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」

ベース：これまでに交際相手がいたことがある人

これまでのデートDV被害経験：性的強要

- 『性的強要』の<デートDV被害経験率>は、女性では9.5%、男性では2.4%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに『性的強要』の<デートDV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

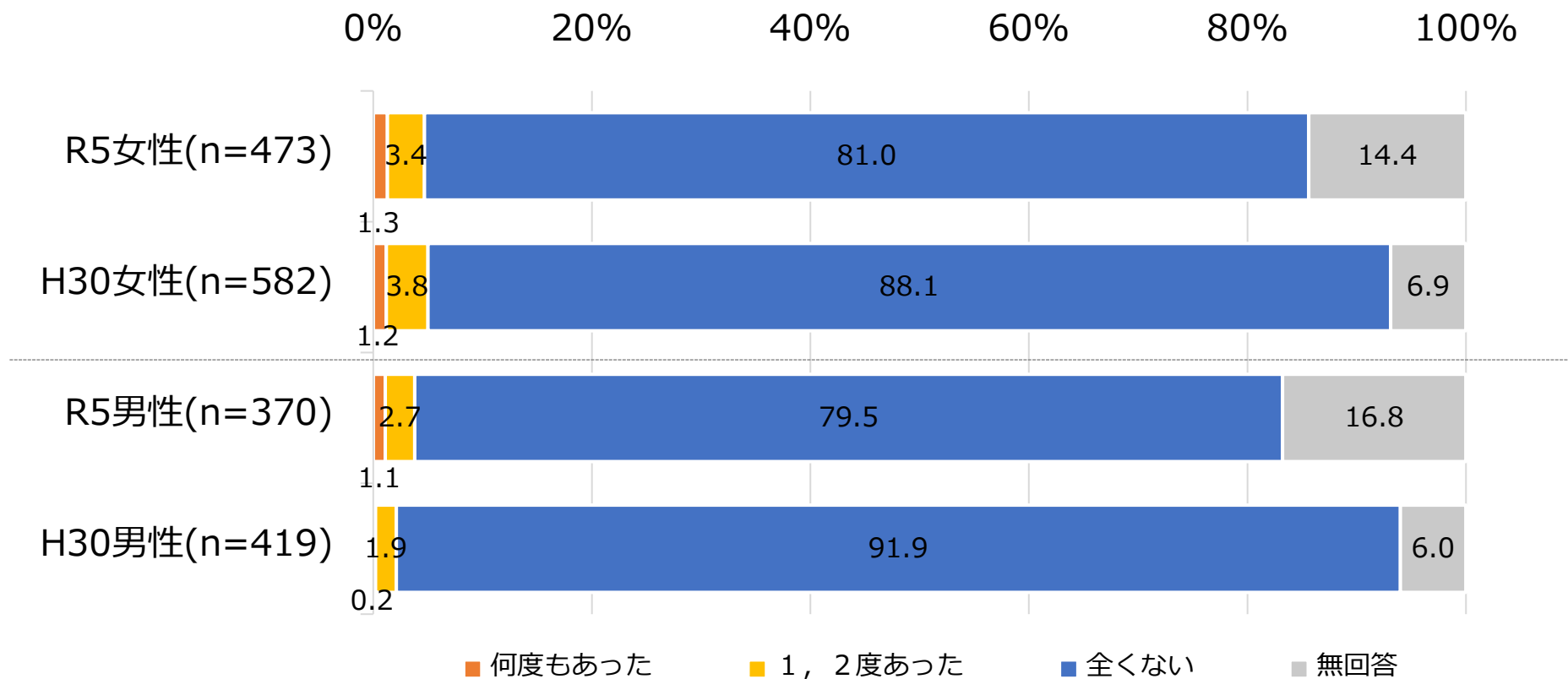


性的強要 「いやがっているのに性的な行為を強要された」

ベース：これまでに交際相手がいたことがある人

これまでのデートDV被害経験：経済的圧迫

- 『経済的圧迫』の<デートDV被害経験率>は、女性では4.7%、男性では3.8%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに『経済的圧迫』の<デートDV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

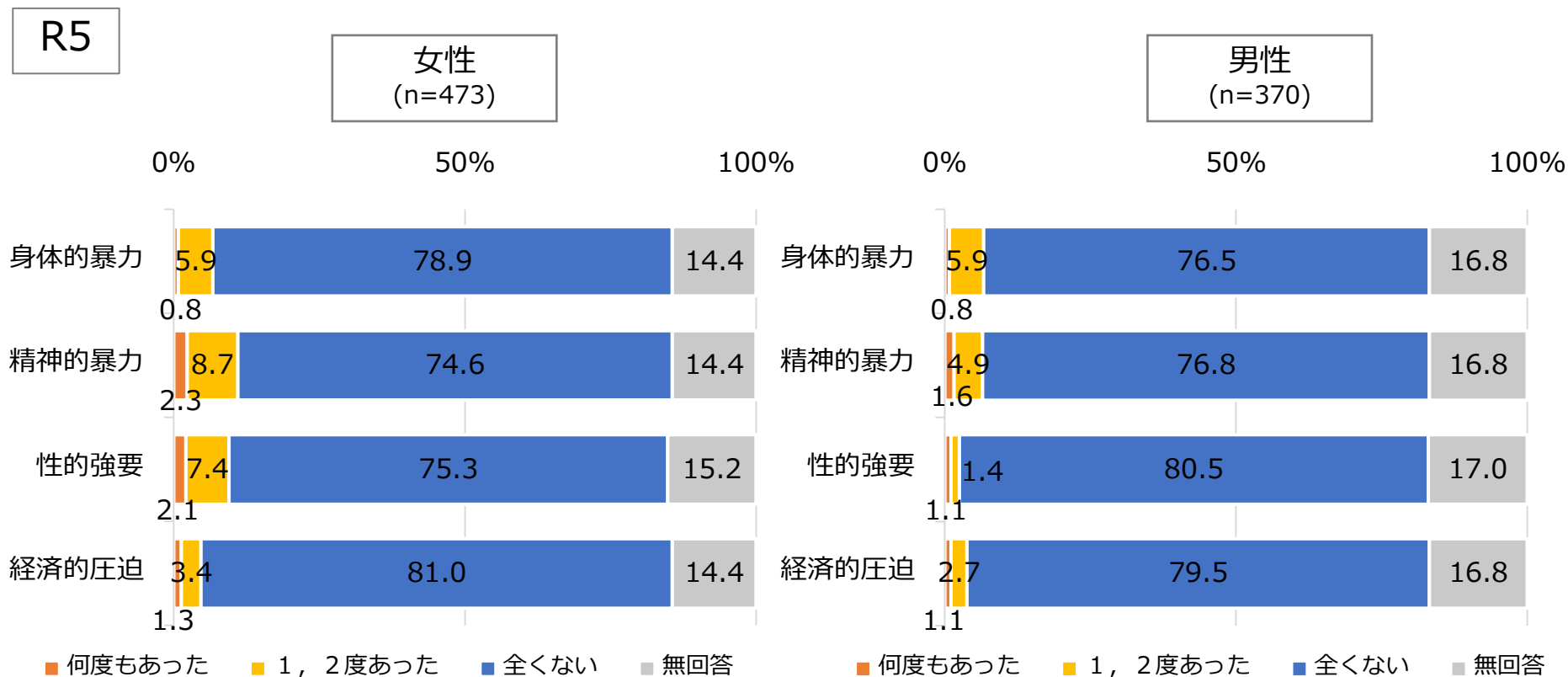


経済的圧迫 「給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなどの経済的圧迫を受けた」

ベース：これまでに交際相手があったことがある人

デートDVの種類別被害経験

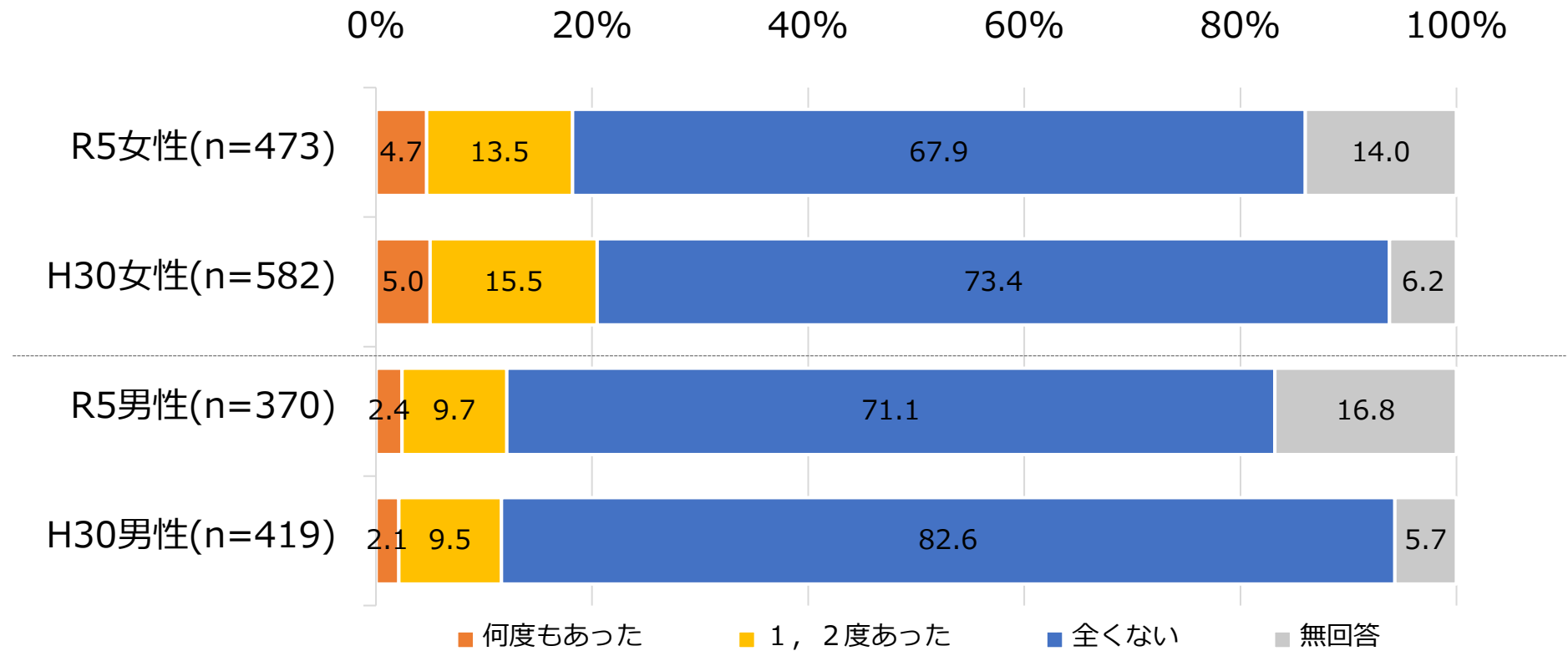
- 種類別に見ると、『精神的暴力』と『性的強要』で、女性の方が男性よりも<デートDV被害経験率>が有意に高かった。



身体的暴力 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」
精神的暴力 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」
性的強要 「いやがっているのに性的な行為を強要された」
経済的圧迫 「給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなどの経済的圧迫を受けた」

これまでのデートDV被害経験：いずれかの暴力を受けたことがある

- 『身体的暴力』『精神的暴力』『性的強要』『経済的圧迫』のいずれかを受けたことがある人の割合を<デートDV被害経験率>とすると、女性では18.2%、男性では12.2%であった。
- 前回(H30)調査に比べ、男女ともに<デートDV被害経験率>に有意な変化は見受けられなかった。

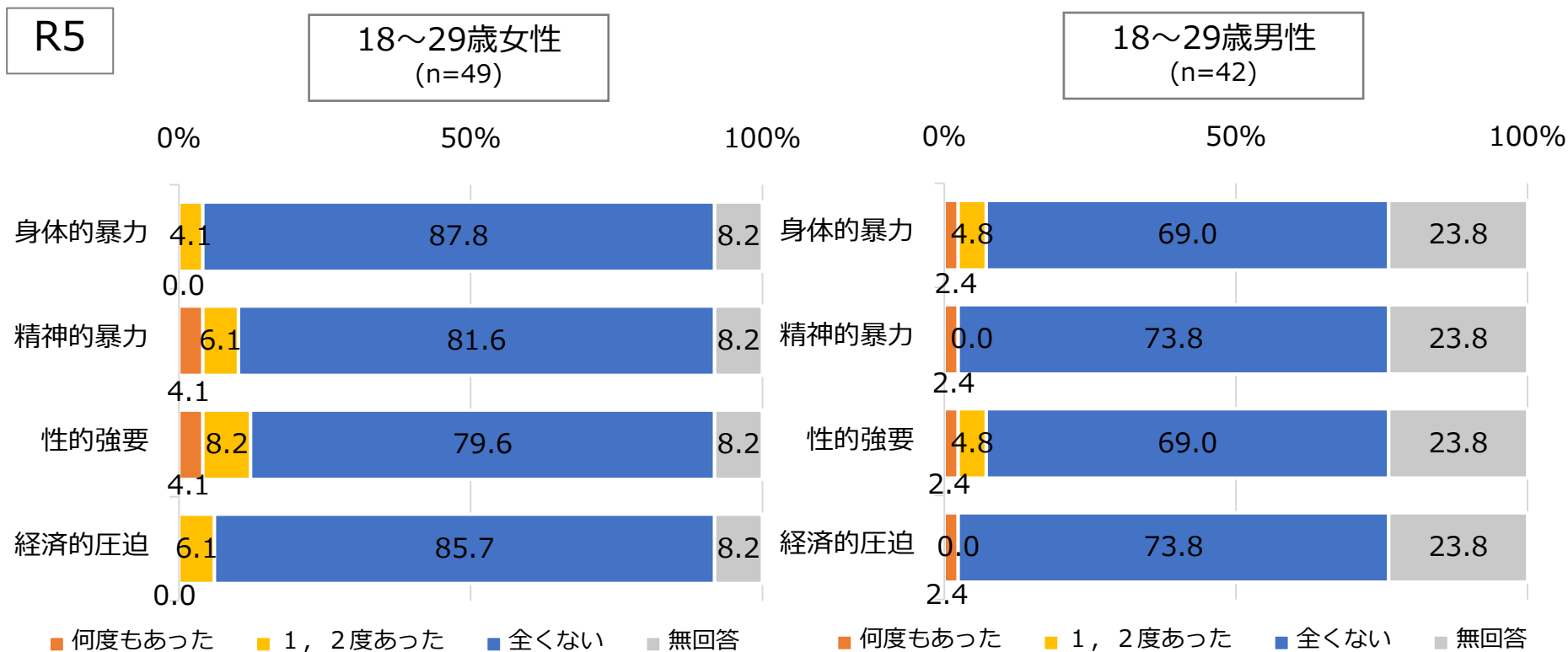


いずれかの暴力を受けたことがある 「身体的暴力」「精神的暴力」「性的強要」「経済的圧迫」のいずれかを受けたことがある人

ベース：これまでに交際相手がいたことがある人

デートDVの種類別被害経験(18~29歳)

- 『デートDV被害経験率』を30歳未満でみると、女性で、『精神的暴力』と『性的強要』の<DV被害経験率>が1割を超えた。

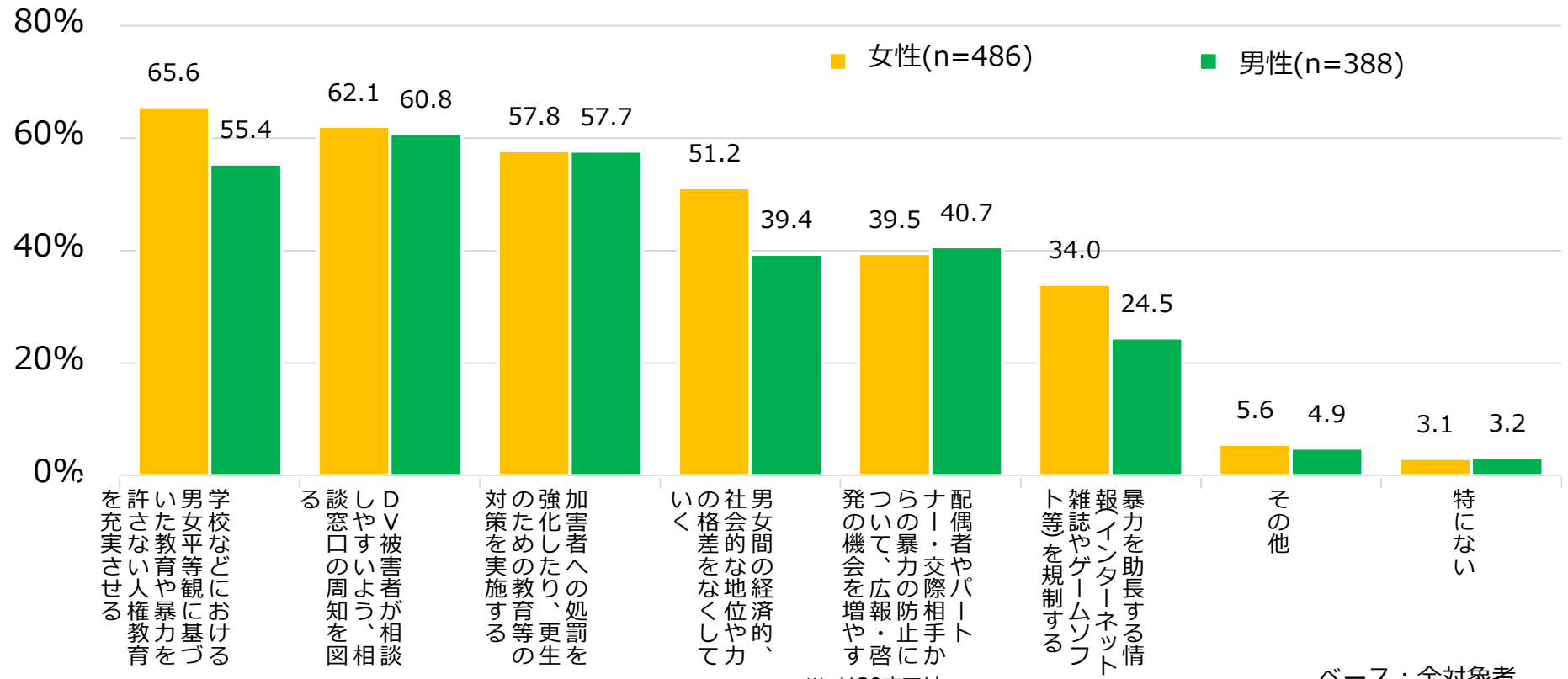


身体的暴力 「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行を受けた」
精神的暴力 「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」
性的強要 「いやがっているのに性的な行為を強要された」
経済的圧迫 「給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなどの経済的圧迫を受けた」

DV防止に必要なだと思うこと(性別、複数回答)

- 『DV防止に必要なと思うこと』を尋ねたところ、女性では「学校などにおける男女平等観に基づいた教育や暴力を許さない人権教育を充実させる」(65.6%)が最も高く、男性では「DV被害者が相談しやすいよう、相談窓口の周知を図る」(60.8%)が最も高かった。
- 「男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく」では女性51.2%、男性39.4%、「暴力を助長する情報（インターネット、雑誌やゲームソフト等）を規制する」は女性34.0%、男性24.5%であった。

R5

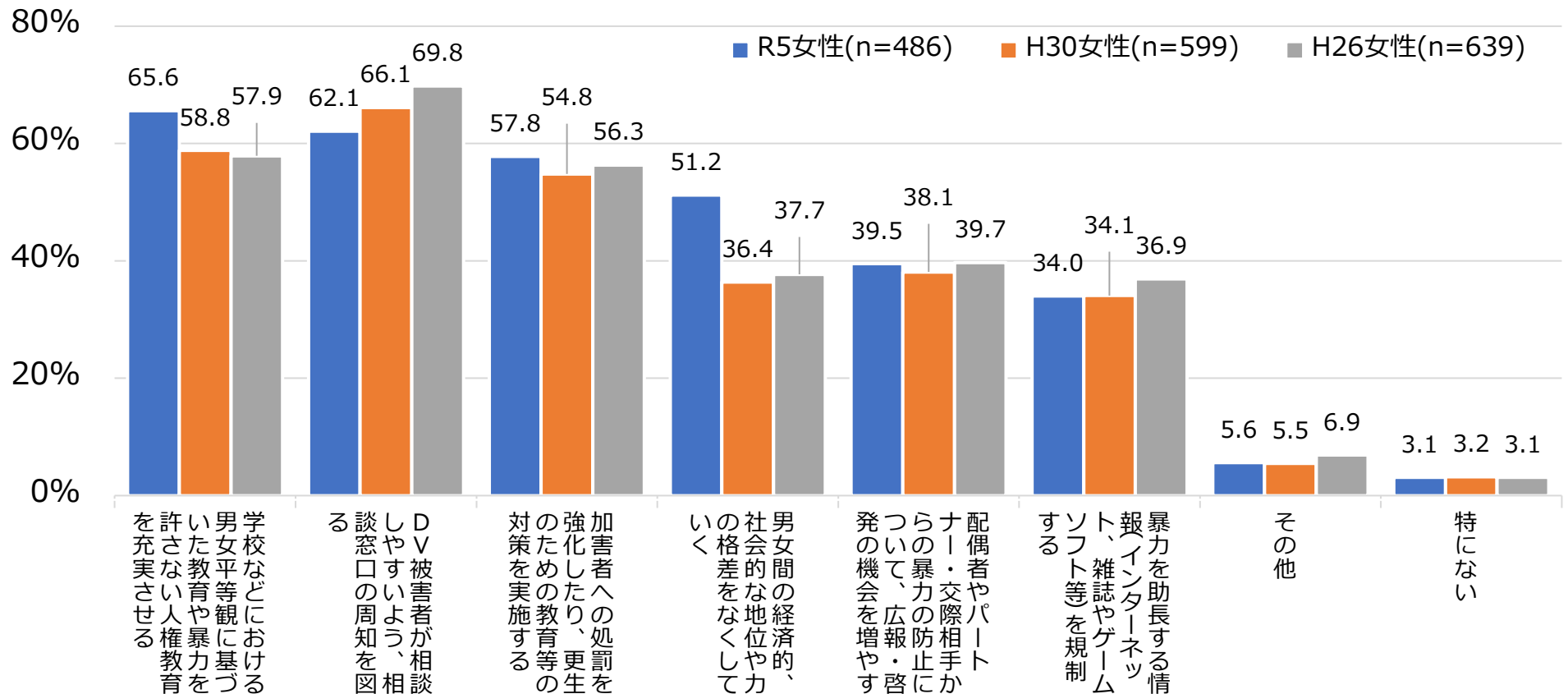


※ H30までは「配偶者やパートナーからの暴力の防止について、広報・啓発の機会を増やす」

ベース：全対象者

DV防止に必要なだと思うこと(女性、複数回答)

- 『DV防止に必要なと思うこと』を尋ねたところ、「学校などにおける男女平等観に基づいた教育や暴力を許さない人権教育を充実させる」(65.6%)が最も高く、次いで、「DV被害者が相談しやすいよう、相談窓口の周知を図る」(62.1%)、「加害者への処罰を強化したり、更生のための教育等の対策を実施する」(57.8%)、「男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく」(51.2%)までが5割を超えた。

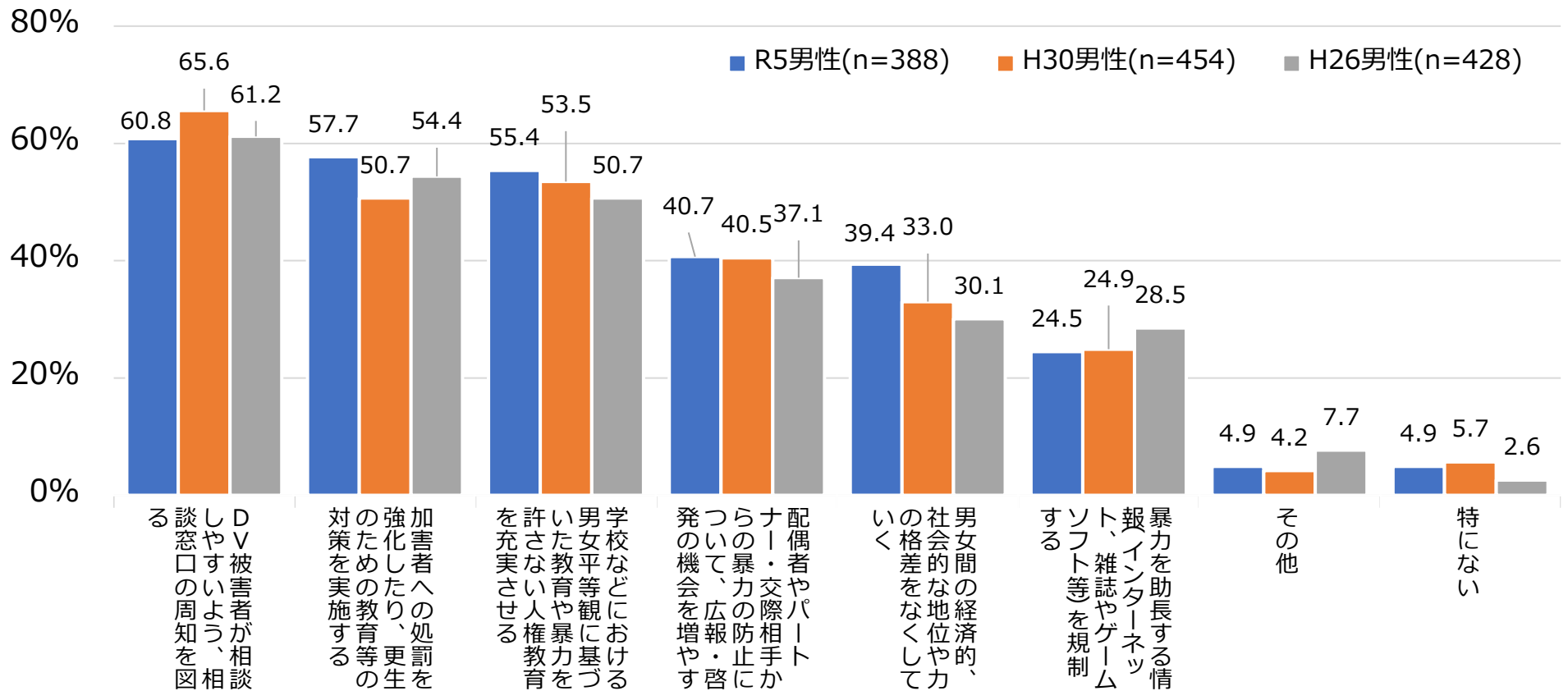


※ H30までは「配偶者やパートナーからの暴力の防止について、広報・啓発の機会を増やす」

ベース：全対象者

DV防止に必要だと思うこと(男性、複数回答)

- 男性では、「DV被害者が相談しやすいよう、相談窓口の周知を図る」(60.8%)が最も高く、次いで、「加害者への処罰を強化したり、更生のための教育等の対策を実施する」(57.7%)、「学校などにおける男女平等観に基づいた教育や暴力を許さない人権教育を充実させる」(55.4%)までが5割を超えた。



※ H30までは「配偶者やパートナーからの暴力の防止について、広報・啓発の機会を増やす」

ベース：全対象者

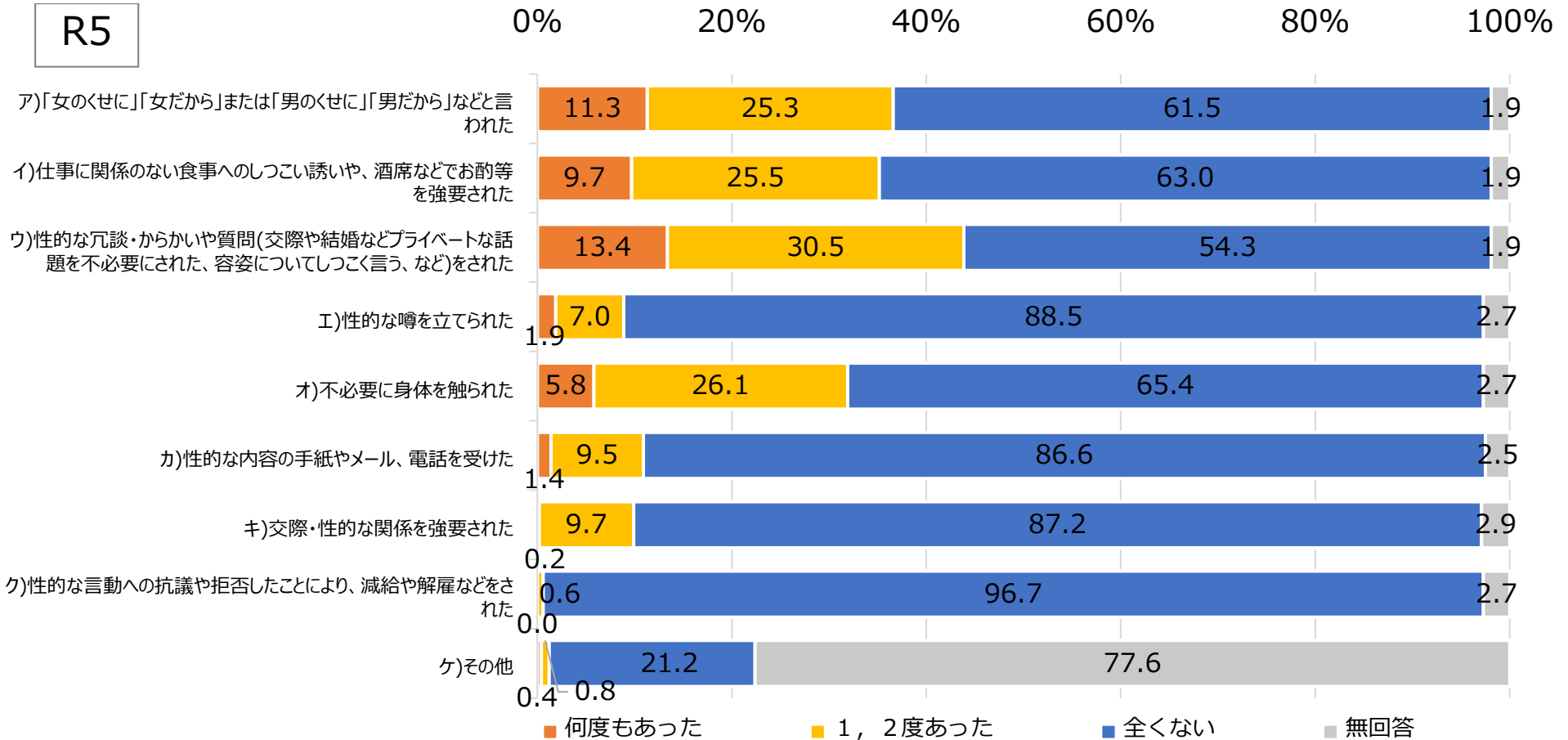
職場や日常生活において性的な嫌がらせを受けた経験(女性)

新規項目

- 『職場や日常生活において性的な嫌がらせを受けた経験』について「何度もあった」と「1、2度あった」を合計したく性的嫌がらせ被害経験率は、「性的な冗談・からかいや質問(交際や結婚などプライベートな話題を不必要にされた、容姿についてしつこく言う、など)をされた」が最も高く、43.8%であった。

(n=486)

R5



ベース：全対象者

9. 職場などでの性的な嫌がらせの被害経験／性暴力被害相談窓口の認知

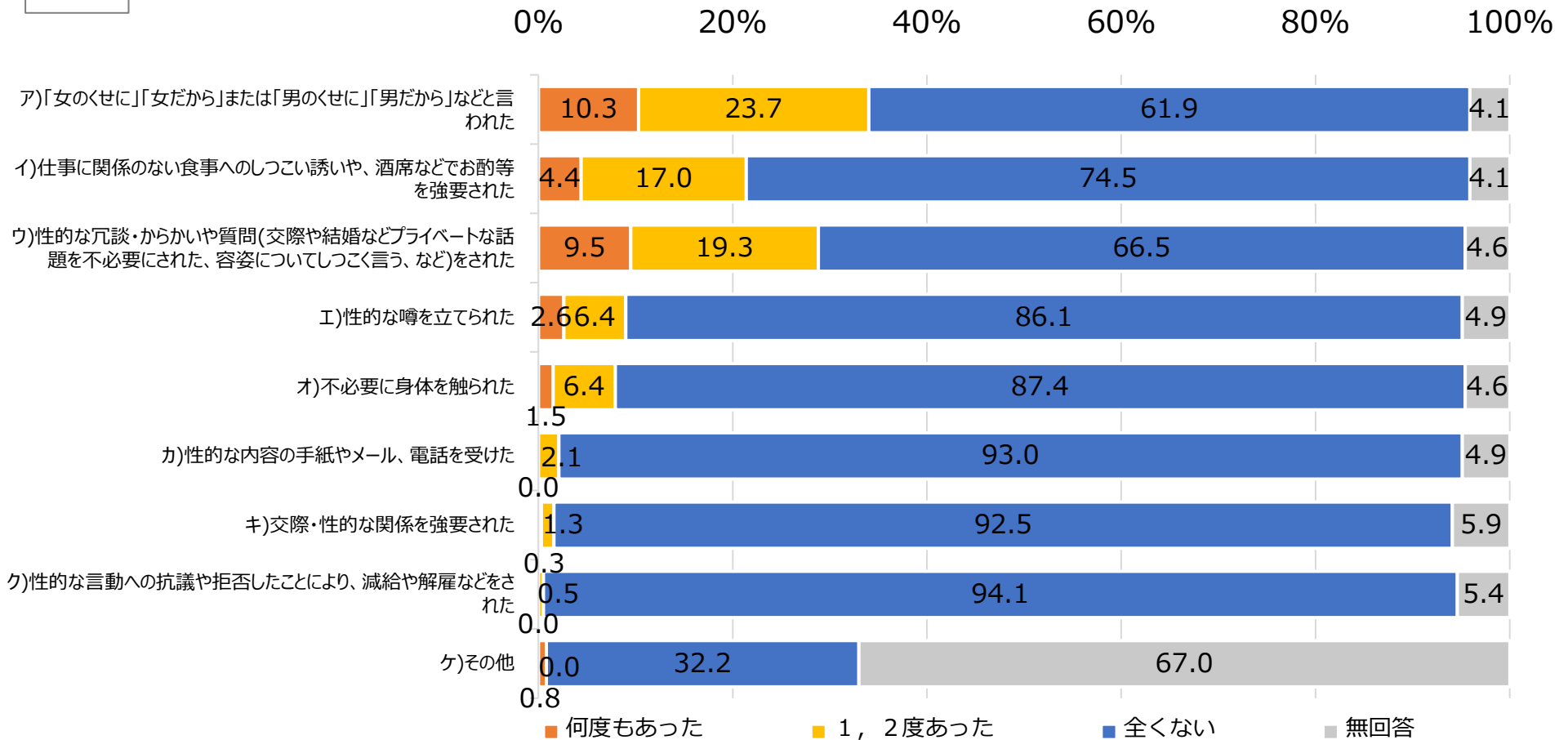
職場や日常生活において性的な嫌がらせを受けた経験(男性)

新規項目

- 男性において<性的嫌がらせ被害経験率>が最も高かったのは、「ア）「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた」で34.0%であった。

R5

(n=388)

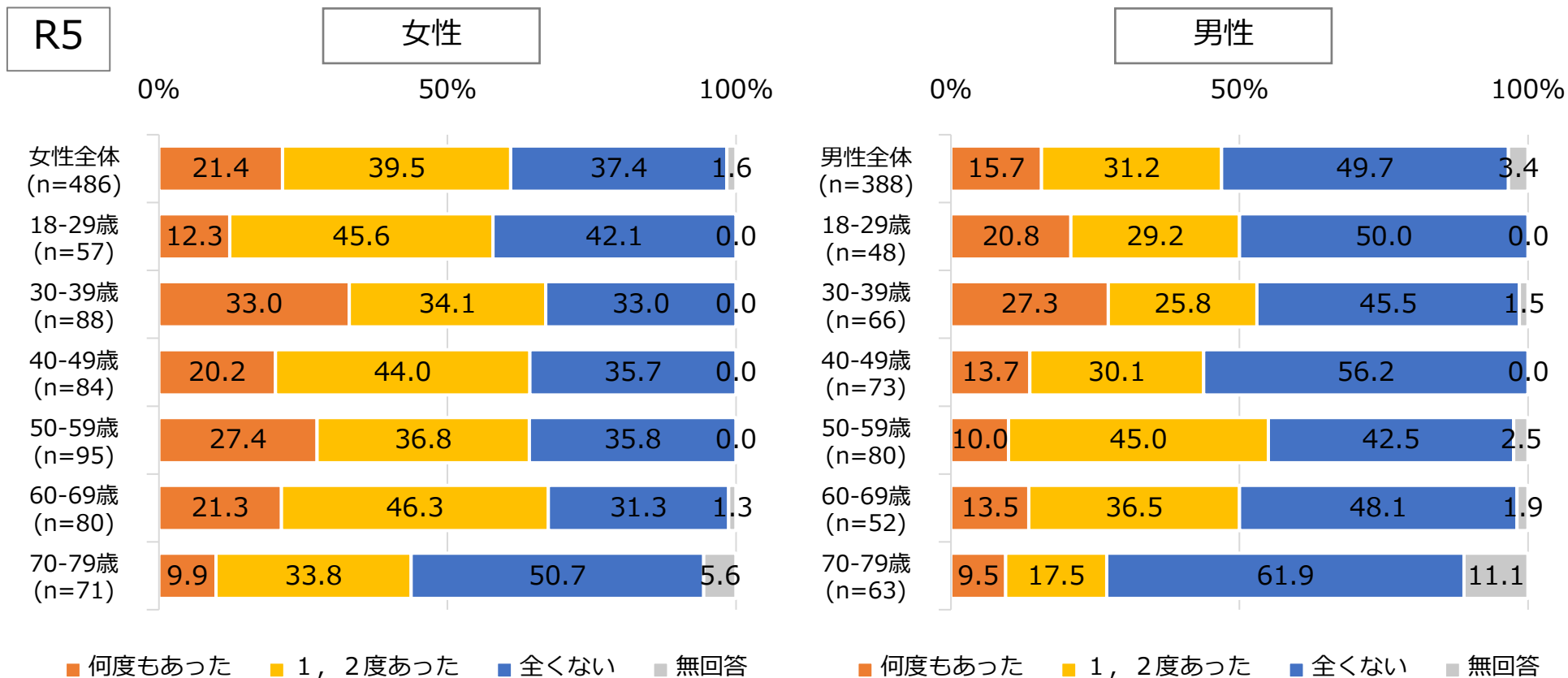


ベース：全対象者

職場や日常生活においていずれかの性的な嫌がらせを受けた経験

新規項目

- 女性では、30代から60代までで『職場や日常生活において』いずれかの性的な嫌がらせを受けた<性的嫌がらせ被害経験率>が6割を超えた。
- 男性では、30代以下と50代・60代で<性的嫌がらせ被害経験率>が5割を超えた。



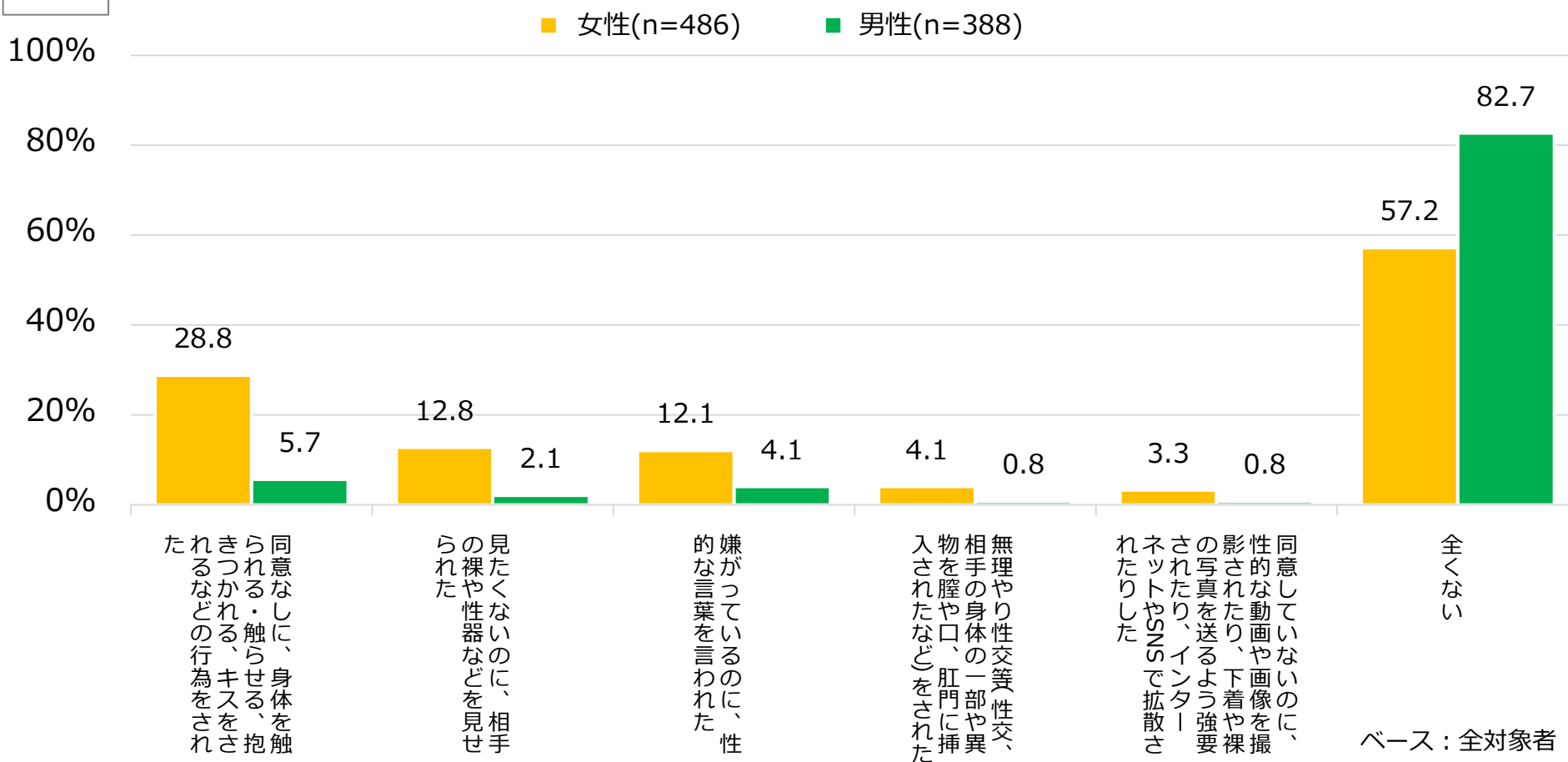
ベース：全対象者

性暴力被害経験

新規項目

- 女性では、「同意なしに、身体を触られる・触らせる、抱きつかれる、キスをされるなどの行為をされた」が28.8%、「見たくないのに、相手の裸や性器などを見せられた」が12.8%、「嫌がっているのに、性的な言葉を言われた」が12.1%など、42.8%がなんらかの『性暴力被害』を経験していた。
- 一方、男性では「全くない」が82.7%であった。

R5

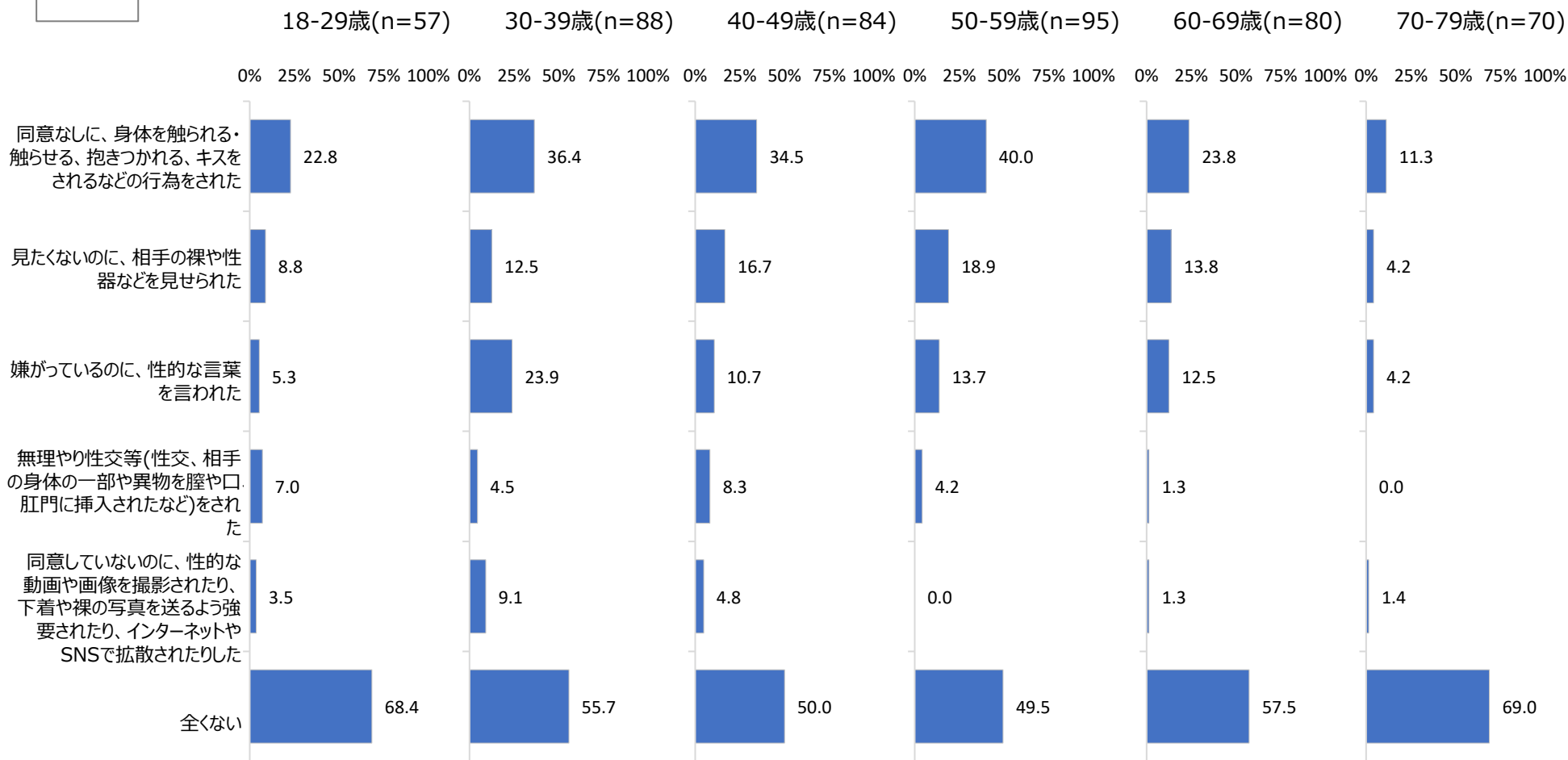


性暴力被害経験(女性、年代別)

新規項目

- 女性について年代別に『性暴力被害経験率』を見ると、30代から50代で「同意なしに、身体を触られる・触らせる、抱きつかれる、キスをされるなどの行為をされた」が3割を超えた。

R5

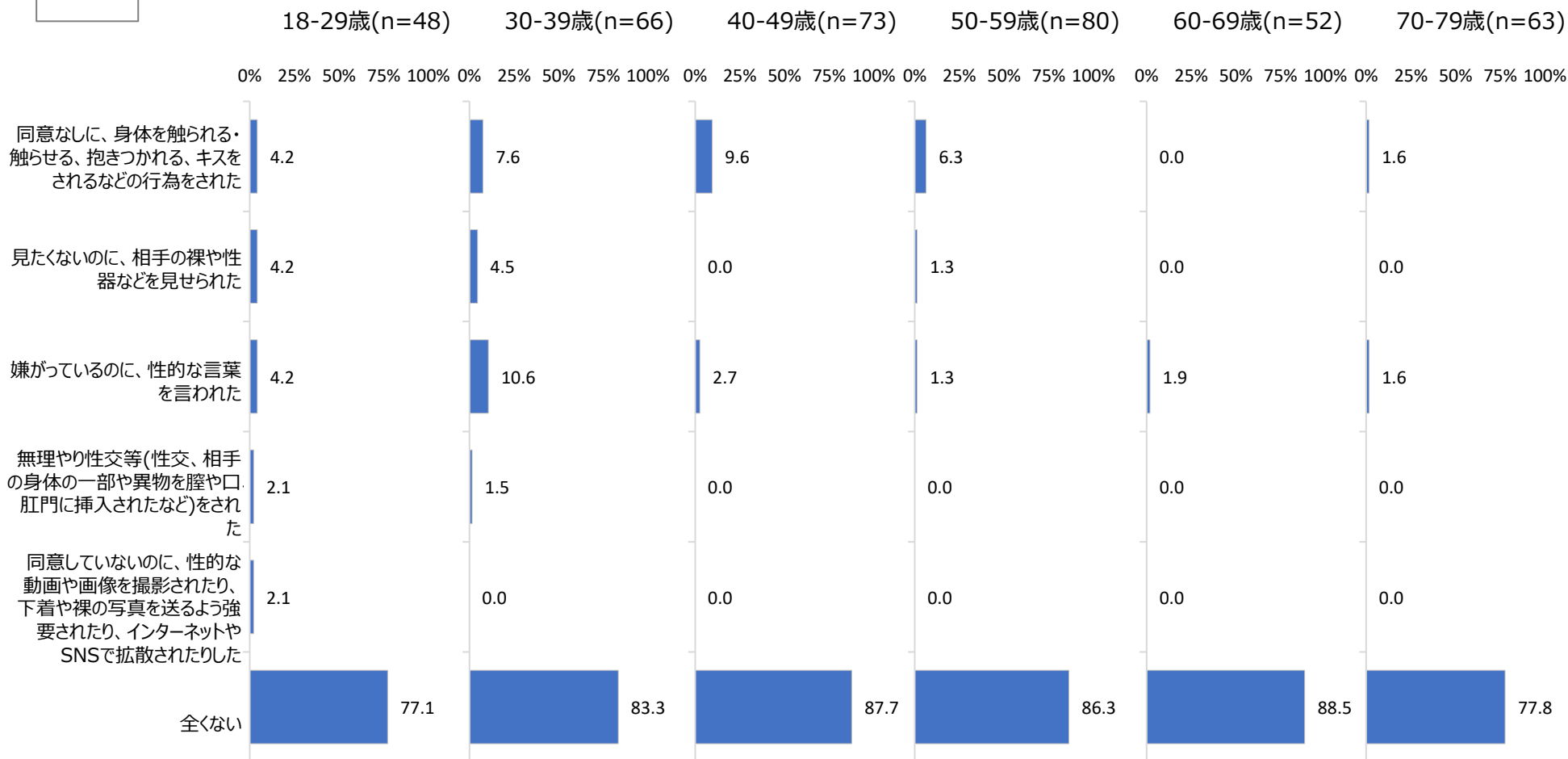


性暴力被害経験(男性、年代別)

新規項目

- 男性について年代別に『性暴力被害経験率』を見ると、30代から60代で「全くない」が8割を超え、30歳未満と70歳以上でも「全くない」が8割近くであった。

R5

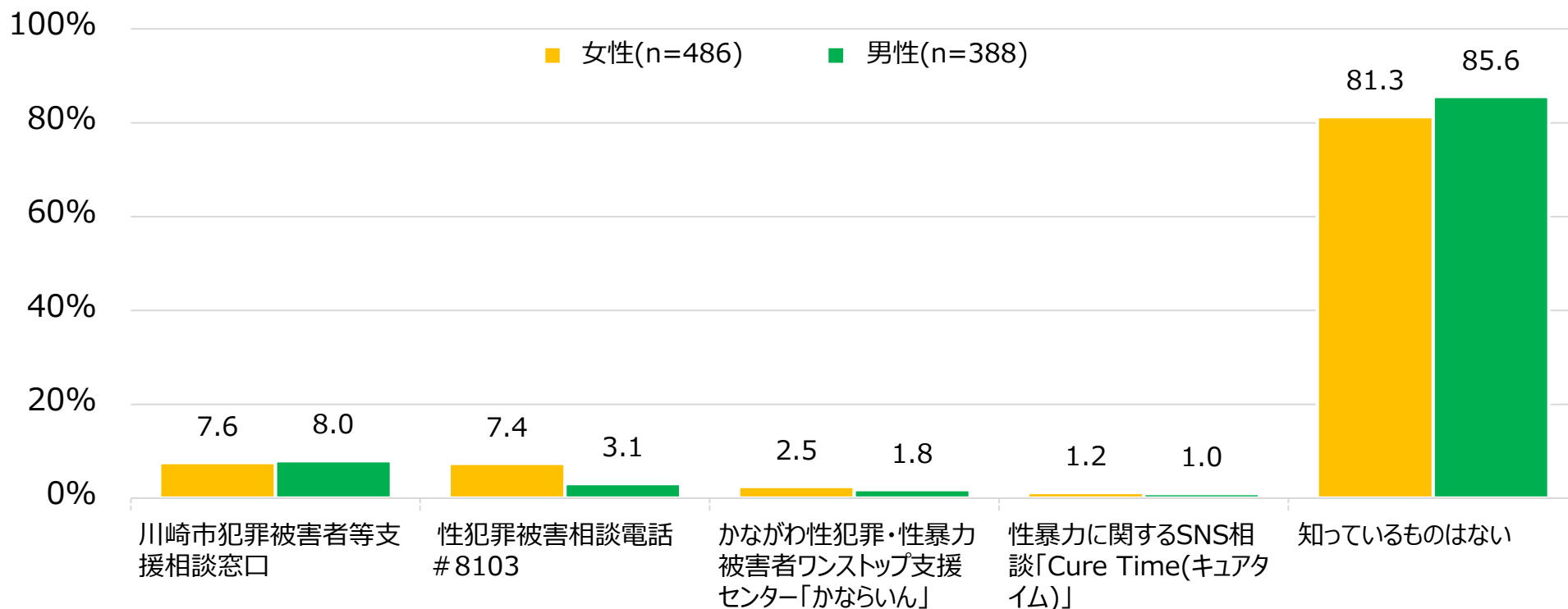


性暴力被害相談窓口の認知

新規項目

- 『性暴力被害相談窓口』については認知度が1割を超えるものはなく、男女ともに「知っているものはない」が8割を超えた。

R5



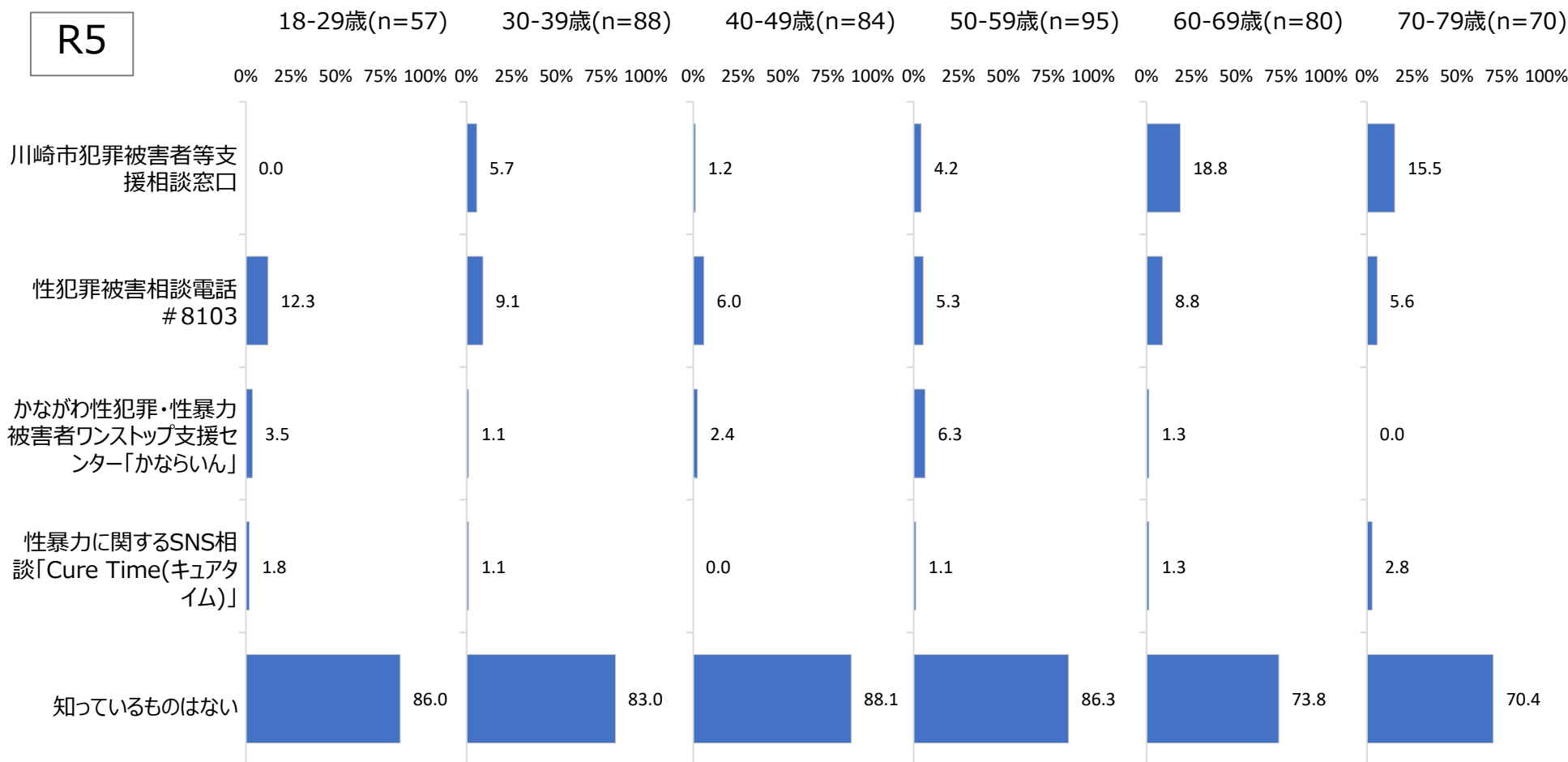
ベース：全対象者

性暴力被害相談窓口の認知(女性、年代別)

新規項目

- 女性について年代別に『性暴力被害相談窓口』の認知度を見ると、「川崎市犯罪被害者等支援相談窓口」の認知度は、60代で18.8%、70代で15.5%であったが、50代以下では認知度が1割に満たなかった。
- 30歳未満では「性犯罪被害相談電話 #8103」の認知度が12.3%であった。

R5



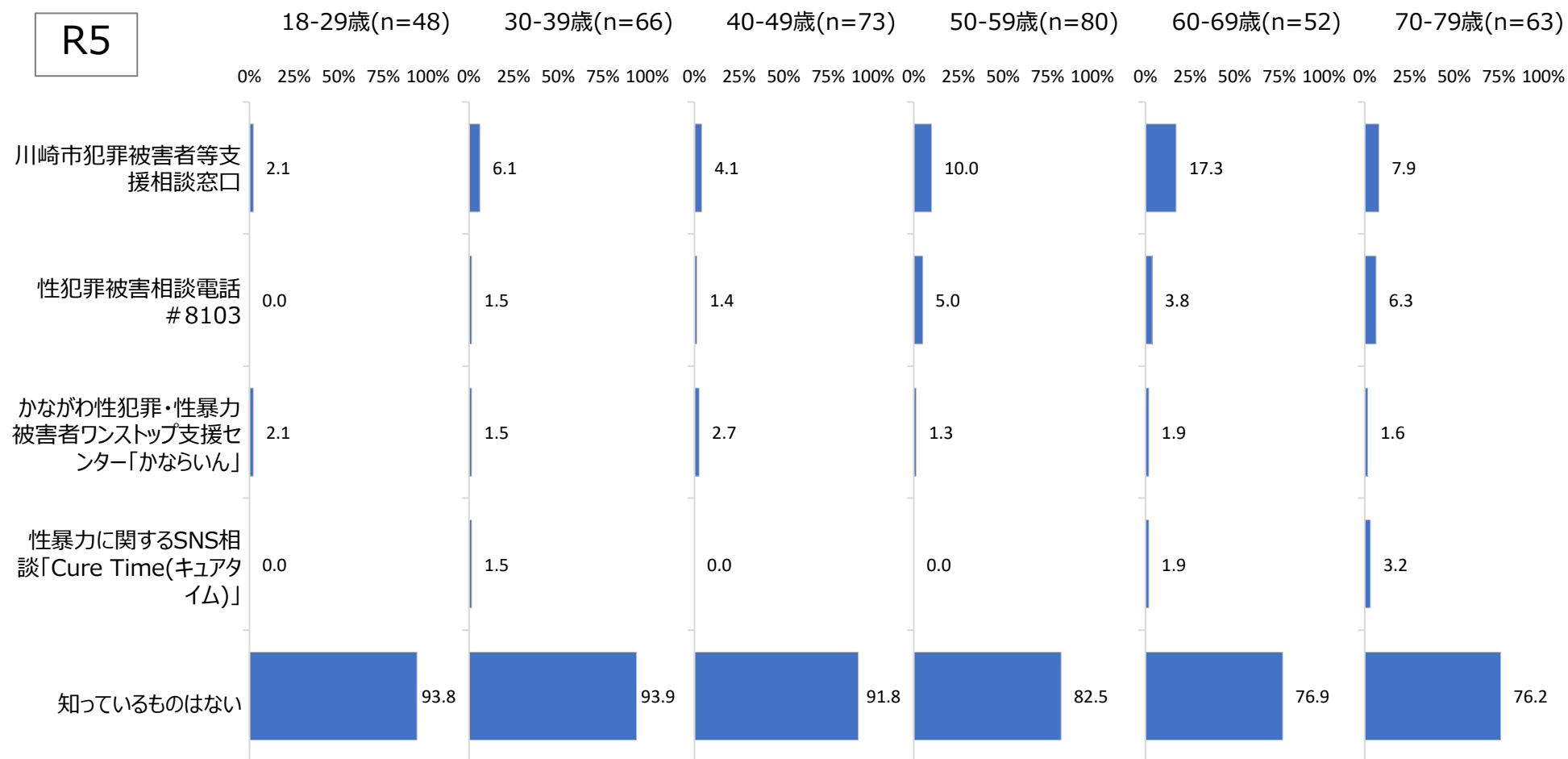
ベース：全対象者

性暴力被害相談窓口の認知(男性、年代別)

新規項目

- 男性について年代別に『性暴力被害相談窓口』の認知度を見ると、「川崎市犯罪被害者等支援相談窓口」の認知度は、60代で17.3%、50代で10.0%であったが、他の年代では認知度が1割に満たなかった。
- 40代以下では、「知っているものはない」が9割を超えた。

R5



ベース：全対象者

10. 意見・要望

意見・要望（自由回答・抜粋）

➤ 調査実施への意見

- ◆ 日常的に「男女行動参画」という言葉を耳にしたことがなく、そのアンケートということで答えられるかなと思いましたが、質問もわかりやすく、答え方もわかりやすく、ほとんど迷うことなく答えられてよかったです。（宮前/女性/60代）
- ◆ このようなアンケートに参加させていただき有難うございます。今後も協力できることがあれば参加したいと思います。（幸/女性/60代）
- ◆ 男女共同参画に関わる用語や制度があることを知ることができました。（中原/男性/60代）
- ◆ このようなアンケートで、改めて自分でも男女のあり方について考えました。私は子供2人と夫と過ごしていますが、私もですが他のママ友も皆、働きながら子育てすることに疲弊しています。どうぞ男性も気軽に休んで子育てに参加できるような社会をよろしく願いいたします。（中原/女性/40代）
- ◆ このような企画があるのを初めて知り、早速インターネットで調べさせていただきました。今後も調査にご協力したいと考えます。（幸/男性/40代）
- ◆ 多くは語りませんが、男女ともに働きやすく、生活しやすい環境に変われば良いなと思ったのでアンケートに参加させていただきました。（川崎/男性/20代）
- ◆ 明るく暮らしやすい社会の実現に向けて、人権尊重、男女平等への継続した取り組みをよろしくお願いいたします。考える機会を与えていただき、ありがとうございました。（高津/無回答/60代）
- ◆ こうしたアンケートも含め、実際の市民の意見を反映した町づくりを行って頂ければと思います。（多摩/男性/20代）
- ◆ 他にわかりやすい名前はないでしょうか？男女共同参画のアンケートと聞いてもどういう内容か想像がつかなかった。（高津/女性/30代）
- ◆ やっぱし、昭和とちがって、男、女と全ての面で差別してはいけない。今現在も平等ではない。今後1年でも、5年でも、いや1か月、1日でも、男女平等な平和な日本になってもらいたいです。こちらこそ、アンケートを記入させていただいてありがとうございました。これからも川崎市のことを良くしていただきたいです。（多摩/男性/50代）

➤ 調査内容に対する意見

- ◆ 性別で回答の選択が大幅に違う質問については、統計上工夫されるのでしょうか。（多摩/男性/60代）
- ◆ 関心があったとしても、当事者でないと関連機関については知識が薄い。女性に対する質問と思われるものに対して回答できない事項も多くありましたので、そのあたりはもっと明確にしていきたいと思います。（麻生/男性/70代）
- ◆ まず教育によって、いかなる暴力も許されない、人権の尊重という土台をもつ。その上で、個人で解決できない問題、女性が社会進出しにくい仕組みを、制度によって解決の手助けをしていけば、皆の共通認識も変わっていくのではないかと思います！そもそも、このアンケートがパートナーと一緒に書く形式になっていなくて少し残念でした（世帯宛てに送ってもよいのでは？）（麻生/無回答/30代）
- ◆ 問いに対して、答えようのない(合っていない)問がいくつかあった。（高津/男性/70代）
- ◆ 今回のアンケート調査は、後期高齢者には、総てわづらわしい合わないアンケートだと感じました。以上。（宮前/女性/70代）
- ◆ 問21の4は明確に女性へのセクハラ事例のみを聴いており、逆やLGBTQへの事例についても聴くべき。この様な質問を作っている当事者こそ考え直すべきである。（高津/無回答/50代）
- ◆ このアンケートも少し偏った考え方の選択肢があるなと思いました。もっといろんな視点を取り入れるのが大事だとおもいます。その始まりとして、こういった取り組みがあるのは良いことだと思います。頑張ってください。（多摩/女性/20代）

意見・要望（自由回答・抜粋）

▶ 川崎市の男女共同参画施策への意見

【政策・広報・PR】

- ◆ 何についても同様だと思いますが、広く皆に伝えるということが大切だと思います。また私個人としては、もっと興味を持つことにしたいと思います。（中原/女性/60代）
- ◆ 公報を利用し、参画できるような企画を作ってほしい。（中原/男性/70代）
- ◆ もっと、ネット、テレビ、ラジオ等にて広告を出すことにより、認知度が広がると考えます。（中原/無回答/50代）
- ◆ せっかくアンケートが来たので回答したが、このようなことがなければ市が男女共同参画について何に取り組んでいるのか知ることが全くないので、もっと情報発信すべき。（麻生/男性/20代）
- ◆ 冊子などが地域で配布されると認識が高まると思う。（幸/無回答/50代）
- ◆ あまり馴染がないので、広報に注力し広めていった方がよいかと思います。（川崎/男性/50代）
- ◆ 川崎市に住んで8年経ちますが、川崎市の情報が全く入ってきません。大きなマンションに住んでいますが、コミュニティも多くなく、今回のアンケート内容も知らない窓口や制度ばかりでした。もっと何か広く知る方法ないのでしょうか？（宮前/女性/40代）
- ◆ 川崎市独自の取り組みがある事は知りませんでした。会社ではかなり、eラーニング等で周知されており、ハラスメント相談窓口も有ります。行政の取り組みをもっと知って貰えるよう啓蒙活動に取り組まれる事を期待します。（中原/男性/50代）

【相談機関・窓口について】

- ◆ DVなどで相談した後の対応(逆恨み、再発、etc.)が心配で、気軽に第三者・公共機関に相談できない事例があるように思います。（幸/女性/50代）
- ◆ この質問で重たい回答をした方がすぐに相談できるように、このアンケートに相談窓口の詳細を同封した方がよいと思います。（中原/男性/40代）

- ◆ 誰でも相談しやすいように駅等の誰もが使う場所に相談窓口のポスターを貼ってはどうか？（宮前/男性/40代）
- ◆ インターネットなどで相談が簡単にできるようにする。事例などの対処されたこと(方法について)知ることができれば、より相談しやすいと思う。（幸/無回答/50代）
- ◆ 日本全体、性教育が不足しているように思います。セクシャリティにかかわらず性暴力は日本中にあります。相手が人だということとモノではないこと、教育から促すべきです。また、こうした性暴力について被害者の多数を占める女性に注意喚起するのではなく、男性側をきちんと加害を抑制するよう働きかけるべきです。鉄道会社の痴漢対策しかり、悪いのは男です。（中原/男性/20代）
- ◆ どういうことなら相談できる、ということが分かっていないので、耐えている人は多いと思います。“これはしてよいこと”“してはいけないこと”の周知がもっとできれば良いのかもしれないと、アンケートを答えながら考えてしまいました。性差はあってもお互い理解し助け合える社会になればよいと思います。（宮前/女性/50代）
- ◆ 男性のデートDVなどのアンケートがあったが、暴力などがある場合は警察が簡単に介入できるようにするべきだと思います。職場でのセクハラも同じですが、やはり行為をしてしまう人はいるので、そのような人に対するしっかりとした罰があると暴力の防止につながるのかと思う。男女共同参画は女性を優位にする制度になっているのが現状で、根本的な解決にはつながりにくいのではないかと思います。セクハラなどの暴力を減らすことが、男女平等の第一歩目だと感じます。（多摩/男性/20代）

【教育】

- ◆ 女性の社会的地位向上が一番の課題解決につながると思います。より直接的に業務にかかわるようなスキルを学校現場でも紹介、あっせんするなどして、働くための選択肢のハードルを下げられれば、就労の自由も高まり、女性側にも自由が効く社会へつながると思います。（宮前/男性/20代）
- ◆ とにかく子供の年齢が低いころからの教育につけるのではと思います。性教育、道徳、ジェンダー、仕事、宗教、政治、お金などを語る場や話し合う場、またそのような話題を出しても違和感なく過ごせる幼少期、社会全体をつくるのが大事だと思います。（中原/女性/40代）

意見・要望（自由回答・抜粋）

- ◆ どんな家庭の子供でも等しく学ぶためには、学校教育が一番大切だと思う。女性のみが経験する妊娠、出産が命がけであること、育児と家事が24時間365日休みがないことを実感として男性もわかるような教育が必要。また、介護も男女平等に体験する機会が与えられるよう教育が必要だと思う。（中原/女性/60代）
- ◆ 社会を変えていくためには長い時間が必要と思います。幼児期からの教育(その年代に合わせて家庭、学校、社会)のサポートが必要ではないでしょうか。成長の段階で感じる疑問や悩みに答えられる大人になっていくために、社会の協力が受けられる機関が欲しいと思います。（中原/女性/70代）
- ◆ 小学生や10代の学生の教育現場での学習機会が増えることを望みます。（宮前/無回答/40代）
- ◆ 大人も男女平等の研修の場を定期的に設ける。（宮前/男性/40代）

【職場・労働環境】

- ◆ 男性の育休取得には基本賛成だが、人の補充といった面がもっと改善されないと難しいと思う。女性のフルタイムについても同様で、子育てを専業主婦として行っている(いた)家庭としては、育児を理由にや休みや優遇が続く女性(夫の職場にいる、友人の職場にいる等)にもどうかと思う。フルタイムを自分で選んで同等の給料をもらうなら専業主婦の家庭の夫と同じ働き方でないとおかしい。（高津/女性/40代）
- ◆ 女性の就労の機会を促進し、各種の専業主婦への優遇措置を廃止すべきである。税制上の配偶者控除や100万円、103万円の壁など。特に103万円の壁があるから、パートの主婦が就労制限をして、働きたいのに働けないと思う。また、それによって年収が少なくなっていると思う。（幸/無回答/60代）
- ◆ 労働賃金を時間性から生産性に傾斜し、男女問わず仕事とプライベート生活のバランスをとれるようにする。（幸/男性/70代）
- ◆ 川崎市公務員管理職の女性登用率を50%に近づけることにより、男女共同参画推進が促進されると思います。（宮前/男性/70代）

- ◆ 男性の育休については、肝心の幹部クラスの人たちの多くが子育てに積極的に参加した世代ではないので、根本的に理解できていないと思われる。管理職の意識を変えていかなくてはならない。近年、女性活躍のために昇進等で女性の枠を増やしているようであるが、数を増やすことを目標にしているだけで、その職に適正でないものが役職についている。もちろん男性にも同じことは言えるので、男性・女性ではなく、能力、適正に応じた人間を適切な配置にしてほしい。（中原/男性/40代）
- ◆ 男性がもっと育児に参加する体制を整えて欲しい。女性が多い職場なので、子供の体調によって急な休みなどが多く、どうして女性ばかりがお休みで看病しなければならないのか疑問に思う。（川崎/女性/50代）

【家庭】

- ◆ 男性が家事・子育てを普通に行う社会になってほしい。「手伝う・参加する・積極的に」ではなく、家事・育児をすることが「普通かつ当たり前」な世の中になってほしいです。自分が暮らしているのだから、家事をすることは当たり前、普通のこと。自分の子供なのだから育てるのは当たり前・普通のこと。これが理想の社会。自身が育った環境、職場の考え方、対応などによっても変わるとは思いますが、あまりにも女性が担っている部分が多いと感じます。（中原/無回答/40代）
- ◆ 基本は家庭と学校教育の大切さと思います。風通しのいい家庭が社会のあり方に通じると思います。（高津/女性/70代）
- ◆ 教育が大切です。学校教育も大切ですが、父母の姿が一番の教育だと思います（宮前/無回答/70代）

意見・要望（自由回答・抜粋）

【育児・子育て】

- ◆ 男性の育休制度について、もし、現在、父親学級のようなものがあるのであれば、育休をとったら、家事・育児について何をすべきかをきちんと伝えてほしいです。健診は男性がという意識を持たせるのもアリかも。何もしていないと答えられないです。母もその時間一人の時間になるし。仕事やすめるラッキーぐらいに思っている男性だと、女性側は逆にストレスをためると思います。（中原/無回答/50代）
- ◆ 女性しか子供を産むことができないので、そこは平等とはいきませんが、子供を産み育てることは大事なことで、男女ともにお互いを思いやりながら育児できる環境を望みます。子どもは産むのに大切に育てていない人が多いような気がします。女性の社会進出もよいと思いますが、大事な育児時間をもっと大切にしてほしいです。（保育園関係の仕事をしているので）（川崎/女性/50代）
- ◆ ハラスメントやDV防止のために、こういうことをしない子に育てないといけなくて一人の親として感じました。私自身は被害を受けたことも嫌な思いもしたことがないですが、子どもが立派な考えをもって大きくなれるよう教育面でもサポートがあると嬉しいです。（高津/女性/30代）
- ◆ 夫は保育所のイベントに積極的に参加しているが、男性が一人だけのことが多く淋しいらしい。（幸/無回答/30代）
- ◆ 川崎市のみならず、女性が子どもを産んでも働きやすく、条件を組み入れてくれる社会を推進してほしい。これから子供を産む女性には今の社会では生きづらい。子育てしたくても転勤など、あまり考えてくれないと思う。（麻生//無回答/60代）
- ◆ 育児に関して、子供の発熱など、どうしようもない時のサポートを充実させてほしい。もしサポート体制を整えているのであれば、自分がそれを知らなかったことは事実。（多摩/男性/30代）

【その他】

- ◆ 男女共同参画の取り組みをまったくと言っていいほど知らない。そもそも男女間には差があると思っているので、男性だから、女性だから、男女平等というのは違う面もあるのではと感じています。（多摩/女性/50代）
- ◆ 男女参画といっても、やはり男の方が女よりも上位にいるような気がする。（高津/男性/70代）
- ◆ 法的規制やトップの断固たる決意が男女平等には必要だと思う。学校での教育も大事だが、社会全体の意識改革が必要。CM、ドラマ、映画、ワイドショー etcで流れを作るべきだと思う。（多摩/女性/50代）
- ◆ 男性だからとか女性だからとか関係なく、個人が望むような生き方を選びやすいようになればよいと思います。（中原/女性/50代）
- ◆ 男女の性別の問題に関わらず、人を不快にすることを言わないのは当たり前のことであると思う。学校教育の前に家庭環境が大きく影響するものと思うので、行政だけでなく地域の見守りが大切と思う。（宮前/無回答/30代）
- ◆ 何においても男女平等に機会を与えるのが、そもそも当たり前である。それを男女ともにやりたくないことには適当な理由をつけて断っていることが問題。その結果が現在なので、そもそも地域社会への貢献意識そのものを男女ともに変革させる必要があると思います。（多摩/無回答/50代）
- ◆ 一つでしかないと思うが、少年マンガやゲーム、オタク文化の一部には可愛くてグラマーな少女たちがご主人様に仕える、媚びを売る世界のストーリーがかなりあると思う。ホストクラブ事件などにおいても、少女たちは初めから支配される存在で商品にされる。ティーン文化世界へこれらに対抗できるインフルエンサー等のトー横や渋谷などでの浸透を期待したい。アニメストーリーやSNS、映画等。セミドキュメント含め。（宮前/無回答/60代）
- ◆ ある程度の女性管理職の登用率向上は必要と考える。また、LGBTに対する理解促進は外国の事例を参考に教育に反映させるなど、もっと配慮のある社会づくりが大切と考えています。（例えば、一定率でLGBTがいることへの理解）（麻生/無回答/40代）